

Paris 2024 Paralympic Games

Paris



Japanese Paralympic Committee



車いすラグビー



ゴールボール男子



上地結衣



木村敬一

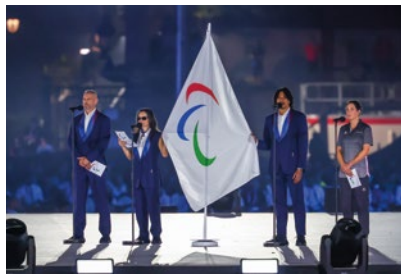
日本代表選手 金メダル



日本代表選手 銀メダル・銅メダル



開会式



日本代表選手 (アーチェリー・陸上競技)



上山友裕



大江佑弥



高桑早生



齋藤由希子



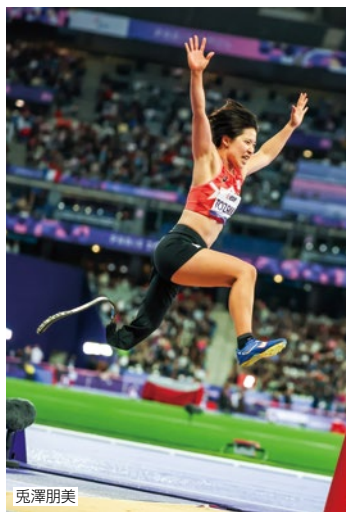
小野寺萌恵



女子円盤投 (F53) 銀メダル
梶谷慶子



土田和歌子



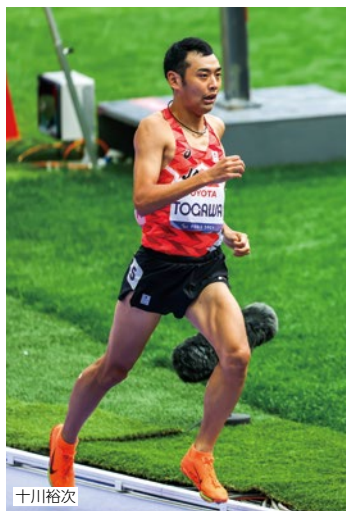
滝澤朋美



男子5000m (T11) 銀メダル
唐澤剣也

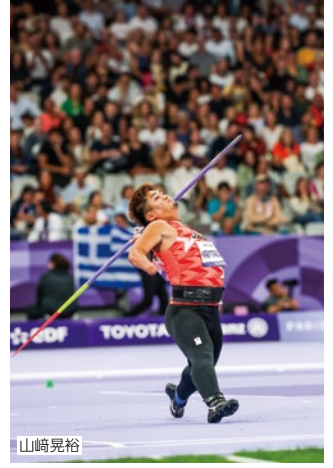
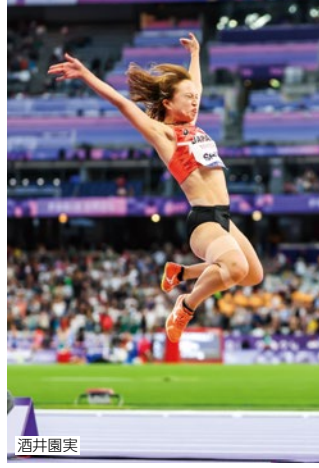


男子400m (T52) 銅メダル
伊藤智也



十川裕次

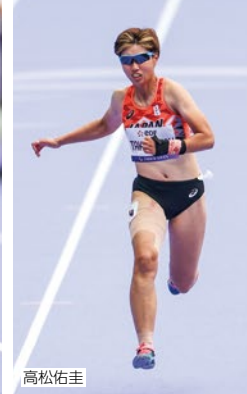
日本代表選手（陸上競技）



日本代表選手（陸上競技）



北浦春香



高松祐圭



男子マラソン (T54) 銅メダル
鈴木朋樹



澤田優蘭



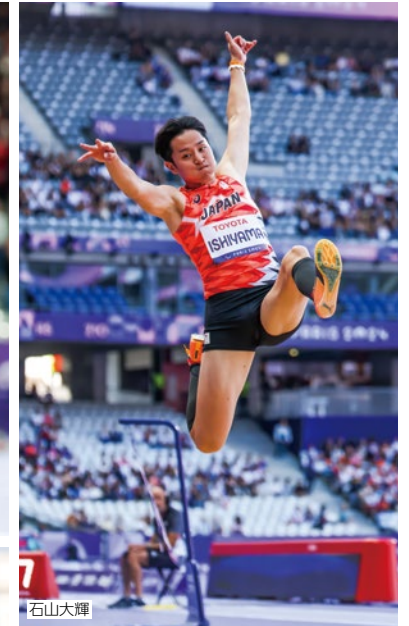
大島健吾



吉田竜太



佐々木真菜



石山大輝

女子マラソン (T12) 銅メダル
道下美里



熊谷豊



赤井大樹



高橋峻也

日本代表選手（陸上競技・バドミントン）

男子400m (T13) 銀メダル
福永凌太



男子ダブルス (WH1-2) 銅メダル
村山浩



女子ダブルス (WH1-2) 銀メダル
山崎悠麻



日本代表選手 (バドミントン)

女子シングルス (WH1) 金メダル

女子ダブルス (WH1-2) 銀メダル

里見紗李奈



日本代表選手 (バドミントン)

男子シングルス (WH2) 金メダル

男子ダブルス (WH1-2) 銅メダル

梶原大暉



藤原大輔



豊田まみ子

日本代表選手 (バドミントン・ブラインドフットボール)



松本卓巳



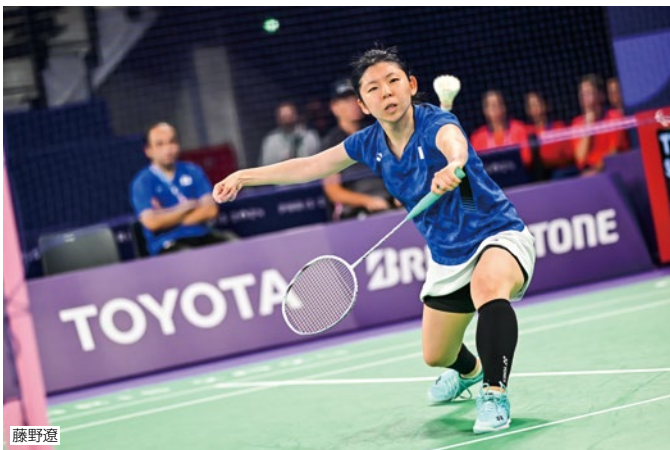
伊藤則子



佐々木ロベルト泉



佐藤大介



藤野遼



後藤将起

日本代表選手 (ブラインドフットボール)



女子個人 (BC1) 銅メダル
混合チーム (BC1-2) 銅メダル
遠藤裕美



有田正行



一戸彩音



内田峻介



藤井友里子

混合チーム (BC1-2) 銅メダル
杉村英孝



混合チーム (BC1-2) 銅メダル
廣瀬隆喜



日本代表選手 (カヌー・自転車競技)



瀬立モニカ



高木裕太



宮嶋志帆



川本翔大

女子ロードレース (C1-3) 金メダル
杉浦佳子



藤田征樹



木村和平



稲葉将



古越奏詞



日本代表選手 (ゴールボール男子)

ゴールボール男子 金メダル



金子和也



佐野優人

日本代表選手（ゴールボール男子）



鳥居陽生



萩原直輝



宮食行次

日本代表選手 (ゴールボール女子)



秋原紀佳



新井みなみ



高橋利恵子



安室早姫



天摩由貴



男子73kg級 (J2) 金メダル

瀬戸勇次郎



加藤裕司



土屋美奈子

日本代表選手 (柔道)

女子57kg級 (J2) 金メダル

廣瀬順子



女子48kg級 (J1) 銀メダル

半谷静香



女子70kg級 (J2) 銅メダル

小川和紗



日本代表選手 (柔道・パワーリフティング・射撃)



森卓也



佐藤和人



瀬賀亜希子



岡田和也



混合エアライフル伏射 (SH2) 銅メダル
水田光夏

日本代表選手 (水泳)



日向楓



石浦智美



守津木美都



南井瑛翔



由井真緒里

男子50m平泳ぎ (SB3) 金メダル

男子50m自由形 (S4) 銀メダル

男子100m自由形 (S4) 銀メダル

男子200m自由形 (S4) 銅メダル

鈴木孝幸



田中映伍



芹澤美希香



川淵大輝

日本代表選手 (水泳)

男子100mバタフライ (S11) 金メダル

木村敬一



男子50m自由形 (S11) 金メダル

木村敬一



木村敬一

日本代表選手（水泳）

男子100mバタフライ (S11) 銅メダル
富田宇宙



富田宇宙

男子400m自由形 (S11) 銅メダル
富田宇宙



福田果音



萩原虎太郎



齋藤元希

日本代表選手 (水泳)

男子100m背泳ぎ (S8) 銀メダル

窪田幸太



女子100m自由形 (S12) 銅メダル

辻内彩野



男子100m平泳ぎ (S814) 銅メダル

山口尚秀



女子200m個人メドレー (SM14) 銅メダル

木下愛菜



福井香澄



小野智華子



西田杏



村上舜也

女子シングルス (11) 金メダル

和田なつき



八木克勝



竹守彰



岩淵幸洋

日本代表選手 (卓球・テコンドー・トライアスロン)

女子シングルス (11) 銅メダル
古川佳奈美



友野有理



七野一輝



舟山真弘



齋藤元希



田中光哉



木村潤平



工藤俊介



宇田秀生



米岡聡



秦由加子

日本代表選手 (車いすバスケットボール女子)



日本代表選手 (車いすラグビー)

車いすラグビー 金メダル



池透暢



橋本勝也



乗松聖矢

日本代表選手 (車いすラグビー)



池崎大輔



草場龍治



中町俊郎



倉橋香衣



池透暢・池崎大輔



羽賀理之



長谷川勇基



小川仁士



乗松聖矢・若山英史



島川慎一

日本代表選手 (車いすフェンシング・車いすテニス)



女子ダブルス 金メダル
田中愛美



日本代表選手 (車いすテニス)

男子シングルス 金メダル

男子ダブルス 銀メダル

小田凱人



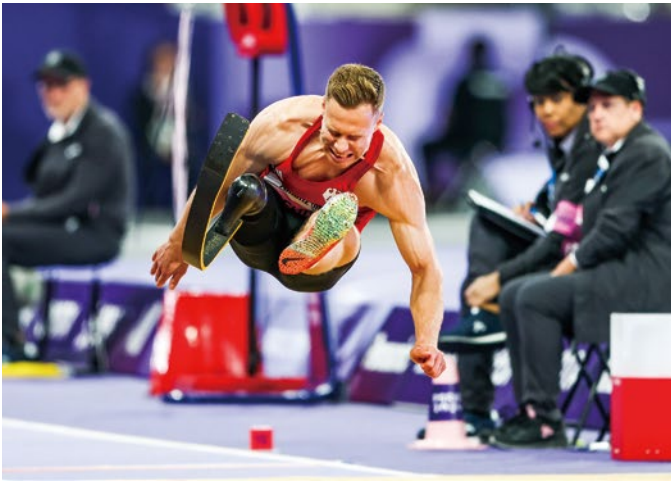
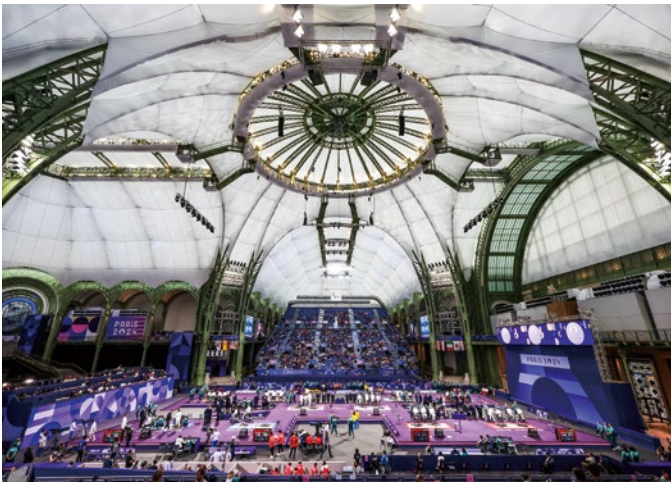
女子シングルス 金メダル

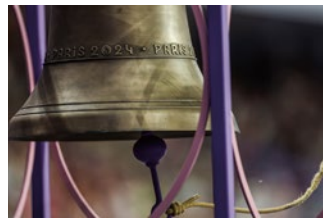
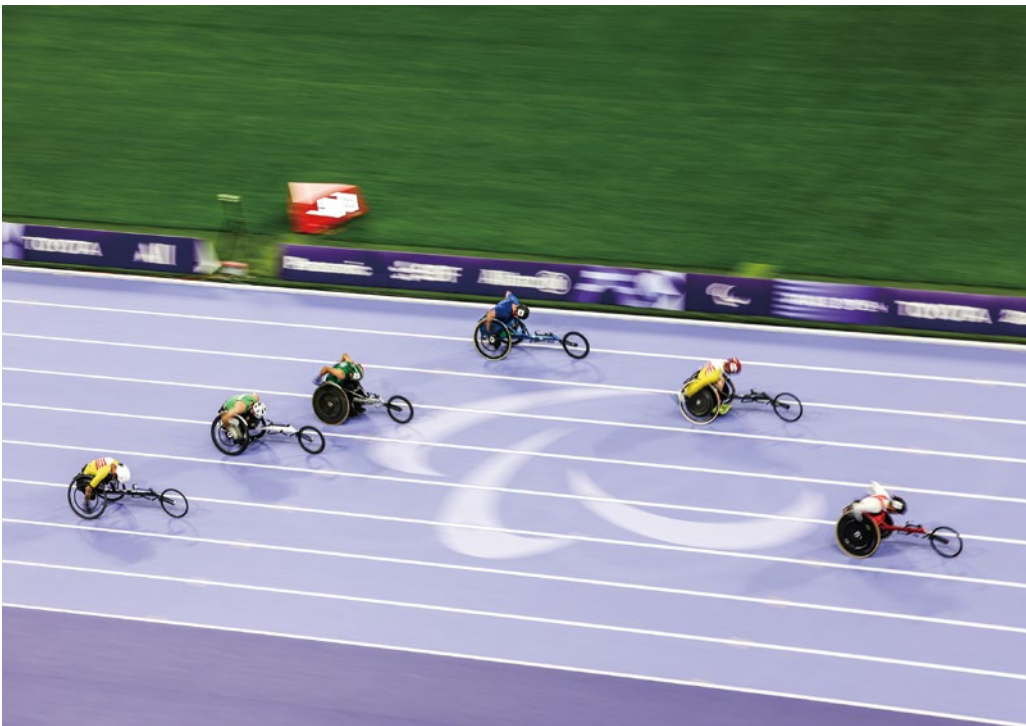
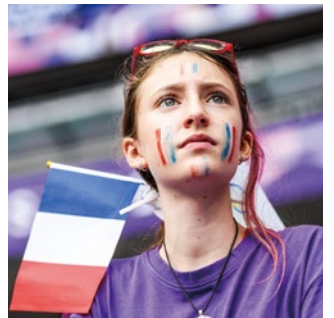
女子ダブルス 金メダル

上地結衣

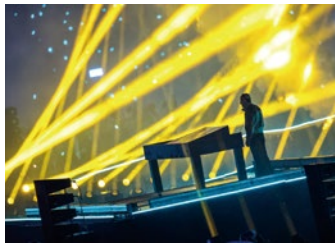
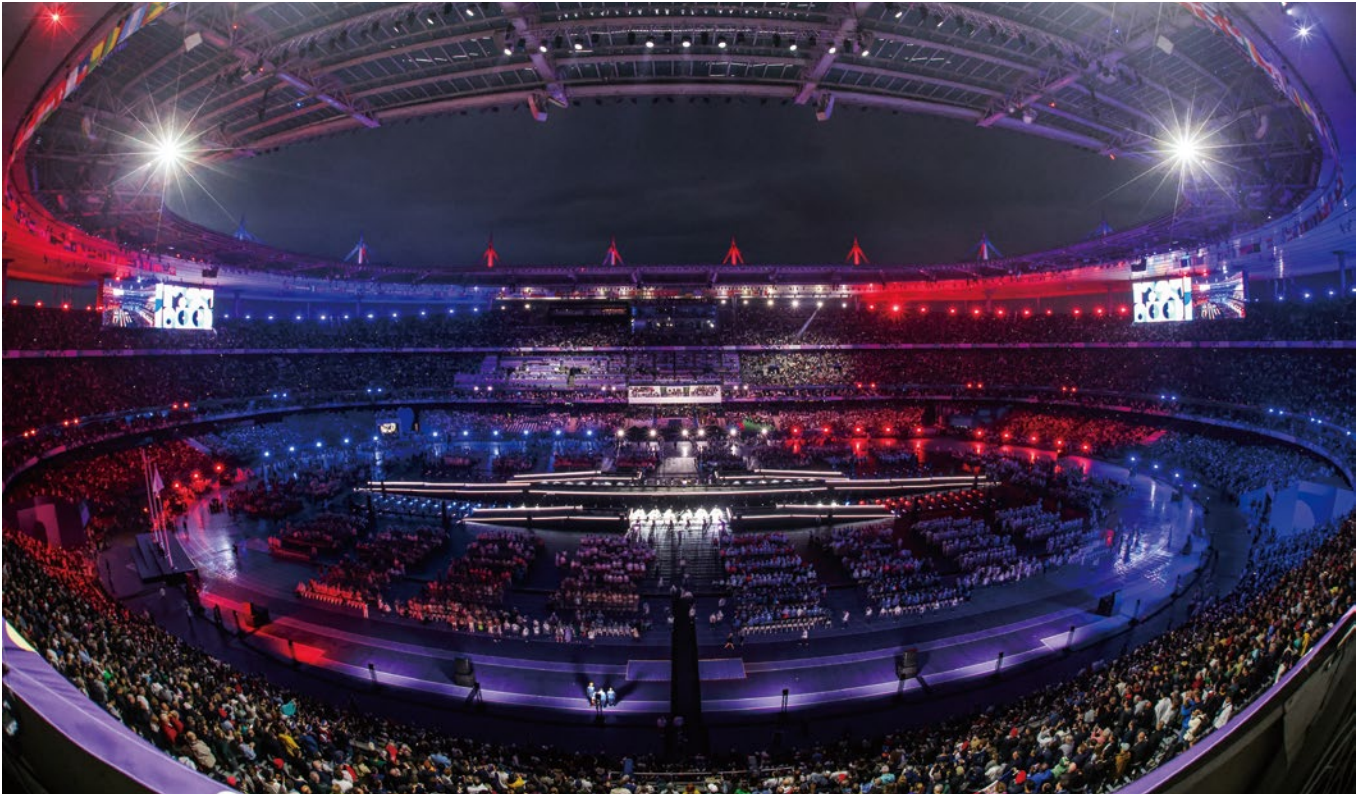


大会風景





閉会式



■ 団長及び副団長発表会見



■ 結団式・記者会見



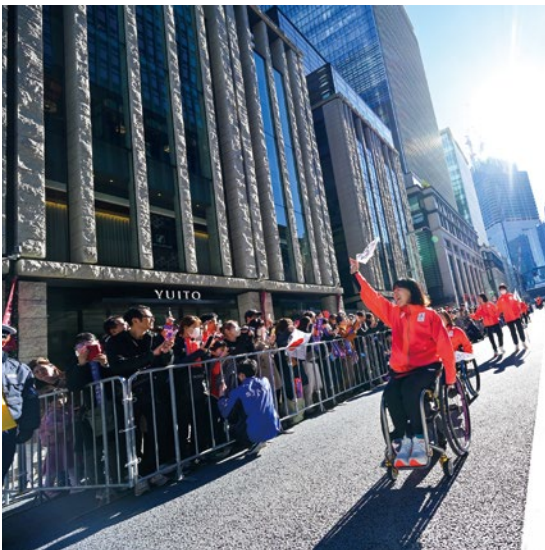
■ 総理表敬・内閣総理大臣感謝状授与式・文科大臣表敬訪問



パラリンピック特別賞 授与式



パリ2024オリンピック・パラリンピック TEAM JAPAN 応援感謝イベント supported by 三井不動産



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団参加報告について(お礼)

公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会
会長 森 和之

2024年8月28日から9月8日までの12日間、フランス共和国・パリ市を中心とした地域においてパラリンピック競技大会が開催され、168の国・地域から約4,400名の選手が22競技・549種目を競い合いました。過去最大の選手団数となり、女子選手数の参加や難民選手団も過去最多となりました。ロシアのウクライナ侵略が続いていることを受け、ロシアとベラルーシの選手は国を代表しない個人の中立選手として出場しました。

日本代表選手団は、田口亜希団長のリーダーシップのもと、「挑め、自分史上最強。」というスローガンを掲げ、選手175名、競技パートナー19名、競技別スタッフ107名、本部スタッフ29名計330名の編成で大会に臨みました。これは、海外で開催される大会としては過去最大の選手数の大会です。また平均年齢が31.3歳と、過去大会を下回り、若い選手が多く参加する大会という側面もありました。結果として金メダル14個、銀メダル10個、銅メダル17個、計41個のメダルを獲得し、これは東京2020大会を上回る金メダル数であり、かつ金メダルランキングも10位となりました。過去最多となる8競技での金メダル獲得や、史上初となる競技・種目での金メダルも相次ぎました。また選手発掘事業であるJ-STARプロジェクト出身者もメダルを獲得する等、東京2020大会からのレガシーが受け継がれ、また進化したと考えています。

日本史上初の団体競技男子・混合金メダルを獲得した、車いすラグビー、ゴールボール男子の活躍は、日本のパラリンピックに新たなページを開きました。またバドミントンの里見紗李奈選手、梶原大暉選手、水泳の鈴木孝幸選手、木村敬一選手、自転車の杉浦佳子選手はパラリンピック連覇の快挙を果たしました。柔道の瀬戸勇次郎選手、廣瀬順子選手や、競技団体として初の金メダル・メダル獲得となった、卓球の和田なつき選手、射撃の水田光夏選手も素晴らしい活躍を見せてくれました。そして車いすテニスでは、上地結衣選手、小田凱人選手がそれぞれ女子シングルス、男子シングルの激戦を制し、見事に金メダルを掴みました。

これら日本代表選手の活躍は、日本のメディアからも連日報道されました。応援いただきました皆様、本当にありがとうございました。

結びに、日本代表選手団の派遣に際しご支援を賜った障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟、文部科学省、スポーツ庁、外務省、現地在フランス日本国大使館、都道府県・指定都市、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、JPCオフィシャルパートナー、コーチ・スタッフの派遣をいただいた関係各所、日本代表選手団を陰で支えていただいた学校や各企業等、関係各位の皆様にご心より感謝を申し上げます。

[もくじ]

大会概要	3
日本代表選手団概要	4
日本代表選手団名簿	5
リザルト	15
日本代表選手獲得メダル	16
国別メダルランキング	17
日本代表選手団戦績	19
本部スタッフ報告	31
競技団体報告	41
資料	63
日本代表選手団編成方針及び選手・スタッフ選考基準	64
日本代表選手団 主要日程	65
日本代表選手団派遣にかかわる公式行事・式典等の概要	66
マニュアル	69
日本代表選手団マニュアル	70
マーケティングガイドライン	103
メディアガイド	112

大会概要

- **大会名称** パリ2024パラリンピック競技大会
※第17回夏季大会
(Paris 2024 Paralympic Games)
- **大会期間** 2024年8月28日(水)～9月8日(日) [12日間]
- **開催地** フランス共和国・パリ市
- **運営主体** 国際パラリンピック委員会 (IPC)、
パリ2024オリンピック・パラリンピック組織委員会
- **参加国・地域** 168
- **参加選手数** 約4,400人
- **実施競技・種目** 22競技549種目

■ 大会エンブレム



■ 大会マスコット (フリージュ)



競技名	競技会場名
アーチェリー	Invalides
陸上競技	Stade de France
	マラソンスタート : La Courneuve マラソンフィニッシュ : Invalides
バドミントン	Porte de la Chapelle Arena
ブラインドフットボール	Eiffel Tower Stadium
ボッチャ	South Paris Arena 1
カヌー	Vaires-sur-Marne Nautical Stadium
自転車競技-ロード	Clichy Sous Bois
自転車競技-トラック	Saint Quentin en Yvelines Velodrome
馬術	Château de Versailles
ゴールボール	South Paris Arena 6
柔道	Champ-de-Mars Arena
パワーリフティング	Porte de La Chapelle Arena
ローイング	Vaires-sur-Marne Nautical Stadium
射撃	Chateauroux National Shooting Centre
シッティングバレーボール	North Paris Arena
水泳	Paris La Défense Arena
卓球	South Paris Arena 4
テコンドー	Grand Palais
トライアスロン	Pont Alexandre III
車いすバスケットボール	Bercy Arena
車いすフェンシング	Grand Palais
車いすラグビー	Champ-de-Mars Arena
車いすテニス	Roland-Garros Stadium

■ 大会スケジュール

	8月				9月								
	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	
開閉会式	○												○
アーチェリー		○	○	●	●	●	●	●	●				
陸上競技			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
バドミントン		○	○	○	●	●							
ブラインドフットボール					○	○	○		○		●		
ボッチャ		○	○	○	●	●	○	○	●				
カヌー										○	●	●	
馬術							●	●		●	●		
ゴールボール		○	○	○	○	○	○	○	●				
自転車競技-ロード								●	●	●	●		
自転車競技-トラック		●	●	●	●								
柔道									●	●	●	●	
パワーリフティング								●	●	●	●	●	
ローイング			○	○	●								
射撃			●	●	●	●	●	●	●				
シッティングバレーボール		○	○	○	○	○	○	○	○	●	●		
水泳		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
卓球		●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	
テコンドー		●	●	●									
トライアスロン						●							
車いすバスケットボール		○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	
車いすフェンシング							●	●	●	●	●	●	
車いすラグビー		○	○	○	○	●							
車いすテニス			○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	

日本代表選手団概要

■ 参加人数

330名

(選手175名、競技パートナー19名、競技別スタッフ107名、本部スタッフ29名)

■ 競技別参加者一覧

競技	選手			競技 パートナー	競技別 スタッフ	本部 スタッフ	合計
	男子	女子	合計				
アーチェリー	2	0	2		2		4
陸上競技	22	18	40	11	18		69
バドミントン	6	6	12		6		18
ブラインドフットボール	8	—	8	2	6		16
ボッチャ	4	3	7	4	6		17
カヌー	1	3	4		2		6
自転車競技	3	1	4	1	3		8
馬術	2	0	2		4		6
ゴールボール	男子	6	—	6		3	9
	女子	—	6	6		3	9
柔道	2	4	6		4		10
パワーリフティング	1	0	1		1		2
ローイング	1	0	1		2		3
射撃	1	2	3		3		6
水泳	12	10	22		13		35
卓球	6	3	9		6		15
テコンドー	2	0	2		2		4
トライアスロン	3	1	4	1	2		7
車いすバスケットボール		女子	12		7		19
車いすフェンシング	3	1	4		2		6
車いすラグビー	11	1	12		8		20
車いすテニス	4	4	8		4		12
本部スタッフ	—	—	—			29	29
合計	100	75	175	19	107	29	330

■ 構成

団長

田口亜希 (パラリンピアン・射撃)

副団長

井田朋宏 (日本パラリンピック委員会事務局長)

中澤吉裕 (日本パラリンピック委員会 強化本部長)

開会式 旗手

石山大輝 (陸上競技)

西田杏 (水泳)

閉会式 旗手

木村敬一 (水泳)

和田なつき (卓球)

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団 選手名簿

※ 2024年8月28日(水) パリパラリンピック開会式時点の年齢を記載

2024年8月23日現在

No.	競技名/No.	氏名	ふりがな	性別	年齢	現住所	所属先	所属チーム
1	アーチェリー	1 上山 友裕	うえやま ともひろ	男	37	大阪府東大阪市	三菱電機株式会社	大阪市アーチェリー協会
2		2 大江 佑弥	おおえ ゆうや	男	36	岡山県倉敷市	倉敷市役所	岡山県アーチェリー協会
3	陸上競技	1 赤井 大樹	あかい だいき	男	25	奈良県橿原市	株式会社 ワークマン	ワークマン
4		2 生馬 知季	いこま ともき	男	32	岡山県岡山市	株式会社グロップサンセリテ	GROP SINCERITE WORLD-AC
5		3 石山 大輝	いしやま だいき	男	24	千葉県印旛郡	順天堂大学	順天堂大学
6		4 井谷 俊介	いたに しゅんすけ	男	29	愛知県春日井市	SMBC日興証券株式会社	なし
7		5 伊藤 竜也	いとう たつや	男	38	福井県福井市	新日本工業株式会社	新日本工業
8		6 伊藤 智也	いとう ともや	男	61	三重県鈴鹿市	バイエル薬品株式会社	バイエル薬品
9		7 大島 健吾	おおしま けんご	男	24	愛知県瀬戸市	名古屋学院大学	名古屋学院大学AC
10		8 鬼谷 慶子	おにだに けいこ	女	29	東京都文京区	なし	関東パラ陸上競技協会
11		9 小野寺 萌恵	おのでら もえ	女	20	岩手県紫波郡	あすなる屋産直羽場店	北海道・東北 パラ陸上競技協会
12		10 唐澤 剣也	からさわ けんや	男	30	群馬県太田市	株式会社SUBARU	SUBARU
13		11 川上 秀太	かわかみ しゅうた	男	25	福井県福井市	株式会社 アスピカ	なし
14		12 北浦 春香	きたうら はるか	女	32	兵庫県三田市	株式会社インテージ ホールディングス	なし
15		13 喜納 翼	きな つばき	女	34	沖縄県うるま市	一般社団法人 琉球スポーツサポート	琉球スポーツサポート
16		14 熊谷 豊	くまがい ゆたか	男	37	埼玉県新座市	三井ダイレクト 損害保険株式会社	三井ダイレクト損保
17		15 齋藤 由希子	さいとう ゆきこ	女	31	福島県福島市	S M B C日興証券(株)	なし
18		16 酒井 園実	さかい そのみ	女	27	埼玉県久喜市	ISFnet	なし
19		17 佐々木 真菜	ささき まな	女	26	福島県福島市	株式会社東邦銀行	東邦銀行
20		18 佐藤 友祈	さとう ともき	男	34	岡山県岡山市	株式会社モリサワ	モリサワ・prierONE
21		19 澤田 優蘭	さわだ うらん	女	33	東京都北区	株式会社エントリー	エントリー
22		20 新保 大和	しんぼ やまと	男	24	神奈川県川崎市	株式会社アシックス	アシックス
23		21 鈴木 朋樹	すずき ともき	男	30	埼玉県さいたま市	トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車
24		22 高桑 早生	たかくわ さき	女	32	東京都新宿区	NTT東日本株式会社	NTT東日本
25		23 高橋 峻也	たかはし しゅんや	男	26	愛知県豊田市	トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車
26		24 高松 佑圭	たかまつ ゆか	女	31	大阪府大阪市	株式会社ローソンウィル	ローソン
27		25 辻 沙絵	つじ さえ	女	29	神奈川県川崎市	日本体育大学	日本体育大学
28		26 土田 和歌子	つちだ わかこ	女	49	東京都多摩市	株式会社W-STAGE	ウィルレイズ
29		27 十川 裕次	とがわ ゆうじ	男	27	大分県大分市	オムロン太陽株式会社	なし
30		28 兎澤 朋美	とざわ ともみ	女	25	茨城県つくば市	富士通株式会社	富士通
31		29 中西 麻耶	なかにしまや	女	39	広島県東広島市	R FLOWER	鶴学園クラブ
32		30 福永 凌太	ふくなが りょうた	男	25	東京都世田谷区	日本体育大学大学院	日本体育大学
33		31 堀越 信司	ほりこし ただし	男	36	大阪府柏原市	西日本電信電話株式会社	NTT西日本
34		32 前川 楓	まえがわ かえで	女	26	大阪府泉佐野市	新日本住設株式会社	新日本住設

No.	競技名/No.	氏名	ふりがな	性別	年齢	現住所	所属先	所属チーム	
35	陸上競技	33	松本 武尊	まつもと たける	男	23	東京都江戸川区	医療法人社団 鎮誠会 季美の森リハビリテーション病院	医療法人社団 鎮誠会 季美の森リハビリテーション病院
36		34	道下 美里	みちした みさと	女	47	福岡県太宰府市	三井住友海上火災保険株式会社 福岡支店	三井住友海上
37		35	山崎 晃裕	やまざき あきひろ	男	28	千葉県佐倉市	順天堂大学 スポーツ健康科学部	順天堂大学職員
38		36	山本 萌恵子	やまもと もえこ	女	26	愛知県岡崎市	聖カタリナ学 光ヶ丘女子高等学校	愛知陸上競技協会
39		37	吉田 彩乃	よしだ あやの	女	17	神奈川県横浜市	神奈川県立修悠館高等学校	なし
40		38	吉田 竜太	よしだ りょうた	男	42	東京都江東区	SUS株式会社	なし
41		39	若生 裕太	わこう ゆうた	男	27	埼玉県川口市	株式会社電通デジタル	電通デジタル
42		40	和田 伸也	わだ しんや	男	47	大阪府茨木市	長瀬産業株式会社	長瀬産業
43	バドミントン	1	伊藤 則子	いとう のりこ	女	48	愛知県名古屋	株式会社中日新聞社	名古屋スマッシュ
44		2	今井 大湧	いまい たいよう	男	26	神奈川県横浜市	ダイハツ工業株式会社	ダイハツ工業株式会社
45		3	梶原 大暉	かじわら だいき	男	22	東京都葛飾区	ダイハツ工業株式会社	なし
46		4	亀山 楓	かめやま かえで	女	29	宮城県仙台市	株式会社高速	仙台ホデナズBC
47		5	里見 紗李奈	さとみ さりな	女	26	千葉県八街市	NTT都市開発株式会社	なし
48		6	豊田 まみ子	とよだ まみこ	女	32	千葉県柏市	ヨネックス株式会社	ヨネックス
49		7	長島 理	ながしま おさむ	男	44	東京都江戸川区	株式会社LIXIL	株式会社LIXIL
50		8	藤野 遼	ふじの はるか	女	28	福岡県福岡市	株式会社GA technologies	なし
51		9	藤原 大輔	ふじはら だいすけ	男	30	茨城県つくば市	ダイハツ工業株式会社	なし
52		10	松本 卓巳	まつもと たくみ	男	30	千葉県佐倉市	創政建設株式会社	パシフィック 車いすバドミントンクラブ
53		11	村山 浩	むらやま ひろし	男	50	千葉県千葉市	SMBCグリーンサービス株式会社	パシフィック 車いすバドミントンクラブ
54		12	山崎 悠麻	やまざき ゆま	女	36	東京都日野市	NTT都市開発株式会社	NTT都市開発株式会社
55	ブラインド フットボール	1	川村 怜	かわむら りょう	男	35	東京都豊島区	アクサ生命保険株式会社	品川CCパベレシアル
56		2	後藤 将起	ごとう まさき	男	39	東京都小平市	双日シェアードサービス株式会社	アフィーレ広島BFC
57		3	佐々木 ロベルト ト泉	ささき ろべるとい ずみ	男	46	茨城県牛久市	なし	品川CCパベレシアル
58		4	園部 優月	そのべ ゆづき	男	20	東京都世田谷区	日本大学	free bird mejirodai
59		5	高橋 裕人	たかはし ひろと	男	25	東京都小平市	株式会社ダイセル	大阪ダイバンズ
60		6	鳥居 健人	とりい けんと	男	33	東京都練馬区	参天製薬株式会社	free bird mejirodai
61		7	永盛 楓人	ながもり ふうと	男	23	東京都世田谷区	楽天ソシオビジネス株式会社	free bird Mejirodai
62		8	平林 太一	ひらばやし たいち	男	17	長野県松本市	長野県松本美須ヶ丘 高等学校	松本山雅B.F.C
63	ボッチャ	1	有田 正行	ありた まさゆき	男	44	兵庫県西宮市	株式会社電通デジタル	なし
64		2	一戸 彩音	いちのえ あやね	女	18	東京都東久留米市	株式会社スタイル・エッジ	なし
65		3	内田 峻介	うちだ しゅんすけ	男	22	大阪府泉南郡	大阪体育大学	なし
66		4	遠藤 裕美	えんどう ひろみ	女	38	福島県福島市	福島県ボッチャ協会	なし
67		5	杉村 英孝	すぎむら ひでたか	男	42	静岡県伊東市	TOKIO インカラミ	なし
68		6	藤井 友里子	ふじい ゆりこ	女	51	富山県富山市	株式会社アイザック	なし
69		7	廣瀬 隆喜	ひろせ たかゆき	男	39	千葉県君津市	西尾レントオール株式会社	なし
70	カヌー	1	小松 沙季	こまつ さき	女	29	高知県四万十市	株式会社電通デジタル	高知県カヌー協会
71		2	瀬立 モニカ	せりゅう もにか	女	26	東京都江東区	パラマウントベッド株式会社	江東区カヌー協会

No.	競技名/No.	氏名	ふりがな	性別	年齢	現住所	所属先	所属チーム
72	カヌー	3 高木 裕太	たかぎ ゆうた	男	29	大阪府摂津市	インフィニオンテクノロジーズジャパン株式会社	岐阜県カヌー協会 パラカヌー部
73		4 宮嶋 志帆	みやじま しほ	女	32	東京都八王子市	株式会社コーエーテクモ クオリティアシユアランス	神奈川県カヌー協会
74	自転車競技	1 川本 翔大	かわもと しょうた	男	28	愛知県碧南市	大和産業株式会社	大和産業株式会社
75		2 木村 和平	きむら かずへい	男	27	東京都小平市	楽天ソシオビジネス株式会社	楽天ソシオビジネス株式会社
76		3 杉浦 佳子	すぎうら けいこ	女	53	東京都稲城市	総合メディカル株式会社	TEAM EMMA Cycling
77		4 藤田 征樹	ふじた まさき	男	39	茨城県土浦市	藤建設株式会社	藤建設株式会社
78	馬術	1 稲葉 将	いなば しょう	男	29	神奈川県横浜市	シンプレクス・ ホールディングス株式会社	静岡乗馬クラブ
79		2 吉越 奏詞	よしごえ そうし	男	24	東京都目黒区	株式会社小泉	岡本ラインディングクラブ JAPAN
80	ゴールボール (男子)	1 金子 和也	かねこ かずや	男	24	埼玉県さいたま市	Sky株式会社	ゴールドンスターズ
81		2 佐野 優人	さの ゆうと	男	24	埼玉県狭山市	日本国土開発株式会社	Be☆Stars
82		3 田口 侑治	たぐち ゆうじ	男	33	東京都東村山市	リーフラス株式会社	所沢サンダース
83		4 鳥居 陽生	とりい はるき	男	20	埼玉県所沢市	国立障害者 リハビリテーションセンター	ゴールドンスターズ
84		5 萩原 直輝	はぎわら なおき	男	27	神奈川県相模原市	LINE ヤフー株式会社	Be☆Stars
85		6 宮食 行次	みやじき こうじ	男	29	東京都練馬区	株式会社コロブラ	所沢サンダース
86	ゴールボール (女子)	1 安室 早姫	あむろ さき	女	31	東京都練馬区	株式会社SMB C信託銀行	チーム附属
87		2 新井 みなみ	あらい みなみ	女	21	埼玉県さいたま市	株式会社アソウ・ ヒューマニーセンター	Merveilles
88		3 小宮 正江	こみや まさえ	女	49	福岡県福岡市	株式会社アソウ・ ヒューマニーセンター	なでしこ
89		4 高橋 利恵子	たかはし りえこ	女	26	茨城県つくば市	関彰商事株式会社	Merveilles
90		5 天摩 由貴	てんま ゆき	女	34	東京都調布市	株式会社エイト日本技術開発	なでしこ
91		6 萩原 紀佳	はぎわら のりか	女	23	東京都練馬区	株式会社アソウ・ ヒューマニーセンター	Shiny One
92	柔道	1 小川 和紗	おがわ かずさ	女	27	東京都品川区	伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	KALOR
93		2 加藤 裕司	かとう ゆうじ	男	46	埼玉県川越市	伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	牛窪道場
94		3 瀬戸 勇次郎	せと ゆうじろう	男	24	茨城県つくば市	九星飲料工業株式会社	九星飲料工業株式会社
95		4 土屋 美奈子	つちや みなこ	女	34	静岡県伊豆市	シンプレクス・ ホールディングス株式会社	なし
96		5 半谷 静香	はんが いしずか	女	36	福島県いわき市	トヨタグループ株式会社	なし
97		6 廣瀬 順子	ひろせ じゅんこ	女	33	愛媛県松山市	SMBC日興証券株式会社	SMBC日興証券株式会社
98	パワー リフティング	1 佐藤 和人	さとう かずひと	男	44	兵庫県神戸市	兵庫県警察	なし
99	ローイング	1 森 卓也	もり たくや	男	50	鳥取県米子市	医療法人 養和会	CHAXパラアスリートチーム
100	射撃	1 岡田 和也	おかだ かずや	男	54	三重県鈴鹿市	サイネオス・ヘルス・ コマーシャル株式会社	ライフル射撃クラブ ウッドストック
101		2 瀬賀 亜希子	せが あきこ	女	58	神奈川県川崎市	なし	埼玉県身体障害者 ライフル射撃連盟
102		3 水田 光夏	みずた みか	女	27	東京都町田市	株式会社白寿生科学研究所	埼玉県身体障害者 ライフル射撃連盟
103	水泳	1 石浦 智美	いしうら ともみ	女	36	東京都世田谷区	伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	伊藤忠丸紅鉄鋼
104		2 宇津木 美都	うつぎ みくに	女	21	大阪府泉南郡	大阪体育大学	大阪体育大学
105		3 荻原 虎太郎	おぎわら こたろう	男	22	千葉県千葉市	順天堂大学	セントラルスポーツ
106		4 小野 智華子	おの ちかこ	女	29	東京都港区	あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社	あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社
107		5 川瀨 大耀	かわぶち たいよう	男	15	神奈川県横浜市	神奈川県立岸根高等学校	宮前ドルフィン
108		6 木下 愛菜	きのした あいら	女	18	大阪府吹田市	四條噺学園高校	三菱商事株式会社

No.	競技名/No.	氏名	ふりがな	性別	年齢	現住所	所属先	所属チーム		
109	水泳	7	木村 敬一	きむら けいいち	男	33	東京都練馬区	東京ガス株式会社	東京ガス	
110		8	窪田 幸太	くぼた こうた	男	24	東京都板橋区	NTTファイナンス株式会社	NTTファイナンス株式会社	
111		9	齋藤 元希	さいとう げんき	男	25	東京都世田谷区	株式会社スタイル・エッジ	株式会社スタイル・エッジ	
112		10	鈴木 孝幸	すずき たかゆき	男	37	千葉県浦安市	株式会社ゴールドウイン	GOLDWIN	
113		11	芹澤 美希香	せりざわ みさか	女	24	神奈川県横浜市	東急プロパティマネジメント株式会社	宮前ドルフィン	
114		12	田中 映伍	たなか えいご	男	20	神奈川県茅ヶ崎市	東洋大学	東洋大学	
115		13	辻内 彩野	つじうち あやの	女	27	東京都江戸川区	三菱商事株式会社	三菱商事株式会社	
116		14	富田 宇宙	とみた うちゅう	男	35	東京都板橋区	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	EY Japan	
117		15	西田 杏	にしだ あん	女	27	埼玉県所沢市	株式会社シロ	株式会社シロ	
118		16	日向 楓	ひなた かえで	男	19	神奈川県横浜市	中央大学	中央大学	
119		17	福井 香澄	ふくい かすみ	女	25	滋賀県野洲市	TOTO株式会社	TOTO株式会社	
120		18	福田 果音	ふくだ かのん	女	18	福岡県北九州市	福岡県立小倉西高等学校	ときわスイミングスクール 曾根	
121		19	南井 瑛翔	みない あきと	男	21	大阪府東大阪市	近畿大学	近畿大学 水上競技部	
122		20	村上 舜也	むらかみ しゅんや	男	29	東京都中央区	NECフレンドリースタッフ株式会社	NECグリーン スイミングクラブ溝の口	
123		21	山口 尚秀	やまぐち なおひで	男	23	愛媛県今治市	四国ガス株式会社	四国ガス	
124		22	由井 真緒里	ゆい まおり	女	21	群馬県前橋市	上武大学	上武大学	
125		卓球	1	岩淵 幸洋	いわぶち こうよう	男	29	東京都北区	協和キリン株式会社	協和キリン卓球部
126			2	齋藤 元希	さいとう げんき	男	23	神奈川県横浜市	株式会社ブランテック	卓球クラブ STEP IN
127			3	七野 一輝	しちの かずき	男	25	東京都稲城市	株式会社オカムラ	ディスタンス
128			4	竹守 彪	たけもり たけし	男	30	千葉県松戸市	株式会社ヤオコー モラージュ柏店	TOMAX
129			5	友野 有理	とも の ゆり	女	24	東京都世田谷区	株式会社タマディック	株式会社タマディック
130			6	舟山 真弘	ふなやま まひろ	男	20	東京都中野区	早稲田大学	早稲田大学
131	7		古川 佳奈美	ふるかわ かなみ	女	27	福岡県福岡市	株式会社えん・ コミュニケーションズ	株式会社えん・ コミュニケーションズ	
132	8		八木 克勝	やぎ かつよし	男	34	愛知県豊橋市	電通デジタル	電通デジタル	
133	9		和田 なつき	わだ なつき	女	20	大阪府松原市	株式会社内田洋行	なし	
134	テコンドー	1	工藤 俊介	くどう しゅんすけ	男	30	東京都北区	ダイテックス ホールディングス株式会社	Team DAITO	
135		2	田中 光哉	たなか みつや	男	32	佐賀県鳥栖市	株式会社電通デジタル	テコンドークラブ Hama House (松原支部)	
136	トライ アスロン	1	宇田 秀生	うだ ひでき	男	37	滋賀県草津市	NTT東日本・NTT西日本	NTT東日本・NTT西日本	
137		2	木村 潤平	きむら じゅんぺい	男	39	東京都板橋区	Challenge Active Foundation	Challenge Active Foundation	
138		3	秦 由加子	はた ゆかこ	女	43	千葉県市原市	キヤノンマーケティングジャパン・ マーズフラッグ・ブリヂストン	沖縄チームゴーヤー	
139		4	米岡 聡	よねおか さとる	男	38	東京都東村山市	三井住友海上火災保険 株式会社	三井住友海上	
140	車いすバス ケットボール (女子)	1	網本 麻里	あみもと まり	女	35	大阪府大阪市	株式会社 ビームス	カクテル/ 伊丹スーパーフェニックス	
141		2	石川 優衣	いしかわ ゆい	女	27	東京都三鷹市	三鷹市役所	ELFIN/ 東京ファイターズB.C	
142		3	江口 侑里	えぐち ゆうり	女	24	埼玉県さいたま市	Sky株式会社	ELFIN	
143		4	大津 美穂	おおつ みほ	女	33	愛知県名古屋	三和シャッター工業株式会社	SCRATCH/ 岐阜 SHINE	
144		5	北田 千尋	きただ ちひろ	女	35	滋賀県栗東市	LINE ヤフー株式会社	カクテル	
145		6	小島 瑠莉	こじま るり	女	16	大阪府堺市	大阪学芸高等学校	カクテル	

No.	競技名/No.	氏名	ふりがな	性別	年齢	現住所	所属先	所属チーム	
146	車いすバスケットボール (女子)	7	財満 いずみ	ざいま いずみ	女	27	埼玉県草加市	モルガン・スタンレー・グループ株式会社	Wing/埼玉ライオンズ
147		8	清水 千浪	しみず ちなみ	女	41	滋賀県長浜市	株式会社 メルカリ	カクテル/LAKE SHIGA BBC
148		9	土田 真由美	つちだ まゆみ	女	47	埼玉県八潮市	株式会社シグマックス	SCRATCH/ 神奈川 VANGUARDS
149		10	西村 葵	にしむら あおい	女	18	奈良県生駒市	奈良育英高等学校	カクテル
150		11	萩野 真世	はぎの まよ	女	31	宮城県仙台市	アビームコンサルティング株式会社	LEAVES/宮城MAX
151		12	柳本 あまね	やなぎもと あまね	女	26	京都府京都市	株式会社コロブラ	カクテル/LAKE SHIGA BBC
152	車いすフェンシング	1	加納 慎太郎	かのう しんたろう	男	39	東京都江戸川区	LINEヤフー株式会社	日本パラフェンシング協会
153		2	櫻井 杏理	さくらい あんり	女	35	イギリス ロンドン	株式会社 日阪製作所	BASARA FENCING CLUB
154		3	藤田 道宣	ふじた みちのぶ	男	37	埼玉県草加市	GO株式会社	日本パラフェンシング協会
155		4	安 直樹	やす なおき	男	46	東京都江東区	東京地下鉄株式会社	日本パラフェンシング協会
156	車いすラグビー	1	池 透暢	いけ ゆきのぶ	男	44	高知県高知市	日興アセットマネジメント株式会社	Freedom
157		2	池崎 大輔	いけざき だいすけ	男	46	千葉県浦安市	三菱商事株式会社	BLITZ
158		3	小川 仁士	おがわ ひとし	男	30	東京都武蔵村山市	バイエル薬品株式会社	BLITZ
159		4	草場 龍治	くさば りゅうじ	男	23	福岡県朝倉市	三建設備工業株式会社	Fukuoka DANDELION
160		5	倉橋 香衣	くらはし かえ	女	33	埼玉県越谷市	株式会社 商船三井	AXE
161		6	島川 慎一	しまかわ しんいち	男	49	埼玉県所沢市	パークレイズ証券株式会社	BLITZ
162		7	中町 俊耶	なかまち しゅんや	男	29	埼玉県さいたま市	株式会社コロブラ	TOHOKU STORMERS
163		8	乗松 聖矢	のりまつ せいや	男	34	熊本県熊本市	SMBC日興証券株式会社	Fukuoka DANDELION
164		9	羽賀 理之	はが まさゆき	男	39	千葉県千葉市	ヘブチドリーム株式会社	AXE
165		10	橋本 勝也	はしもと かつや	男	22	福島県田村郡	日興アセットマネジメント株式会社	TOHOKU STORMERS
166		11	長谷川 勇基	はせがわ ゆうき	男	31	東京都立川市	ソシエテ・ジェネラル証券株式会社	BLITZ
167		12	若山 英史	わかやま ひでふみ	男	39	静岡県駿東郡	静岡銀行	Okinawa Hurricanes
168	車いすテニス	1	荒井 大輔	あらい だいすけ	男	36	千葉県柏市	BNPパリバ	BNPパリバ
169		2	大谷 桃子	おおたに ももこ	女	29	佐賀県小城市	株式会社かんぽ生命保険	株式会社かんぽ生命保険
170		3	小田 凱人	おだ ときと	男	18	愛知県一宮市	株式会社東海理化	岐阜インターナショナルテニスクラブ
171		4	上地 結衣	かみじ ゆい	女	30	兵庫県明石市	三井住友銀行	神戸車いすテニスクラブ
172		5	眞田 卓	さなだ たかし	男	39	埼玉県さいたま市	TOPPAN 株式会社	公益財団法人吉田記念テニス研修センター
173		6	高室 冴綺	たかむろ さき	女	29	埼玉県所沢市	株式会社スタートライン	株式会社スタートライン
174		7	田中 愛美	たなか まなみ	女	28	埼玉県所沢市	株式会社 長谷工コーポレーション	なし
175		8	三木 拓也	みき たくや	男	35	埼玉県川口市	トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車株式会社

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団 競技パートナー名簿

※ 2024年8月28日(水) パリパラリンピック開会式時点の年齢を記載

2024年8月2日現在

競技名/No.	氏名	ふりがな	性別	年齢	現住所	所属先	所属チーム	
陸上競技	1	青山 由佳	あおやま ゆか	女	38	神奈川県相模原市	相模原市役所	相模原市役所
	2	木之下 仁	きのした ひとし	男	47	東京都板橋区	特定非営利活動法人 日本ブラインドマラソン協会	JBMA
	3	小林 光二	こばやし こうじ	男	35	群馬県太田市	株式会社SUBARU	SUBARU
	4	古和田 響	こわだ ひびき	男	27	東京都渋谷区	なし	なし
	5	塩川 竜平	しおかわ りゅうへい	男	32	東京都練馬区	なし	エントリー
	6	志田 淳	しだ じゅん	男	51	東京都府中市	日本電気株式会社	NEC
	7	清水 琢馬	しみず たくま	男	24	群馬県北群馬郡	株式会社コイズミツール	上州アスリートクラブ
	8	中田 崇志	なかた たかし	男	44	東京都世田谷区	株式会社NTTデータ	マラソン完走クラブ
	9	成田 フサイ	なりた ふさい	女	49	東京都府中市	社会福祉法人正吉福祉会 府中市立よつや苑	なし
	10	長谷部 匠	はせべ たくみ	男	27	大阪府茨木市	長瀬産業株式会社	長瀬産業株式会社
	11	山下 克尚	やました かつたか	男	30	愛媛県東温市	エヴォスタ松山	なし
ブラインド フットボール	1	泉 健也	いずみ けんや	男	32	東京都練馬区	自由学園	free bird mejirodai
	2	佐藤 大介	さとう だいすけ	男	40	神奈川県相模原市	横浜線西部児童相談所	たまハッサーズ
ボッチャ	1	有田 千穂	ありた ちほ	女	41	兵庫県西宮市	大阪ボッチャ協会	なし
	2	一戸 賢司	いちのえ けんじ	男	56	東京都東久留米市	株式会社スタイル・エッジ	なし
	3	遠藤 さとみ	えんどう さとみ	女	59	福島県福島市	福島県ボッチャ協会	なし
	4	村上 光輝	むらかみ みつてる	男	50	福島県白河市	一般社団法人 日本ボッチャ協会	なし
自転車競技	1	三浦 生誠	みうら きあき	男	22	岩手県岩手郡	なし	日本競輪選手養成所
トライ アスロン	1	寺澤 光介	てらさわ こうすけ	男	30	東京都世田谷区	サニーフィッシュ	サニーフィッシュ

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団 競技別スタッフ名簿

2024年8月2日現在

No.	競技名/No.	役職	氏名	ふりがな	性別	現住所	所属先	
1	アーチェリー	1	監督	戸野 真治	との しんじ	男	広島県廿日市市	佐伯国際アーチェリーランド
2		2	コーチ	末武 寛基	すえたけ ひろき	男	佐賀県佐賀市	日本身体障害者アーチェリー連盟
3	陸上競技	1	総監督	穴戸 英樹	ししど ひでき	男	福島県福島市	日本パラ陸上競技連盟
4		2	ヘッドコーチ (身体)	原田 康弘	はらだ やすひろ	男	埼玉県鴻巣市	なし
5		3	ヘッドコーチ (ブラインドマラソン)	安田 享平	やすだ きょうへい	男	千葉県君津市	日本製鉄株式会社
6		4	ヘッドコーチ (知的)	奥松 美恵子	おくまつ みえこ	女	宮崎県宮崎市	日本パラ陸上競技連盟
7		5	コーチ	鈴木 徹	すずき とおる	男	山梨県山梨市	SMBC日興証券(株)
8		6	コーチ	高野 大樹	たかの だいき	男	埼玉県富士見市	慶應義塾大学
9		7	コーチ	高橋 勝彦	たかはし かつひこ	男	福岡県北九州市	小池学園
10		8	コーチ	竹井 尚也	たけい なおや	男	東京都杉並区	日本女子体育大学
11		9	コーチ	広瀬 健一	ひろせ けんいち	男	茨城県つくば市	学校法人 帝京大学
12		10	コーチ	星野 和昭	ほしの かずあき	男	群馬県前橋市	一般社団法人 KATASHINA MOUNTAINS
13		11	コーチ	松尾 貴之	まつお たかゆき	男	長崎県大村市	長崎県立虹の原特別支援学校
14		12	コーチ	水野 洋子	みずの ようこ	女	東京都世田谷区	日本体育大学
15		13	コーチ	山本 真帆	やまもと まほ	女	埼玉県川口市	なし
16		14	ドクター	根本 玲	ねもと れい	女	和歌山県和歌山市	和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター
17		15	トレーナー	東 千夏	ひがし ちなつ	女	愛知県半田市	針院さとうTSSケアルーム半田
18		16	トレーナー	渡邊 帆貴	わたなべ ぼたか	男	東京都大田区	筑波大学附属病院
19		17	総務	平山 あゆみ	ひらやま あゆみ	女	東京都世田谷区	なし
20		18	総務	山下 忍	やました し のぶ	女	鳥取県鳥取市	一般社団法人 鳥取県障がい者スポーツ協会
21	バドミントン	1	監督	草井 篤	くさい あつし	男	宮城県仙台市	一般社団法人 日本パラバドミントン連盟
22		2	ヘッドコーチ	キム ジョンジャ	きむ じょんじゃ	女	埼玉県さいたま市	一般社団法人 日本パラバドミントン連盟
23		3	コーチ	イラワン ヘンキー	いらわん へんぎー	男	栃木県小山市	なし
24		4	コーチ	座間 壮太郎	ざま そうたろう	男	東京都国分寺市	一般社団法人 日本パラバドミントン連盟
25		5	トレーナー	田崎 真吾	たざき しんご	男	千葉県市川市	一般社団法人 日本パラバドミントン連盟
26		6	総務	伊藤 幸子	いとう ゆきこ	女	東京都杉並区	一般社団法人 日本パラバドミントン連盟
27	ブラインド フットボール	1	監督	中川 英治	なかがわ えいじ	男	東京都府中市	株式会社 クーバー・コーチング・ジャパン
28		2	ヘッドコーチ	上林 知民	うえばやし ともひと	男	東京都板橋区	株式会社キックス
29		3	コーチ	大室 龍大	おおむろ たつひろ	男	千葉県蘇我市	立教大学
30		4	コーチ	村上 重雄	むらかみ しげお	男	兵庫県加東市	特定非営利活動法人 法人日本ブラインドサッカー協会
31		5	ドクター	川端 佑介	かわばた ゆうすけ	男	神奈川県横浜市	横浜市立大学
32		6	トレーナー	阿部 良平	あべりょうへい	男	神奈川県横浜市	医療法人弘静会 野村医院
33	ボッチャ	1	監督	井上 伸	いのうえ しん	男	大阪府堺市	四天王寺福祉事業団 四天王寺和らぎ苑
34		2	コーチ	新井 大基	あらい だいき	男	東京都三鷹市	一般社団法人日本ボッチャ協会

No.	競技名/No.	役職	氏名	ふりがな	性別	現住所	所属先	
35	ボッチャ	3	コーチ	櫻井 博紀	さくらい ひろき	男	静岡県掛川市	学校法人常葉大学
36		4	コーチ	内藤 由美子	ないとう ゆみこ	女	静岡県沼津市	社会福祉法人 あしたか太陽の丘
37		5	トレーナー	栄徳 美沙季	えいとく みさき	女	大阪府大阪市	株式会社アイネットケアサービス
38		6	トレーナー	古尾谷 香苗	ふるおや かなえ	女	神奈川県平塚市	鶴見かとう整形外科
39	カヌー	1	監督	栢木 駿	はしき すぐる	男	鹿児島県伊佐市	一般社団法人日本パラカヌー連盟
40		2	総務	上岡 央子	うえおか ひさこ	女	東京都墨田区	一般社団法人日本パラカヌー連盟
41	自転車競技	1	ヘッドコーチ	沼部 早紀子	ぬまべ さきこ	女	静岡県駿東郡	一般社団法人 日本パラサイクリング連盟
42		2	トレーナー	菊地 孝明	きくち たかあき	男	北海道札幌市	株式会社健美創
43		3	メカニック	齊藤 健吾	さいとう けんご	男	東京都練馬区	プロショップタカムラ製作所
44	馬術	1	監督	三木 則夫	みきのりお	男	兵庫県明石市	(株)ノリス
45		2	コーチ	松波 智香	まつなみ ちか	女	オランダ ヘルレン	CM Equestrian service
46		3	グルーム	クレームルス ヴェーレ	くれーめるす づえーれ	女	オランダ ヴェールト	Team Raijmakers
47		4	グルーム	ドーマン リン	どーまん りん	女	オランダ シッタード	Veterinary Clinic Mark Deuss and steyvershof
48	ゴールボール (男子)	1	ヘッドコーチ	工藤 力也	くどう りきや	男	福岡県福岡市	株式会社アソウ・ ヒューマニーセンター
49		2	アシスタントコーチ	栃木 隆宏	とちぎ たかひろ	男	東京都豊島区	社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター
50		3	トレーナー	林 凌雅	はやし りょうが	男	北海道札幌市	とみた整形外科
51	ゴールボール (女子)	1	ヘッドコーチ	辻 美穂子	つじ みほこ	女	岡山県岡山市	ひこばえ
52		2	コーチ	杉山 沙弥香	すぎやま さやか	女	岐阜県本巣郡	岐阜県立羽鳥特別支援学校
53		3	トレーナー	前田 規久子	まえだ きくこ	女	東京都板橋区	一般社団法人 日本ゴールボール協会
54	柔道	1	監督	遠藤 義安	えんどう よしやす	男	宮城県仙台市	NPO 法人日本視覚障害者柔道連盟
55		2	ヘッドコーチ	佐藤 伸一郎	さとう しんいちろう	男	東京都文京区	拓殖大学 国際学部
56		3	コーチ	畑山 元政	はたけやま もとまさ	男	埼玉県白岡市	帝京科学大学 千住キャンパス
57		4	トレーナー	柴田 真子	しばた まこ	女	神奈川県横浜市	公益財団法人 横浜市スポーツ協会 横浜市スポーツ医学センター
58	パワーリフ ティング	1	監督	吉田 進	よしだ すずむ	男	東京都府中市	特定非営利活動法人日本パラ・ パワーリフティング連盟
59	ローイング	1	監督	佐原 英行	さはら ひでゆき	男	東京都品川区	公益社団法人日本ローイング協会
60		2	トレーナー	三木 孝太	みき こうた	男	茨城県古河市	特定医療法人仁寿会 総和中央病院
61	射撃	1	監督	猪坂 桂	いさか かつら	女	福井県福井市	特定非営利活動法人 日本パラ射撃連盟
62		2	コーチ	野口 優太	のぐち ゆうた	男	埼玉県川口市	特定非営利活動法人 日本パラ射撃連盟
63		3	トレーナー	奥山 武史	おくやま たけし	男	三重県鈴鹿市	ひだまり治療院
64	水泳	1	総監督	上垣 匠	うえがき たくみ	男	東京都板橋区	一般社団法人日本パラ水泳連盟
65		2	ヘッドコーチ (身体)	岸本 太一	きしもと たいち	男	東京都葛飾区	一般社団法人日本パラ水泳連盟
66		3	ヘッドコーチ (知的)	谷口 裕美子	たにぐち ゆみこ	女	山梨県甲府市	山梨学院大学
67		4	コーチ	古賀 大樹	こが だいき	男	東京都太田区	東京工業大学
68		5	コーチ	杉沼 春美	すぎぬま はるみ	女	千葉県柏市	日本体育大学
69		6	コーチ	竹村 幸	たけむら みゆき	女	東京都江東区	なし
70		7	コーチ	田中 宏樹	たなか こうき	男	東京都世田谷区	学校法人国士館
71		8	コーチ	宮本 敦史	みやもと あつし	男	岐阜県中津川市	岐阜県立恵那特別支援学校

No.	競技名/No.	役職	氏名	ふりがな	性別	現住所	所属先	
72	水泳	9	コーチ	本山 幸子	もとやま ゆきこ	女	東京都板橋区	一般社団法人日本パラ水泳連盟
73		10	トレーナー	打田 剛敏	うちだ たけとし	男	神奈川県川崎市	株式会社口コモ
74		11	トレーナー	小泉 圭介	こいずみ けいすけ	男	東京都羽村市	東都大学
75		12	総務	尾原 遼平	おばら りょうへい	男	東京都豊島区	一般社団法人日本パラ水泳連盟
76		13	総務	宮原 純子	みやはら じゅんこ	女	静岡県下田市	一般社団法人日本パラ水泳連盟
77	卓球	1	総監督	羽生 綾子	はぶ あやこ	女	東京都板橋区	(公財)日本卓球協会
78		2	ヘッドコーチ (立位)	森菌 美咲	もりぞの みさき	女	東京都新宿区	(一社)日本肢体不自由者卓球協会
79		3	ヘッドコーチ (車いす)	山本 恒安	やまもと つねやす	男	東京都西東京市	(一社)日本肢体不自由者卓球協会
80		4	コーチ	石川 貴陽	いしかわ たかはる	男	千葉県松戸市	TOMAX
81		5	コーチ	井保 啓太	いほ けいた	男	福岡県福岡市	博多卓球道場新宮店
82		6	コーチ	永富 聖香	ながとみ せいか	女	大阪堺市	(株)名光通信社
83	テコンドー	1	監督	作田 武俊	さくた たけとし	男	東京都板橋区	大東文化大学(学外指導者)
84		2	トレーナー	大出 剛太郎	おおいで こうたろう	男	埼玉県さいたま市	さいたま北区整骨院
85	トライ アスロン	1	監督	富川 理充	とみかわ まさみつ	男	神奈川県川崎市	専修大学
86		2	ヘッドコーチ	菊池 日出子	きくち ひでこ	女	福島県東白川郡	公益社団法人 日本トライアスロン連合
87	車いすバス ケットボール (女子)	1	ヘッドコーチ	岩野 博	いわの ひろし	男	大阪府大阪市	なし
88		2	コーチ	西田 聡	にしだ さとし	男	長崎県長崎市	なし
89		3	コーチ	森田 俊光	もりた としみつ	男	埼玉県草加市	丸美梱包有限会社
90		4	トレーナー	岩松 真理恵	いわまつ まりえ	女	千葉県船橋市	なし
91		5	トレーナー	永盛 雅子	ながもり まさこ	女	埼玉県志木市	医療法人秀志会 たなか整形外科クリニック
92		6	メカニック	結城 智之	ゆうき ともゆき	男	千葉県千葉市	株式会社 松永製作所
93		7	総務	吉田 絵里架	よしだ えりか	女	兵庫県神戸市	PwC コンサルティング合同会社
94	車いすフェン シング	1	監督	千田 健太	ちだ けんた	男	群馬県高崎市	慶應義塾大学
95		2	コーチ	山本 憲一	やまもと けんいち	男	ロンドン フィンチェ リー	BASARA FENCING CLUB
96	車いす ラグビー	1	ヘッドコーチ	岸 光太郎	きし こうたろう	男	埼玉県熊谷市	一般社団法人 日本車いすラグビー連盟
97		2	看護師	樋口 則之	ひぐち のりゆき	男	千葉県船橋市	東京歯科大学市川総合病院
98		3	トレーナー	川崎 淳	かわさき あつし	男	埼玉県戸田市	あみはりきゅう整骨院グループ
99		4	トレーナー	中村 奈津美	なかむら なつみ	女	東京都足立区	なし
100		5	メカニック	川崎 芳英	かわさき よしひで	男	佐賀県佐賀市	なし
101		6	映像	中谷 英樹	なかたに ひでき	男	東京都江東区	なし
102		7	総務	中尾 由理	なかお ゆり	女	東京都世田谷区	アイ・シー・エンジニアリング 株式会社
103		8	総務(通訳)	土屋 裕志	つちや ひろし	男	東京都練馬区	土屋翻訳室
104	車いすテニス	1	ヘッドコーチ	稲葉 洋祐	いなば ようすけ	男	千葉県四街道市	一般社団法人 日本車いすテニス協会
105		2	コーチ	松本 賢次	まつもと けんじ	男	大阪府大阪市	一般社団法人 日本車いすテニス協会
106		3	トレーナー	前田 准谷	まえだ のりひろ	男	東京都板橋区	一般社団法人 日本車いすテニス協会
107		4	トレーナー	増田 拓	ますだ ひろし	男	広島県広島市	一般社団法人 日本車いすテニス協会

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団 本部スタッフ

※2024年8月28日(水)パリパラリンピック開会式時点の年齢を記載

2024年8月2日現在

No.	役職	氏名	ふりがな	性別	現住所	所属
1	団長	田口 亜希	たぐち あき	女	東京都大田区	公益財団法人日本財団 パラスポーツサポートセンター
2	副団長	井田 朋宏	いだ ともひろ	男	東京都江戸川区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
3		中澤 吉裕	なかざわ よしひろ	男	神奈川県相模原市	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
4	医師	○塩田 有規	しおた ゆうき	男	東京都新宿区	順天堂大学
5		蒲原 一之	かまはら かずゆき	男	茨城県つくば市	独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター
6		上出 杏里	かみで あんり	女	東京都千代田区	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
7	看護師	○木下 敦子	きのした あつこ	女	大阪府堺市西区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
8		染谷 咲子	そめや さきこ	女	神奈川県川崎市	順天堂大学
9		藤尾 素子	ふじお もとこ	女	大分県大分市	社会医療法人恵愛会 大分中村病院
10	トレーナー	○荒谷 幸次	あらたに こうじ	男	静岡県浜松市	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
11		岩倉 瞳	いわくら ひとみ	女	神奈川県鎌倉市	学校法人衛生学園 神奈川衛生学園専門学校
12		笹代 純平	ささだい じゅんぺい	男	埼玉県さいたま市	独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター
13	パラリンピック アタッシェ	植田 達也	うえだ たつや	男	フランス・パリ	在仏日本大使館
14	ブレスアタッシェ	黒田 美穂	くろだ みほ	女	東京都港区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
15	総務	○與品 美由紀	よしな みゆき	女	東京都新宿区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
16		小林 薫	こばやし かおる	女	東京都江東区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
17		竹下 泰史	たけした ひろふみ	男	東京都墨田区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
18		富永 有紀	とみなが ゆき	女	千葉県船橋市	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
19		仲前 信治	なかまえ しんじ	男	東京都多摩市	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
20		深澤 泰山	ふかざわ やすたか	男	東京都中野区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
21		伏見 みずき	ふしみ みずき	女	神奈川県川崎市	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
22		古谷 駿	ふるやしゅん	男	東京都世田谷区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
23		森田 百合子	もりた ゆりこ	女	東京都文京区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
24	広報	成見 玲菜	なるみ れいな	女	東京都練馬区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
25		原 将史	はら まさふみ	男	東京都板橋区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
26		堀添 里緒	ほりぞえりお	女	東京都文京区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
27		屋敷 優友	やしき ゆうすけ	男	東京都練馬区	公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会
28	輸送	○高橋 巧	たかはし たくみ	男	埼玉県川口市	株式会社JTB
29		桑野 佳奈	くわの かな	女	東京都品川区	株式会社JTB

○：チーフ

リザルト

日本代表選手 獲得メダル

■ 金メダル

バドミントン	梶原大暉	男子シングルス (WH2)	14個
	里見紗李奈	女子シングルス (WH1)	
自転車競技	杉浦佳子	女子ロードレース (C1-3)	
ゴールボール	男子		
柔道	瀬戸勇次郎	男子73kg級 (J2)	
	廣瀬順子	女子57kg級 (J2)	
水泳	木村敬一	男子100mバタフライ (S11)	
		男子50m自由形 (S11)	
	鈴木孝幸	男子50m平泳ぎ (SB3)	
卓球	和田なつき	女子シングルス (11)	
車いすラグビー			
車いすテニス	小田颯人	男子シングルス	
	上地結衣	女子シングルス	
	上地結衣・田中愛美	女子ダブルス	

■ 銀メダル

陸上競技	鬼谷慶子	女子円盤投 (F53)	10個
	唐澤剣也	男子5000m (T11)	
	佐藤友祈	男子400m (T52)	
	福永凌太	男子400m (T13)	
バドミントン	里見紗李奈・山崎悠麻	女子ダブルス (WH1-2)	
柔道	半谷静香	女子48kg級 (J1)	
水泳	窪田幸太	男子100m背泳ぎ (S8)	
	鈴木孝幸	男子50m自由形 (S4)	
		男子100m自由形 (S4)	
車いすテニス	小田颯人・三木拓也	男子ダブルス	

■ 銅メダル

陸上競技	伊藤智也	男子400m (T52)	17個	
	川上秀太	男子100m (T13)		
	佐藤友祈	男子100m (T52)		
	鈴木朋樹	男子マラソン (T54)		
	道下美里	女子マラソン (T12)		
バドミントン	梶原大暉・村山浩	男子ダブルス (WH1-2)		
ボッチャ	遠藤裕美	女子個人 (BC1)		
	遠藤裕美・杉村英孝・廣瀬隆喜	混合チーム (BC1-2)		
柔道	小川和紗	女子70kg級 (J2)		
射撃	水田光夏	混合エアライフル伏射 (SH2)		
	木下愛菜	女子200m個人メドレー (S14)		
		鈴木孝幸		男子200m自由形 (S4)
		辻内彩野		女子100m自由形 (S12)
	富田宇宙	男子100mバタフライ (S11)		
		男子400m自由形 (S11)		
山口尚秀	男子100m平泳ぎ (SB14)			
卓球	古川佳奈美	女子シングルス (11)		

国別メダルランキング

順位	国・地域	金	銀	銅	合計
1	中国	94	76	50	220
2	イギリス	49	44	31	124
3	アメリカ	36	42	27	105
4	オランダ	27	17	12	56
5	ブラジル	25	26	38	89
6	イタリア	24	15	32	71
7	ウクライナ	22	28	32	82
8	フランス	19	28	28	75
9	オーストラリア	18	17	28	63
10	日本	14	10	17	41
11	ドイツ	10	14	25	49
12	カナダ	10	9	10	29
13	ウズベキスタン	10	9	7	26
14	イラン	8	10	7	25
15	スイス	8	8	5	21
16	ポーランド	8	6	9	23
17	スペイン	7	11	22	40
18	インド	7	9	13	29
19	コロンビア	7	7	14	28
20	ベルギー	7	4	3	14
21	タイ	6	11	13	30
22	韓国	6	10	14	30
23	トルコ	6	10	12	28
24	キューバ	6	3	1	10
25	アルジェリア	6	0	5	11
26	ハンガリー	5	6	4	15
27	チュニジア	5	3	3	11
28	アゼルバイジャン	4	2	5	11
29	イスラエル	4	2	4	10
30	メキシコ	3	6	8	17
31	モロッコ	3	6	6	15
32	香港	3	4	1	8
33	ギリシャ	3	3	7	13
34	ベネズエラ	3	2	1	6
35	スロバキア	3	2	0	5
36	ラトビア	3	1	0	4
37	アルゼンチン	2	3	8	13
38	デンマーク	2	3	5	10
39	カザフスタン	2	3	4	9
40	ナイジェリア	2	3	2	7
41	エジプト	2	2	3	7
42	マレーシア	2	2	1	5
43	ポルトガル	2	1	4	7

順位	国・地域	金	銀	銅	合計
44	エチオピア	2	1	0	3
44	シンガポール	2	1	0	3
46	南アフリカ	2	0	4	6
47	エクアドル	2	0	2	4
48	ヨルダン	2	0	1	3
49	コスタリカ	2	0	0	2
50	インドネシア	1	8	5	14
51	ジョージア	1	4	4	9
51	ニュージーランド	1	4	4	9
53	チェコ	1	4	3	8
54	ノルウェー	1	3	3	7
55	アイルランド	1	3	2	6
55	セルビア	1	3	2	6
57	モンゴル	1	3	0	4
58	イラク	1	1	3	5
59	クロアチア	1	1	2	4
60	チリ	1	0	5	6
61	クウェート	1	0	1	2
61	ナミビア	1	0	1	2
61	ルーマニア	1	0	1	2
61	スロベニア	1	0	1	2
65	ブルガリア	1	0	0	1
65	サウジアラビア	1	0	0	1
65	ペルー	1	0	0	1
68	台湾	0	3	2	5
69	オーストリア	0	3	1	4
70	ボスニア・ヘルツェゴビナ	0	2	0	2
71	フィンランド	0	1	3	4
72	スウェーデン	0	1	2	3
73	キプロス	0	1	1	2
73	モルドバ	0	1	1	2
75	ケニア	0	1	0	1
75	スリランカ	0	1	0	1
75	トリニダード・トバゴ	0	1	0	1
78	難民選手団	0	0	2	2
79	リトアニア	0	0	1	1
79	ルクセンブルク	0	0	1	1
79	モンテネグロ	0	0	1	1
79	モーリシャス	0	0	1	1
79	ネパール	0	0	1	1
79	パキスタン	0	0	1	1
79	ベトナム	0	0	1	1

日本代表選手団戦績

[アーチェリー]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	対戦相手	トータルスコア	内訳スコア					勝敗	順位	最終順位	記録	
上山 友裕	W2	男子	リカーブ個人	30	ランキングラウンド										22		599
					1回戦	ステファノ トラピサニ	イタリア	6-2	2-0	0-2	2-0	2-0		勝ち			
					2回戦	ウカシュ チェク	ポーランド	3-7	2-0	1-1	0-2	0-2	0-2		負け	9	
大江 佑弥	ST	男子	コンパウンド個人	32	ランキングラウンド										23		682
					1回戦	ジョナソン ミルン	オーストラリア	142-147	29-30	26-30	28-30	29-30	30-27		負け	17	

[陸上競技]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	出場数	記録	最終順位	成績	入賞・メダル	レコード	風向・風力(陸上)
赤井 大樹	T20	男子	1500m (T20)	7	決勝		7	3:57.58	5		入賞		
生馬 知季	T54	男子	100m (T54)	14	予選	2	7	14.73		予選敗退			追い風 1.4m/s
石山 大輝	T12	男子	走幅跳 (T12)	6	決勝		6	6.75	5		入賞		向かい風 1.0m/s
井谷 俊介	T64	男子	200m (T64)	16	予選	2	8	23.67		決勝進出			追い風 0.0m/s
					決勝		8	23.50	7		入賞	今季自己最高記録	追い風 0.5m/s
伊藤 竜也	T52	男子	400m (T52)	11	予選	2	5	1:09.55		予選敗退			
			100m (T52)	12	予選	2	6	17.76		決勝進出			向かい風 0.2m/s
伊藤 智也	T52	男子	400m (T52)	11	決勝		8	17.91	8		入賞		追い風 1.6m/s
					予選	2	6	1:00.42		決勝進出			
大島 健吾	T64	男子	100m (T64)	18	予選	2	9	11.24		予選敗退		アジア記録	追い風 0.0m/s
			200m (T64)	16	予選	2	8	DNS					
鬼谷 慶子	F53	女子	円盤投 (F53)	8	決勝		8	15.78	2		銀メダル	アジア記録	
小野寺 萌恵	T34	女子	100m (T34)	10	予選	2	5	19.08		決勝進出		今季自己最高記録	追い風 0.8m/s
					決勝		8	18.94	6		入賞	今季自己最高記録	追い風 0.2m/s
唐澤 剣也	T11	男子	800m (T34)	8	決勝		8	2:15.85	6		入賞	今季自己最高記録	
			5000m (T11)	9	決勝		9	14:51.48	2		銀メダル	アジア記録	
川上 秀太	T13	男子	100m (T13)	13	予選	2	7	10.80		決勝進出			追い風 0.1m/s
					決勝		8	10.80	3		銅メダル		向かい風 0.1m/s
北浦 春香	T34	女子	100m (T34)	10	予選	2	5	19.68		決勝進出		今季自己最高記録	向かい風 0.9m/s
					決勝		8	19.81	7		入賞		追い風 0.2m/s
喜納 翼	T54	女子	マラソン (T54)	16	決勝		16	2:04:53	12				
熊谷 豊	T12	男子	マラソン (T12)	12	決勝		12	2:32:26	10				
齋藤 由希子	F46	女子	砲丸投 (F46)	15	決勝		15	11.61	4		入賞		
酒井 園実	T20	女子	走幅跳 (T20)	15	決勝		15	4.87	13				向かい風 0.1m/s
佐々木 真菜	T13	女子	400m (T13)	14	予選	2	7	58.77		決勝進出			
					決勝		8	58.35	7		入賞	今季自己最高記録	
佐藤 友祈	T52	男子	400m (T52)	11	予選	2	6	58.04		決勝進出			
			100m (T52)	12	予選	2	6	17.20		決勝進出			追い風 0.3m/s
澤田 優蘭	T12	女子	100m (T52)	12	決勝		8	17.44	3		銅メダル		追い風 1.6m/s
			走幅跳 (T12)	9	決勝		9	4.90	6		入賞		追い風 0.3m/s
新保 大和	F37	男子	100m (T12)	16	予選	4	4	12.90		予選敗退			追い風 0.8m/s
			円盤投 (F37)	10	決勝		10	51.37	4		入賞		
鈴木 朋樹	T54	男子	1500m (T54)	17	予選	2	8	3:05.31		決勝進出			
			決勝		10	2:53.99	7		入賞				
高桑 早生	T64	女子	マラソン (T54)	13	決勝		13	1:31:23	3		銅メダル		
			走幅跳 (T64)	12	決勝		12	5.04	5		入賞	今季自己最高記録	向かい風 0.4m/s
高橋 峻也	F46	男子	100m (T64)	15	予選	2	7	13.85		予選敗退			向かい風 0.3m/s
			やり投 (F46)	9	決勝		9	59.76	6		入賞		
高松 佑圭	T38	女子	100m (T38)	18	予選	2	9	14.86		予選敗退			追い風 0.0m/s
			予選	2	7	1:00.19		決勝進出		今季自己最高記録タイ	今季自己最高記録		
辻 沙絵	T47	女子	400m (T47)	13	決勝		8	59.13	7		入賞		
			100m (T47)	17	予選	2	8	12.94		予選敗退			追い風 0.3m/s
土田 和歌子	T54	女子	マラソン (T54)	16	決勝		16	1:52:39	6		入賞		
十川 裕次	T20	男子	1500m (T20)	7	決勝		7	4:02.68	6		入賞		
兎澤 朋美	T63	女子	走幅跳 (T63)	9	決勝		9	4.58	5		入賞		0.0m/s
			100m (T63)	10	予選	2	5	15.85		予選敗退			追い風 0.5m/s
中西 麻耶	T64	女子	走幅跳 (T64)	12	決勝		12	4.91	7		入賞		向かい風 0.6m/s

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	出場数	記録	最終順位	成績	入賞・メダル	レコード	風向・風力(陸上)	
福永 凌太	T13	男子	400m (T13)	9	決勝		9	48.07	2		銀メダル			
			走幅跳 (T13)	10	決勝		10	6.55	7		入賞	今季自己最高記録	向かい風 0.8m/s	
堀越 信司	T12	男子	マラソン (T12)	12	決勝		12	2:28:03	7		入賞			
前川 楓	T63	女子	走幅跳 (T63)	9	決勝		9	4.50	6		入賞		向かい風 0.4m/s	
			100m (T63)	10	予選	2	5	16.34		予選敗退			追い風 0.2m/s	
松本 武尊	T36	男子	400m (T36)	7	決勝		7	53.63	4		入賞	アジア記録		
道下 美里	T12	女子	マラソン (T12)	10	決勝		10	3:04:23	3		銅メダル	今季自己最高記録		
山崎 晃裕	F46	男子	やり投 (F46)	9	決勝		9	57.67	7		入賞			
山本 萌恵子	T20	女子	1500m (T20)	9	決勝		9	5:16.70	9					
吉田 彩乃	T34	女子	100m (T34)	10	予選	2	5	20.43		決勝進出			向かい風 0.9m/s	
					決勝		8	20.07	8		入賞		追い風 0.2m/s	
吉田 竜太	T54	男子	マラソン (T54)	13	決勝		13	1:37:15	8		入賞			
若生 裕太	F12	男子	やり投 (F13)	8	決勝		8	58.49	7		入賞	今季自己最高記録		
和田 伸也	T11	男子	5000m (T11)	9	決勝		9	15:16.41	4		入賞			
			マラソン (T12)	12	決勝		12	2:29:59	9			パラリンピック記録		
澤田 優蘭	T12	混合	400m ユニバーサル リレー	5	予選	2	3	47.09		決勝進出		今季自己最高記録		
辻 沙絵	T47				決勝		4	48.16	4		入賞			
松本 武尊	T36													
生馬 知季	T54													

[バトミントン]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	対戦相手	トータルスコア	内訳スコア	勝敗	最終順位	成績	入賞・メダル
伊藤 則子	SL3	女子	シングルス (SL3)	10	1次リーグ	3	ハリメ ユルドゥズ トルコ	0-2	10-21 4-21	負け			
							肖 祖賢 中国	0-2	5-21 4-21	負け			
							ダルニュー ヘンプライワン タイ	1-2	23-21 7-21 5-21	負け	10	予選敗退	
今井 大湧	SU5	男子	シングルス (SU5)	8	1次リーグ	2	ムハマドファルース アヌアル マレーシア	1-2	21-17 17-21 17-21	負け			
							方 振宇 台湾	2-1	15-21 21-11 21-19	勝ち			
							ドヘバ アンリムスティ インドネシア	0-2	18-21 14-21	負け	5	予選敗退	入賞
梶原 大暉	WH2	男子	シングルス (WH2)	12	1次リーグ	4	松本 卓巳 日本	2-0	21-4 21-18	勝ち			
					準決勝		ルカ オルギアティ スイス	2-0	21-10 21-10	勝ち		決勝トーナメント進出	
					決勝		キム ジョンジュン 韓国	2-0	21-17 21-9	勝ち			
							陳 浩源 香港	2-0	21-10 21-10	勝ち	1		金メダル
亀山 楓	SU5	女子	シングルス (SU5)	9	1次リーグ	3	豊田 まみ子 日本	0-2	19-21 16-21	負け			
							カトリヌ ロセンレン デンマーク	0-2	6-21 10-21	負け	7	予選敗退	入賞
里見 紗李奈	WH1	女子	シングルス (WH1)	11	1次リーグ	3	尹 夢璐 中国	1-2	21-12 18-21 15-21	負け			
							ニナ ゴロテトズキ イスラエル	2-0	21-3 21-8	勝ち			
							シンシア マテツ スイス	2-0	21-11 21-11	勝ち		決勝トーナメント進出	
					準々決勝		胡 光秋 台湾	2-0	21-5 21-11	勝ち			
					準決勝		尹 夢璐 中国	2-0	21-17 22-20	勝ち			
					決勝		スジラット ボーカン タイ	2-1	18-21 21-13 21-18	勝ち	1		金メダル
豊田 まみ子	SU5	女子	シングルス (SU5)	9	1次リーグ	3	亀山 楓 日本	2-0	21-19 21-16	勝ち			
							カトリヌ ロセンレン デンマーク	0-2	17-21 11-21	負け		決勝トーナメント進出	
					準々決勝		マニシャ ラマダス インド	0-2	13-21 16-21	負け	5		入賞
長島 理	WH1	男子	シングルス (WH1)	9	1次リーグ	3	村山 浩 日本	0-2	8-21 17-21	負け			
							チェ ジョンマン 韓国	0-2	11-21 14-21	負け	7	予選敗退	入賞
藤野 遼	SL4	女子	シングルス (SL4)	9	1次リーグ	3	ニバダ セアンスバ タイ	2-0	21-13 21-11	勝ち			
					準々決勝		ヘレソフィエ サゲイ ノルウェー	0-2	14-21 14-21	負け		決勝トーナメント進出	
							程 和芳 中国	0-2	9-21 13-21	負け	5		入賞
藤原 大輔	SL3	男子	シングルス (SL3)	8	1次リーグ	2	ダニエル ベセル イギリス	0-2	9-21 4-21	負け			
							ボイテク チェズ ニューゼaland	2-0	21-8 21-12	勝ち			
					準決勝		オレクサンドル チルコフ ウクライナ	2-1	19-21 21-16 21-17	勝ち		決勝トーナメント進出	
					3位決定戦		クマール ニテシュ インド	0-2	16-21 12-21	負け			
							モンコン プンスン タイ	0-2	15-21 15-21	負け	4		入賞
松本 卓巳	WH2	男子	シングルス (WH2)	12	1次リーグ	4	梶原 大暉 日本	0-2	4-21 18-21	負け			
							ルカ オルギアティ スイス	2-0	21-10 21-15	勝ち	5	予選敗退	入賞
村山 浩	WH1	男子	シングルス (WH1)	9	1次リーグ	3	長島 理 日本	2-0	21-8 21-17	勝ち			
					準々決勝		チェ ジョンマン 韓国	0-2	10-21 13-21	負け		決勝トーナメント進出	
							チョン ジェグ 韓国	0-2	26-28 19-21	負け	5		入賞
山崎 悠麻	WH2	女子	シングルス (WH2)	10	1次リーグ	3	劉 禹彤 中国	0-2	5-21 3-21	負け			
					準々決勝		エミネ セジュキン トルコ	2-0	21-15 21-14	勝ち		決勝トーナメント進出	
					準決勝		アムノウイ ウェウイタン タイ	2-0	21-14 21-16	勝ち			
					3位決定戦		劉 禹彤 中国	0-2	6-21 9-21	負け			
							イラリア ラングリ スイス	0-2	13-21 14-21	負け	4		入賞
今井 大湧	SU5	混合	ダブルス (SL3-SU5)	8	1次リーグ	2	カリマトゥス サディアヤフ フレジ セティアワン インドネシア	0-2	12-21 23-25	負け			
伊藤 則子	SL3						楊 健遠 中国	0-2	19-21 15-21	負け			
							ニバダ セアンスバ シリボン テアマロン タイ	1-2	21-18 18-21 19-21	負け	7	予選敗退	入賞

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	対戦相手	トータルスコア	内訳スコア	勝敗	最終順位	成績	入賞・メダル
里見 紗李奈 山崎 悠麻	WH1 WH2	女子	ダブルス (WH1-2)	6	1次リーグ	2	クオン ヒョンア チョン ギョウル	韓国	2-0	21-9 21-12	勝ち		
							尹 夢璐 劉 禹彤	中国	0-2	14-21 14-21	負け		決勝トーナメント 進出
					準決勝		スジラット ポーカン アムノウイ ウェウタン	タイ	2-0	21-16 21-13	勝ち		
					決勝		尹 夢璐 劉 禹彤	中国	0-2	17-21 19-21	負け	2	
梶原 大暉 村山 浩	WH2 WH1	男子	ダブルス (WH1-2)	8	1次リーグ	2	ムハンマドイクワン ラムリ ヌールアズワビンヌールラン	マレーシア	2-1	17-21 21-13 21-16	勝ち		
							屈 子墨 麦 建朋	中国	0-2	15-21 15-21	負け		
							トーマスワンドシュナイダー リックコルネルヘルマン	ドイツ	2-0	21-15 21-5	勝ち		決勝トーナメント 進出
					準決勝		屈 子墨 麦 建朋	中国	0-2	15-21 14-21	負け		
					3位決定戦		松本 卓巳 長島 理	日本	2-1	19-21 21-12 21-15	勝ち	3	
松本 卓巳 長島 理	WH2 WH1	男子	ダブルス (WH1-2)	8	1次リーグ	2	ダビド トウベ トマ ヤコブス	フランス	2-1	15-21 21-18 22-20	勝ち		
							ユ スヨン チョン ジェグン	韓国	0-2	16-21 13-21	負け		
							チェ ジョンマン キム ジョンジュン	韓国	2-0	21-13 21-19	勝ち		決勝トーナメント 進出
							ユ スヨン チョン ジェグン	韓国	0-2	12-21 12-21	負け		
					3位決定戦		梶原 大暉 村山 浩	日本	1-2	21-19 12-21 15-21	負け	4	

[ブラインドフットボール]

予選

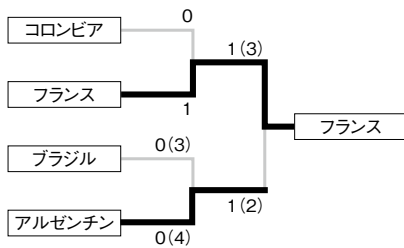
●A組

	ブラジル	フランス	中国	トルコ
ブラジル	-	3-0	0-0	3-0
フランス	0-3	-	1-0	2-0
中国	0-0	0-1	-	2-0
トルコ	0-3	0-2	0-2	-

●B組

	コロンビア	アルゼンチン	モロッコ	日本
コロンビア	-	0-0	1-0	1-0
アルゼンチン	0-0	-	0-0	1-0
モロッコ	0-1	0-0	-	1-0
日本	0-1	0-1	0-1	-

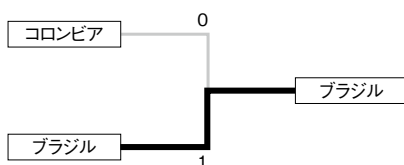
決勝トーナメント



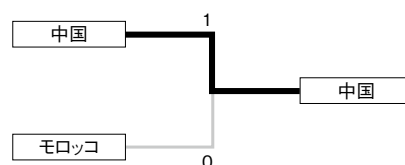
最終順位

順位	国・地域
1	フランス
2	アルゼンチン
3	ブラジル
4	コロンビア
5	中国
6	モロッコ
7	トルコ
8	日本

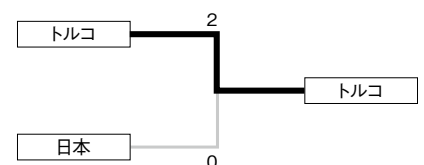
3位決定戦



5、6位決定戦



7、8位決定戦



[ボッチャ]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	対戦相手	トータルスコア	内訳スコア				勝敗	最終順位	成績	入賞・メダル	
有田 正行	BC3	男子	個人戦 (BC3)	16	グループ予選	4	マテウス カルバリヨ ブラジル	5-4	0-1	3-0	0-3	2-0	勝ち	12	予選敗退		
							グリゴリオス ボリクロナディス ギリシャ	0-9	0-2	0-3	0-3	0-1	負け				
一戸 彩音	BC3	女子	個人戦 (BC3)	16	グループ予選	4	ジュール メナール フランス	2-4	1-0	0-3	1-0	0-1	負け	7	決勝トーナメント進出		
							ニウルカ カジュベ ベルギー	5-1	1-0	1-0	3-0	0-1	勝ち				
							アンナ デンタ ギリシャ	8-0	3-0	2-0	1-0	2-0	勝ち				
					準々決勝		ステファニア フェランド アルゼンチン	3-6	0-3	3-0	0-2	0-1	負け				
							カン ソンヒ 韓国	2-3	1-0	1-0	0-1	0-2	負け				
内田 峻介	BC4	男子	個人戦 (BC4)	16	グループ予選	4	鄭 遠森 中国	1-10	0-4	1-0	0-4	0-2	負け	11	予選敗退		
							アンドレ コスタ ブラジル	8-2	1-1	3-0	0-1	4-0	勝ち				
							梁 育榮 香港	2-8	0-2	0-2	0-4	2-0	負け				
遠藤 裕美	BC1	女子	個人戦 (BC1)	12	グループ予選	4	キング コザ ボーランド	5-4	0-2	1-0	0-2	4-0	勝ち	3	決勝トーナメント進出		
							ユシャエ アンドレード バミューダ	5-1	3-0	1-0	0-1	1-0	勝ち				
							準々決勝										
							ドラ バシッチ クロアチア	7-0	1-0	3-0	2-0	1-0	勝ち				
					準決勝		イーティンジェラリン タン シンガポール	1-5	0-1	0-2	0-2	1-0	負け				
					3位決定戦		ユシャエ アンドレード バミューダ	7-0	1-0	3-0	2-0	1-0	勝ち			銅メダル	
杉村 英孝	BC2	男子	個人戦 (BC2)	24	グループ予選	6	藍 智堅 中国	5-0	1-0	1-0	2-0	1-0	勝ち	8	決勝トーナメント進出 決定戦進出		
							チェーファン リー マレーシア	6-5	0-3	0-2	4-0	2-0	勝ち				
							ムハマドビンタン ヘルランガ インドネシア	2-3	1-0	1-0	0-1	0-2	負け				
							準々決勝										
					決勝トーナメント 進出決定戦		嚴 治強 中国	5-2	1-0	3-0	0-2	1-0	勝ち				
					準々決勝		ウォラウト センガムバ タイ	3-5	2-0	1-0	0-1	0-4	負け			入賞	
廣瀬 隆喜	BC2	男子	個人戦 (BC2)	24	グループ予選	6	ダニク アラール カナダ	6-2	0-2	3-0	1-0	2-0	勝ち	18	予選敗退		
							嚴 治強 中国	0-17	0-2	0-6	0-4	0-5	負け				
							フェリクスアルディユドハ インドネシア	2-5	1-0	0-2	1-0	0-3	負け				
藤井 友里子	BC1	女子	個人戦 (BC1)	12	グループ予選	4	アイレン フロレス アルゼンチン	4-2	1-0	0-2	1-0	2-0	勝ち	5	決勝トーナメント進出		
							アンドレザ オリベイラ ブラジル	6-1	2-0	1-0	3-0	0-1	勝ち				
					準々決勝		オレリ オベール フランス	3-4	2-0	0-2	0-2	1-0	負け			入賞	
遠藤 裕美 廣瀬 隆喜 杉村 英孝	BC1 BC2 BC2	混合	チーム (BC1-2)	12	グループ予選	4	アシュラフ タヤヒ アイエド ベンユーブ マハアウーナラハ チュニジア	11-1	2-0	0-1	2-0	1-0	勝ち	3	決勝トーナメント 進出		
							チョン ソンジュン ソ ミンギョ チョン ソヨン 韓国	5-3	2-0	1-0	0-1	0-2	勝ち				
							準々決勝										
							アンドレザ オリベイラ イウリ シウバ マシエル サントス ブラジル	4-4	1-0	0-1	0-1	0-1	勝ち				
					準決勝		ムハマド シャファ フェリクスアルディユドハ ギスチャ ザヤナ インドネシア	0-9	0-1	0-1	0-2	0-1	負け				
					3位決定戦		チョン ソンジュン ソ ミンギョ チョン ソヨン 韓国	8-3	1-0	3-0	0-3	1-0	勝ち			銅メダル	
一戸 彩音 有田 正行	BC3 BC3	混合	ペア (BC3)	12	グループ予選	4	ジュール メナール ソニア エケル フランス	3-3	2-0	1-0	0-1	0-2	負け	9	予選敗退		
							ジェーミソン リーソン ダニエル マイケル オーストラリア	2-5	0-3	2-0	0-1	0-1	負け				

[カヌー]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	出場者数	記録	順位	最終順位	成績	入賞・メダル
小松 沙季	VL2	女子	バーシングル200m (VL2)	12	予選	2	6	DNS			DNS	
瀬立 モニカ	KL1	女子	カヤックシングル200m (KL1)	11	予選	2	6	58.38	3		準決勝進出	
					準決勝		4	57.98	2		決勝進出	
					決勝		8	58.73	6	6		入賞
高木 裕太	KL1	男子	カヤックシングル200m (KL1)	11	予選	2	6	1:03.09	5		準決勝進出	
					準決勝		4	1:01.42	4	10		敗退
宮嶋 志帆	VL3	女子	バーシングル200m (VL3)	12	予選	2	6	1:17.81	6		準決勝進出	
					準決勝		5	1:17.81	5		順位決定戦B進出	
					順位決定戦B		4	1:20.22	4	12		
	KL2	女子	カヤックシングル200m (KL2)	12	予選	2	6	1:03.60	6		準決勝進出	
準決勝						5	1:02.52	4		順位決定戦B進出		
					順位決定戦B		4	1:02.43	2	10		

[自転車競技]

氏名	クラス	性別	競技	種目	総出場者数	ラウンド	記録	最終順位	成績	入賞・メダル	係数 (%)
川本 翔大	C2	男子	トラック	3000m個人追い抜き (C2)	9	予選	3:29.875		3位決定戦進出	入賞	
				3位決定戦	3:33.488	4					
			ロード	1000mタイムトライアル (C1-3)	17	予選	1:07.375		決勝進出	94.500	
				個人ロードレース (C1-3)	32	決勝	1:07.659	6	入賞	94.500	
木村 和平	B	男子	トラック	タンデム4000m個人追い抜き (B)	16	予選	4:28.676	10	予選敗退		
				タンデム1000mタイムトライアル (B)	11	予選	1:02.022		決勝進出		
杉浦 佳子	C3	女子	トラック	3000m個人追い抜き (C1-3)	10	予選	3:53.549	5	予選敗退	入賞	
				500mタイムトライアル (C1-3)	11	予選	39.449	7	予選敗退	入賞	100.000
			ロード	個人ロードタイムトライアル (C1-3)	16		22:38.53	6	入賞	100.000	
				個人ロードレース (C1-3)	15		1:38.48	1	金メダル		
藤田 征樹	C3	男子	ロード	個人ロードタイムトライアル (C3)	11		40:14.50	7	入賞		
				個人ロードレース (C1-3)	32		1:56:13	15			

[馬術]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	得点率 E	得点率 H	得点率 C	得点率 M	得点率 B	最終得点率	順位	最終順位	成績	入賞・メダル	レコード
稲葉 将	GII	混合	個人規定 (GII)	9	60.000	61.897	62.069	66.379	58.448	61.759	8		自由演技進出		
吉越 奏詞	GII	混合	個人自由演技 (GII)	8	68.134	66.167	65.534	68.300	63.134	66.254	8	8		入賞	
			個人規定 (GII)	9	62.586	62.586	60.345	61.724	61.379	61.724	9				

[ゴールボール男子]

予選

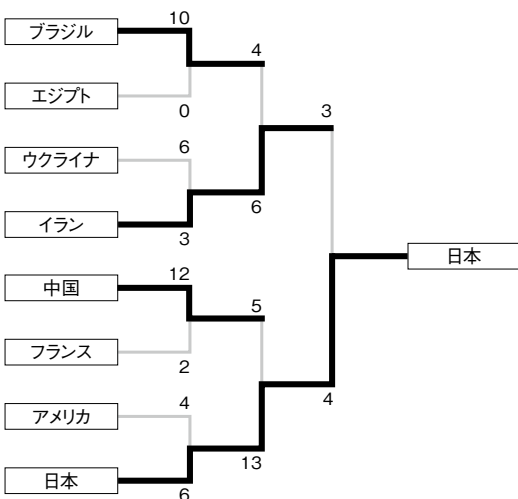
●A組

	ブラジル	アメリカ	イラン	フランス
ブラジル	-	13-8	7-7	8-5
アメリカ	8-13	-	14-7	5-4
イラン	7-7	7-14	-	12-8
フランス	5-8	4-5	8-12	-

●B組

	中国	ウクライナ	日本	エジプト
中国	-	6-1	7-6	7-4
ウクライナ	1-6	-	9-8	6-3
日本	6-7	8-9	-	11-1
エジプト	4-7	3-6	1-11	-

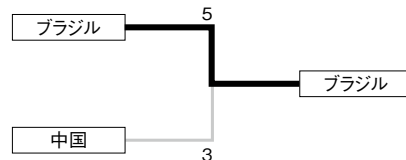
決勝トーナメント



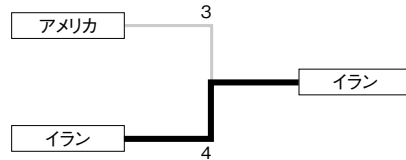
最終順位

順位	国・地域
1	日本
2	ウクライナ
3	ブラジル
4	中国
5	イラン
6	アメリカ
7	フランス
8	エジプト

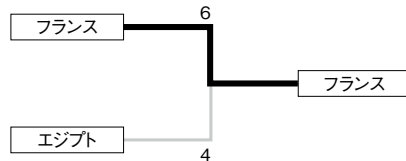
3位決定戦



5、6位決定戦



7、8位決定戦



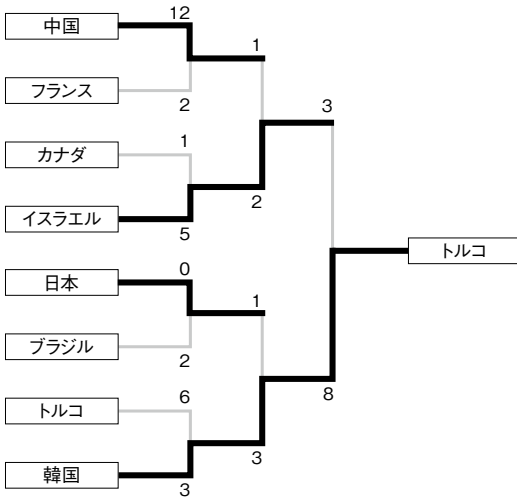
[ゴールボール女子]

予選

●C組

	中国	トルコ	イスラエル	ブラジル
中国	-	7-5	6-1	3-1
トルコ	5-7	-	5-4	3-3
イスラエル	1-6	4-5	-	8-4
ブラジル	1-3	3-3	4-8	-

決勝トーナメント



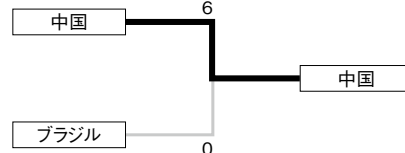
最終順位

順位	国・地域
1	トルコ
2	イスラエル
3	中国
4	ブラジル
5	カナダ
6	日本
7	韓国
8	フランス

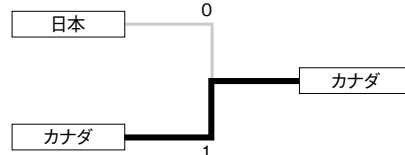
●D組

	日本	カナダ	韓国	フランス
日本	-	2-1	3-1	6-0
カナダ	1-2	-	0-0	10-0
韓国	1-3	0-0	-	6-1
フランス	0-6	0-10	1-6	-

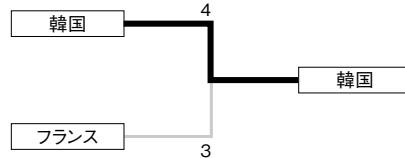
3位決定戦



5、6位決定戦



7、8位決定戦



[柔道]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	対戦相手	勝敗	最終順位	入賞・メダル	
小川 和紗	J2	女子	70キログ級 (J2)	6	準々決勝	アヤラ メレケ	カザフスタン	勝ち		
					準決勝	アラナ マルチンスマウドナド	ブラジル	負け		
					3位決定戦	ケリー ビクトリオ	ブラジル	勝ち	3	銅メダル
加藤 裕司	J1	男子	73キログ級 (J1)	13	1回戦	アルマンド ロドリク	フランス	負け	9	
					準々決勝	張 少豪	台湾	勝ち		
瀬戸 勇次郎	J2	男子	73キログ級 (J2)	11	準決勝	オスバルダス バレイキス	リトアニア	勝ち		
					決勝	ギオルギ カルダニ	ジョージア	勝ち	1	金メダル
土屋 美奈子	J1	女子	70キログ級 (J1)	9	1回戦	ナディア ボヒアノアレグレ	アルゼンチン	負け	9	
半谷 静香	J1	女子	48キログ級 (J1)	8	準々決勝	ロシオ レデスマドゥレ	アルゼンチン	勝ち		
					準決勝	エジェム タシュンジャブダル	トルコ	勝ち		
					決勝	ナタリア ニコライチク	ウクライナ	負け	2	銀メダル
廣瀬 順子	J2	女子	57キログ級 (J2)	9	準々決勝	ラウラカンデラ ゴンサレス	アルゼンチン	勝ち		
					準決勝	ダヤナ フェドソワ	カザフスタン	勝ち		
					決勝	クムシホン ホジャエワ	ウズベキスタン	勝ち	1	金メダル

[パワーリフティング]

氏名	性別	種目	総出場者数	記録	最終順位	入賞・メダル
佐藤 和人	男子	107キログ級	9	175	8	入賞

[ローイング]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	出場者数	記録	順位	最終順位	成績	入賞・メダル
森 卓也	PR1	男子	シングルスカル (PR1)	11	予選	2	6	10:19.75	5		敗者復活戦へ	
					敗者復活戦	2	4	10:23.78	4		決勝Bへ	
					決勝B		4	10:37.74	3	8		入賞

[射撃]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	出場者数	得点①	得点②	得点③	得点④	得点⑤	得点⑥	記録	順位	最終順位	成績	入賞・メダル
岡田 和也	SH1	混合	エアライフル伏射 (SH1)	35	予選	35	106.5	105.1	104.3	103.9	104.4	105.2	629.4	23	23	予選敗退	
			ライフル伏射 (SH1)	36	予選	36	101.4	102.9	101.9	103.3	102.1	101.7	613.3	28	28	予選敗退	
瀬賀 亜希子	SH2	混合	エアライフル伏射 (SH2)	37	予選	37	105.8	106.1	105.2	105.9	105.6	105.1	633.7	17	17	予選敗退	
水田 光夏	SH2	混合	エアライフル伏射 (SH2)	37	予選	37	106.0	106.1	105.8	105.3	107.2	106.1	636.5	6		決勝進出	
					決勝	8								232.1	3	3	

[水泳]

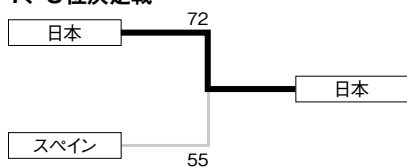
氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	出場者数	記録	最終順位	成績	入賞・メダル	レコード
石浦 智美	S11	女子	100m自由形 (S11)	13	予選	2	7	1:09.83		決勝進出		
			決勝			8	1:10.85	8	入賞			
			50m自由形 (S11)	16	予選	2	8	31.22		リザーブ		
			100m背泳ぎ (S11)	12	予選	2	6	1:21.93		リザーブ		
宇津木 美都	SB8	女子	100m平泳ぎ (SB8)	15	予選	2	8	1:28.15		決勝進出		
			決勝			8	1:26.42	5	入賞			
	S9	女子	100m背泳ぎ (S9)	14	予選	2	7	1:20.08		予選敗退		
荻原 虎太郎	S8	男子	100m背泳ぎ (S8)	12	予選	2	6	1:08.70		決勝進出		
			決勝			8	1:08.94	8	入賞			
			200m個人メドレー (SM8)	13	予選	2	6	2:29.62		決勝進出		
			100m自由形 (S8)	16	予選	2	8	1:01.81		予選敗退		
小野 智華子	S11	女子	50m自由形 (S11)	16	予選	2	8	35.35		予選敗退		
			100m背泳ぎ (S11)	12	予選	2	6	1:25.17		予選敗退		
			200m個人メドレー (SM11)	10	予選	2	5	3:15.30		リザーブ		
川淵 大耀	S9	男子	400m自由形 (S9)	10	予選	2	5	4:26.51		決勝進出		
			決勝			8	4:23.15	7	入賞			
			200m個人メドレー (SM9)	15	予選	2	7	2:28.07		予選敗退		
木下 愛菜	S14	女子	100mバタフライ (S14)	16	予選	2	8	1:06.67		決勝進出		
			決勝			8	1:06.70	5	入賞			
			200m自由形 (S14)	13	予選	2	7	2:12.89		決勝進出		
			決勝		8	2:12.84	6	入賞				
	SM14	女子	200m個人メドレー (SM14)	14	予選	2	7	2:28.05		決勝進出		
			決勝		8	2:25.96	3	銅メダル				
	S14	女子	100m背泳ぎ (S14)	15	予選	2	8	1:11.09		決勝進出		
			決勝		8	1:09.73	6	入賞				
木村 敬一	S11	男子	50m自由形 (S11)	13	予選	2	7	26.74		決勝進出		
			決勝			8	25.98	1	金メダル	日本記録		
			100mバタフライ (S11)	10	予選	2	5	1:01.48		決勝進出		
			決勝		10	1:00.90	1	金メダル	パラリンピック記録 アジア記録 日本記録			
窪田 幸太	S8	男子	100m背泳ぎ (S8)	12	予選	2	6	1:07.56		決勝進出		
			決勝			8	1:07.03	2	銀メダル			
齋藤 元希	S13	男子	100mバタフライ (S13)	12	予選	2	6	1:01.39		リザーブ		
			決勝			7	1:03.67		リザーブ			
			400m自由形 (S13)	13	予選	2	7	4:30.59		リザーブ		
			200m個人メドレー (SM13)	14	予選	2	7	2:16.62		決勝進出		日本記録
			決勝		8	2:17.51	8	入賞				
	SB13	男子	100m平泳ぎ (SB13)	16	予選	2	8	1:11.73		予選敗退		日本記録
	SB3	男子	50m平泳ぎ (SB3)	7	決勝		7	48.04	1	金メダル	日本記録	
鈴木 孝幸	S4	男子	100m自由形 (S4)	12	予選	2	6	1:22.80		決勝進出		
			決勝			8	1:21.71	2	銀メダル			
			200m自由形 (S4)	13	予選	2	7	3:05.23		決勝進出		
			決勝		8	2:55.17	3	銅メダル				
	S4	男子	50m自由形 (S4)	12	予選	2	6	37.49		決勝進出		
			決勝		8	36.85	2	銀メダル	アジア記録 日本記録			
芹澤 美希香	SB14	女子	100m平泳ぎ (SB14)	13	予選	2	7	1:19.78		決勝進出		
			決勝			8	1:19.38	6	入賞			
	S5	男子	100m自由形 (S5)	12	予選	2	6	1:20.13		決勝進出		
			決勝			8	1:19.65	8	入賞			
	S5	男子	50m背泳ぎ (S5)		12	予選	2	6	36.85		決勝進出	
			決勝		8	36.24	6	入賞	日本記録			
	S5	男子	50mバタフライ (S5)	12	予選	2	6	34.50		決勝進出		
			決勝		8	33.25	5	入賞	日本記録			
辻内 彩野	S12	女子	100m背泳ぎ (S12)	10	予選	2	5	1:13.88		決勝進出		日本記録
			決勝			8	1:13.64	5	入賞	日本記録		
			50m自由形 (S13)	18	予選	3	6	28.20		リザーブ		
	S12	女子	100m自由形 (S12)	12	予選	2	6	1:01.05		決勝進出		日本記録
			決勝			8	1:01.05	3	銅メダル	日本タイ記録		

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	組数	出場者数	記録	最終順位	成績	入賞・メダル	レコード
富田 宇宙	S11	男子	400m自由形 (S11)	8	決勝		8	4:32.33	3		銅メダル	
	S11	男子	100mバタフライ (S11)	10	予選 決勝	2	5 8	1:04.47 1:03.89		決勝進出		銅メダル
西田 杏	S7	女子	50mバタフライ (S7)	16	予選	2	8	38.05		リザーブ		
日向 楓	S5	男子	100m自由形 (S5)	12	予選	2	6	1:22.40		リザーブ		
	S5	男子	50m背泳ぎ (S5)	12	予選 決勝	2	6 8	37.95 38.23	7	決勝進出	入賞	
	S5	男子	50m自由形 (S5)	13	予選	2	7	35.47		リザーブ		
	S5	男子	50mバタフライ (S5)	12	予選 決勝	2	6 8	35.48 37.09		決勝進出		入賞
福井 香澄	S14	女子	100mバタフライ (S14)	16	予選	2	8	1:14.29		予選敗退		
	S14	女子	100m背泳ぎ (S14)	15	予選	2	8	1:16.37		予選敗退		
福田 果音	SB8	女子	100m平泳ぎ (SB8)	15	予選 決勝	2	8 8	1:26.17 1:26.88	7	決勝進出		入賞
	S10	男子	50m自由形 (S10)	12	予選	2	6	25.82		予選敗退		
南井 瑛翔	S10	男子	100mバタフライ (S10)	13	予選 決勝	2	6 8	59.66 59.84	6	決勝進出	入賞	
	S10	男子	100m背泳ぎ (S10)	11	予選 決勝	2	6 8	1:04.12 1:04.93	8	決勝進出	入賞	アジア記録 日本記録
	SM10	男子	200m個人メドレー (SM10)	16	予選	2	8	2:20.30		リザーブ		
村上 舜也	S14	男子	100mバタフライ (S14)	13	予選	2	6	1:00.15		予選敗退		
山口 尚秀	S14	男子	100mバタフライ (S14)	13	予選 決勝	2	7 8	57.74 57.85	5	決勝進出	入賞	
	SB14	男子	100m平泳ぎ (SB14)	9	予選 決勝	2	5 8	1:05.16 1:04.94	3	決勝進出		銅メダル
	SM14	男子	200m個人メドレー (SM14)	11	予選 決勝	2	6 8	2:15.09 2:14.98	8	決勝進出	入賞	
	S14	男子	100m背泳ぎ (S14)	17	予選	3	6	1:02.85		予選敗退		
由井 真緒里	S5	女子	200m自由形 (S5)	20	予選	3	6	3:11.12		リザーブ		
	SB5	女子	100m平泳ぎ (SB5)	9	予選 決勝	2	4 8	2:00.29 1:59.79	8	決勝進出	入賞	
	SM5	女子	200m個人メドレー (SM5)	20	予選 決勝	3	7 8	3:46.71 3:48.88	6	決勝進出	入賞	
山口 尚秀 木下 愛菜 福井 香澄 村上 舜也	S14 S14 S14 S14	混合	400mフリーリレー (S14)	5	決勝		5	3:55.27	5		入賞	
窪田 幸太 宇津木 美都 川淵 大耀 福田 果音	S8 SB8 S9 S9	混合	400mメドレーリレー (34pts)	11	予選	2	5	4:52.39		リザーブ		
富田 宇宙 斎藤 元希 石浦 智美 辻内 彩野	S11 S13 S11 S12	混合	400mリレー (49pts)	7	決勝		7	4:07.52	6		入賞	アジア記録 日本記録
日向 楓 鈴木 孝幸 西田 杏 由井 真緒里	S5 SB3 S7 S5	混合	200mメドレーリレー (20pts)	11	予選	2	6	2:47.89		決勝進出		
田中 映伍 鈴木 孝幸 西田 杏 由井 真緒里	S5 SB3 S7 S5				決勝		8	2:45.95	7		入賞	日本記録

[卓球]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	対戦相手	トータルスコア	内訳スコア				勝敗	最終順位	入賞・メダル	
岩淵 幸洋	9	男子	シングルス (9)	14	1回戦	アンデル セバス	スペイン	1-3	9-11	11-9	7-11	9-11	負け	9	
齊藤 元希	4	男子	シングルス (4)	16	1回戦	マキシム トマ	フランス	0-3	7-11	8-11	5-11		負け	9	
七野 一輝	4	男子	シングルス (4)	16	1回戦	エメリ マルタン	フランス	3-0	12-10	11-8	11-6		勝ち		
					準々決勝	ワンチャイ チャイウット	タイ	1-3	10-12	11-6	7-11	8-11	負け	5	入賞
竹守 彪	11	男子	シングルス (11)	10	準々決勝	サミュエル フォンアイネム	オーストラリア	0-3	8-11	10-12	10-12		負け	5	入賞
友野 有理	8	女子	シングルス (8)	11	1回戦	リュシ オティエール	フランス	3-0	11-4	11-4	11-0		勝ち		
					準々決勝	アイダ フシクダレン	ノルウェー	2-3	11-8	8-11	11-8	9-11	9-11	負け	5
舟山 真弘	10	男子	シングルス (10)	14	1回戦	ルカ バキッチ	モンテネグロ	3-0	11-7	11-9	11-5		勝ち		
					準々決勝	マテオ ボエア	フランス	2-3	11-13	11-8	16-14	6-11	5-11	負け	5
古川 佳奈美	11	女子	シングルス (11)	10	準々決勝	ナタリア コスミナ	ウクライナ	3-1	11-5	10-12	11-4	11-9	勝ち		
					準決勝	エレナ プロコフエフ	NPA	2-3	11-5	9-11	12-10	7-11	6-11	負け	3

7、8位決定戦



最終順位

順位	国・地域
1	オランダ
2	アメリカ
3	中国
4	カナダ
5	イギリス
6	ドイツ
7	日本
8	スペイン

[車いすフェンシング]

氏名	クラス	性別	種目	総出場者数	ラウンド	対戦相手	トータルスコア	内訳スコア	勝敗	最終順位	入賞・メダル		
加納 慎太郎	A	男子	サーブル個人 (A)	15	1回戦	マテオ デイロッシ	イタリア	14-15	8-2	6-13	負け		
					敗者復活2回戦	リハルド オシュバト	ハンガリー	15-11	8-5	7-6	勝ち		
					敗者復活3回戦	エドアルド ジョルダン	イタリア	4-15	4-8	0-7	負け	8	入賞
			フルーレ個人 (A)	19	2回戦	ハカン アカヤ	トルコ	12-15	8-6	4-9	負け		
					敗者復活1回戦	ケビン ダマセノ	ブラジル	15-10	8-4	7-6	勝ち		
					敗者復活2回戦	ダミアン トカトリアン	フランス	11-15	4-8	7-7	負け	10	
エペ個人 (A)	19	1回戦	安 直樹	日本	13-15	13-15		負け	19				
櫻井 杏理	B	女子	フルーレ個人 (B)	14	1回戦	ボグラルカ メゼー	ハンガリー	DNS			勝ち		
					準々決勝	イルマ ヘツリアニ	ジョージア	15-12	8-4	7-8	勝ち		
					準決勝	サイスネー ジャナ	タイ	14-15	7-8	7-7	負け		
					敗者復活4回戦	チョ ウンヘ	韓国	14-15	6-8	8-7	負け	5	入賞
			エペ個人 (B)	15	1回戦	鍾 婉萍	香港	15-3	15-3		勝ち		
					準々決勝	湯 雅婷	香港	12-15	11-9	1-6	負け		
敗者復活2回戦	セシル ドモド	フランス	15-13	15-13		勝ち							
敗者復活3回戦	オレナ フェドタイサイエフ	ウクライナ	7-15	3-2	3-8	1-5	負け	8	入賞				
藤田 道宣	C	男子	フルーレ個人 (B)	14	1回戦	馮 彦可	中国	8-15	4-8	4-7	負け		
					敗者復活1回戦	アドリアン ツラストロ	ポーランド	15-5	8-2	7-3	勝ち		
					敗者復活2回戦	ウイシット キンマナウ	タイ	9-15	2-8	7-7	負け	11	
			エペ個人 (B)	17	2回戦	ウイシット キンマナウ	タイ	5-15	5-15		負け		
					敗者復活1回戦	オレク ナウメンコ	ウクライナ	4-15	3-6	1-9	負け	15	
安 直樹	A	男子	フルーレ個人 (A)	19	1回戦	ダリウシュ ベンデル	ポーランド	10-15	8-7	2-8	負け	19	
					2回戦	加納 慎太郎	日本	15-13	15-13		勝ち		
			エペ個人 (A)	19	1回戦	マテオ デイロッシ	イタリア	5-15	5-15		負け		
敗者復活1回戦	ミハウ ナレバエク	ポーランド	6-15	0-0	2-2	4-13	負け	15					
藤田 道宣 安 直樹 加納 慎太郎	C A A	男子	フルーレ団体	10	準々決勝	マキシム バレ ダミアン トカトリアン リュドビク ルモワヌ ヨアン ベテ (控え) ミケレ マッサ	フランス	32-45			負け	6	入賞
安 直樹 藤田 道宣 加納 慎太郎	A C A	男子	エペ団体	10	1回戦	エマヌエル ランベルティニ マテオ デイロッシ エドアルド ジョルダン (控え)	イタリア	34-45			負け	9	

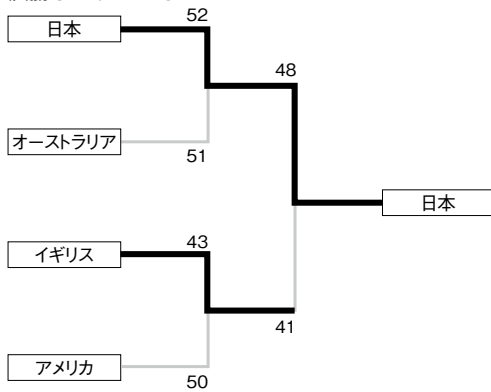
[車いすラグビー]

予選

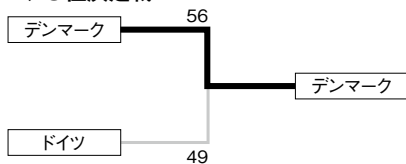
●A組

	日本	アメリカ	カナダ	ドイツ
日本	-	45-42	50-46	55-44
アメリカ	42-45	-	51-48	57-47
カナダ	46-50	48-51	-	54-47
ドイツ	44-55	47-57	47-54	-

決勝トーナメント



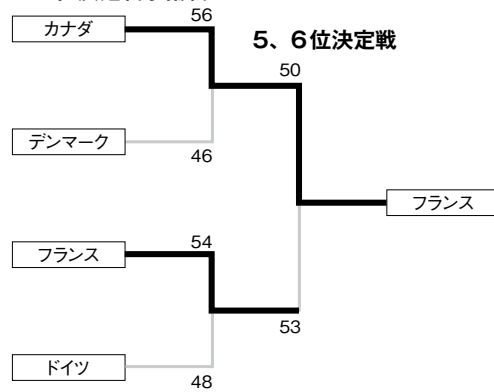
7、8位決定戦



●B組

	イギリス	オーストラリア	フランス	デンマーク
イギリス	-	58-55	50-49	55-53
オーストラリア	55-58	-	55-53	53-49
フランス	49-50	53-55	-	53-51
デンマーク	53-55	49-53	51-53	-

5-8位決定戦予備戦



5、6位決定戦

最終順位

順位	国・地域
1	日本
2	アメリカ
3	オーストラリア
4	イギリス
5	フランス
6	カナダ
7	デンマーク
8	ドイツ

[車いすテニス]

氏名	性別	種目	総出場者数	ラウンド	対戦相手	トータルスコア	内訳スコア			勝敗	最終順位	入賞・メダル	
荒井 大輔	男子	シングルス	48	2回戦	アルワンデ シホサナ	南アフリカ	2-0	6-1	6-0		勝ち		
				3回戦	アルフィー ヒューエット	イギリス	0-2	5-7	2-6		負け	9	
大谷 桃子	女子	シングルス	32	1回戦	エマニュエル モルク	フランス	2-0	6-0	6-0		勝ち		
				2回戦	郭 瑤瑤	中国	0-2	4-6	6(5)-7		負け	9	
小田 凱人	男子	シングルス	48	2回戦	ベン バートラム	イギリス	2-0	6-2	7-6(4)		勝ち		
				3回戦	ダニエル ロドリゲス	ブラジル	2-0	6-0	6-1		勝ち		
				準々決勝	トム エフベリンク	オランダ	2-0	6-4	6-1		勝ち		
				準決勝	グスタボ フェルナンデス	アルゼンチン	2-0	6-2	7-5		勝ち		
				決勝	アルフィー ヒューエット	イギリス	2-1	6-2	4-6	7-5	勝ち	1	金メダル
上地 結衣	女子	シングルス	32	1回戦	マリシュカ ベンター	南アフリカ	2-0	6-2	6-1		勝ち		
				2回戦	クセニア シャストー	フランス	2-0	7-6(4)	6-0		勝ち		
				準々決勝	朱 珍珍	中国	2-0	6-1	6-2		勝ち		
				準決勝	アニク ファンクート	オランダ	2-1	6-0	4-6	6-4	勝ち		
				決勝	ディーデ デフロート	オランダ	2-1	4-6	6-3	6-4	勝ち	1	金メダル
眞田 卓	男子	シングルス	48	2回戦	コナー ストラウド	アメリカ	2-0	6-1	6-2		勝ち		
				3回戦	ステファン ウデ	フランス	0-2	2-6	5-7		負け	9	
高室 冴綺	女子	シングルス	32	1回戦	マリアフロレンシア モレノ	アルゼンチン	2-0	6-1	6-0		勝ち		
				2回戦	アンヘリカ ベルナル	コロンビア	0-2	2-6	1-6		負け	9	
田中 愛美	女子	シングルス	32	1回戦	サコーン カンタシット	タイ	2-0	6-2	7-6(3)		勝ち		
				2回戦	アニク ファンクート	オランダ	0-2	0-6	2-6		負け	9	
三木 拓也	男子	シングルス	48	2回戦	丁 錦輝	中国	2-0	6-2	6-1		勝ち		
				3回戦	ゴードン リード	イギリス	0-2	1-6	1-6		負け	9	
大谷 桃子 高室 冴綺	女子	ダブルス	13	1回戦	ダナ マシューソン メイリー フェルブス	アメリカ	2-1	4-6	6-4	1-0(6)	勝ち		
				準々決勝	ディーデ デフロート アニク ファンクート	オランダ	0-2	4-6	1-6		負け	5	入賞
上地 結衣 田中 愛美	女子	ダブルス	13	準々決勝	インテ ボス リジ デフリース	オランダ	2-0	6-3	6-0		勝ち		
				準決勝	郭 瑤瑤 王 紫瑩	中国	2-0	6-0	6-1		勝ち		
				決勝	ディーデ デフロート アニク ファンクート	オランダ	2-1	4-6	7-6(3)	1-0(8)	勝ち	1	金メダル
荒井 大輔 眞田 卓	男子	ダブルス	20	2回戦	グスタボ カルネイロシウバ ダニエル ロドリゲス	ブラジル	1-2	6-4	5-7	0(7)-1	負け	9	
三木 拓也 小田 凱人	男子	ダブルス	20	2回戦	董 順江 紀 珍旭	中国	2-0	6-4	6-0		勝ち		
				準々決勝	ハン ソンボン イム ホウオン	韓国	2-0	6-1	6-4		勝ち		
				準決勝	ダニエル カベルサスチ マルティン デラブエンテ	スペイン	2-1	5-7	6-2	1-0(8)	勝ち		
				決勝	アルフィー ヒューエット ゴードン リード	イギリス	0-2	2-6	1-6		負け	2	銀メダル

本部スタッフ報告

団長 田口 亜希

1. 競技、成績

2大会ぶりの有観客のオリンピック開催となりましたが、いずれの会場も多くの観客が応援に駆け付け、選手に対しての応援、そして勝者・敗者いずれに対しても敬意を感じる観客の振る舞いが大変すばらしかったです。競技によっては観客の声援が収まらず、音が聞きとり難い競技もあったと聞いており、今後の課題であると感じています。

メダル獲得数は金メダル14個、銀メダル10個、銅メダル17個の合計41個でした。メダル獲得総数は「過去大会の記録を上回る」と掲げていた目標には及びませんでした。金メダル数については前回の東京2020大会の13個を超えることができ、また金メダルは過去最多となる8競技で獲得することができました。

男女混合の団体競技として、車いすラグビーが史上初の金メダルを獲得、男子団体競技としてゴールボール男子が史上初の金メダルを獲得、その他に、車いすテニスダブルス女子・シングルス女子、柔道女子、卓球シングルス競技が史上初金メダルを獲得、また過去には敗れなかったライバルを制した競技やパラリンピックレコードを打ち出した選手、同種目2連覇を達成など、それぞれの壁を越えた選手も多くいたことなど、数字だけでは表せない達成度があったと感じております。

また、J-STAR出身の選手2名がメダルを獲得したことは大変嬉しく思い、今後の若手選手の発掘やロサンゼルス2028大会に向けての更なる強化も必要と感じました。

日本代表選手団のスローガン「挑め、自分史上最強。」の通り、選手たちが自身の限界に挑み、パラアスリートの無限の可能性、そしてオリンピックの価値を体現してくれたと感じております。

また、パリ2024大会組織委員会のスローガン「Games Wide Open (広く開かれた大会)」の通り、いずれの会場も連日多くの観客で、国に関係なく多くの暖かい声援、本当に素晴らしい大会であったとともに、パラアスリートの魅力を通して、より良い社会を作るための社会変革が生まれていくと実感いたしました。

2. 選手村

選手村内は傾斜が多く、車いすユーザーには少し移動しづらいと感じる箇所もありましたが、車いすに装着して電動に変更できる装置、自由に乗れる自転車、また選手村内を巡回しているカートなどが使用でき、基本的には快適に過ごすことができました。

食事についてもオリンピック期間中はメニューに対しての意見などもネットニュースなどで見られました。パラリンピック期間中は野菜、お肉、お魚など多種多様なメニューが用意され、選手たちから不満を聞くことはなかったです。フランスならではの焼きたてのフランスパンやミシュランの三つ星を獲得したシェフが考案したメニューの提供もあり、大会スケジュールや治安問題等で外出が難しい状況でも選手たちは選手村内でフランスを感じることができたと思います。

また、従来選手村内のダイニングでは紙皿やプラスチックのカトラリーを使用していましたが、パリ大会では洗浄して使用する陶器のお皿、金属のカトラリー、プラスチックのコップにジュースサーバーやウォーターサーバーなど環境への配慮がされておりました。様々な課題があり環境への配慮を最優先にはできませんが、可能なところから取り入れていくことが

大切だと感じております。

日本選手団棟内に、今回初めてリラックスルーム「Home in Paris」を設置しました。こちらは選手や監督、コーチ、スタッフ皆様が少しでもくつろげるように考え、リラックスルームの中には団長・副団長のお勧め漫画や、数々のゲームを用意しました。実際に競技を超えて選手たちがリラックスしてゲームをしている姿を見かけました。私自身もリラックスルームで選手、本部スタッフと一緒にゲームを楽しみながら、競技ルールや普段の練習の様子などを聞くことができ、コミュニケーションの場としても意義のある取り組みだったと感じております。

3. 謝辞

パリ2024パラリンピック競技大会日本代表選手団派遣に際してはスポーツ庁様、ハイパフォーマンススポーツセンター様、日本オリンピック委員会様、JPC強化本部並びにJPCハイパフォーマンスマネジメントメンバーの皆様、在フランス日本大使館様、そして格別のご支援をいただいております日本パラリンピック委員会オフィシャルスポンサー各位、関係各位、そして日頃よりアスリートのサポートをいただいております競技団体の皆様、本部員の皆様、NPCアシスタントの皆様、また日本より心強い応援をいただきました皆様に心より感謝を申し上げます。



副団長(総務担当) 井田 朋宏

1. 成績

目標「総メダル数の最大化」には及ばなかったが、水泳・鈴木孝幸選手による金メダル第一号を起爆剤として最終的には東京大会を上回る14個の金メダルを獲得した。中でも自転車の杉浦、バドミントンの梶原、里見の各選手は同種目2連覇を成し遂げ、また車いすテニスの男女シングルス及び女子ダブルスや柔道女子、知的卓球、団体競技のゴールボール男子及び車いすラグビーは競技団体史上初の金メダル獲得となった。その他、パラリンピック初出場選手のうち5競技・7名の選手(内1名はJ-STAR出身)がメダルを獲得するなど4年後のロサンゼルス2028大会に繋がる結果を残した。

2. 本部運営

本大会に向けて、2023年4月より部署横断の会議を毎月開催し情報共有を図るとともに、現地での本部体制並びに役割分担について検討し円滑な本部運営ができるように準備を進めてきた。その結果、各部門の担当者が自身の役割について理解し、相互に連携・協働しながら選手・スタッフのサポートに注力いただいた。また、現地で直面する様々な課題に対してもJPCとして長年蓄積してきた知見を活かし、柔軟かつ迅速に対応を行うことができた。詳細は各担当者からの報告を参照いただきたい。本部スタッフ(総務)の勤務については、組織委員会か

ら発行されるアクレディテーションカードやゲストパスの枚数に制限があることから、準備・運営に必要な人員を派遣し順に休暇を取得できる体制を取ることができなかった。特に開会式が始まるまでの期間は、組織委員会からの情報収集や交渉・調整、各チームの入村受け入れに伴う準備があり、組織委員会や競技団体との恒常的な信頼関係や知見がなければ適切に対応できないケースも多く、十分な休息を取ることができる状況にないというのが実情であった。しかし競技が始まった8月30日以降はスタッフ間で話し合い勤務体制を工夫し、十分とはいえないまでも休息や競技観戦ができる時間を確保することができた。

3. リスク管理

今回はじめて法律事務所と業務契約し、選手団として対処すべき事柄について相談できる体制を作ることにより、組織として適切な対応をすることができた。また、在フランス日本大使館の警備対策官に日本チームのセキュリティ担当になっていただき様々な助言をいただいた。残念ながら日本代表選手団宿泊棟において窃盗未遂事件が発生したため、組織委員会への報告・相談、地元警察による現場検証への立ち合いや事情聴取などかつてない対応を求められたが、弁護士や対策官の助言を踏まえ適切に対処することができた。各競技団体には貴重品や公式ユニフォームを面倒でもスーツケースやサイドボードに入れ鍵をかける等の予防策を講じるよう改めて注意喚起を行なった。その他、SNSへの投稿については、パラリンピック・ムーブメント推進の観点から推奨する一方で、いわれのない誹謗中傷を受けないよう派遣前の連絡会議等で周知した。その他、パラリンピック期間中は、街中でのスリや暴行、テロ等に遭遇するリスクが高い旨の情報提供があったことを鑑み、競技を終えた後であっても繁華街への外出を禁止する等のリスク回避に努めた（警備体制が整っていた選手村周辺や、選手村と施設間がいわゆる「バブル」な状態にある場所への外出については許可した）。

4. 謝辞

日本代表選手団の派遣に際し様々なご支援をいただいたスポーツ庁様、ハイパフォーマンススポーツセンター様、日本オリンピック委員会様、JPC強化本部並びにJPCハイパフォーマンスマネジメントメンバーの皆様、現地での安心・安全な滞在・対応のためにご尽力いただいた在フランス日本大使館様並びにTMI総合法律事務所様、そして何より選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう村内外で献身的なサポートをしていただいた競技団体の皆さん、本部員の皆さん、NPCアシスタントの皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。



1. 事前準備

パリ2024パラリンピック競技大会（パリ2024大会）出場競技団体合宿へ激励に回ったことで団体の選手、スタッフとの顔合わせができた。また日々競技団体支援を行っている立場（JPCハイパフォーマンスマネジャー）であるために22年4月から各競技の強化戦略プランを中心に必要に応じた支援もしていた。更に選手、スタッフがパリの選手村内でも自分の家（部屋）でリラックスできるようなコンセプトで「Home in Paris」と名称をつけたリラクゼーションルーム設置準備し現地で最高のパフォーマンス発揮ができるように環境を整えた。またJOC、日本スポーツ振興センターと連携を準備に至った。



2. 成績

東京大会を上回る金メダル数14個で内訳は、過去最多となる8競技での金メダル獲得（バドミントン、自転車競技、ゴールボール、柔道、水泳、卓球、車いすラグビー、車いすテニス）。男子と混合の日本史上初の団体競技金メダル（男子：ゴールボール、混合：車いすラグビー）。パラリンピック連覇3名（バドミントン：梶原、里見、自転車競技：杉浦）。マルチメダリスト5競技・9名（金2個：水泳 木村、車いすテニス 上地、金1含む計4個の水泳 鈴木、他）。競技団体史上初の金メダル獲得知的卓球（和田）、車いすラグビー。女子種目初の金メダル獲得競技柔道女子（廣瀬）、知的卓球（和田）、車いすテニス女子。競技団体史上初のメダル獲得射撃（水田）。女子種目初のメダル獲得競技ボッチャBC1女子（遠藤）、射撃（水田）、知的水泳女子（木下）。個人競技初出場でのメダル獲得5競技7名（うち金メダリスト2競技2名）。J-STARプロジェクト出身メダリスト第一号（銅）（木下愛菜）、金メダリスト第一号（ゴールボール男子鳥居陽生）であった。メダル内訳は、金メダル14個、銀メダル数10個、銅メダル数17個、総メダル数41個、入賞者数142（入賞数はディプロマ数とする）素晴らしい結果を収めた。

3. 現地状況

今回の選手村内には車いすバスケットボール、テコンドー、フェンシング、ゴールボール、パワーリフティング、シッティングバレーボールの練習場が設置されていたことで対象競技団体はコンディション調整が非常に円りやすい環境でであった。また気温は想像よりも低く実際の試合での影響は少なかった。

運営本部として選手村内に「Home in Paris」と名付け、参加選手、スタッフが試合以外でリラックスできるように、また

選手、スタッフが他団体の仲間たちとTeamJapanの連携を図り育みができる環境を提供できたことはとても良かった。このような場を利用し選手、スタッフ同士ならではの心の交流が図れたであろう。各競技団体がこの大会へ向けてのベストパフォーマンスを発揮するための戦略を支援するJPCHPM、SM設置が2022年4月から導入され強化支援が進んだこと、更に日本スポーツ振興センターがオリンピックとパラリンピックの日本代表選手団を支援するため、2012年のロンドン大会から現地に設置している村外拠点は、大きな役割を果たしたことを今回の結果から評価ができると感じている。

4. 謝辞

今回のパリ2024大会にはスポーツ庁様、ハイパフォーマンススポーツセンター様、日本オリンピック委員会様、JPC強化本部、JPCハイパフォーマンスマネジメントメンバー、在フランス日本大使館、競技団体、JPC本部スタッフ、NPCアシスタント、更に日本から時差もありながらも応援をして頂いた皆様に支えられて実現ができたことだと改めて感じています。この場を借りて関わった皆さんにはお礼をお伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。感謝いたします。

医師 塩田 有規、蒲原 一之、上出 杏里
看護師 木下 敦子、染谷 咲子、藤尾 素子

今回、パリ2024パラリンピック競技大会に帯同したメディカルチームは、東京2020大会と同規模の6名体制で、整形外科医の塩田有規医師、内科医の蒲原一之医師、リハビリテーション科医の上出杏里医師、木下敦子看護師、藤尾素子看護師、染谷咲子看護師という経験豊富なメンバーに恵まれました。

1. 新体制とJISSとの連携

今大会から、JISS（国立スポーツ科学センター）との連携を強化し、医師がJPC（日本パラリンピック委員会）からJISSを通じて派遣される新しい体制で臨みました。これにより、薬剤管理や海外での医療行為に伴う法的問題がクリアとなり、また医療記録の電子カルテ化、超音波検査装置の使用も含め、海外でも日本と近い環境での診療が可能となりました。

2. 診療体制と活動実績

大会期間中（8月21日～9月8日）、チームは8時から21時までメディカルルームで待機し、それ以外の時間は交代で当直体制を取りました。診療件数は延べ122件で、初診76名、再診46名（選手91名、スタッフ31名）、診療内容は外科系78件、内科系44件でした。

ポリクリニックの受診は5件（NF医師による受診が1件）で、そのうち1件は市内の病院へ搬送が必要となりました。ポリクリニック受診となった症例は、泌尿器系・脳神経系・歯科系疾患・X線（MRI）撮影の救急対応でした。ポリクリでの対応では、現地のボランティアスタッフの皆様にも通訳などで大変お世話になりました。

スタッフの待機時間外の対応は7件発生しましたが、本体制で十分に対応できたと思います。

3. 感染症対策と対応

新型コロナウイルス感染症については、大会初期に数名の感染者が出たほか、大会終盤にはクラスターの発生も見られまし

たが、迅速な隔離対応などで、大会運営への影響を最小限に抑えることができました。新型コロナウイルスによる感染症は今後も続くことが予想され、感染症対策の準備を徹底する必要性を改めて感じました。

4. トレーナールームとの連携強化

今大会から、選手がトレーナールームで治療を受ける際には、必ずメディカルルームでの受診をお願いし、情報共有を徹底しました。これにより、診断から治療までの流れが円滑になり、選手にとっては一手間増えましたが、十分にメリットがあったと思われま

5. アンチ・ドーピング対応

今大会はドーピング検査の件数が多く、大会期間中に合計60件（尿検査55件、血液検査5件）の検査が行われ、競技開始前に20件、競技期間中に40件行われました。今後もアンチ・ドーピングの重要性が増すと考えられ、厳格な対応が求められることが予想されます。

6. 外傷・障害調査とメンタルヘルス対応

大会組織委員会から各国の医療チームには、外傷・障害調査への参加と選手およびスタッフのメンタルヘルス対応の充実について、主に2つの要望がありました。外傷・障害調査はWebシステムで日々登録する形式で、多少の煩雑さはあったものの、システムは良くできており問題なく対応できました。メンタルヘルス対応においては、今大会では特に大きな問題は発生しませんでした。普段から専門家による支援があれば、より良かったと感じる場面もありました。今後、選手やスタッフの精神的なケアの重要性がさらに高まることが予想されるため、大会前からの専門的な支援体制の整備が必要になってくると感じました。

7. 最後に

今大会も、すべての選手・スタッフが無事に帰国することができました。事前準備から大会中のサポートまで昼夜を問わず尽力して下さった本部の皆様のおかげで、我々も全力で診療に臨むことができました。事前のメディカルチェックや大会期間中の症例対応を迅速にいただいた医学委員会の皆様、一緒に選手の治療にあたったトレーナーの皆様、そして選手・スタッフの皆様にも心より感謝申し上げます。これからも、選手やスタッフの皆様が安心して競技に専念できるよう、さらなる医療体制の充実を図りたいと思います。今後の大会が引き続き成功し、パラアスリートの皆様のさらなる活躍を心から願っています。本当にありがとうございました。



トレーナー 荒谷 幸次、岩倉 瞳、笹代 純平

1. 活動内容

(1) 選手へのコンディショニング

急性外傷、疼痛、疲労回復等、各症状に合わせ物理療法や徒手ケア、テーピング、トレーニング等のコンディショニングを行った。トレーナーベッドは2台設置し、本部医師と連携してコンディショニングサポートを行った。開設日時は8月21日～9月8日(19日間)、8:00～22:00をコアタイムとし、時間外は要望に応じて対応した。

(2) セルフコンディショニングスペース、

貸ベッド室の設置運用

本部トレーナー室内にセルフコンディショニングスペースと隣室の貸しベッド室にトレーナーベッド3台設置し、競技団体(以下NF)トレーナーや選手が自由に利用できるよう運用した。

(3) 競技会場サポート

競技会場において本部で対応した選手やチームのコンディショニング確認、帰村時のサポート調整を実施した。また、NFスタッフと意見交換を実施し、今後のサポート検討に繋げた。

(4) 日本スポーツ振興センター(以下JSC) 村外サポート拠点との連携・調整

大会前や大会期間中にJSCと関連備品や入村するJSCトレーナーの連携調整を実施した。日常国立スポーツ科学センター(以下JISS)でコンディショニングを実施している選手については、JISSの担当トレーナーが対応できるよう調整した。

(5) コンディショニングサービスの情報提供

NFへJSC村外サポート拠点の積極的な活用や村内フィットネスセンター、サウナ、リラクゼーションルームなどのコンディショニングサービスに関する情報を提供した。

2. 対応件数

(1) 本部トレーナーのコンディショニング対応延べ件数：

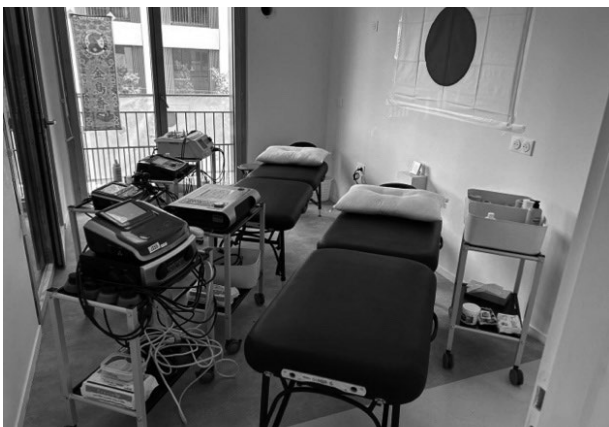
131件

*参考：2020東京大会105件、2016リオ大会346件、
2012ロンドン大会451件

(2) 貸ベッド室の延べ利用件数：60件、22NF中8NFが利用

3. 成果及び次大会に向けて

大会1ヶ月前にNFトレーナー連絡会議を企画開催し、パリ2024大会に向けてJPC、NF、JSCと情報共有、意見交換を行ったことで事前に本部トレーナー室への要望など把握し準備することができた。また、JPC、JSC間での医療業務委託提携等で組織間連携が強化されたことで、JISSクリニックとの電



本部トレーナー室



セルフコンディショニングスペース



貸ベッド室

子カルテ共有やJOCから備品を引継ぐことができ、現地でスムーズなトレーナーサポートに繋がった。

対応件数(延べ131件)については、前回東京2020大会(延べ105件)より、増加した。これは、JISSクリニックで日常的にコンディショニングを行っている選手についてはJSCトレーナーが本部で対応可能な体制を整えたことや、前回東京大会時のような状況と異なり、NFの村外トレーナーや選手のパーソナルトレーナー帯同が少なかった為、対応件数が増加したことが理由として考えられた。一方で、過去数回の国外で開催されたパラリンピック競技大会時と比較すると本部トレーナー室対応件数は減少傾向である。昨今の国際総合競技大会では、選手団9割以上のNFにトレーナーが配置されていることに加え、JSC村外サポート拠点が設置されていることで、より充実した支援体制の構築化が進んでいる。それらを加味すると、本部トレーナー室の機能としては、急性外傷の対応、NFやJSC村外サポート拠点との連携した対応が主要な機能となることが予想され、それらに対応可能な体制づくりが重要と考える。

また、本部トレーナーの人材について、本大会では理学療法士に加え、鍼灸マッサージ師が派遣された事で、選手の多様なニーズに準備することができた。NFからも本部に鍼灸マッサージ師が配置されると安心という声もあり、次大会でも同等な体制が望まれる。

パラリンピックアタッシェ 植田 達也

1. 全般

在フランス日本国大使館の植田参事官がアタッシェとして

指名され、JPCと現地大使館との間での主な調整窓口として各種準備に臨んだ(オリンピックアタッシェも兼任)。その他、様々な大使館員がパラリンピック関連業務に関与した。

2. 要人接遇

大会期間中に政府関係者として安江文部科学大臣政務官及び室伏スポーツ庁長官がパリを訪問した(どちらも「スポーツ大臣」としてのアクセディテーションを取得)。アタッシェ及び大使館として文部科学省・スポーツ庁及び組織委等と密に意思疎通しつつ準備・対応し、各要人は競技視察、選手激励、大会関係者との意見交換など充実した訪問日程をこなされた。

3. 危機管理

フランス国内外の状況を背景に、パリ2024オリンピック・パラリンピック開催に当たり、一般犯罪の増加、テロ・暴動等の発生が懸念されていた。実際にオリンピック開催期間中には、旅行者が多い場所で、スリ、置き引き、ひったくり等の窃盗被害が多発し、選手村内においても窃盗被害が報告されていた。また、大会開催前にはオリンピックを標的としたテロを計画した容疑者が逮捕される事案が発生し、オリンピック開会式当日にはフランスの鉄道網を狙った妨害事案が発生した。かかる状況において、大使館員からセキュリティ担当要員(NPC X)を指名しつつ、フランス当局等からの情報収集を実施し、日本選手団関係者を含む邦人の援護のため万全の体制を敷いた。セキュリティ関連情報はアタッシェを通じて日本選手団に対して随時提供し、必要な警戒を喚起した。加えて、組織委に対し選手村内住居棟の警備強化について申入れを実施したところ、改善措置が組織委によってなされた。

4. その他

現地日本人コミュニティとの調整に関して側面支援を行った。また、大使館SNS(フランス語)を用いてパラリンピック関連投稿を行い、日本代表選手団の活躍を発信するとともに大会の盛り上げに寄与した。

1. 本部総務担当業務

パラリンピック競技大会への日本代表選手団派遣は、大会前の「大会派遣事前準備」から「大会期間中の現地対応」まで数年に渡る業務であるが、パリ2024パラリンピック競技大会参加報告として次の通り、「大会派遣事前準備」と「大会期間中の対応」の二つに分けて報告させていただく。

2. 大会派遣事前準備

大会準備において、我々JPCは様々な関係者との間で対外的(国際的な対応)、対内的(国内対応)な連絡調整を行う立場にある。対外的な対応として主に大会組織委員会とのやり取りに代表される情報収集や各種会議への参加、また現地視察により大会開催国の実際の状況把握等を行う。組織委員会は大会毎に非常に柔軟であったり堅実であったりとカラーが異なり、それを踏まえ工夫を凝らしながら対応していくが、組織委員会と可能な限り良好な関係を保つことが選手団派遣において重要である。パリ2024大会を含む近年の大会において、日本代表選手団としてこの点は評価できるポイントであると考えている。また近年のDX化の恩恵を受け、選手団派遣に係るJPCおよびNFの業務においても以前に比べて作業負担を軽減できたものもあり、こちらも前回大会から見ると進歩したものの一つである。本部総務として参加するJPC事務局での準備も過去大会から比べ、大きく変化をした事項の一つであり、本大会では比較的早い段階から関連の打ち合わせを行ったり、関わる事案ごとにプロジェクトチームを組んで進めたりすることで、各種手続きに係る作業全体がこれまでより均一的に進んだように感じている。

一方、国内での準備においては、JPC内での計画とその進捗管理の下、大会が運用するものを含め異なる様々なシステムへの対応、競技団体やその他様々な関係組織との連絡調整、参加者へ向けての調査確認、国内関係者を巻き込む行事やその実施等、この場では表しきれない業務が同時進行することとなる。以下幾つか代表的な事項について反省点や改善点を述べる。

アクセディテーションの役割についての理解や大会参加のための参加資格取得プロセス等は大会毎に追加事項や変更等が発生することもあり、依然競技団体ごとにその理解度にバラつきがあり、このことが原因で関係者の動きに制限が生じてしまうことがある。アクセディテーションの運用や活用は活動条件や行動範囲を区分されていることによる制限を伴うが、それについて関係者の理解を高めるため、本部スタッフ含む関係者への事前の勉強会等が果たす役割は大きいところである。本大会においても数回に渡り説明会等を実施したところであるが、まだまだ十分とは言えないと感じており、改めて今後も丁寧に行っていきたいと考える。また選手の参加資格取得に関する事項として、日本では競技力に加え健康状態等も重要な要素となっているため、本人含め競技団体の責任において事前に準備や手続きをする事項も大変多くなる。競技団体にはその全ての取りまとめに対応いただく必要があり、その作業は膨大であるため、その準備のタイミングや作業のタイムラインを明確に提示すること、その内容に齟齬の無いことが競技団体にとって大変重要なものとなってくる。タイムラインやスケジュールの設定も細心の注意を払いながら行った。毎大会において言えることであるが、タイトなスケジュールや多くの作業への対応について適切なタイムラインで完了する協力をしてくださる参加競技団体へは感謝の言葉しかない。

また現地での行動スケジュールの作成等も大会前から準備できること、大会開始後でないと調整出来ないことがあり、神経を使うところであるが、いくつかのパターンでシミュレーション

総務

與品 美由紀、小林 薫、竹下 泰史、
富永 有紀、仲前 信治、深澤 泰山、
伏見 みずき、古谷 駿、森田 百合子

・情報収集	事前準備/ 大会期間	・組織委員会対応	事前準備/ 大会期間
・選手団派遣準備	事前準備	・選手団運営	大会期間
・メディカル班との連携	事前準備/ 大会期間	・選手村施設、設備	事前準備/ 大会期間
・分村対応	事前準備/ 大会期間	・選手村外施設、設備	事前準備/ 大会期間
・アクセディテーション 申請/管理/運用	事前準備/ 大会期間	・スポーツエントリ	事前準備
・ブランディング 関連事案	事前準備/ 大会期間	・視察者、来訪者対応	事前準備/ 大会期間
・アンチ・ドーピング 関連事案	事前準備/ 大会期間	・チケット関連業務	事前準備/ 大会期間
・オリンピック、 パラリンピック連携	事前準備/ 大会期間		

ンを行うなど、準備期間中に行うことが可能であったのではないかと考えている。次回以降もう少し意識したい点として記録しておきたい。

3.大会期間中

大会が始まるとこれまで準備してきたものへ更に幅広く、細かな作業や対応が必要となる場面が生じる。選手団事前登録会議 (Final Delegation Registration Meeting/FDRM) を皮切りに、「1」という数字が非常に大きな意味を持ち始める。選手数に大きな増減が生じることはほぼ無いが、参加スタッフのアクレディテーションカテゴリーへの振り分けもこの「1」という数字に大きく左右されることとなるため、選手団の構成を確定するうえで最初の気の抜けない場面となる。続き割り当てられた居住エリアの確認時もあり数字との戦いとなる。参加者数と部屋数との調整に始まり配布すべき物品やレートカードでオーダーした物品、と後に費用へ直結する事項もあり、一つたりとも間違いが許される場面は無い。そのような中、今回は大会開始前から配布されていた物品の幾つかに大きな数字のズレがあったが、組織委員会とも問題は無いということでスタートしたにも関わらず、終了時にはやはり正確な数字を求められることになり、改めてスタート時の数字は確実にする必要があると感じた。また居住スペースがギリギリであったため、細かな部屋移動を行い参加者の滞在を調整したところ、部屋の移動が煩雑化し、アンチ・ドーピングにおける競技会外検査に必要な居場所情報の提出において正確性を保つことがとても難しいという状況が生じることとなった。いずれも直接的に選手や参加各チームへ不利となる状況とはならなかったが、快適な選手村生活へはなかなかたどり着けるのではなく、全ての参加者がそれぞれ少しずつの我慢や譲り合いを行ってくれたことで3週間余りの長きに渡る選手村生活が可能となったと考えている。

尚、本大会での新たな取り組みとして組織委員会としてのモビリティサービスについて触れておきたい。今回の選手村はその立地からセヌ川へ向けて全体的に傾斜しており、選手村の川沿いのエリアと川から離れている反対側の川から遠いエリアを比べるとかなりの高低差があった。このため、組織委員会として車いす選手の村内移動の負担を減らすため、着脱式の移動アシスト機器を貸し出した。全体的なニーズに対して数量不足の感は否めず、また着脱ステーション間の利用が必須とされている中、自室へ持ち帰るケース等があり、必要な参加者へは行きわたらなかった印象である。

日本代表選手団としても新たな取り組みを行った。居住エリアにリラクゼーションルーム (Home in Parisと命名) を設置した。選手・スタッフが選手村内においても自分の家でくつろいでいるような環境を提供することが目的であり、多くの選手・スタッフが利用し、一人の時間を過ごしたり、チームメイトとゲームに興じたりして気分転換を図っていた。ただ設置場所に近いエレベーターに複数回の不具合が起き、結果的に車いす選手には利用しづらくなった点等、今後の改善点も明確となったが、このような用途のスペースについての反響はとても良いものであった。今回利用者からフィードバックいただいた意見を精査し、次回は更に選手・スタッフの声を反映した良いものを準備していきたいと考えている。大会全体として、若干の感染症の発生等医療関係事案の発生はあったものの、大きな事故等もなく、各競技素晴らしい結果を日々持ち帰ってくれたことが、我々本部総務スタッフの翌日に向けての活力であったことは言うまでもない。理想的な心地よい空間づくりは今一歩だったかと思うが、足りないものは全て選手・スタッフとのコミュニケーション

ョンで埋めていただいたと感じている。日本選手団として生み出した一体感は日本中へ誇れるものであったと胸を張って言いたいと思う。

4.今後に向けて

準備期間から洗い出された課題のうち、利用システムの改善や仕組みの改善等は直ちに行い、関係競技団体への説明等を含め、次回大会の準備期間に間に合うよう十分な余裕をもって取り組む予定としている。また大会組織委員会にて準備されるシステムへの改善も早い段階から次回大会の組織委員会へ前大会からのフィードバックとして伝えていくことを予定している。

大会サイクルは決まっていることから、次回以降の大会へ向け、より効率的で効果的な準備を目指したい。そのためには本部総務として参加するJPCとして、同じ課題が毎大会挙がらないよう、テーマごとの振り返りや勉強会を継続的に行っていく必要があると考える。

関係各所また関係する組織の皆様方へ、大会準備そして大会期間中に必要な対応が出来たこと、またその対応に必要な環境を創り出していただいたことに深く感謝の意を表し、本部総務としての報告とさせていただきます。

**広報 黒田 美穂、成見 玲菜、原 将史、
堀添 里緒、屋敷 優友**

<体制>

プレスアタッシュ1名 (Ao)、広報担当4名 (NPC-e) 計5名
記者会見担当2名 (代理店起用)

<主な活動内容>

メディア対応、パラリンピック資産管理 (マーケティング)、
情報管理及び発信 (SNS等含)、その他

1.メディア対応

(1) アクレの申請・配分

NPC JAPANからの申請者は、約150名に対し、IPCからの配分は95名であった。

放送局 (NHK)・通信社 (共同通信社) 及びENR (ノンライツ) は、IPCから直接配分の為、その数字は不明だが、およそ日本からのメディア数は、200名弱と推定される。

またパリ大会より「NPC-E」「NPC-Es」のアクレが新設され、各競技会場のミックスゾーンでの対応が可能となった。「NPC-Es」は、メダル獲得が有力とされるNF、広報担当がいるNFなどを優先に計8競技団体 (AT、BD、BF、GB、SW、TR、WR、WT) に配分した。

(2) MPC運営

メインプレスセンター (MPC) については、東京2020大会・北京2022大会に続き、パリ2024大会でもプライベートオフィスを借り、メディア対応を行った。競技開始までは、メディア担当者がJPCオフィスに頻りに訪れ、情報収集のための拠点として活用されていた。

IPCや組織委員会のオフィスもあるため、質問など直接対面で行うことができ、早い回答を得られることが出来た。また今回ハイデマンドチケットについて、IPCへの再交渉や受け渡しなど、MPCでの利点が大いに活用出来た。

(3) メディア対応

各社からのリクエストに応えるべく、開閉会式時の全選手の

一言コメント、旗手を務めたコメントなどをリリースし、通信社を通してアクレを持っていない（現地に来ていない）地方紙にまで情報が届くよう対応を行った。また団長のコメントについては、記者会見にて対応、開会式前、中間報告、総括と計3回行った。

現地でのメディア対応については、東京2020大会に比べて個別取材申請はさほど多くなかった。各選手ともにミックスでの対応がきちんと出来ていたと思われる。

読売新聞社からは、メダリストに対し、号外を出してもらった。選手村に持参し、日本棟に貼り出しをし、選手から大変喜ばれた。

(4) その他の業務

- ・メディアガイドの作成（資料編の充実）
- ・パリ大会専用の現地メーリングリストの作成（登録者合計116人）
- ・メダリスト記者会見を村外拠点にて実施（原則最終競技の翌日）
- ・団長・副団長の記者会見（開会前、中間、総括の3回実施）
- ・NHKメダリストテレビ出演対応（原則最終競技の翌日）
- ・パブリックビューイングの申請受付（約50件）

2. 情報管理及び発信

選手団発表について本大会は、第1次～第4次発表まで行い、都度リリースを行った。確定から発表までのわずかな時間に合わせた選手団調書の作成・確認、顔写真の準備等、該当競技団体の協力の元対応し、遅れることなく発表を行うことが出来た。

記録集計リザルトシステムを共同通信社と契約したことで、期間中の速報がJPCパリ特設サイトに掲載された。日本語でのリアルな情報発信を行うことが出来た。現地ではmy infoとの併用で情報収集が出来たため、リザルトに関する問い合わせはさほど多くなかったように思う。但し、「入賞」については、詳細な基準が出なかったため広報チームでも情報収集に努めた。

JPCの公式SNSについては、NFやJPCスポンサーとの一部連携が出来たことで、閲覧者数は、確実に増えていた。また閉会を迎えるところで、JOCからのお声かけによりオリパラ両方の旗手が載った写真の連携投稿も出来た。

NFデイリースケジュールについては提出される時間が、競技終了後の22時を原則締め切りとし、内容確認とそのデータのweb掲載を行った。

3. マーケティング

本大会の「JPCマーケティングガイドライン」の作成をするにあたり、IPCハンドブック「アスリートスポンサーシップ規約」、「デジタルメディアガイドライン」の内容を把握しながら進めた。知的財産、アンブッシュ、選手肖像に関わる広告・宣伝、SNS発信と内容は多岐に渡った。

本ガイドラインは、NFを通して各選手及びその所属企業、またJPCwebサイトでも公表した。

JPCスポンサーのアシックス社は、パラリンピックでは初めての現地ハウスを開設、競技を終えた多くの選手がハウスを訪れたことは、とても良かった。その他、味の素社とは、SNS連携を多く行い、閲覧者増につなげることが出来た。

パラリンピック資産管理については、JPCスポンサーアクティベーション確認、またアンブッシュ確認等、確実に東京大会よりも多くの問い合わせがあった。

またIPCからJPCスポンサー企業の投稿に対し、NPCのスポンサーなのか問い合わせがあるなど、IPCのアンブッシュに対する確認も厳しくなってきたと感じた。

4. その他

日本代表選手団公式ウェアについては、デザインの関係もあり希望するサイズの支給がほぼ出来なかった。次回に向けて、発注方法などを再検討する必要がある。

金メダル第1号に対する総理からの祝意伝達については、スポーツ庁との事前調整を含め、NHKの協力のもと行った。途中、「複数人」とのリクエストに変更となり、水泳の鈴木選手の他、同じく水泳の木村選手にIBCに来てもらい総理からの祝意（オンライン伝達）を受けた。

その他、日本郵便が発行するメダリスト切手のデザイン・写真確認を随時NFと共にを行った。

5. 総括

- ・事前に全NFの広報担当者との面談を行ったことで、NFの業務理解が進み、現地での広報対応がスムーズにできた。こちらも担当者の顔がわかり、連携がスムーズにできた。現地での対応にとっても効果があった。
- ・メディアガイドについては、現地取材期間やその対応方法以外に資料編の充実を図ることが出来た。よって過去大会に比べ、メディアからの基礎情報の問い合わせが格段に減った。
- ・競技が始まると、メダリストに対するテレビ出演と会見のスケジュール調整に追われる日々となり、それぞれの担当者が目一杯の業務に当たることになった。勤怠管理も意識しながら業務にあたったが、今回の人数は、現地業務では必須の人数だったと思う。



輸送 高橋 巧、桑野 佳奈

輸送担当の役務における実施内容および成果と反省について、以下の通りご報告申し上げます。

1. 業務内容

(1) 輸送関連

- ・選手団および村外スタッフ等の日本・海外各地より現地パリへの飛行機、国内移動の飛行機、国内前後泊ホテル、村外スタッフの現地ホテルの手配、およびその手続き
- ・組織委員会提供のArrival&Departure、Logisticsサービス等利用のためのシステム情報登録、およびその手続き
- ・村外スタッフ向けの移動情報提供、および現地サポート



- ・公式行事に関わる国内移動の手配
- (2) 選手団派遣に関わる登録申請業務
アクレディテーション申請システムへの競技団体の情報登録
- (3) 現地利用ホテル、物品、チケット関連
組織委員会公式村外ホテル、無線機器、レートカード物品、車両、観戦チケット等利用のための手配、およびその手続き
- (4) 村外サポート拠点の手配、およびその手続き
- (5) その他
医薬品・医療機器情報の集約、海外旅行保険加入、選手団および関係者の携帯電話・Wi-Fiルーター等通信手段の確保、およびその手続き

2. 成果と反省

(1) 輸送（航空関連）

選手団の日本⇄パリ往復渡航に関しては、主に日本航空および全日本空輸の定期直行路線を利用した。選手団規模は、視察者、村外スタッフ等を含めると450名を超えた。競技スケジュール確定前から複数回に分けて希望・必要情報の収集、及び、座席調整を行ったことにより、大きなトラブルなく輸送を実施することができた。今回実施した調整スケジュールは以下の通り。

- 2023年12月末～2024年1月中旬 仮調査⇒1次調整
- 2024年5月 基本フライト通知・変更希望集約
⇒2次調整
- 2024年6月 荷物・医療品・障害・国内移動情報等集約
⇒3次調整
- 2024年8月 フライト最終通知・座席調整

選手団の渡航当日は、専用チェックインカウンターの設置を航空会社と交渉・調整し、往復ともに安全及びスムーズにチェックインを行った。

9月7日と9月9日の帰国便に関しては、現地パリにて計180名程度を対象に選手村内でのリモートチェックインを実施した。航空会社と事前に調整を重ねたことで、大きな混乱なく、選手団に負担をかけることなく、スムーズにチェックインを実施することができた。

(2) 輸送（現地車両関連）

組織委員会が提供するArrival&Departure、Logisticsサービス等の利用手続きに際し、事前に収集した荷物・車いす利用情報などをもとに、関係機関と細かな事前調整を行うことができた。現地では、毎日村内の組織委員会デスクにて1～2日

後の利用内容（時間・車両タイプ・台数等）の確認を行い、事前の予約内容と相違があった際は交渉を実施し、大きなトラブルなく輸送することができた。

(3) 宿泊、国内移動

組織委員会公式ホテルの申込期日が2023年と早期であったため、締切後に不足が発生した団体も多かったが、JTBパリ支店とも連携し、追加手配を実施することができた。また直前の宿泊者変更や、一部客室の不備（シャワールのトラブル等）について、最大限ホテルと交渉を行い快適な滞在提供に努めた。

国内の前後泊に関しては、ホテルロビーに選手団専用ツアーデスクを用意し、必要な情報を提供することができた。また直前に実施が決定した9月11日の政府関連行事に関する手配や、台風10号発生による移動・宿泊日変更について、十分な国内斡旋体制で対応することができた。

(4) NPC車両の運用

NPC車両に関しては、5台の車両運用を行い、フランス特有のドライバー勤務時間の制限に苦労したが、シフト化することで問題なく運用することができた。

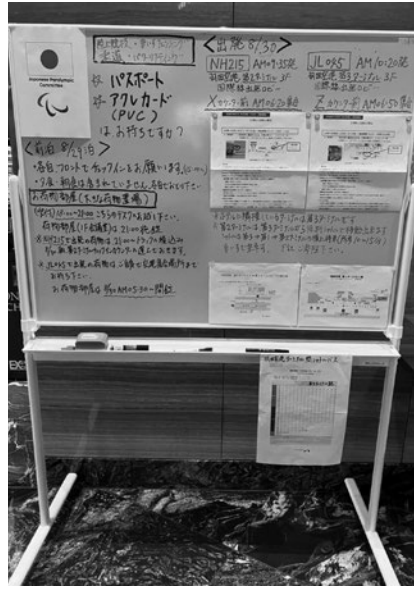
また、急遽シャトルへの深夜輸送が発生した際も臨機応変に対応することができた。

(5) 村外サポート拠点

現地にて、今回利用したH4ホテルプレイエルの会議室の電波環境が悪いことが判明し、貸与Wi-Fiの回線を変更する対応を行った。今後は事前に電波環境の確認を行うことで、同様のトラブルを防ぎたい。

(6) レートカード物品、チケット手配など

現地にて、事前に申し込んだレートカード物品が用意されていないことや、割当てられるはずのチーム競技チケットが割当てられないなどのトラブルが発生したが、都度組織委員会デスクにて交渉し、大きなトラブルなく利用することができた。



競技団体報告

アーチェリー 報告

1. 結果

大江 佑弥 最終順位 17位

ランキングラウンド 23位 (682点)、

決勝トーナメント1回戦 敗退

上山 友裕 最終成績9位

ランキングラウンド 22位 (599点)、

決勝トーナメント2回戦 敗退

2. メダル獲得を目標として挑んだパリパラリンピックの検証

パリパラリンピックへ向けての選手の調整はパラリンピックのスケジュールにあわせて良いピーキングを迎えることができることと、8月までは考えていた。上山選手も7月に出場した全日本実業団アーチェリー選手権大会で怪我をしてからの調整にもかかわらず、日本記録を樹立している。大江選手も公認大会でパラリンピックでのメダル獲得を視野に入れることができる状態に調整できていた。

パリパラリンピックの出発直前に、チームメイトの突然の参加辞退があり、選手も動揺を隠せない状態になっていた。選手は自分自身の事をしっかりやるという面では必死に練習・調整をこなしていた。ペアを組んでいた選手の出場辞退により、ミックス戦に参加出来なくなってしまった上山選手においては、精神的な負担が特に大きく、ベストな調整ができたとは言えない状況だったと言える。

パリに入った翌日から練習を始めたが、上山・大江両選手とも調子は良かった。パリの気候も良く、熱中症になる心配もなく練習ができる環境を、選手は「集中できる。」と語っていた。上山に関しては練習量が多く、疲労が心配されたが、ベテランの調整を末武コーチと話し合い、うまく現地での調整ができた。大江に関しては、戸野がサポートにあたり、調子が良いので無理をしないように助言しながらサポートした。練習が終了してからは、トレーナーのケアやハイパフォーマンスサポートハウスでのサポートを受け、効果的に選手のサポートをすることができた。選手も疲れを残さずことなく大会に挑むことができた。このように、サポート・選手両方の調整も良くても、メダルが獲得できなかった要因にアーチェリーの競技性も挙げられる。特に上山選手が負けた選手においては、これまでに出したことがない、今後も出るかどうかかわからない高得点を相手がマークし、その結果敗退した。大江選手も、1回戦では全体でも3番目の高得点をマークしていたが、普通なら負けない点数で



の敗退となった。もちろん、常に世界大会ベスト4に入賞する選手であれば、安定してハイレベルの得点を出すのが、現状では両選手ともメダル獲得する可能性のある選手ではあるが、世界ランキング1位の選手と比べると、まだまだ差を埋めなければならない課題がある。強豪国の選手においては、ストレングスに力を入れており、トレーニングもかなりの



ウエイトをおいている。パワーの差は両選手も課題として共有できたことがロサンゼルスへ向けての成果でもある。もう一つはメンタルトレーニングの取り組みを長期的に焦らず弛まない努力をしていく必要がある。アーチェリーの競技特性でメンタルの部分は非常に大きな影響がある為、今後は強化事業で継続的に取り組んでいく検討をしなくてはならない。

3. パリパラリンピックを終えロサンゼルスへ

選手・スタッフ全員、メダル獲得にはならなかったが選手がやり切ったという気持ちをもって試合ができたので良かった。選手もスタッフもロサンゼルスへ向けての話ができることが本当に得るものがたくさんあった大会だと感じた。パリパラリンピックまでの道のりは、選手・コーチの努力が大きく、連盟としてのサポート不足も痛感した。チームワークも良く、パリパラリンピックに出場した選手・コーチ・スタッフには尊敬と感謝の気持ちしかない。NFとして、選手への安心したしっかりしたサポートについて協議できる時間と双方の関係づくりを構築していかないと、ロサンゼルスでのメダル獲得に向けて真の強化はできない。強化戦略プランに関しても、多くの選手、コーチ、専門家との参画により、強化戦略プランを選手と一体化していくことの必要性がパラリンピックを終え、これからの最重要課題であると考えられる。

陸上競技 報告

1. 選手・コーチ、スタッフ等の選考基準

メダル並びに入賞ポテンシャルに基づき設定した選考基準(2023年9月9日公表、2024年1月23日改訂)に基づき、日本パラ陸上競技連盟(以下パラ陸連)所属選手計37名(男性20名女性17名)を選出した。なお、T12男女マラソン(男性2名女性1名)については日本ブラインドマラソン協会による選考であるが、基本的な選考の考え方に相違はない。スタッフは選手のパフォーマンスを最大化することを基準に、2の通り配置した。

2. コーチ等の役割分担

宍戸パラ陸連強化委員長を総監督に、身体、知的、ブラインドマラソンにそれぞれヘッドコーチを、身体についてはさらに立位短距離、立位中長距離、跳躍、投擲、車いすトラックのそれぞれにパートコーチを配置した。加えて、担当する選手数に応じてアシスタントコーチを配置した。村内外で総務4名、ドクター2名(途中交代)、トレーナー4名、メカニック1名、映像スタッフ6名を配置した。また、メダルポテンシャルの高い選手の複数名に対し、パーソナルコーチを村外スタッフとして

交代アクレで配置した。

3. チームとしての目標

最新のランキング及び世界選手権成績から、目標としてメダル獲得数を金メダル含む10~12個の獲得、並びに全パートでのメダル獲得を設定した。

4. 総評（成果と課題）

獲得メダル数は金0個、銀4個、銅5個の計9個であり、東京大会の12個より減少し、金メダル獲得並びに獲得メダル数両方の目標を達成できなかった。また、東京大会でメダルを獲得した立位中長距離、車いすトラック、ブラインドマラソンの他、立位短距離、投擲と個人種目でメダルを獲得したパートは増えたものの、全パートには至らなかった。入賞選手率は85%（40名中34名）であり、東京2020大会同等の入賞率であった。

目標達成とならなかった理由として以下の点が考えられる。

(1) 事前調整・コンディショニングの課題

本大会に向け、競技開始の10日前となる8月20日より、フランス・アミアン市で事前合宿を開催した。市の協力体制が整っていたこと、気候に恵まれたことなどから、本合宿は大会への調整にプラスに働いたと考えている。

しかしながら、本大会で自己ベストやシーズンベストなどを出した選手が30%（40名中12名）であり、東京大会（約59%）にくらべて大きく減少した。パラ陸上競技のメダリスト全体でみると、67%の選手・リレーチームが世界記録やパラリンピック記録、自己ベスト、シーズンベストなどの結果であったことから、本大会にきちんとピークを合わせていくための事前調整・コンディショニングに課題があったことがメダル獲得数低下につながった理由の1つと強く示唆された。

(2) 国際的潮流への対応の課題

北京2008大会以降の陸上競技金メダルの大多数（7個中6



個)を占めるT52クラス男子など、日本が得意とする種目・クラスにおいて競技レベルの極めて高い選手が新たに現れた。さらに2023年世界選手権で金メダルとなったT11男子5000mにおいて、唐澤選手が自己ベスト並びにアジア記録となる記録であったものの、ブラジル選手が世界記録を出し銀メダルに終わった。金メダル獲得に向けては、これらの国際競技力の著しい向上に対するよりシビアな目標や強化計画の策定が必要である。

一方で、T13やT54などの軽度障がいクラスで複数のメダルを獲得したのはアテネ2004大会以来であること、メダリスト8名のうち3名は東京2020大会以降にパラ陸上競技を開始した選手であることなど、メダルポテンシャル種目の拡大や新人選手の発掘において成果がみられた。

5. 次回への改善提案

本大会で課題となったピークに向けたコンディショニングの徹底を実行できるチーム体制を今後検討する必要がある。そのためにはチーム規模についても検討が求められる。また、今大会は東京大会以降の新人選手の活躍が目立った。今後もタレント発掘、特に即戦力選手の発掘に向け、健常の陸上競技関係者や地域の指導者らとのネットワーク構築を促進することが望まれる。

バドミントン 報告

東京2020パラリンピック競技大会（以下、東京大会という）から約3年で迎えることになったパリ2024パラリンピック競技大会（以下、パリ大会という）でしたが、新型コロナウイルスの影響がようやく収まり、パリパラリンピック出場に向けた本格的な強化合宿、海外ツアーを行える形となりました。

パラバドミントンは、12名（車椅子6名・立位6名）の選手が出場することが出来ました。

東京大会以降、アジアのみならず欧州も強化に力を入れており、パリ大会での成績は苦戦を強いられると想定していました。

日本のエースである車椅子男子の梶原選手と車椅子女子の里見選手は、東京大会のシングルス金メダリストとして、パリ大会ではシングルス2連覇がかかる中での試合でしたが、本人のプレッシャーがあったのか、予選リーグまでは緊張でプレーも硬く、なかなか調子が上がりませんでした。

各国の強豪選手は2人を目標にしていることもあり、相手にプレーを研究され尽くされた中で試合を進めることになるため、厳しい試合を想定していたのですが、2人は最後まで崩れることなく金メダルを手にすることができました。

この二人が金メダルを獲得したことは、日本の皆様へバドミントンの存在を広く知らせる良い結果であったということが出来ます。

また、男子WH1-WH2クラスでは日本人同士の戦いとなった結果、村山/梶原組が銅メダルを獲得でき、女子WH1-WH2クラスでは里見/山崎組が銀メダルを獲得できました。

立位SL3男子シングルスでは藤原選手が準決勝まで駒を進め、3位決定戦では惜しくも敗退し4位でしたが、自分の持っているパフォーマンスを最大限に発揮したといえます。

また、立位SL3-SU5混合ダブルスでは、結果として今井/伊藤組が予選敗退とはなりましたが、全力でシャトルを追ってコートを駆け回り、諦めないプレーでいつしか会場全体のムードが日本選手を後押しするような雰囲気になっていました。

この活躍で日本選手が勢いづき、4個（金2個・銀1個・銅1



個)のメダルを獲得できたといえます。

尚、立位選手はメダルを獲得できなかったものの、2028年のロサンゼルスでのメダル獲得の可能性が存在することが確認できました。

この結果を踏まえて、今後も、選手層を厚く、更に強化を手厚くして行きたいと考えています。

東京大会から3年間、沢山の方々を支えられながら、パリ大会に臨むことが出来ました。

選手たちにも思い出となるような大会にすることができたことを、心より感謝しております。

引き続き、選手とスタッフが力を入れて取り組んで行くことで、メダルを獲得することを目指していきたいと考えております。今後とも、よろしくお願い申し上げます

ブラインドフットボール 報告

1. 御礼

まずはパリ2024パラリンピック競技大会において、JPC、JSCをはじめ関係各所、パートナー企業、サポーター、ボランティア、選手・スタッフのご家族、そして応援して下さった全ての皆さまに対して厚く御礼申し上げます。

2. 総評

男子日本代表チームは、前回の東京2020パラリンピック競技大会に自国出場枠として初めて出場を果たすことができた。パリ2024パラリンピック大会は世界選手権での結果を受けて、自力で出場権を勝ち取り出場する初の大会となった。目標はメダル獲得であったが、結果は8位入賞という非常に悔しい結果となった。大会終了後より分析、ヒアリングを行い、今回の取り組みの振り返りを行った。

(1) プロセスについて (パリパラリンピックまで)

前回大会から試合時間が短くなるといったルール変更もあったために、根本的な戦略から構築がスタートした。より高強度のランニング、フィジカル的要素の必要性、相手のストロングを消して、ウィークを攻める戦術的柔軟性、世代交代を含めた全体の底上げが大きなテーマとなった。監督の就任当初の言葉で「歴史を塗り替えるチーム」といったコンセプトが示される中、まさにこのチームは非常に多くの歴史を塗り替えたチームとなった。初のパラリンピック自力出場権獲得、世界ランク過去最高位(3位)、世界選手権過去最高位、1試合最多得点(12得点)、出場した全ての国際大会で決勝トーナメント進出、歴代チーム勝率1位、歴代チーム1試合平均最多得点など結果を出し続けてきたチームといえる。

他国からも警戒される存在となり、2028年ででありたい姿が、2024年時点で構築されマイルストーンで設定していた目標を4年前倒してパラリンピックを迎えることができる環境となった。

この背景には、週5日のトレーニング、年間4回程度の海外遠征、多くの医科学サポートが要因として挙げられる。また協会としてHP事業部の設立をきっかけに、育成事業と強化事業の連携が図れたことによりFTEMの考え方が浸透しはじめ、若手選手とベテラン選手の融合がはかられた。パリパラリンピックにおいては、東京大会出場経験者は10名中4名と世代交代が行われた。

(2) パリパラリンピック

本大会中のゲーム分析から、2点ポイントが上げられる。1つめはパスの精度、インパクト指数(相手との接触回数)が下がってしまった。2つめは試合時間が通常は60分台の試合が今大会は平均77分となった。これらのことからパラリンピック環境に対する適応ができていなかったといえる。

パス精度、コントロール精度、インパクトの低下の要因は、環境要因(観客数など)からくる音の認知、パラリンピックならではの対戦相手のハングリーさ、様々なプレッシャーからく



る消極的なプレーなどが要因と捉えている。環境要因、対戦相手についてはコントロールできない要素であるが、プレッシャー対策については、技術的な取り組みにより対策ができたと捉えている。基礎的技術の徹底、ピッチ内での判断力向上（自立）、メンタルトレーニング（自己マネジメント）のバランスなどが重要であった。

日本は体格的不利を覆す戦略として、高強度スプリントによる攻守の切り替えを繰り返し、チャンスを作り出すと同時に、相手を疲弊させる戦術を得意としていた。今大会は結果として（観客が静寂になるまでの時間、対戦相手の戦略）試合時間が伸びてしまったことで、対戦相手においても回復する時間を与えた状態となっしまい、日本のストロングポイントが発揮しにくい局面となった。

改めてパラリンピックならではの環境を実感した。単に試合に勝つではなく、パラリンピックの試合で勝つといったところには一定程度の違いがあることを経験した。一方プロセスとしての強化は、確実に成果を示しており、今後はそのプロセスの過程で、より強度と精度を高めていくことで、日本の更なる進化を示していきたい。

ボッチャ 報告

1. 選考基準

日本パラリンピック委員会（以下JPC）令和4年2月1日付公表「パラリンピック等国際総合競技大会日本代表選手・スタッフ選考規定について」を受けて、下記の通り選考委員会において選手選考を行い、理事会承認を経てJPCへ推薦した。

国際パラリンピック委員会公表の参加資格に則り、2023年12月末日時点での国際大会の成績、World Bocciaワールドランキングにより、出場枠を獲得したTeam BC1/BC2:3名（BC1、BC2、男女混合で構成）を選考した。加えて3月22日から28日に開催されたCoimbra 2024 World Boccia Paralympic Qualifierにおいて出場権を獲得したPairBC3:2名（男女1名ずつ）、さらにワールドランキングにてIndividual BC1女子BC4男子で個人の出場権を獲得した選手（男子1名、女子1名）を派遣した。

2. 総評（成果と課題）

出場した7種目中5種目で入賞し、その内の2種目では銅メダルを獲得した。東京大会時は、個人の入賞は1種目のみであったが、パリ大会では個人4種目で入賞を果たすことができた。世界各国（加盟組織団体78か国）がボッチャに力を入れ始めており、組織的に強化を図る中、Team BC1/BC2においては、リオ、東京、パリと3大会連続のメダルを獲得することができたことは、世界に対して日本の強化体制が十分に機能していることを示していると考えられる。特に日本が先駆的に取り入れてきたコンディショニングの充実においては、専門的な知識を持つスタッフを登用したことでフィジカル面だけでなく、村外での栄養面についてもサポート体制を整えることができた。今回、複数メダルを獲得した選手は、エネルギー枯渇が課題となっていたため継続的な栄養サポートを実施してきた。この事例を通して、他の選手についてもデータを収集し、捕食のタイミング、エネルギー量などを検討していきたい。

また、東京大会終了後から、女性選手の強化と若手選手の発掘育成を重点課題として取り組んできた。パリ大会では女性選手3名が個人で入賞し、若手選手の活躍も見られた。現在、国内における競技人口は増えているが、クラスによって偏りがあ



るのが現状である。

手投げのクラスの国際的動向として技術、戦術に加え、パワーのある選手が多い現状がある。ロス大会に向けて、戦術強化に加え、日本のパワー不足を補うボールを開発することも検討していく。

さらに、クラス分け委員とも連携し、多くの選手発掘、育成に向けて取り組んでいくとともに、国際クラシファイア養成のワークショップ等にも積極的に参加していきたい。

スタッフについてもスタッフ育成パスウェイを明確にし、若手スタッフを安定的に育成できるようなシステムを構築する。東京大会からスタッフの多くが残っており、体制としては、大きく変わっていないのが現状であるため、若手のスタッフと強化育成スタッフが協働で実践経験を積むことが求められる。スタッフ、体制が変わっても勝ち続けられるチームを作ることを目指していきたい。

パリ大会においては、数多くのスポンサーからの支援をはじめ、日本国内、現地からの声援を力に取り組みむことができた。さらには、会場では、東京大会でボッチャを知り、パリ大会ではボランティアとして参加した方も現地でサポートしていただいた。選手たちが、声援をプレッシャーではなく、自分たちの力に換えることができるようになったことが何よりの成長と考える。ロス大会に向けて、選手、スタッフが、「応援される選手・スタッフ・競技団体」になれるよう取り組んでいきたい。

3. 謝辞

今大会派遣にあたり関係の皆様には、多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。この大会での成果を2028年ロス大会での成功に繋げられるよう、引き続き日本のパラスポーツの発展に寄与していきますので、これからもご厚情を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

カヌー 報告

パラカヌーの会場は、オリンピックのカヌーやローイング競技と同じ会場であり、広大な自然の中に競技コースが作られています。本大会は、選手村からバスで約1時間という位置にありました。会場内は、1000m以上見通しが良いコースであり、通常時の風速は1m程度であり素晴らしい競技環境の会場でした。また、観客席もスタートラインからゴール地点までコースに並行して作られており、ダイレクトに観客の声援が届き選手にとっても非常に心強い環境でした。

装具の調整をするための艇庫も広く使用でき、艇庫とは別にシャワーとトイレ完備の休憩室が各国に準備されていました。

カヌーは下肢や体幹に障害がある選手が、障害別に3つのクラスに分かれ(L1、L2、L3)、5m20cmの長さのカヤックと7m30cmの長さのVa'aといわれる競技艇に乗り、200mの直線コースで順位を競う競技です。本連盟から出場した選手は4名ですが、その中でも重度(L1)が2名、中程度(L2)が2名、そのうちの3名が車椅子利用でした。選手は自身の競技艇を運搬できないため、スタッフが乗艇タイミングに合わせて艇を桟橋まで運搬し、乗艇するために支えてサポートを行います。乗艇した後は車椅子や義足をボランティアに受け渡し、管理テントに保管してもらうという流れでした。

競技環境的には申し分ない会場でしたが、艇の運搬作業が少ないスタッフ数で行わなければならなかったため、会場がさらに広く感じました。

カヌー競技のレースは大会期間の最後にあり、9月6日、7日、8日の3日間で開催されました。チームは9月2日に渡航し、3日から会場での行動を開始しました。そして、レース当日に挑みました。

レンタル艇が希望通りに会場まで運搬されているかどうか、現物確認ができるまでは毎大会不安になります。今回は希望通りのレンタル艇が確認でき、3日間の公式練習期間にシートの



セッティングやラダーの調整がスムーズに行うことができ、初日の予選レースを迎えました。

予選、準決勝、決勝と進む中、出場した選手たちからイメージ通りのレース展開ができた納得感や発言があり、レースタイムも風があった悪条件下としては申し分ないタイムでした。ただし、メダル獲得を見据えた強化においては課題が残りました。

今大会ではGPSによる速度データや映像が入手でき、他国の選手と同じ条件下でレース分析を行うことができました。この結果をもとに数値的な課題をスタッフに提示し、4年後のメダル獲得に向けた各役割の課題と選手目標を高く設定して進めていきたいと思えます。

レース後の選手から、次大会への意欲と課題感を聞くことができたので、これからの4年間を選手と共に更に成長できると感じました。

結果は、東京大会に出場した選手(瀬立モニカWKL1 6位入賞・高木裕太MKL1 10位)と前大会よりも順位を上げた結果となり、初出場で2種目出場した選手(宮嶋志帆 WKL2)も自己ベストを更新し、個人個人が納得できる結果でした。

世界の選手層は、障害が軽度のL3クラスの選手数が最も多く、障がいが重度、中程度のL1、L2クラスの選手数が少ない傾向です。その中でも、さらに女子選手は少ない傾向にあります。これ考えると、世界でも少ないカテゴリーの重度、中程度のクラスの出場が多かった日本としては、パラリンピック大会出場からメダル獲得に向けた新人選手の発掘や次世代の育成・強化に大きなヒントを得ることができました。

本大会は、近年の国際大会で入賞やメダルを獲得する顔ぶれが集まった大会であり、その中に入りレースに出場できたことは選手たちにとっても大きな経験と目標につながったと思います。また、チームとしても、私含めスタッフほとんどがパラリンピック大会は本大会が初めての経験だったので、村内外含め次の大会に向けて役割ごとの課題を改めて見出すことができました。ロス大会のメダル獲得に向けて、選手の競技力向上をはじめ、派遣チームの構成と個々の役割の明確化、そして役割を尊重し合えるチーム力が重要だと感じました。

自転車競技 報告

今大会の目標は「トラック競技およびロード競技でのメダル獲得、全選手8位以内の入賞」であった。結果としては女子ロードレースにおける金メダルの獲得および出場した全選手の8位以内入賞を実現した。今大会は多くの世界記録更新が目立ち、どのクラスも非常にハイレベルな戦いとなる大会であった。日本チームとしては悲願の2大会連続金メダル獲得を達成したものの、メダル獲得数が1個であったことには悔しさの残る結果となった。

大会前半のトラック競技ではCクラスにおいて男女ともメダルの獲得を目標とした。2023-2024年のトラック世界選手権の結果を鑑みても、十分に実現可能な目標として設定していたが苦戦する結果となった。女子C1-3クラスの3km個人パシュートにおいて、予選で確実にタイムを出し、上位4名の決勝に残ることが最大の目標であった。予選でライバルたちが大幅な世界記録の更新を連発するなかで、C3の杉浦は予選5位となり敗退。メダル決定戦進出を逃し厳しい結果となった。この結果の背景として、上位各国とも日本チームの一段上のタイム設定をしていたことが考えられる。年齢も20代の選手たちがこの1年間で大きく競技力を向上させており、パフォーマンスのピークをパラリンピックにピタリとはめてきた印象である。



男子C2クラスの3km個人パシュートに出場した川本も予選で日本記録を更新し、3-4位決定戦に駒を進めたものの、メダル決定戦でタイムを落とし、メダルを逃す結果となった。個人パシュートにおいては予選で圧倒的なタイムを出し、確実に1-2位決定戦に進出しメダルの獲得を確定させることが重要であると考えてきた。今大会で川本が出した記録はそれを実現できるものであると考えていたため、タイム設定の段階から戦略にミスがあったと言わざるを得ない。また、Cクラスのタイムトライアル種目（1000m、500m）は係数のかかるコンバインド種目であり、各クラスの選手たちのタイムが係数によりどう変化するか考慮してタイム設定をしなければいけない。この種目に関しては男女とも厳しい戦いを予想していたので、上位6名の決勝に残り確実に入賞することがミッションであった。女子の杉浦は入賞こそしたが惜しくも7位で予選敗退。男子の川本は予選6位で決勝に残り、結果的に6位でレースを終えた。男子タンデムの木村・三浦ペアはトラック競技の1000mタイムトライアルを専門種目として3年間取り組んできた。予選で自己ベストを更新し上位6名の決勝に進出、6位入賞という目標を達成した。公式練習での落車による怪我もあったなかパフォーマンスを落とすことなく走りきれたことは評価できるが、強豪の欧州勢とのレベル差の大きさを実感する結果であった。その他、出場予定であった団体種目であるチーム・スプリントは、C3の藤田のコンディション不良のため欠場となった。C4-5クラスの選手がいない日本チームのメダル獲得は難しいと考えていたが、入賞は十分に狙える種目であったため、この欠場判断はパラリンピックに向けたコンディション調整の難しさを改めて実感するものであった。

大会後半のロード競技においては女子C3の杉浦をターゲットアスリートとしてメダルの獲得と上位入賞を目標としてきた。タイムトライアル種目では入賞を果たすが、上位選手とのタイム差をロードレースにおいてどのように埋めていくか戦術を考える必要があった。特に女子タイムトライアルは係数種目

であるが、実タイムを考慮しても他クラスの強豪選手たちの実力は高く、この時点でロードレースも予断を許さない戦いになることが予想された。男子C2の川本およびC3の藤田もタイムトライアルで入賞したが、ロードレースはC1-3クラスでのコンバインド戦になるため、集団での位置取りや仕掛けに反応するタイミングなど、ハイレベルなレースが予想されるなか現在の実力でどこまでカバーできるかが課題となった。迎えた最終日のロードレース、女子の杉浦が積極的なレース運びで確実に集団の人数を削り、想定されたメンバーでレースの最終局面を迎えた。今回のコースレイアウトから集団ゴールになることも想定してゴールスプリント対策をしてきた杉浦にとって力の見せ所であった。結果的に他選手を振り切り優勝、タイム差はなくほぼ同着で僅差での金メダル獲得となった。同じくC1-3クラスで実施された男子ロードレースでは、レース序盤からイギリス、フランスの強豪選手がアタックを決めて集団を形成。想定していた展開であったが、日本チームは藤田、川本ともにこのタイミングで先頭集団から遅れてしまう。レース中盤で後ろの集団でも遅れをとり、この時点で入賞が厳しい展開となった。ヨーロッパ勢で形成された集団のレベルは圧倒的なもので、ロードレース自体の実力差が大きく現れる結果となった。結果的に男子は2名とも入賞を逃し、日本チームとしてのレース戦略の弱さと戦略強化の必要性を感じる悔しい結果となった。

期間全体を通して厳しい戦いを強いられた今大会の中で、杉浦の金メダル獲得は2大会連続獲得という快挙以上に、チームにとって今後につながる大きな価値のある結果であった。何より、チームの力だけでは取れなかったメダルである。ここまで尽力してくれたすべての選手たち、関係団体、スポンサーおよびサポーターの皆さまに感謝の意を表したい。

馬術 報告

2024年に開催されましたパリパラリンピック、日本パラ馬術チームは東京大会に続く団体出場枠こそ獲得出来なかったものの個人2枠の出場枠を獲得し、協会が定める選考基準に基づきグレードIIクラスに稲葉将選手と吉越奏詞選手を派遣致しました。

国際パラリンピック委員会及び国際馬術連盟が定める出場枠獲得のレギュレーションでは、最終的には日本チームの出場の可能性は2023年12月末時点での世界ランキング次第であり、それに至るまで、各方面のご支援を頂き、ランキング対象大会に参加して参りました。結果、個人2枠の出場枠を獲得できたことは東京大会以前からの強化策が一定の成果をもたらせたことと認識し、改めて関係各位に感謝申し上げます。

共にオランダで繋養している各選手の馬と共に参加するこの





大会、馬の健康管理や能力管理をしている各厩舎の協力のもと、村外スタッフも含め12名（選手2名・スタッフ10名）で日本パラ馬術チームは編成を行い、各人馬のコンディションに合わせて各々の方法で事前の調整を行い、8月30日に無事に人馬共にパリ入りを行いました。

9月2日には馬の健康状態をチェックするインスペクションが行われ、この段階で出場が止められる馬もいる中、無事に合格となり、翌日の9月3日の個人規定戦に臨みました。

9月3日の個人規定戦グレードIIクラスは9人馬のエントリーとなり、今迄好調であった2選手への期待とは裏腹に稲葉将選手 & HuzetteBH号は61.759%、吉越奏詞選手 & Javyro号は61.724%という結果であり、稲葉将選手は8位、吉越奏詞選手は9位という形で個人規定戦が終わりました。どんな状況・状態でも最高のパフォーマンスを発揮するベーシックな技術の習得が今後の課題と感じた次第です。一方で稲葉将選手が8位入賞となり、入賞者のみが進出できる9月7日の個人自由演技戦に進出することとなりました。

9月7日に行われました個人自由演技戦では稲葉将選手 & HuzetteBH号は66.254%となり、規定戦に続き8位となり入賞を得ることができました。東京大会は自国開催枠という追い風の中、宮路満英選手が2種目入賞を果たしましたが、今回の出場枠を獲得することが始めなければならない大会でも2種目入賞を挙げたことは今後のパラ馬術の未来につながる結果と感じております。一方で先述しました通り、過去に獲得したハイマークをパラリンピックの場で発揮できなかったことは2028年のロスアンゼルス大会、2032年のブリスベン大会に向けた大きな課題であり、今迄の競技力向上策の成果と課題を冷静に分析した中でこれからの戦略を作り上げたいと考えております。

今回の参加にあたり、日本パラリンピック委員会、そして多くの団体・個人から手厚いサポートを頂け、特に日本パラリンピック委員会の皆様には事前・最中も含め、そして現地でもフルサポートを頂きましたことはこれ以上無い選手への後押しとなりました。選手推薦を無事に行え、本大会に無事に参加でき、そして無事に終了する、そして入賞という一定の結果を残せるありがたさは皆様方のサポートあってであり、この場をお借りし御礼申し上げます。

ゴールボール（男子） 報告

まず初めに、この度男子ゴールボールチームの悲願であった金メダル獲得という目標を達成できたことに対し、本大会に至るまで選手各人及びチーム強化にご支援いただいた関係各所の皆様に心より感謝いたします。

また、大会期間中含め男子チームをご声援いただいた皆様の支えと応援の力があったからこそ、目標達成に向けチーム一丸となり、これまでの取り組みを十分に発揮し最高の結果を残すことができました。

応援して下さった皆様のお陰だと心より感謝しております。金メダル獲得という目標に向け、努力を重ねてきた選手たち、それを支えてきたスタッフ陣の悲願を達成できたという喜びはもちろんありますが、それ以上にご支援ご声援して下さった皆様に金メダルという形で恩返しできたことが何よりも嬉しく思います。

支えてくださる皆様にスポーツを通じて元気・勇気・感動を伝え、悔しさや喜びを共有し合えること、皆様の想いを背負いチームは戦っているということを改めて学ぶことができました。

そして、このことがスポーツの価値だと実感することができました。

東京パラリンピックの準々決勝で敗退し、パリパラリンピックでは金メダルを獲得するという目標を掲げ取り組んできました。特にフィジカル強化に重点を置き、信頼できるトレーナーのもと選手たちは努力を重ね、世界で戦い抜くことのできる強靱な身体を作り上げることができました。

また、オフェンス面とディフェンス面の強化においては選手自身が研究とディスカッションを重ね、世界トップレベルのオフェンス力とディフェンス力を習得することができました。そして、日本男子チームの他国にはない強みとしてコート内の選手が連携して攻撃をする多種多様なフェイク攻撃を完成させ大会に挑むことができました。

予選リーグの1試合目と2試合目、どちらの試合も1点差で負けるという2連敗からのスタートとなりました。しかし、どちらの試合も取り組んできた内容が十分に通用していたことへの手ごたえと、負けた原因が明確にわかり改善できる内容であり、改善することにより次に対戦した時には必ず勝てるという自信がチーム内にあったため、2連敗を決してネガティブに捉えることはなく予選の最終戦に気持ちを向けることができました。

予選最終戦を良い内容で勝利し、3位で予選を通過し反対ポール2位通過のアメリカとの準々決勝となりました。準々決勝を突破することが今大会の一つ目の乗り越えるべき壁でした。アメリカはこれまでと異なりチームのスタイルを変え、ディフェンス力が安定したチームになっていました。アメリカへの声援も非常に大きく、プレッシャーを感じる場面も多々あり緊迫した試合となりました。その様な状況であっても選手とコーチ陣は焦ることなく、やるべきことに集中し準々決勝の壁を乗り越えることができました。この壁を乗り越えたことによりチームの勢いは金メダル獲得に向けさらに加速しました。

準決勝で対戦した中国には、東京パラリンピックで敗戦して





以降、一度も勝利できていない相手でしたが予選での十分な手ごたえと、中国に勝つために研究し取り組んできたことに自信があったため、負けるというマイナスなイメージがチーム内に全くありませんでした。

準決勝は攻撃的な布陣でスタートし、開始早々から選手たちは最高のパフォーマンスを発揮してくれ試合の流れを完全につかんでくれました。これまで自分たちが取り組んできたことに自信を持ち正々堂々と戦う選手の姿、この大舞台に臆することなくフィードバックをするコーチの姿に、男子チームが真に強くなったと確信のできた一戦となりました。この準決勝を6人の選手全員がコートに立ち、それぞれの役割を果たしバトンをつなぎ勝利できたことでチームの状態は決勝戦に向け心ともに万全な状態となりました。金メダルを絶対にする。このチームであれば必ず金メダルを取れる。という自信に満ち溢れた状態で決勝戦を迎えることができました。

ウクライナとの決勝戦は2点を先制し、序盤の流れはつかめたもののディフェンス力が高いウクライナを崩し切ることができず、2点を返され前半を同点で折り返しました。後半は大舞台の経験も少なく予選のウクライナ戦で失点を繰り返した萩原選手に守りの要であるセンターを託しました。日本とウクライナの両選手とも、金メダルを取るという強い思いのもと必死のプレーで一進一退の展開となり、レギュラータイムでは決着がつかず、ゴールデンゴール方式の延長戦となりました。

延長戦には2023World Gamesのウクライナとの延長戦で決勝ゴールを決めた佐野選手を投入し、必ず決勝ゴールを決めてくれると選手たちを信じ見守りました。そして、佐野選手が決勝ゴールを決め決勝戦を制し、初めて自力でつかんだパラリンピックで金メダルを獲得することができました。

この度、金メダル獲得という目標を達成できた要因として「フィジカル強化・オフェンスとディフェンスの強化・強みの確立」といったスキルを世界最高レベルに向上させたことはもちろんありますが、男子選手の以下の要素があったからこそ世界一にたどり着くことができたに関してあります。

- ・常に物事をポジティブに捉え行動できること
- ・1人では苦しいトレーニングや練習も仲間と支え合い、苦しさを楽しみに変え取り組めること
- ・自ら考え自ら行動し取り組めること
- ・応援し支えてくださる方々への感謝の気持ちを常に持ち、結果で恩返ししたいと思いつき取り組めること

以上のことが目標を達成できる要素だと選手から学ばせていただきました。

ロサンゼルス2028パラリンピックでの2連覇に向け、現状に満足せず高みを目指し、謙虚と感謝の気持ちを忘れず精進して参ります。

ゴールボール（女子） 報告

まず初めに、今大会に至るまで大変多くの方々にチームをサポートしていただき、男女チーム共にパリの舞台上で戦うことが出来たことを心より感謝しています。また、大会期間中も日本から、そして現地会場から多くのご声援をいただき背中を押されました。改めて感謝申し上げます。

1. 結果を踏まえた分析

今大会の女子チームの成績として、予選プールを3連勝して1位通過しながらも、準々決勝と順位決定戦で敗戦となり、最終順位6位で大会を終えた。予選プールの分かれ方でランキング下位の国が集まるプールに入った事を考えると、今の日本の実力がそのまま結果に表れたと捉えている。

日本が勝つためのポイントは守備力と位置づけ大会に臨んだが、予選、準々決勝ともに先制点を取られてからの苦しい展開となるが多かった。試合序盤の入り方が不安定で相手の勢いに押され、攻撃面守備面ともに本来のパフォーマンスを落ち着いて発揮するまでに時間を要した事を考えると、緊張度のコントロールや試合に向けたギアの上げ方など、心理面の弱さが露呈したと考える。また、コンディショニング面でも試合に向けて十分な準備が出来ていたとは言えず、今後さらに意識を高めなければならない。

一方で最終戦のカナダ戦では0対0の時間が長く続き、日本の持ち味である締まった試合運びが出来ていた。後半の1失点は相手の投げた球も厳しい球であったため、その失点を敗因と考えるのではなく、24分の中で得点が取れなかった攻撃力の弱さを今後の課題として取り組まなければならない。

また、大会前にチームの指導体制が代わり、渡航直前まで不安定な状態のまま大会を迎えたことも結果に影響していることは否めない。多くの人に支えられてなんとか本番を迎えたが、本来であれば戦術をブラッシュアップし、3年間の取り組みの



ラストスパートをかける時期に、一からチームビルディングを行わざるを得ない状況に陥ってしまったことは、選手にとってもスタッフにとっても精神的に苦むこととなり、また本来すべき事に取り組む時間も削られてしまった。

その中で、選手の主体性を重視し、スタッフが一方的に方針を決める事を辞め、選手スタッフ互いの考えを同じテーブルに並べて話し合いを重ねることで、新たなチームのあり方を模索しながらの大会であった。選手自身が考え、発言し、実行することが出来る環境は今後のチームの飛躍につながると確信しているが、より一層、選手一人一人の自律が求められる。

2. 今後の取り組み

次の4年サイクルの中で、チームが最も重要視して取り組まなければならない事は攻撃力強化であると考えている。

世界トップクラスの選手の攻撃に対して各国の守備が適応し始めており、日本の攻撃力ではどれだけ戦術を立てて相手を崩そうとしても、点が取りづらくなっている。また、日本はペナルティスローでの得点を武器として持っているが、対戦国もそれを分かっているため日本戦ではペナルティーを出さないような戦い方をしてくれており、流れの中での得点力が今まで以上に求められる。

体格的に海外勢に劣る日本ではあるが、日本男子チームはフィジカル強化で結果を出しており、今までのように球の強さでは強豪国に劣ると言い続けているようでは、今後世界で結果を残すことは出来ない。トップ選手、ユース選手ともにフィジカル強化や投げ込みなどの基礎練習に取り組むとともに、海外留学なども検討し、海外のトップ選手と共に練習する機会を作ることで世界に学び、強豪国に引けを取らない攻撃力を身に付け、4年後ロサンゼルス大会での再起を図る。

スタッフの配置の面では、アクレの枚数に制限がある中で映像撮影の人手が不足し、ベンチスタッフが試合直前にカメラスイッチを押しに行かざるを得ない状況であった。パラリンピック以外の大会で人数をかけてサポート体制を整えたとしても本番のパラリンピックでは同じ動きが出来ないという事を念頭におき、最低人数でのスタッフ配置を検討していかなければならない。

また、大会運営の面でも他の大会以上に制限が多かったため、チームの動きに混乱を招きかねない場面もあり、現場での交渉など一定の語学力が求められた。テクニカルミーティングなど限られた人しか入れない場での発言や交渉も必要となるため、通訳に頼らない語学力をベンチスタッフが身に付けておく必要がある。

今後のスタッフ編成において、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ、フィジカルトレーナー、ケアトレーナー、映像撮影、情報分析、心理、栄養、通訳等、各専門分野の人員確保と共に、複数分野を兼任できるスキルアップも図りながらチームの強化を進めていく。

柔道 報告

視覚障がい者柔道日本選手団は、2024年8月30日から9月10日までの12日間の派遣でした。試合は9月5日から7日の3日間で、計6名の選手を派遣しました。5日にJ1クラス48kg級の半谷静香選手が銀メダルを獲得しました。6日にはJ1クラス73kg級の加藤裕司選手と70kg級の土屋美奈子選手が初戦敗退（敗者復活戦なし）、J2クラス73kg級の瀬戸勇次郎選手と57kg級の廣瀬順子選手の2人が金メダル、70kg級の



小川和紗選手が銅メダルを獲得しました。

本強化体制は2023年7月に発足し、目標に「金メダル獲得」を掲げ、強化方針を「集中と選択」として、日本選手、海外選手の現状を把握し、メダルが獲得できる可能性のある選手を集中して強化する方法を採用しました。それまで予定されていた月1回の全体合宿を全面的に中止し、選手個人にスポットを当てた個別分散合宿に切り替えました。また各選手の普段の練習環境におけるパーソナルコーチやメンターとのコミュニケーションを密にし、メダルを獲得するためのメンタリティ、フィジカル、テクニックがしっかりと選手に定着するように質の向上と量の確保を具体的に行いました。

加えて2024年に入りクラス分けでNEになった選手が多かったことも重なって当初のメダル獲得目標を大きく上回りました。金メダル2個、銀メダル1個、銅メダル1個という成績は、28年ぶりの好成績です。ただしJ1クラスの2階級において二人の選手が緒戦敗退という結果は強化体制の全盲選手に対する視覚障害者への理解不足、経験不足から強化に課題が残る結果であると推察します。

パリHPSCサポート拠点では、試合までのコンディショニング作りを中心に試合の日まで連日、朝9時から夜7時過ぎまで1日10時間の滞在をさせていただきました。特に昼食、夕食が日本食で摂れたことと、トレーニングとリラックススペースが減量のある選手にとって大きな助けとなりました。

パラリンピック競技もオリンピック競技も選手とコーチの関係性は同じで信頼関係の上に成り立っています。パラリンピックだけが特別ではなく、選手の強化・育成と同じようにコーチ・スタッフの育成も同時に進めなければいけません。2023年7月に体制が代わったこと、代わった体制も視覚障害者理解が足りないこともコーチ・スタッフの育成ができていなかったことが原因です。日本視覚障害者柔道連盟の中長期目標としてコーチ・スタッフ育成において具体的に整理して実践していく必要のある課題と判断しました。

パワーリフティング 報告

1. 参加者

世界のパラパワーリフティングはここ2,3年で素晴らしい成長を遂げている。その中で日本の選手たちも成長を続けているが、パリパラリンピック参加に関しては世界を超える成長を達成できなかったと反省を含めて報告せざるを得ない。参加選手は107kg級の佐藤和人、一人。187kgの自己記録を超えることを目標にパリ入りした。吉田進は団長兼コーチとして帯同。土居優太トレーナーは村外スタッフとして同行した。

2. 選手村

既存施設を可能な限り活用した選手村の環境は素晴らしかった。宿泊に関しては100kgを超える選手と監督が同室ということだったが、多少無理を言って別室としてもらった。選手同士ならまだ我慢ができるが巨大な役割の違う二人が狭い部屋ではストレスが多かったので大いに助かった。

トレーニング施設は選手村の中にあり、広々としたスペースに27台のベンチセットが置かれ、気持ちよく練習が出来た。佐藤選手は過去最高の仕上がり状態でパリ入りしたが、試合5日前に腰が痛いと言出し、土居トレーナーがHPSCとJPCの施設で丁寧なケアを行ったが、完治はしなかった。痛みの理由も明確ではなかった。

3. 競技会場

選手村からバスで15分のラ・シャベルの大会セッティングは素晴らしかった。360度どこからでも試合が見られるようにデザインされたステージ、キャパシティ6500人の観客席、観客をどんどんあおるアナウンサー。選手が成功しても失敗しても同じように盛大にたたえてくれる観客の声。選手ラウンジ、アップ場、コールルームもわかりやすく配置され、選手は会場の中心部に設置されたステージで試技を行った。



4. 大会での戦い

佐藤選手は「腰の痛みは試技に影響ない」と言うものの、第一試技は安全に175kgとし、これを軽く成功。第二試技は国際大会での自己新記録となる183kg。これを押し切るが左右にぶれて赤判定。第三試技も同重量への挑戦。同じように押すものの、左右の不安定さで惜しくも赤。本来は190kgを超えることを目標としてきたが、それは達成できなかった。同じクラスのウズベキスタンの選手は重量選択を誤ったようで、スタート重量から一回も白判定をもらえず失格。この結果、佐藤は8位入賞を果たすことが出来た。

5. 気迫

世界のトップレベルの気迫というか気合は男女ともに素晴らしかった。例えば女子61kg級。中国の選手がすごい集中力を発揮して自己記録を5kg伸ばす140kgに成功。ところがそこに世界記録保持者のナイジェリアの選手が優勝と世界記録を同時に達成するために150kgに挑戦。無謀とも思えたが、信じられないほど集中して完璧に上げきってしまった。もちろん観客は大騒ぎ。さらに大騒ぎをしたのは近くにいたナイジェリアのコーチや同僚たち。チーム全員で強烈な集中力を見せてくれた。選手のレベルが上がるのはこういう猛烈な、前向きな、精神力だと再確認出来た瞬間だった。

6. ロスに向けて

日本チームにとっては決して喜ばしい結果ではなかった。ロスに向けて4年間の強化策を見直し始めている。その柱は3本。

- (1) 海外のトップレベルから学ぶ
- (2) 日本のコーチ力のアップ
- (3) チーム力のアップ (アントラージュの充実化、選手とコーチの良いコンビネーション、動作解析のレベルアップなど)

海外にはドーピング疑惑のあるチームもあると聞く。IFとの連携を良くし、正しいトレーニング理論を持った国々とのコラボが重要になると考えている。選手村に滞在中2、3か国のコーチとの会話は可能であった。

ローイング 報告

1. 大会の選手・役員の選考

4月19-21日に韓国・チュンジュで開催されたアジア・オセアニア予選にて1位となり、出場権を獲得したPR1男子シングルスカルの森卓也選手と、派遣スタッフ(割当数2名)としてハイパフォーマンスディレクターの佐原英行と専任トレーナーの三木孝太を派遣することになった。

2. レース結果

種目	氏名・所属	成績
PR1 M1x	森 卓也 養和会/CHAX パラアスリートチーム	総合8位/参加11クルー
		予選 10:19.75 5着
		敗復 10:23.78 4着
		決勝B 10:37.74 3着

3. 総評

日本としてパラリンピックでの最高順位である8位入賞を果たした。一方で目標としていたA決勝進出、6位入賞は達成できなかった。敗者復活は2着までが決勝A進出だったが、2着のイタリアとは約1分、3着のドイツとも50秒弱のタイム差があり、大きな隔たりがあった。決勝Bではドイツ、スペイン



に次ぐ3着だったが、決勝Aに進出したイタリアが規則違反で除外となったため、最終順位が一つ繰り上がり、総合8位入賞となった。

1日目の予選レース後より右肘の痛みが出始め、トレーナーのケアやJPC本部の医療チームのケアを受けながら、2日目の敗者復活と3日目の決勝Bを漕ぎ切った。2日目はほぼ無風の水面コンディションだったが、同様の水面コンディションだったアジア・オセアニア予選の決勝タイムと比較すると、40秒以上遅くなっている。右肘の痛みが大きくパフォーマンスに影響していたのではないかと考えられる。

要望していた通りの役員人数、渡航日程、選手村での部屋割り（他競技との共有なし）で調整がなされており、過度なストレスがない環境で競技日を迎えることができた。特に今大会より自費でのビジネスクラス利用での渡航が認められるようになり、長時間のフライト中に下肢が硬直してしまい、現地到着後の回復に数日間を要していた森選手にとって、大きな助けになった。また、前年11月に実施されたNPC Visitにて念入りに選手村周辺の環境や空港や競技会場との位置関係・距離感を確認できていたことで、安心感をもって現地入りできたことも落ち着いて競技準備を進めることにあたって助けになった。

JSC村外サポート拠点には、フリースペースに現地業者よりレンタルした陸上トレーニングマシン（ローイングエルゴメーター）を設置して、練習期間中も競技期間中も利用した。村外スタッフ（派遣種目コーチと所属先トレーナー）との打ち合わせやケアも落ち着いた環境で行うことができた。

選手村内で唯一困ったのは、選手村内での車いすによる移動の負荷が高いことだった。居住棟から食堂に行くにも、競技会場行きのバス乗り場に行くにも、村外サポート拠点に向かうにも、まとまった距離と高低差があり、競技におけるパフォーマンスに影響が出ることが懸念される程度だった。TOYOTA社が提供していた着脱式車いすサポートギアは有効だったが、選

手村内でのシェアリングの運用が上手く機能しておらず、今大会での活用は難しかった。

競技会場は選手動線を上手に設計しており、特段の問題はなかった。顔なじみのIFの大会役員や他国の選手・スタッフが揃っていて、毎年開催される世界選手権と同様の環境、同程度の緊張感だった。

選手やスタッフの一部にとって初めてのパラリンピックであり、選手村の各種施設や開会式など、「パラリンピックならではのもの」にあえて積極的に訪れたり、参加したりした。世界中から集まる各国の選手や普段接点のない自国の他競技の選手と、選手村という一つの空間でともに過ごすことは、パラリンピックの大きな楽しみであり、人生の糧になることでもあり、パラリンピック自体の意義の一部である。一方で、競技パフォーマンスのことを考えると、例えば競技会場に近い分村に滞在したりして、競技に専念できる環境に身に置くことが正解に近い。初参加のパラリンピックで目覚ましい競技結果を残すことは、基本的には難しいことで、選手もスタッフも一人ひとりが4年に1度しかない大舞台の経験を重ねながら、徐々に競技パフォーマンスに集中するようになるものだと考えている。

末筆になりますが、日頃当競技を支えていただいている、協賛先様、JPSA/JPCをはじめとするご関係の皆様、当協会の皆様のお陰で無事パリ大会を終えることができました。心より感謝申し上げます。

射撃 報告

パリ2024パラリンピック競技大会では、日本代表選手、そしてスタッフ達が“*One Team*”として一丸となり、競技の発展と日本パラ射撃界に新たな1ページを刻む大会となりました。

1. 水田光夏選手の活躍と日本パラ射撃史における意義

水田光夏選手は、10mエアライフルSH2伏射種目で見事に銅メダルを獲得し、日本パラ射撃史上初となるメダル獲得という快挙を成し遂げました。決勝戦でもいつもの落ち着いた感じで集中し、他国の強豪選手たちと互角に競り合い、また、決勝の雰囲気にも負けずに楽しんでいるようでした。この結果は、これまでの努力の結晶であると同時に、日本のパラ射撃界の未来に大きな希望をもたらしました。

水田選手の成功は、ほかの選手たちに大きな励みとなるだけでなく、国内の競技環境の改善や若手育成プログラムの重要性を再認識させる機会ともなりました。また、メディアを通じて広く注目を集めたことで、パラスポーツ全体の認知度向上にも寄与しました。



2. 瀬賀亜希子選手：4度目のパラリンピック出場とベテランとしての役割

瀬賀亜希子選手は、10mエアライフルSH2伏射種目に出場、4度目のパラリンピック出場となる瀬賀選手は、結果こそメダルには届きませんでしたが、その競技力と精神力は選手たちの模範となるものでした。

特に、競技場や宿舎での会話やアドバイスを通じて、チーム内で重要な役割を果たしました。彼女の豊富な経験は、チーム全体の士気向上に寄与しました。瀬賀選手の存在は、日本パラ射撃チームにおいて「競技力」と「リーダーシップ」の両面で欠かせないものとなっています。

3. 岡田和也選手の初出場：新しい挑戦と今後への期待

岡田和也選手は、男子10mエアライフルSH1伏射種目、50mライフルSH1伏射種目と2種目でパラリンピック初出場を果たしました。事前キャンプ中にコロナに罹患し思うようにトレーニングができなかった中、本戦では安定した得点を重ね、今後の国際大会でのさらなる飛躍が期待されるパフォーマンスを見せました。

真摯に射撃に取り組む姿勢、他国の選手との交流を通じて得た経験は、彼自身の競技力向上だけでなく、日本代表チーム全体の国際的な競争力を高めていくことと思います。

4. 今後の課題と展望

今回の大会では、日本代表選手の技術力の向上が明らかになりましたが、同時に、世界トップレベルとの差を埋めるための課題も浮き彫りとなりました。

(1) 競技環境のさらなる整備

ライフル射撃は精密機器を使用する競技であり、選手個々の用具（銃・弾）や装備、練習施設の質が結果に直結します。個々に合った用具の選定、選手が安定して練習を続けられる体制を強化する必要があります。

(2) 若手選手の育成

水田選手のメダル獲得を契機に、国内での競技人口拡大と若手選手育成プログラムの強化が重要です。特に若い世代からの育成を通じて、国内全体の競技レベルを底上げすることが求められます。

(3) メンタル面のサポート

国際大会特有のプレッシャーに対処するため、日常的に心理的サポートの充実が不可欠です。専門家の支援を受けながら、選手が安定したパフォーマンスを発揮できる体制を整えることも大きな課題の一つです。



5. 結論

パリ2024パラリンピックにおける成果は、個々の選手の努力とチーム全体の結束力、そして周りでサポートをして下さった皆さんの賜物です。特に水田光夏選手の銅メダル獲得は、日本パラ射撃の新たな歴史を築くものであり、競技の発展に向けた大きな一歩となりました。

今後は、今回得た経験を基に、競技力の向上と競技環境・体制の整備を進めていくとともに、本大会で得た成功と課題を活かし、ロサンゼルス2028パラリンピックに向けてさらなる成長を目指します。

この大会に関わって下さった全ての人に感謝申し上げます。ありがとうございました。

水泳 報告

1. チーム目標

メダル目標は身体金2・銀3・銅3、知的金1・銅2、合計で金3・銀3・銅5を目標に、大会6か月前に選考し代表選手に対する強化を行った。チームのスローガンとして「熱狂」を掲げ、無観客になった東京大会で起こせなかったムーブメントを巻き起こす目標を掲げた。

結果として金3・銀3・銅6とほぼ目標通りの結果となった。身体は目標メダル数を達成することができ、知的は金の目標こそ届かなかったが、メダル2個を獲得した。また、新たなメダリストが3名誕生（窪田・木下・辻内）したことも今大会のチームの成果である。



2. 総評

東京大会を機にNTC-Eastが整備されたことにより、強化拠点としての機能を集約して強化を図って来た。前年の世界選手権では知的障がいクラスでは金メダルを獲得したが、身体障がいクラスでは金メダルを獲れなかったことから、この拠点に日常のトレーニングを指導するコーチを常駐させ、トレーナー、栄養、バイメカの専門家を配置し、高度なトレーニング環境を構築した。パリまでは強化拠点の機能を維持させたことが、今回の成果を導いた要因として分析している。代表のチームスタッフにも日常から関わっている各分野のスタッフに入ってもらうことで、日常のトレーニング環境をそのまま代表チームに落とし込むことができた。また、併せて知的障がいクラスのメダルポテンシャルアスリートに対する個別合宿や地元訪問、練習視察等、コーチとの連携も図ってきた。それにより、日常練習と代表チームの一貫した強化体制が構築できたとと言える。



3. 次回大会に向けて

パリ大会での成功要因をLA2028に繋げるためには、現在の強化拠点の機能を維持しつつ、よりハイパフォーマンスな体勢の構築が必要である。そのためには、LA2028サイクルを留まることなく強化し続けられるよう固定したスタッフの配置が必要である。JPCの専任コーチ制度が毎年予測しにくいことから、この制度に頼ることが大きなリスクにもなっている。また、東京大会以降はスポンサーも半減していることから、独自に新たな手段や制度の構築に取り組むことが必要となって来ている。安定したメダル獲得を目指すために、複数のメダルを獲得するマルチメダリストの育成も重要である。2026年には愛知・名古屋アジアパラが開催されることから、幅広いクラスでの選手育成を行い、アジアパラからLA2028につながる選手育成を前提とした強化活動を計画していくことが必須である。

最後に、この度のパリ2024パラリンピックに向けて、関係の皆様には多大なるご支援とご協力を賜りました事、心より御礼申し上げます。有観客の熱狂的な声援を受けた今大会は、人々の行動変容に繋がるきっかけを作ってくれたと確信しています。その一員として水泳チームが貢献できた事は、真の共生社会に繋がる一助になれたと感じます。今後もパラスポーツの発展に寄与して行けるよう、引き続きご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

卓球 報告 (身体)

8月29日から9月7日まで行われた本大会において、肢体不自由者卓球競技は男子シングルス5名(クラス4・2名、クラス7、クラス9、クラス10)女子シングルス1名(クラス8)、ダブルス3組(男子クラス8、男子クラス18、混合クラス17)が出場し、シングルス4種目入賞、ダブルス1組入賞という結果となった。強化プランにおける目標はシングルス・ダブルス種目ともにメダルと掲げていた為、目標を達成することができず大変不本意な結果で終わってしまったといえる。

大会に備え7月11日を皮切りに事前合宿を計4回行い出場各クラスにおける対戦相手のビデオ分析対策を行いつつ母体コーチの協力のもと練習を重ねた。大会には出場が叶わなかった国際大会派遣選手も大会事前合宿に招集し、練習相手として技術練習やビデオ分析に協力を求め目標達成に向けて共に士気を高めていった。また、パラリンピック競技大会という特別な大会における準備として「チームの心得」のしおりを作成し、現地で必要な基本情報や試合までに必要な心技体智の準備に対する注意等をまとめて事前ミーティングを行った。個人競技であ



るとはいえ参加選手やスタッフア krediyteshonが限られている中でクラスの異なる選手同士での練習をする必要もあり、互いの協力は不可欠である。『挑め、自分史上最強。』のスローガンを達成するべく卓球チームJAPANの醸成に取り組んだ。

パリへは大会3日前に到着し現地調整を行った。大会側より公式練習時間の通達があり、その時間帯のみでの練習となったが、本会場での練習も行い選手全員が本番の卓球台および会場の雰囲気の中で練習することができた。パラリンピック競技大会の出場経験のある者となない者がいたが、パラリンピックという独特の雰囲気の中で「いつも通り」のパフォーマンスを発揮するために必要な準備を食事時やケア等何気ない時間の中で伝えていった。

大会はダブルス種目から始まり、初戦はほぼ全選手が緊張した面持ちで会場内の声援や盛り上がりの歓声に多少なりとも動揺し「いつも通り」の実力が出せたとはいえないと感じた。気持ちを切り替えて臨んだシングルスではベスト8決定戦から始まったが、勝利することができなかった選手は良い心理状態で試合に入ることができ格上選手に対して善戦したが力及ばずとなってしまった。準々決勝に進んだ4名の選手は対策練習の効果もあり、心の動揺もなく戦うことができたが、メダル決定戦においてあと一步のところまで勝利に繋げることができなかった。

メダルを目の前にして手にすることができなかったことが大変悔やまれるが、その敗因として、海外選手と比較すると日本人選手は緊張感の高まる試合でのパフォーマンス発揮が苦しい印象がある。諸外国選手は注目される試合や歓声の多い試合での自身の乗せ方がとても上手だと感じるが、日本選手はそれに反比例して萎縮してしまう。ここからの脱却を図りたい。メンタル面の強化は大会事前合宿からの短期決戦では難しく、日常からの継続強化が重要であると感じた。心のバランスが崩れることで選手が積み上げてきたパフォーマンスを発揮できないことがないように、今後の強化プランで改めて立て直していきたい。また車いす、立位ともにクラス上位(C4-5, C9-10)になると諸外国選手と比較して体格差が顕著となる。骨格の違いはやむを得ないが、それを補うための筋力トレーニングや体づくりのための栄養指導にさらに取り組み、技術や戦術に繋げられるよう計画的に進めたい。

事前合宿期間中よりJPCの方々には激励していただき、大会期間中も村内外で素晴らしい環境を提供していただいた。選手たちがパフォーマンスを発揮できるようリラックスできる環境を整えていただき心から感謝している。次回パラリンピックでは目標を達成できるよう選手・スタッフ一丸となり尽力していきたい。



(知的)

今大会では女子で初の金メダル獲得、同時に銅メダルも獲得でき、歴史に残る大会となりました。代表権を獲得するまで苦しい戦いを乗り越えて女子2名、男子1名が出場権を獲得することができ、「メダル獲得」の目標に対して結果を残せたことは、選手の努力だけでなく様々な方のサポートのおかげだと感じております。

現地では、試合の準備を十分に行うことができた状態で試合に挑めたことが結果に大きく影響していると感じています。初出場の和田選手は思い切りの良いプレーを発揮し見事優勝、東京大会の経験があるパラリンピック2回目の古川選手も悲願の銅メダル獲得、3大会連続出場を果たした竹守選手、3選手ともが素晴らしいプレーを発揮してくれました。また、コンディショニングトレーナーの方にも帯同いただけたことで選手、コーチとも非常に心強く、練習や試合に集中できました。

なにより選手の背中を押してくれるような心温かい応援を日々届けてくれた会場の観客の方々に感謝しております。初めは大きな歓声に圧倒され、選手も緊張感が増している様子でした。試合が始まるまでの間に観客の声援を感じ、慣れていった結果、選手の勢いもついてきて歓声をパワーに変えてプレーできていたのではと感じています。

選手のコンディショニングは、個々に合わせた状況で試合までに完成度を高めて準備できていました。和田選手の初戦は初めてのパラリンピックということもあり、プレーを見ている方も非常に緊張している様子が伝わってきました。準決勝の世界ランキング1位の選手との対戦では、直近の大会で負けていたこともあり重点的に対策練習に取り組んでいました。終始向かっていく気持ちが前面に出ていて、和田選手の良さを出し切れた試合だったと感じています。決勝では初めて戦う選手でありましたが、落ち着いた姿勢で取り組むことができ、見事優勝を果たしてくれました。初戦から試合前に涙することも多くありましたが、選手自身切り替えて試合に挑む調整ができていたと感じています。日頃からパリパラリンピックへの調整準備ができていたからこそこの結果だと思います。

古川選手の準々決勝は何度も対戦している選手だっただけに、非常に緊張している様子が見て感じられましたが最後は落ち着いて押し切ることができ、準決勝の相手は東京パラで優勝している選手でした。粘りが得意なカットマンという戦型で、終始慌てることなく粘り続けることができていました。相手も焦りを見せるほどの接戦でありましたが、最後は相手のペースに持ち込まれ、敗戦となりました。結果銅メダルではありましたが、「自分の中では金メダルです」という選手のコメントをいただきました。準決勝で敗退した後もすぐに切り替え、和田



選手の決勝を全力で応援している姿を見て、この悔しさを乗り越えて今後チャレンジしてほしいと思います。

竹守選手の初戦は世界ランキング1位の選手と対戦でした。直近の大会でも負けている選手でしたが直前まで相手を意識した練習メニューに取り組み、試合に対する事前準備はできていましたが相手の勢いにのまれ、敗退となりました。世界最終予選で優勝者のみ代表権を獲得できる、というなか非常に困難な状況でありながらも獲得した代表権でした。パリパラリンピックに出場する過程をみて、竹守選手の努力が報われたと思います。

今後はこの結果が途切れることなく、さらに良い結果を出せるように強化に努め、今大会の良い流れを若手選手にも引継ぎ、良い流れを受け継いでいきたいです。また、少しでも多くの方々に知的卓球を知り、認知していただき、選手の頑張りや知的卓球の楽しさがより多くの皆様に伝わるといいなと思っています。

最後になりましたが、JPCの皆様、関係者の皆様には現地のみならず大変お世話になりました。たくさんのサポートがあってこそ今回の結果だと感じております。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

テコンドー 報告

パリ2024パラリンピックは2024年8月28日に開会し、テコンドー競技は8月29～31日の3日間の日程で実施された。テコンドー日本代表選手として田中光哉(男子-58kg級)、工藤俊介(男子-70kg級)の2名が出場した。また日本選手団スタッフとして作田武俊(監督)、大出剛太郎(トレーナー)の2名、村外スタッフとして山本健盛(コーチ、練習パートナー)、村上亨来(コーチ、練習パートナー)の2名が参加した。

テコンドー競技初となる、メダル獲得を目標として掲げ今大会に臨んだが、工藤俊介が5位入賞、田中光哉が7入賞とメダルを逃す結果となった。

以下、今大会における選手選考、スタッフ選考から事前準備、大会を通しての総括を報告する。

選手2名は、世界ランキング6位以内でのパリ2024パラリンピック出場権を獲得したため、当協会が定めた「パリ2024パラリンピック日本代表選考基準」に基づいて選考された。

スタッフは、現場での総務と競技のコーチングを担当可能な作田武俊を監督として選出、怪我リスクが高い競技のためトレーナーが必須であり、選手のコンディションに理解が深い大出剛太郎をトレーナーとして選出した。

また、村外スタッフとして、ヘッドコーチの山本健盛を広報兼大会前練習パートナー役で選出。男子担当コーチの村上亨来



を、映像分析スタッフ兼試合前日選手のサポート役として選出した。

事前準備としては全5回の強化合宿と2度の国際大会出場を軸に強化を行った。

JISS-NXを用いた映像分析を基に戦略を立案し、合宿では対戦国の対策に多くの時間を費やした。

対戦予想国の欠損情報、構えの方向、得点・失点パターンを分析し対応策の反復連続練習を行うとともに、オリ選手を練習パートナーとして招聘し実戦練習やスパーリングでの戦術確認を行った。

最終合宿以降は、心身の調整を最重視した。格闘系の種目でもあり、従来は試合に向けて緊張感をつくっていくことが多かったが、今回は大会や自身のパフォーマンスを楽しむことをテーマに掲げ、リラックスして本番を迎える雰囲気づくりを心掛けた。

選手村入村以降も、有意義な準備が行えた。テコンドー競技は村内に専用練習場があり、移動の手間なく練習を行えた。

また、JSCの村外拠点でコンディショニングの上でとても有効であった。主に交代浴を利用し、疲労の回復と減量を同時進行で行え、選手の心理的にもリラックスできたとの声が上がっていた。加えて、日本食の提供も栄養面、減量面で助かった。

大会初日となる8月29日は男子-58kg級のトーナメントが行われ、田中光哉が出場した。初戦のネパールには19-3のスコアで大勝したが、続く準々決勝ではアゼルバイジャンに5-6の1点差のスコアで敗退、続く敗者復活1回戦もスペイン相手に7-8のスコアで敗退となった終盤に粘りを見せるも追い上げが届かなかった。

翌30日の大会2日目は、男子-70kg級のトーナメントに工藤俊介が出場し、準々決勝にて、最終的に今大会の銅メダルを獲得したアルゼンチンに延長の末勝利するも、準決勝ではトルコに10-15で敗退。その後の3位決定戦ではメキシコに3-5のスコアで惨敗しメダルを残した。

両選手ともに、発パフォーマンスは過去最高のものであったが、メダルにあと一歩及ばずであった。ポジティブに捉えるのであれば、前回東京大会から1つずつ順位が上がり、敗退した試合の内容も接戦であった。しかし、接戦を落としメダル獲得を逃した事実は大きい。

ディフェンス面の戦略は機能しており、対戦国の攻撃を封じる作戦通りのパフォーマンスを発揮することができたが、オフェンス面でのバリエーションの少なさが敗因であった。

また、東京大会以降の中期的計画な部分の反省点として、今大会に向けてパラリンピックランキングでの出場権獲得を目指し国際大会出場を最優先としたことで、腰を据えての強化期間が少なくなってしまった事があげられる。

今大会に向けての3年間の計画としてシード枠での出場を権獲得するなど成功した部分もあるが、ロサンゼルス2028パラリンピックに向けては国際大会の出場と合宿などの強化のバランスをより綿密の計画する必要がある。

今大会の反省を活かし、ロサンゼルス2028パラリンピックではバラテコンドー競技日本初のメダルの獲得をする。

トライアスロン 報告

1. 出場枠の獲得

男子3名、女子1名が出場枠を獲得し出場した。そのうち男子1名、女子1名がランキング上位者に与えられる国別出場枠で、残る男子2名はバイパルタイト選出枠での出場となった。

パラリンピック・クオリフィケーションランキング (PQR) のポイント対象大会は2023年7月1日から始まり、当初は前者枠で4名程度、後者枠で2~4名程度獲得できる可能性を考えていた。しかし、最も高いポイント設定の2023年世界選手権で多くの選手が入賞を逃しポイントを取りこぼしたこと、2024シーズンに入ってからコンディション不良が長引き想定していた結果を残せなかった選手がいたことなどから、上述の出場枠の獲得に留まることとなった。

これまでも通常ランキングより世界選手権での結果が選手の競技力を反映しており重要と考え、毎年の世界選手権で結果を残すことを目標に計画を立てそれに即した活動を実現させるようにしてきた。PQRの対象に関わらず目標とする大会で目標とする結果を残すこと、各大会に設定した目標に対して相当の結果を残せることが必要である。もちろんコンディション不良も大きな要因ではあるが、今回はそれを実現してこられなかったことが、当初想定していた出場枠を確保できなかった理由と考える。

2. 大会へ向けた準備

当該シーズンに入ってコンディション不良が続いた選手に加え、直前(約2か月前)にコンディション不良に陥った選手がいた。それでも各選手とも当初から掲げていた各自の目標に向かって可能な活動は継続できていたため、スタッフを分散させて各選手に応じた事前合宿等を組み本大会へ臨むこととした。チームとしてその時可能であったサポートは実施できたと考える。一方、選手、スタッフが分散したことで、チーム内の切磋琢磨や士気の上昇、スタッフによる集中的なサポートなどが不足し、チームとして戦う準備が整えられていなかったかもしれない。また、スタッフ不足は否めない。異なるクラスの選手がいればトレーニング環境、内容も考慮する必要がある。以前から課題であったがそれに対応できるだけのスタッフを充当、育成できず、今後一層、地域やオリ・パラ・マルチの連携を進め



る取り組みや、他競技との協力を含めて考える必要がある。

渡仏後は、オリンピックチームの活動をサポートした現地在住スタッフと海外在住スタッフがチームに加わった。そのスタッフらのサポートやオリンピックチームからの情報があつたため、パリ近郊で実施した事前合宿や選手村入村後でも、選手・ガイドのストレスを最小限に抑え調整ができていたと考える。事前合宿地はオリンピックチームからの情報をもとに、現地在住スタッフを中心に1年前のテストイベントやNPC Visitから下見、確認、交渉を進めてきていたため不自由なく進められた。

3. レース結果

金メダル1を含む複数メダルの獲得とその選手らを含む入賞4の目標を掲げて臨んだが、メダル0と入賞1の結果に終わった。

世間でも会場となるセヌ川の環境に注目が集まっていたが、選手からは水流に対する意見以外は出なかった。その水流への対応について、IFの事前説明会の際に従来通りのプランAと水流の影響を少なく変更するプランBが提示された。渡仏時には後者の可能性が高いと考える選手が多いと感じていたが、実際はプランAで実施された。また、当初2日間のレース日が1日間に、レース実施予定日の当日早朝に翌日への延期が決定されるなど、どの国の選手にとっても同条件ではあるが、特に心理的な準備に影響を及ぼす幾つかの要因が生じた。コンディションに不安なくしっかりとテーパリングまでできていた選手にとっては、レース遂行にさほどの影響とはならなかった一方、不安を抱えていた選手には大きな負の影響となっていたことは否めない。しかしながら、今回は出場枠を獲得する前から直前のコンディショニングの善し悪しそのまま結果に反映されたと考えられる。本大会で各選手が目標を狙えるトレーニングができる状態であったか、全てはそこに集約される妥当な結果と考えるべきだろう。

最後に、本大会へ派遣いただいた全ての関係者の方々、対応や判断が難しい環境の中レース実施へ導いていただいた全ての関

係者の方々、一緒に本大会を目指してきた全ての選手、スタッフ、関係者の方々に心より感謝申し上げたい。

車いすバスケットボール(女子) 報告

本大会前に事前合宿をオランダで行い、時差等の環境への対応と、世界ランク1位のチームとの練習試合を2試合行い、最終調整をしてから入村した。

選手村では、生活環境に問題はなく、練習会場が選手村内にあったことは非常に利便性が高く、時間調整等がしやすかった。また、食事面でも選手村の食堂のみならず、村外拠点の活用や、「味の素」様のサポートで体調管理しやすい状況であった。

試合においては、次のゲームプランで臨んだ。

<パリパラリンピック ゲームプラン>

(1) ディフェンス 50点以内

- ・コンタクトの強度を上げる(特にボールマンの動きを止める、バナナカーブ)
- ・ディフェンスポジションの精度をあげる(インライン、ホイールポジション、ボールカットに手を出さない)
- ・マークマンレシオの確認(マッチアップ60ランナー30ヘルプ10)
- ・オフENSEの戦略を読む(スレット、展開、スコアラー)
- ・トランジション(特にターンオーバーしたとき)
- ・ファールを怖がらない(バスカンでなければFTの方が良い)
- ・40分間コンタクトし続ける。
- ・オールコートマンツーマン(No.コール早く、一人1枚、マッチアップ)
- ・シャドウ(ラインができればシャドウ、ラインを崩してコンタクトに行かない)
- ・カップ(両サイドを簡単にキーに降ろさない)
- ・キー(2on2が基本、ピックにかかる時にヘルプ、ヘルプとベースの受け渡し、4tnマンは慎重に、45がジャンプ)
- ・BOX OUT(ボールよりマークマンセカンドチャンスを渡さない)

(2) オフェンス 60点以上

- ・フリーショットを優先
- ・プレスブレイク(インバウンダーとの距離をあげる、クロスしてピックアウト、中央を開ける、オフボールにクロス)
- ・セットプレーの積極的導入(UCLA CUT、HORNS、SPAIN PIC、X、ドイツ、オージー、GB、スプレッド アイソレーション、インバウンド時のセットプレー、リードの指示を速やかに、リードにボールを早く渡す)
- ・ピック&ロール、シール、スクリーンロールの精度向上(しっかり掛ける。ピッカーに使ってもらってから動く)



車いすフェンシング 報告



- ・クロッシングとピックアップの徹底（スペースが十分確保できるまで我慢）
- ・シュートフェイクの活用（ジャンプアップを翻弄する、アウトナンバーを作る）
- ・バスケットに向かう強い姿勢（ディフェンスを怖がらない）
- ・ピックアップしている時は、3on3、4on4で攻めきる
- ・3Pアテンプトを効果的に
- ・ターンオーバー9本以下

<試合結果>

(1) 予選リーグ

- ・対NED 34-87
「オフェンスでショットの確率が上がってこない苦しい展開になったが、ターンオーバーが10本とミスの少ない攻撃が出来ていた」
- ・対GER 55-67
「前半は10点を追いかける展開。後半はリズム良くし点差を詰ることができた。TOを17個取るなどディフェンス面が良いゲームだった」
- ・対USA 52-62
「アメリカに2P(48%)とFT(64%)で確率を上回り、最終10点差で終わったのは決勝トーナメントに向けて手応えがあった」

(2) 準々決勝 対CHN 50-62

「2Pの確率も45%となっているため、3Pを効果的にカウントすることが出来ると十分戦える手応えはあった」

(3) 5-8 対GBR戦 55-67

「後半入りの10点差が詰めきれなかった。結果は12点差であったが、十分戦える実力があることを証明できた」

(4) 7-8 対ESP戦 72-55

「全員出場して70点を超えるゲームができたことは、選手個人と、チームが大きく成長していることであり、未来に繋がるゲームを最終戦でできたことは大きな自信となった」

チーム発足当初の目標である金メダルには届かなかったが、「オフェンス80点、ディフェンス60失点」の数値目標に限りなく近づいたことは、評価できる。選手たちが、目標を見失うことなく精進を続け、迷うことなく進み続けた結果だと思う。最終戦にいつものプレーを発揮し、自分たちのバスケットを皆様に余すことなく表現してくれた選手たちを誇りに思う。

今大会出場に際し、ご支援やご声援をいただきました全ての関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

1. 全体統括

今大会は、選手4名（男子3名、女子1名）、スタッフ2名（監督1名、コーチ1名）の総勢6名の参加になりました。

今大会では、予選リーグがないトーナメントによる初めて導入された試合方式でした。メダル獲得を目標にしていたが、結果として、個人では櫻井選手が女子カテゴリ-Bで5位入賞、男子フルレ団体で6位入賞を含む4つの入賞を収め、メダル獲得はなりませんでした。今大会を総括すると、目標には届かなかったものの、入賞した選手はいずれも強豪国と対等に渡り合うことができていると、東京大会より進歩しているといえます。これは東京大会以降も、選手がそれぞれの環境で努力を積み重ねてきていることや、HPSCでの重点的な強化が実を結んでいると考えております。今後はロス2028大会に向けて、さらなる全体の底上げを図るとともに、日本選手の小柄な体型の特性に合った車いすフェンシングスタイルを確立していきたいと考えております。大会通じて、JSC、JPCの皆様には多大なるサポートを頂き誠にありがとうございました。選手・スタッフを代表して厚く御礼申し上げます、結びの挨拶とさせていただきます。

2. 各選手の試合報告

(1) 加納慎太郎

サーブル個人戦では、8位入賞しました。普段は決してサーブル種目の環境が整っていない状況で練習していましたが、格上の選手に勝利するなど、今回の入賞は大健闘したといえます。今後、サーブルの練習環境の改善によって競技力の向上が期待できます。

フルレ個人戦では、最終順位10位でした。加納は日本のフルレのエースあるため、フルレは上位に食い込めると考えていましたが、本来の調子が発揮できていないような印象でした。

エペ個人戦では、初戦で同じ日本人選手の安直樹と対戦し、試合途中はリードしている場面も見られましたが、最終的に逆転を許し敗れました。今後は技術力の高さを活かし、有効面が近い小手先のエリアを狙えるように攻撃を組み立てていけると競合相手にも十分に勝負ができると考えます。

(2) 安直樹

フルレ個人戦では、1回戦でポーランドのベンデルに15-10で敗れました。今後は攻撃を決める際の技の精度を上げているように更にトレーニングを積んでいくことで、競技成績の向上が期待できます。

エペ個人では、初戦で、同じ日本人選手の加納と対戦し、序盤は集中力を欠き、リード許しましたが、後半では本来の動き





を取り戻し逆転に成功し、勝利しました。続くトーナメント16では、イタリアのデ・ロッシと対戦し、素早い攻撃によってポイント練習されるなど、圧倒され、敗退しました。今後は、基本的なフィジカルを強化していくことで、パフォーマンスの向上が期待できます。

(3) 藤田道宣

フルーレ個人戦では、初戦に中国のフェングと対戦し、序盤は得意なパターンで得点を決めるなど競っていましたが、中盤から相手のペースを奪われ、最終的に15-8で破れました。敗者復活1回戦では、ポーランドのカストロに15-5と圧倒しましたが、続く敗者復活2回戦でタイのキンマナウに15-9で敗れました。

エペ個人戦では、初戦でタイのキンマナウと対戦しました。途中で良い攻撃が決まった場面もありましたが、試合中の重要な場面で相手にポイントを決められてしまい、徐々に点を離され、15-5で敗れました。また敗者復活戦でもウクライナのナウメンコと対戦し、調子が上がらず、15-4で敗れました。

藤田はカテゴリ-Bの中でも障害レベルが不利であった中、健闘したといえます。今後は自身のフェンシングのみならず、対戦相手のフェンシングの戦術、動きの癖などを徹底的に研究し、相手の戦術を上回るような試合展開をしていくことが期待されます。

(4) 櫻井杏里

櫻井は東京2020大会終了後から実戦の経験不足だった「引き腕でない左腕」でのフェンシングに慣れる事、そして技術を向上させる事に集中してきました。パラリンピック君本番ではフルーレの準決勝でランキング1位のタイ選手と接戦14-15で敗れました。この点において、対戦相手が世界ランキング1位でしたが、技術的な差はなかったと感じます。しかし、経験値の面、精神的な面では圧倒的にタイ選手が優勢で、櫻井はこの経験値と精神力において多くの課題を残しました。

今大会では残念ながらメダル獲得の目標を達成できませんでしたが、東京パラリンピックの成績を上回る事ができました。次のロス2028大会でメダル獲得を目標に再度上げるならば、技術力の向上、精神面での強さ、今まで勝てた事のないランキング上位と対戦して勝利する経験、ワールドカップでの金メダルの獲得、更にはそれらを含めて目標を「パラリンピックで金メダル獲得」と掲げられる自信が必要です。この経験を活かして今後の4年間を上記の必要事項の達成に向けてトレーニングを続けてもらいたいと考えます。

(5) 団体戦

男子フルーレ団体は、ホスト国で今大会銅メダルを獲得したフランスとベスト4をかけて対戦しました。序盤こそ、リードした場面はあったものの、ホスト国寄りの判定もあり、重要な

場面でポイントを連取され、リードを許す展開となってしまいました。途中で巻き返しを図れた試合はあったものの、最終的には追いつけず敗退しました。

男子エペ団体は、ベスト16で格上のイタリアと対戦しました。エペのエースである安を7番手に起用し、終盤の大逆転を狙いましたが、序盤からのそれぞれの失点の積み重ねが響き、最後まで点差を詰めることなく45-34で敗れました。

今回の団体戦では、2種目とも厳しいシード順位からのスタートとなりました。ロス2028大会に向けて、まずは着実に団体戦での実績を積み重ねて自信をつけ、メダル獲得を目標にできるようなチームづくりをしていきたいと考えております。

車いすラグビー 報告

出場国はアメリカ・イギリス・デンマーク・日本・フランス・オーストラリア・カナダ・ドイツの8カ国。2つのリーグに分かれて予選を戦い、上位2チームが決勝トーナメントに進出。日本はプールA。ドイツ、アメリカ、カナダの順で戦う。

初戦のドイツ戦は全体的に硬さを感じる内容だったが、考えすぎて空回り、焦りや苛立ちからの強引なプレーというパターンに落ちらず、悪いなりに安定して終える事が出来た。他国も初戦は全体的に硬さを感じる内容だった。

アメリカ戦ではピリオド終了直前にラストゴールを取り返されるプレーもあった。しかしその後も動揺せず、落ち着いてプレーできていた。

カナダ戦は良い流れで展開していったが、安定感を望むラインナップ(選手)に交代する事で点数のリードを失っていく。現状で日本が抱える個人のメンタル的な悪い部分が出てしまう。不調な選手に関してそれでも出せる場面が作れないか検討したが大会後半は使用を断念した。3戦3勝で予選一位通過する。

クロスオーバー(準決勝)ではオーストラリアと対戦。接戦



であったが諦めることなく粘り強いプレーを続け、延長戦の末に勝利。

決勝戦はアメリカと再戦。1ピリオドは3点ビハインドで終了したが、その後は逆転すると共にじりじりと点差を付けて勝利。金メダルを獲得した。

(1) 基礎練習と理解の向上

「2on2」「スペース」など細かい意識した基礎練習を重ね、ビデオミーティングで戦術理解の向上を図ることにより成果が出たと考える。しかし、「キアタック」の成功率は数値的には上々だが、タイミングのズレやパスの精度には課題が残る。

(2) チームビルディングの成果

合宿ごとにチームビルディングを実施したことで、選手同士の会話や笑顔が増加した。内部および外部からも好意的な評価が集まり、選手同士のコミュニケーションがコート内外で増加した事が良い結果に繋がったと思われる。

(3) 平常心の重要性

本大会では「勝ちに行く」ではなく、「いつも通りのプレー」を心がける声掛けが見られた。練習の積み重ねを信じる姿勢が安定感、諦めない事に繋がったと考える。

しかし、選手やスタッフ個人のメンタル面にはまだ改善が必要と感じており、今後は次世代メンバーも含めた心理的なサポートの導入を予定。

車いすテニス 報告

1. 大会結果

強化戦略プラン上の目標は、男子シングルス1位、男子ダブルス3位以上、女子シングルス1位、女子ダブルス2位以上、クアードダブルス3位以上であった。クアードクラスにおいては、残念ながら日本人選手が出場枠をつかみ取ることができず、今大会は参加ができなかった。しかし、男子と女子クラスでは出場全4種目においてメダル獲得を達成することができた。また、その内容も金メダル3個と銀メダル1個という輝かしい成績であった。

本大会のシードが決まる8月26日付のITFランキングだけで見ると、男子シングルス小田選手2位、男子ダブルス小田・三木ペア2位、女子シングルス上地選手2位、女子ダブルス上地・田中ペア2位であった。ITFランキングだけみても、今大会の結果は、予想を上回ったと言える。更にその他のデータも加味してみると、男子小田選手とITFランキング1位アルフィ選手の過去3年の対戦成績は、7勝10敗と小田選手が負け越している。しかし、

2023年6月全仏以降の対戦成績は6勝2敗と直近1年では大きく勝ち越している。このことから小田選手の金メダル獲得は、データ的には妥当と言えるのではないか。女子上地選手とITFランキング1位ディーダ選手の過去3年の対戦成績は、1勝16敗と大きく負け越していて、その勝率は5.9%であった。更に女子シングル



スとダブルス種目は、車いすテニスがパラリンピックの正式競技種目となった1992年バルセロナ大会からオランダが1位を独占してきた種目であり、その牙城をどの国も30年間崩せずにいた。これらのことから上地選手のシングルス金メダル獲得は、データからは予想を大きく上回った結果であったと言える。男子及び女子ダブルスについては、ペアの経験数においてランキング1位の男子イギリスペアと女子オランダペアに日本チームペアは大きな差があった。男子ダブルスランキング1位アルフィ・ゴードンペアは、過去3年アルフィ選手が出場したダブルス38大会中30大会でゴードン選手とペアを組んでいて、グランドスラムなどのビッグタイトルも獲得している。一方で小田・三木ペアは、過去3年小田選手が出場したダブルス34大会中12大会で三木選手とペアを組んでいるが、グランドスラムなどのビッグタイトルの獲得経験はない。女子ダブルスのほうは、ランキング1位ディーダ・アニックペアは、過去3年ディーダ選手が出場したダブルス38大会中23大会でアニック選手とペアを組んでいて、こちらもグランドスラムなどのビッグタイトルを獲得している。一方上地・田中ペアは、過去3年上地選手が出場したダブルス45大会中アジパラ1大会のみペアを組んで優勝を果たしている。これらペア経験の差からも男子・女子ダブルス両種目において、データとしては日本チームの2位が妥当であると思われるが、女子ダブルスの結果ではそれを上回った。

女子のシングルス・ダブルスでは徹底したオランダ対策を実施したことが、このような好成績に繋がった要因の1つになったのかもしれない。女子シングルスでは、ITFランキング1位ディーダ選手のプレーの傾向を過去の試合データから分析して日本人選手へフィードバックした。女子ダブルスでは、事前合宿の中でコーチ陣が仮想ディーダ・アニックペアとなり、動きや打球を似せて疑似対戦を繰り返した。時間がない中での対策であったためオランダに的を絞る形となったが、逆にそれが功を奏したのかもしれない。

2. 事前合宿

男子チームは、日本テニス協会のNTCを借りて約10日間の合宿を行った。女子チームは、フランス南部にあるアグドという町にて約1週間の合宿を実施した。両合宿ともパーソナルコーチを参加可能とし、結果的に全選手のパーソナルコーチが合宿に参加した。合宿の中では、大きく2つに練習内容が分けられていて、シングルの調整はパーソナルコーチと選手が主体となって進めて、ダブルスの練習はナショナルコーチが選手とそれぞれのパーソナルコーチを包括的にまとめながら主体となって進めた。客観的に選手たちのシングルス練習を横並びで観察してみると、上位ランキングの選手の方が練習強度が高く、

また練習時間も長いように見て取れた。また、集団行動を苦手とする選手からすると合宿にいることだけでストレスになっているようにも感じた。しかしながら本番のパラリンピックは日本選手団、更には日本車いすテニスナショナルチームと集団行動の中で競技が開催される。本番に向けて集団行動に慣れることも重要なパラリンピックに向けた準備の一つであることを痛感した。

3.JWTAハウス

今大会、車いすテニスナショナルチームとして新たに取り組んだことの一つに村外スタッフのサポート拠点となるハウスを設置したことである。当初予約していたホテルでは部屋数が足りなくなったため、せっかくならということでAirBnBを通してリビングが広く競技会場に近いアパート1室を借りた。ここは村外スタッフのミーティングポイントとなるだけでなく、試合終了時間が遅くなりJSCサポートセンターが使用できない選手がこのJWTAハウスに立ち寄りトレーナーのケアを受けて選手村へ戻るという使い方もできた。このハウスがなかったらスタッフ間のコミュニケーションを取る場所を毎回設定しなければならなかったであろう。

資料

パリ 2024 パラリンピック競技大会 日本代表選手団編成方針及び選手・スタッフ選考基準

公益財団法人日本パラスポーツ協会
日本パラリンピック委員会

1. 日本代表選手団編成方針

日本代表選手団は、パラリンピックムーブメントの推進に寄与するとともに、社会規範を遵守し、公平性・誠実性・協調性に基づき行動できる選手・スタッフをもって編成する。

2. 日本代表選手・スタッフ選考基準

(1) 選手選考基準

選手は、所属する競技団体が定めるパリ 2024 パラリンピック競技大会日本代表選手選考規程に基づき選考され、競技団体の理事会承認のもと JPC に推薦された者で、以下の基準を全て満たす者とする。

- ①パリ 2024 パラリンピック競技大会の参加資格を満たしている者
- ②医学的観点から日本代表選手として推薦できる者
- ③メダル獲得または入賞の可能性のある者

(2) スタッフ選考基準

スタッフは、所属する競技団体が定めるパリ 2024 パラリンピック競技大会日本代表スタッフ選考規程に基づき選考され、競技団体の理事会承認のもと JPC に推薦された者で、以下の基準を全て満たす者とする。

- ①障がいの種類・程度や性別等に配慮するとともに、自らの役割を適切に果たし、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようにサポートできる者
- ②健康面において派遣に支障がないと競技団体が認めた者

3. 選考・決定手順

以下のア～オの順に審査を行い決定する。

ア 競技団体は、候補者リストを JPC に提出する

イ JPC 強化本部および日本パラスポーツ協会医学委員会は、前記選考基準に基づき候補者を審査する

ウ JPC 運営委員会は、審査結果に基づき日本代表選手・スタッフを決定する

エ JPC は、推薦のあった競技団体へ結果を通知するとともに公表するオ JPC は、日本パラスポーツ協会理事会に結果を報告する

4. 不服申し立て

選考結果に対する不服申し立ては、公表後7日以内に、競技団体を通じて文書により行われたものについて受理し、日本パラスポーツ協会内に設置する不服審査委員会により処理する。なお、日本スポーツ仲裁機構「スポーツ仲裁規則」に従ってなされる仲裁は、それに従う。

パリ 2024 パラリンピック競技大会 日本代表選手団 主要日程

年	月	日	内容
23	8	25-29	団長セミナー
23	9	4-7	ワールドプレスブリーフィング
23	11	12-17	NPCビジット
24	3	6	日本代表選手団団長の発表・記者会見
24	5	3	選手団アクレディテーション申請期限
24	5	15	メディアアクレディテーション申請期限
24	6	28	国際要人アクレディテーション申請期限
24	7	4	日本代表選手団発表(第1次)
24	7	16	日本代表選手団 結団式・記者会見
24	8	1	日本代表選手団オリエンテーション(選手向け)
24	8	2	日本代表選手団派遣前連絡会議(コーチ・スタッフ向け)
24	8	5	スポーツエントリー締め切り
24	8	18	選手村プレオープン
24	8	21	選手村公式オープン
24	8	28	開会式
24	9	8	閉会式
24	9	10	選手村クローズ
24	9	11	内閣総理大臣表敬訪問・感謝状贈呈式、文部科学大臣表彰式
24	9	25	パラリンピック特別賞(報奨金)贈呈式
24	11	30	TEAM JAPAN応援感謝イベント

パリ 2024 パラリンピック競技大会 日本代表選手団派遣にかかわる公式行事・式典等の概要

1.日本代表選手団第一次発表(プレスリリースのみ)

(1) 日時 2024年7月4日(木)

2.オリエンテーション／派遣前連絡会議

■オリエンテーション

(1) 日時 2024年8月1日(木) 18:00～19:30

(2) 場所 オンライン開催

(3) 参加者 日本代表選手団 選手

■派遣前連絡会議

(1) 日時 2024年8月2日(金) 18:00～20:00

(2) 場所 オンライン開催

(3) 参加者 日本代表選手団 コーチ・スタッフ等

3.結団式・記者会見

(1) 日時 2024年7月16日(火)

結団式：14:00～15:45 記者会見 16:15～16:50

(2) 場所 帝国ホテル

(3) 参加者 日本代表選手団 選手117名、スタッフ80名
報道関係者42媒体106名

■次第(第1部)

プログラム	内容
開式通告	
パラリンピック賛歌演奏	
登壇者紹介	
国歌斉唱	
主催者挨拶	公益財団法人日本パラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会 会長 森 和之
日本代表選手団紹介	
団旗授与	
おことば	秋篠宮皇嗣殿下
ご来賓挨拶	文部科学大臣 盛山 正仁 様 駐日フランス大使 フィリップ・セトン 様
日本選手団 団長挨拶	日本代表選手団 団長 田口 亜希
閉式通告	

■(第2部)

プログラム	内容
オープニング・開式通告	
岸田内閣総理大臣からの激励ビデオメッセージ	
来賓祝辞	
祝電披露	
日本代表選手団への応援ビデオメッセージ	JPC オフィシャルスポンサー8社の各社社員の皆様から、日本代表選手団への応援メッセージ
スローガン発表	
団長謝辞	日本代表選手団 団長 田口 亜希
閉式通告	
フォトセッション	

■記者会見

開会	
登壇者紹介	
団長コメント	団長 田口 亜希
副団長コメント	副団長 中澤 吉裕、井田 朋宏
旗手コメント	旗手 石山 大輝(陸上競技)
旗手コメント	旗手 西田 杏(水泳)
質疑応答	
フォトセッション	
会見終了	

4.大会終了後の公式行事(政府主催)

①内閣総理大臣表敬訪問

日時:9月11日(水)

場所:総理官邸

②内閣総理大臣感謝状贈呈式(オリパラ合同)

日時:9月11日(水)

場所:総理官邸

③文部科学大臣表彰式

日時:9月11日(水)

場所:文部科学省

5.パラリンピック特別賞(報奨金)贈呈式

(1) 日時 2024年9月25日(水)

(2) 場所 ロイヤルパークホテル

(3) 次第 主催者挨拶 公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会
会長 森 和之

団長挨拶 日本代表選手団団長 田口 亜希

報奨金授与

授与者代表謝辞 バドミントン 里見 紗李奈選手

6.パリ2024オリンピック・パラリンピックTEAM JAPAN応援感謝イベント supported by 三井不動産

(1) 日時 2024年11月30日(土) 9:30~11:00

(2) 場所 ①出発式ステージ(コレド室町テラス大屋根広場)
②イベントコース(日本橋中央通り 約700m)

(3) 主催 公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会
公益財団法人日本オリンピック委員会

(4) 後援 スポーツ庁、東京都

(5) 特別協賛 三井不動産株式会社

マニュアル



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

1. 日本代表選手団の編成について
 - ・編成方針、行動規範
 - ・編成数、選手団本部
 - ・旗手の紹介
2. パリの基礎情報について
 - ・安全に関する注意(在仏日本大使館)
 - ・天候について(ウェザーニューズ)
 - ・パリHPSIについて(JSC)
3. 支給品について
 - ・公式ウェアについて
 - ・ユニフォーム着用ルールについて
4. 競技：競技会場について
 - ・競技スケジュール
 - ・スポーツエントリー後の選手交替
 - ・アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - ・現地観戦チケット対応
5. 選手村について
 - ・選手村概要(パリ、シャトロー)
 - ・JPC対外拠点について
 - ・リラックスルームの展開、味の素のサポート
 - ・IPCアスリート選手について
6. 送荷、輸送について
 - ・送荷予定、フライトプラン
 - ・日本出発前、帰国の対応
 - ・荷物について
 - ・現地の移動
 - ・パスポートの更新の注意
 - ・保険について
7. 現地本部総務との連携
 - ・LINEの利用について
 - ・総務、広報窓口の確認について
8. 広報関連について
 - ・メディア対応
 - ・メダリスト対応
 - ・閉会式のコメント
 - ・SNSの発信について
9. メディカルチーム
 - ・ドクター
 - ・トレーナー

日本代表選手団 【編成方針・選考基準】（抜粋）

1. 日本代表選手団編成方針

(1) 日本代表選手団は、パラリンピックムーブメントの推進に寄与するとともに、社会規範を遵守し、公平性・誠実性・協調性に基づき行動できる選手・スタッフをもって編成する。

(2) 選手は、競技団体から推薦された者で国民の期待に応え得る競技力及び人間力を有する者とし、スタッフは、競技団体から推薦された者で障がいの種類・程度や性別等に配慮し、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようにサポートできる者とする。

日本代表選手団 【日本代表選手団行動規範】

公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会 2018年8月24日 制定

日本代表選手団は、社会の一員であることを常に自覚し、法令を遵守し行動する。

日本代表選手団は、支援者に対して感謝の気持ちを忘れずに行動する。

競技者は、最高のパフォーマンスを発揮できるようにするため心・技・体の充実に努め、最後まで全力を尽くしてプレーをする。

競技者は、自身の競技パフォーマンスや言動が、国民に大きな影響を与えることを自覚する。

競技者は、日本代表選手団の一員として互いを尊重するとともに、対戦相手へもフェアプレーの精神で接し、他の模範となるよう心がける。

役員は、競技者が最高のパフォーマンスを発揮できるようにするため、各々の職務を真摯に遂行する。

役員は、職務を公正かつ誠実に遂行し、個人的な利益は決して求めない。

役員は、競技者の人格を尊ぶとともに、その模範となるよう自らを律し、率先垂範の行動に心がける。

禁止事項：大会期間中のデモ・抗議活動への参加、政治的発言等

詳細はIPC発行の「SUPPLEMENTARY REGULATIONS PARIS 2024 PARALYMPIC GAMES DEMONSTRATIONS J (2024年7月12日メール展開)」をご確認ください。
<https://www.paralympic.org/sites/default/files/2024-07/Paris%202024%20Supplementary%20Regulations.pdf>

以下のような内容、場所でのデモ・抗議活動、政治的発言等は禁止されています

- ・ パラリンピックのビジョン、ミッション、理念等に反すること
- ・ 人種、国籍、性別、宗教、障がい、出身等への偏見や差別
- ・ 人、動物、または財産に対する暴力や危害、あるいは脅迫的または虐待的な発言や行為
- 場所・タイミング
 - ・ 競技または公式式典(メダルセレモニー含む)やその準備を妨害するような行動
 - ・ 競技エリア(Field of Play)での行動

上記の条件に該当しなければ、メディアのインタビュー中(ミックスゾーン、IBM、メディアセンター)やチームミーティング中での抗議、政治的発言等は禁止されません。

また、選手村内ではメディア(既存のメディア、ソーシャルメディア含む)を経由しない、物理的なデモ・抗議活動、政治的発言は禁止です。



違反した場合は内容によって、罰金、式典や大会からの除外、成績(メダル)取り消し、今後のパラリンピックや国際大会への参加制限…等の制裁が課されます。



日本代表選手団としての望ましい姿

推奨される行動

- ✓ 国際交流及び文化芸術の体感
- ✓ 選手団として訪問可能な場所への訪問
- ✓ 競技終了後、他競技の応援
- ✓ 環境問題に配慮し、持続可能な行動をとる
- ✓ 公式ウェア以外での外出

・公式服装着用規程を順守する。
 ・ソーシャルメディア使用に関しては別途定める。

行ってはいけない行動

- × 選手村内での品位を欠いた行動
- × 選手村内での他者に迷惑をかける行動
- × 行動予定以外の場所の訪問
- × 禁止された場所・誤解を招く場所への訪問
- × 単独行動をとること

※外出先や交通機関では、スリ・ひったくり・置き忘れに細心の注意を払うこと。
 ・未成年は役員・保護者同伴で行動すること。
 ・現地で実施する監督会議で補足いたします。

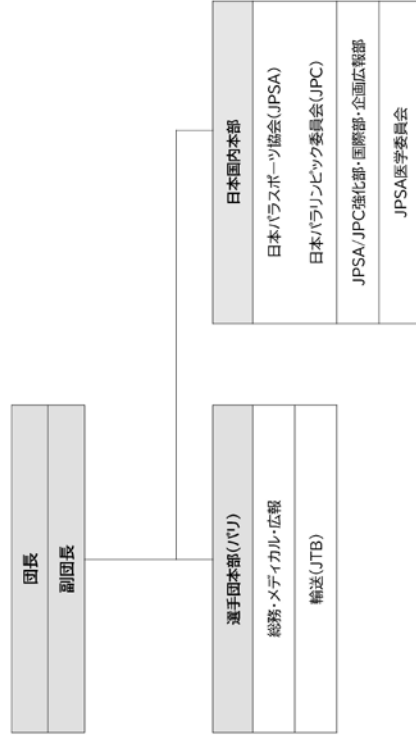


日本代表選手団【スローガン】

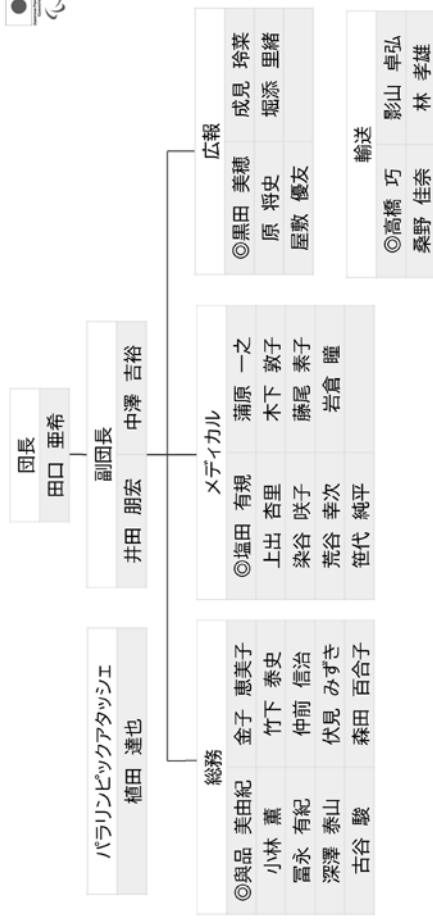
挑め、
自分史上最強。



日本代表選手団【本部体制図①】



日本代表選手団【本部队制②】



日本代表選手団【団長・副団長】



団長
田口 亜希



副団長
井田 朋宏



副団長
中澤 吉裕



日本代表選手団【旗手】



石山 大輝
(陸上競技)



西田 杏
(水泳)



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

- 日本代表選手団の編成について
 - 編成方針、行動規範
 - 編成数、選手団本部
 - 旗手の紹介
- パリの基礎情報について
 - 安全に関する注意(在仏日本大使館)
 - 天候について(ウェザーニューズ)
 - パルHPSIについて(JSC)
- 支給品について
 - 公式ウェアについて
 - ユニフォーム着用ルールについて
- 競技・競技会場について
 - 競技スケジュール
 - スポーツエントリー後の選手交替
 - アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - 現地観戦チケット対応
- 選手村について
 - 選手村概要(パリ、シャトールー)
 - JPC村外拠点について
 - リラックスルームの展開、味の素のサポート
 - IPCアスリート選手について
- 渡航・輸送について
 - 渡航予定、フライトプラン
 - 日本出発前、帰国の対応
 - 荷物について
 - 現地の移動
 - バスポートの更新の注意
 - 保険について
- 現地本部総務との連携
 - LINEの利用について
 - 総務、広報窓口の確認について
- 広報関連について
 - メディア対応
 - メダリスト対応
 - 開閉会式のコメント
 - SNSの発信について
- メディアカルチーム
 - ドクター
 - トレーナー

フランスの治安について

- ・ 犯罪発生件数は多く、フランス内務省の統計によれば、2023年にはフランス全土で窃盗・盗難事件が1,130,800件、強盗が63,200件、傷害が384,100件、性的犯罪が94,900件、不法侵入が217,600件発生しています。
- ・ フランスにおいて、日本人が外出時に遭遇する可能性の高い主な犯罪は、窃盗(スリ、ひったくり、置き引き等)、強盗です。いずれの犯罪も、基本的な防犯対策を徹底すること、犯罪の山口と対策を事前に把握することによって、多くの場合、被害を未然に防ぐことが可能です。

◎スリ

- ・ ハンドバッグ等の留め具やアジャスターを、ハンドバッグの開口部を内側にし、体の正面でしっかりと持つ。
- ・ 財布、携帯電話等の貴重品は、後ろポケット等の他人から見える場所ではなく、内ポケット等にしまう。
- ・ 現金等の貴重品は分散して所持する。
- ・ バスや電車の中だけではなく、ホームや停留所でも所持品から目を離さない。
- ・ 子供や女性だからと油断せず、むしろ子供や少女の集団に遭遇したら、警戒度を高めるくらい意識が重要。

◎ひったくり

- ・ 同じバッグの中に、パスポート、財布、携帯電話等の貴重品を一緒に入れない。
- ・ 財布、携帯電話等の貴重品は、後ろポケット等の見え易い場所ではなく、内ポケット等にしまう。
- ・ 路上でスマートフォンや高価なカメラを使用することはできるだけ避ける。
- ・ 高価なアクセサリ、腕時計等を身につけて歩かない。

◎置き引き

- ・ 貴重品は必ず身に着け、短時間であっても絶対に目を離さない。
- ・ 交通機関内においても、見えない位置に荷物を置く。荷物が揺れる場合には荷物を網棚等に放置しない。

在フランス日本国大使館・2024年最新「安全の手引き」より
<https://www.fr.emb-japan.go.jp/Files/100254832.pdf>



注意喚起：空港とパリ市内とを結ぶ高速道路における強盗被害

シャルルド・ゴール空港とパリ市内とを結ぶ高速道路上で強盗被害が多く発生しています。強盗の山口の多くは、市内と空港とを結ぶ高速道路において、渋滞で停車した車に強盗犯が徒歩やバイクで接近し、銃器や石のような物等で車の窓ガラスを割り、膝やシートの上に乗せていたバッグ等を強引に奪うものです。特に空港から市内に向かう高速道路上で多く発生しています。

多く発生している場所は、Stade de France(サン・ドニ)にある多目的競技場を過ぎた場所にあるトンネル内部やトンネルを出てから数百メートルの区間です。被害は、タクシー、自家用車、レンタカーを問わず生じています。割れたガラスで怪我を負うケースも生じており、大変危険です。

以下の点に留意しつづ、強盗被害に遭わないように十分に注意してください。

- ・ ハンドバッグ等の手荷物は、膝上やシートに置かない。
- ・ やむを得ず、手荷物を車内に持ち込む際には、足で隠したり、布をかける等して、外部から見えないようにするか、トランクに入れる。
- ・ できるだけ高級ブランド品は身につけない。
- ・ 渋滞で車が減速、停止した際には、後方や周囲に注意する。

在フランス日本国大使館「安全の手引き」より
<https://www.fr.emb-japan.go.jp/Files/102501.html>



注意喚起：詐欺事件

本年4～6月には、詐欺被害(未遂を含む)が10件報告されました(例：シャルルド・ゴール空港のターミナル内において、自分のクレジットカードが使用できず困っているなどと助けを求め、ふりをし、クレジットカードまたはその情報を詐取する「クレジットカード詐欺」)。

大使館では、犯罪被害に遭わないための安全情報や、犯罪被害やトラブルに遭った場合の対処方法等について、さまざまな情報を提供していますので、是非ご一読ください。

<その他参考リンク>

- 安全対策基礎データ
- 地下鉄やバスなどの公共交通機関間における検札・罰金について
- 盗難などの犯罪被害やトラブルに遭った場合



フランス語でのSNS発信のお願い

■ SNSで投稿するとき、みなさんのメッセージを是非フランス語で一言伝えてください



■感謝の気持ち

- ・ **Merci la France!** (メルジュー ラ フランス): ありがとうフランス!
- ・ **Merci + 人名・都市名!** (メルジュー ●●), ありがとう(人名、都市名!)
 (例) Paris / リール / ボルドー / Bordeaux / アントナン / Nantes / マルセイユ / Marseille 等)
- ・ **Merci pour votre soutien!** (メルジュー プール ヴォートル スーティアン): 応援ありがとう!
- ・ **Merci pour cette grande fête!**: 素晴らしい祭典をありがとう!
- ・ **Merci pour votre accueil chaleureux!**: あたたかいもてなしをありがとう!

■さまざまな「最高!」

- ・ **Vive la France (le Japon)!** (ヴィヴ ラ フランス(ル ジャポン)): フランス(日本)最高!
- ・ **Vive l'amitié franco-japonaise!**: 日本とフランスの友情最高!
- ・ **Victoire! / J'ai tout donné! / On l'a fait! / Youpi!**: (私はついに) やったぞ!
- ・ **C'était super! / C'était génial!**: (競技を終えて) すてい楽しかった!
- ・ **Que d'émotions!**: (メダルを取れて) 感無量!

■大好きなもの(こと)を言う

- ・ **J'adore + 対象(シャード ●●●)**: ●●●が大好き
 (例: フランスの食べ物 / ครัว française / クロワッサン / les croissants / マカロン / les macarons / エッフェル塔 / la Tour Eiffel / これ、それ ça)

在フランス日本国大使館・1年外安全対策情報(2024年4月～6月)より
<https://www.fr.emb-japan.go.jp/Files/1006096109.pdf>



フランス語でのSNS発信のお願い



- 「頑張れ！」(応援するときに)
 - ・ Allez le Japon ! (アレレ ジャパン): 日本、頑張れ!
 - ・ Allez la France ! (アレラ フランス): フランス、頑張れ!
 - ・ Allez les Bleus ! (アレレ ブル): フランスチーム、頑張れ!
- 競技後に
 - ・ Bravo la France ! (ブラヴオ ラ フランス): おめでとう、フランス!
 - ・ Bravo l'équipe japonaise ! * (ブラヴオ レキップ ジャパネーズ): 日本チームおめでとう!
 - ・ Tout le monde a donné le meilleur de soi-même 🇯🇵: みんなベストを尽くした。
 - ・ Beau match ! (ボ マッチ): ナイスゲーム!
- 再問を尋って
 - ・ A bientôt ! (アビアント): またね!
 - ・ On se voit à L.A. : ロサンゼルスでまた会おう
- この思い出を胸に...
 - ・ Je garderai un bon souvenir de la France : フランスの良い思い出を忘れません。
 - ・ Paris 2024 restera toujours dans mon cœur 🇯🇵: パリ2024はずっと私の心に残ります。
 - ・ Nous rentrons avec pleins de bon souvenirs : たくさんの素敵な思い出をもって帰ります。
- その他使えそうなフレーズ)
 - ・ On est rivaux : 私たちはライバル同士
 - ・ On est meilleurs amis : 私たちは親友
 - ・ Magnifique ! (マニフィク): (景色や物などが)素敵! 美しい!

※感動したときなどに
いつでも使えます

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

1. 日本代表選手団の編成について
 - ・編成方針、行動規範
 - ・編成数、選手団本部
 - ・旗手の紹介
2. パリの基礎情報について
 - ・天候に関する注意(大使館)
 - ・安全について(ウェザーニューズ)
3. 支給品について
 - ・公式ウェアについて
 - ・ユニフォーム着用ルールについて
4. 競技・競技会場について
 - ・競技スケジュール
 - ・スポーツエントリー後の選手交替
 - ・アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - ・現地観戦チケット対応
5. 選手村について
 - ・選手村概要(パリ、シャトールー)
 - ・JPC村外拠点について
 - ・選手村の託児スペース
 - ・リラクゼーションルームの展開、味の素のサポート
 - ・IPCアスリート選手について
6. 送迎、輸送について
 - ・渡航予定、フライトプラン
 - ・日本出発前、帰国の対応
 - ・荷物について
 - ・現地の移動
 - ・バスポートの更新の注意
 - ・保険について
7. 現地本部総務との連携
 - ・LINEの利用について
 - ・総務、広報窓口の確認について
8. 広報関連について
 - ・メディア対応
 - ・メダリスト対応
 - ・開閉会式のコメント
 - ・SNSの発信について
9. メディカルチーム
 - ・ドクター
 - ・トレーナー

パリ2024パラリンピック競技大会 ユニフォーム規程

1. 着用の規程

- 1) 日本代表選手団として参加する者(以下「選手団員」)は、その自覚と誇りを持って公式ユニフォームを着用しなければならない。
- 2) 大会参加期間中以外でも、日本代表選手団としての各種行事に参加する場合は、これ着用しなければならない。また、大会後の公的機関への表敬訪問や所属団体主催の祝勝会等への参加などについても、公式ユニフォームを着用することが望ましい。
- 3) 取材時、撮影(画像、映像)されるべきの服装は、原則、公式ユニフォームとする。

2. 保管

選手団員は、支給された公式ユニフォームを常に清潔に保つよう心がけなければならない。

5. 届け出の義務

公式ユニフォームを紛失、盗難または破損した場合には、速やかに所属チームもしくは競技団体を通知して、選手団本部もしくはJPCに届け出なければならない。

6. その他

この規定に特に定めのない事項については、日本代表選手団またはJPCの取り決めに従うこと。

3. 返還

選手団員として対応しなくなった日本代表選手団より除籍された場合には、直ちに支給された公式ユニフォームを返還しなければならない。

4. 禁止事項

- 1) 公式ユニフォームは、第三者に譲渡ならびに貸与してはならない。
- 2) 日本パラリンピック委員会(以下「JPC」)並びに選手団本部が許諾する以外の商標・ワッペン・マーク等を公式ユニフォームにつけてはならない。
- 3) 選手団員はJPCの事前の承諾なく、第三者の商業目的の宣伝活動に公式ユニフォームを着用して出演ならびに協力してはならない。
- 4) 公式ユニフォームをJPCの許可なく販売、または商業的なオークション等に出品してはならない。

着用のルールについて

番号	アイテム	渡航時	閉会式	村内	表彰式	閉会式	帰国時	備考
①	ポテイウムジャケット&パンツ(上下)				○	○		※1 渡航の際、ハーフパンツは機内のみ可とします。
②	リラックスウェア(上下)	○					○	※2 表彰式、閉会式時は前のチャックを首まで上げてもらうことを前撮りに、中は何でも問題ありません。
③	Tシャツ(赤色×2枚)	○			※2	※2		・シューズは公式スーツの履も着用ください。
④	Tシャツ(白色×2枚)							・国内での乗換時同時や報告会など運用回線ですが、望利目的の発着場面では着用が認められない場合があります。
⑤	ポロシャツ(黒色×1枚)				※2	※2		・急な天候・気候の変化等により、着用するアイテムを変更する場合があります。
⑥	ハーフパンツ(1枚)	※1					※1	
⑦	シューズ	○			○	○		
⑧	バックパック(1個)	○					○	

※トレーニングや競技に向かう場合は各NFの競技ウェア着用可

※ユニフォームの支給がないスタッフについては、渡航・帰国の際は自由となりますが、なるべくチームウェアなどを着用してください。

支給アイテム 公式オフィシャルウェア

PARIS 2024 PARALYMPIC GAMES OFFICIAL SPORTSWEAR

ポテイウムジャケット&パンツ
表彰式・インカム一時着用
公式カレッジ

ズボン(ハーフトレーナー&パンツ)
移動・選手村での着用
リファグコロ

Tシャツ(レッド)
ポテイウム・ズボンの
ユニフォーム

Tシャツ(パーチ)
ズボン(ハーフトレーナー)
ユニフォーム

ポロシャツ
ポテイウム・ズボンの着用

ハーフパンツ
選手村・帰国での着用

シューズ

選手村での
移動・選手村での
着用可
リファグコロ

支給アイテム 公式式典服/スーツケース

パリ2024パラリンピック競技大会
日本代表選手団記念見

三栄商事
TOKYO GAS
ENEOS
MISBADA

式典時の服装【開会式・閉会式】

○開会式【※出席者は前日AMまでに調査・調整します。】

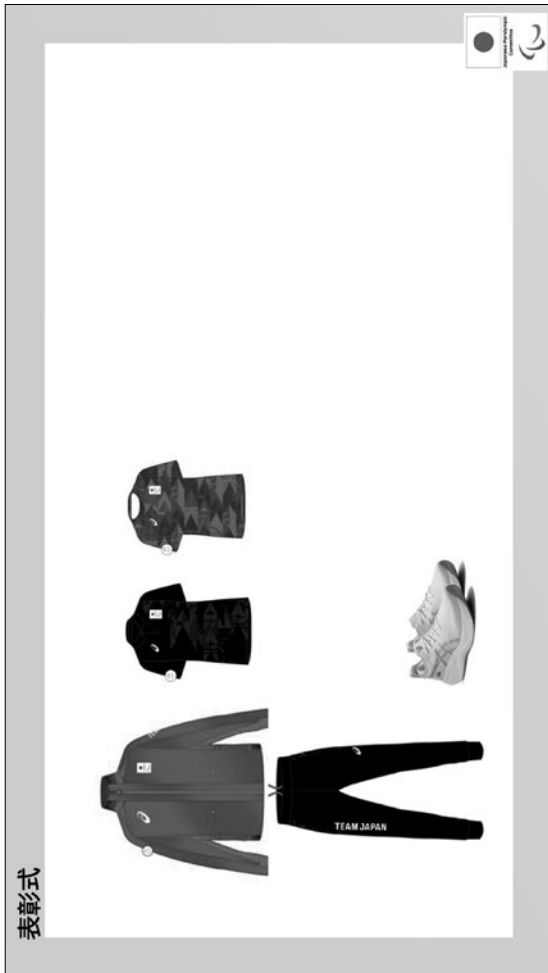
- 日時: 2024年8月28日(水)
- 服装: 公式式典服(ジャケット、ポロシャツ、ズボン、シューズ)
※ピンバッジ着用

○閉会式【※出席者は前日AMまでに調査・調整します。】

- 日時: 2024年9月8日(日)
- 服装: 公式スポーツウェア(ポテイウムジャケット&パンツ)

パリ2024パラリンピック競技大会
日本代表選手団記念見

三栄商事
TOKYO GAS
ENEOS
MISBADA



その他支給品について

1. ピンバッジ(5個/人)
2. ステッカー(6枚(2種×3枚)/人)
3. CLEAN ATHLETE GUIDE(クリーンアスリートガイド)
4. 国際パラリンピック委員会(IPC)アスリート評議員選挙について
5. JPC女性スポーツ委員会のリーフレット
6. JSCからの案内

(ウエットティッシュ、ヘッドホン、ビンディング通報窓口、暴カ・ハラスメント通報窓口、HPSC女性アスリート支援に関する調査)

ピンズ・ステッカーは、予備があり
ますので、必ずご持参ください。

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

1. 日本代表選手団の編成について
 - ・編成方針、行動指針
 - ・編成数、選手団本部
 - ・旗手の紹介
2. パリの基礎情報について
 - ・安全に関する注意(大使館)
 - ・天候について(ウェザーニュース)
3. 支給品について
 - ・公式ウェアについて
 - ・ユニフォーム着用ルールについて
4. 競技・競技会場について
 - ・競技スケジュール
 - ・スポーツエンタリ-後の選手交替
 - ・アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - ・現地観戦チケット対応
5. 選手村について
 - ・選手村概要(バリ、シャトルルー)
 - ・JPC村外拠点について
 - ・選手村の底層スペース
 - ・リラックスルームの展開、味の素のサポート
 - ・IPCアスリート選挙について
6. 渡航・輸送について
 - ・渡航予定、フライトプラン
 - ・日本出発前、帰国の対応
 - ・荷物について
 - ・現地の移動
 - ・バスポートの更新の注意
 - ・保険について
7. 現地本拠地との連携
 - ・LINEの利用について
 - ・総務、広報窓口の確認について
8. 広報関連について
 - ・メディア対応
 - ・メダリスト対応
 - ・開閉会式のコメント
 - ・SNSの発信について
9. メディカルチーム
 - ・ドクター
 - ・トレーナー

大会概要

大会名	パリ2024パラリンピック競技大会 Paris 2024 Paralympic Games
開催地	フランス/パリ
大会期間	2024年8月28日から9月8日(12日間)
参加国	現時点で発表なし(前回162カ国・地域)
実施競技種目	22競技549 種目

公式行事



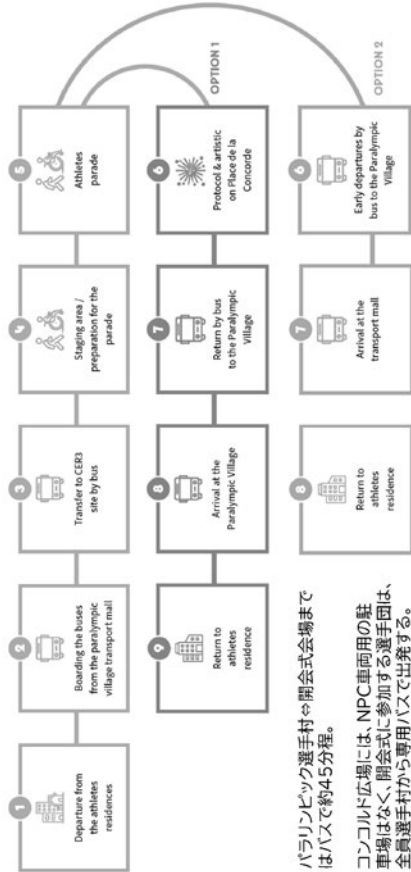
開会式
2024年8月28日(火)20:00～
シャンゼリゼ通りを行進し、コンコルド広場が舞台となる。

閉会式
2024年9月8日 20:00～@スタッド・ド・フランス
スタッド・ド・フランスは、パラリンピック村近くピレリッジにあり、
1998年FIFAワールドカップのために建設された。
パラリンピック期間中はパラ陸上競技も開催される。

表彰
各種目の競技会場で行われる。※決勝大会が行われる会場で表彰式を行う。
セレモニーでは、盆、鏡、駒のメダリストにメダルと記念品が贈呈され、盆メダリストの国歌が演奏される。
上は8名 / チームには賞状の授与あり(パラリンピック選手村のNPCサービスセンターで配布され、NPCにてまとめて受け取る)。



公式行事：開会式について



パラリンピック選手村⇔開会式会場まではバスで約45分程。

コンコルド広場には、NPC車両用の駐車場はなく、開会式に参加する選手団は、全員選手村から専用バスで出発する。



公式行事：開会式について(予定)

※詳細は現地にて、各競技団体担当に連絡します

- ✓ アーリーデパーチャー
アスリートバレード終了後、パラリンピック選手村に戻ることを希望する選手およびチーム関係者には、早めの出発サービスが用意されている。
- ✓ 選手は開会式までの待機エリアでは、アクセシブルトイレ、FNBサービス、シート、日陰ゾーン、メディアカナルステーションなど、さまざまなサービスが利用できる。
- ✓ 雨天時にはポンチョも用意される。
- ✓ 開会式終了後は、到着時に降車したエリアからバスへ乗車して、専用の送迎バスで選手村まで戻る。



アクセラティーションについて

①アクセラカードとは？

大会期間中、関係者の身分証明書および選手村や会場等へのアクセス許可証として使用します。
大会期間中はネックストラップとともに常に身に身につけてください。

⚠ アクレ申請をした時のパスポートを更新しないでください。⚠

②アクセラカードが必要な場所は？

選手村、食堂、競技会場、競技会場に行くバス、練習会場、
クラス分け会場、ドーピング検査室など
大会期間中はどこでもアクセラカードを持ち歩くことが大切です。



③アクセラを紛失・破損した場合

アクセラが再発行されるまでアクセラが必要な場所にアクセスできません。
紛失、盗難、破損等があった場合は大急ぎ選手団本部までお知らせください。

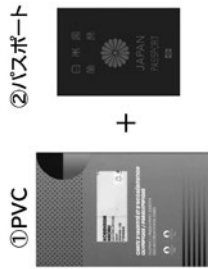


アクレディテーションの有効化(Validation)について

選手村に到着時、チーム・プロセッシング・センター(TPC)というところで荷物検査後アクレの有効化をします。アクレは有効化しないと、選手村や競技会場に入れません。

○有効化の手順
ひとりひとりに並んで、以下の①、②を係りの人に渡すと、パスポートで本人確認、システムでアクレのデータを手エックして有効化し、ラミネートされたアクレにネットワークスラップをつけて渡されます。

- 提出物**
- ①紫色の封筒に入ったPVC(有効化前のアクレ)
 - ②パスポート



チケットについて

- ◆NPC(NF)向けチケット
※JTB経由で購入のチケット
→配券&座席情報のお知らせ済み
チケット(チケットアプリ)の利用方法、今後のタイムライ
等はJPC/JTB発行のNPCチケットガイドをご確認
ください。



- ◆AF&F(Athletes' Family and Friend)
選手の家族・友人向けチケット。
自分が出場するセッションのみが対象。
購入方法、可能枚数、専用座席エリアがあるかどうか等
未定。
金額は一般販売と同じ予定。

- ◆DDA(Different Discipline Athletes)
選手用の、違う競技を観戦するためのチケット。
1日1枚まで無料。観戦は専用エリア。
購入方法の詳細は今後連絡予定。



チケットはすべてデジタル
(専用アプリが必要)になりま
す。利用予定の方は、事前に
アプリのインストールをおす
めします。



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団 派遣前連絡会議

1. 日本代表選手団の編成について
 - ・編成方針、行動規範
 - ・編成数、選手団本部
 - ・旗手の紹介
2. パリの基礎情報について
 - ・安全に関する注意(大使館)
 - ・天候について(ウェザーニュース)
3. 支給品について
 - ・公式ウェアについて
 - ・ユニフォーム着用ルールについて
4. 競技・競技会場について
 - ・競技スケジュール
 - ・スポーツエントリー後の選手交替
 - ・アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - ・現地観戦チケット対応
5. 選手村について
 - ・IPCアスリート選手について
 - ・選手村概要(バリ、シャートルー)
 - ・JPC村外拠点について
 - ・選手村の託児スペース
 - ・リラックスルームの展開、味の素のサポート
6. 渡航、輸送について
 - ・渡航予定、フライトプラン
 - ・日本出発前、帰国の対応
 - ・荷物について
 - ・現地の移動
 - ・バスポートの更新の注意
 - ・保険について
7. 現地本部総務との連携
 - ・LINEの利用について
 - ・総務、広報窓口の確認について
8. 広報関連について
 - ・メディア対応
 - ・メダリスト対応
 - ・開閉会式のコメント
 - ・SNSの発信について
9. メディカルチーム
 - ・ドクター
 - ・トレーナー



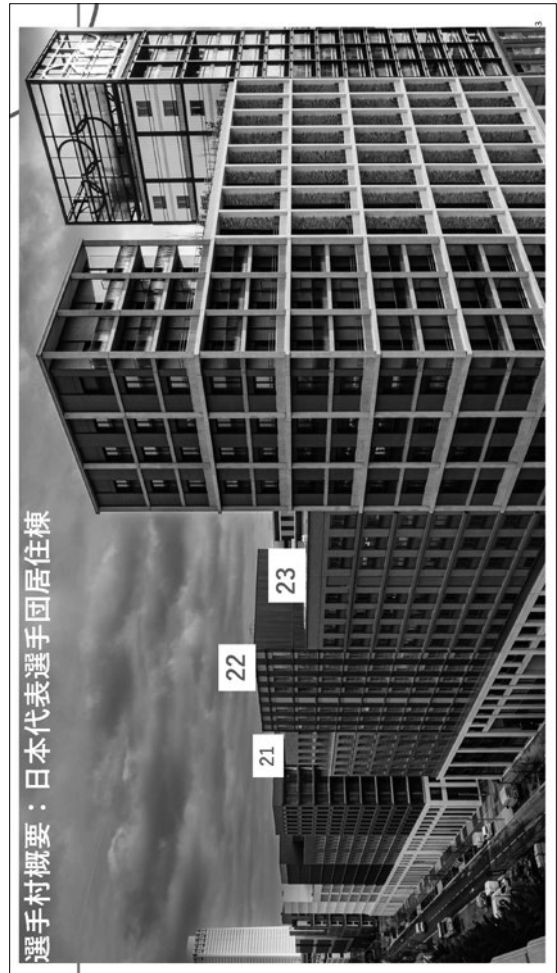
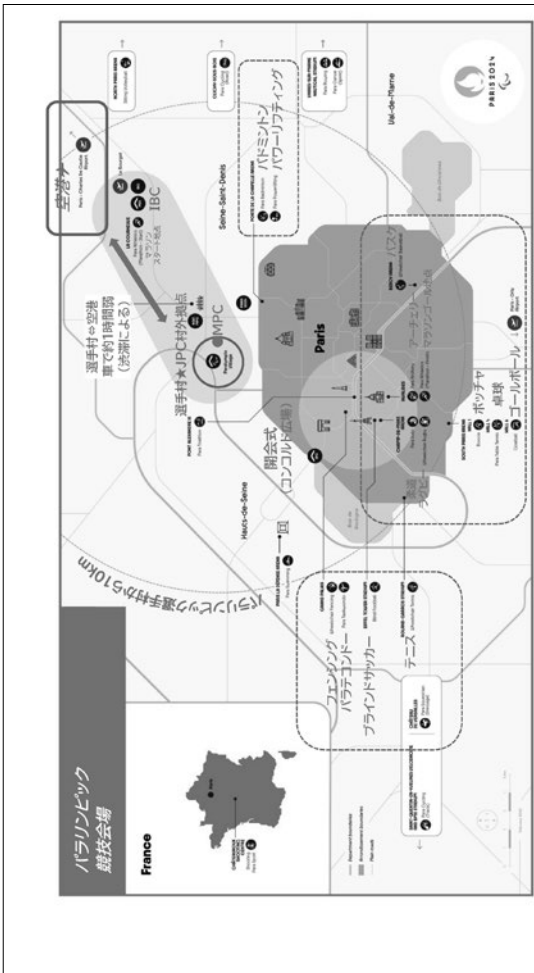
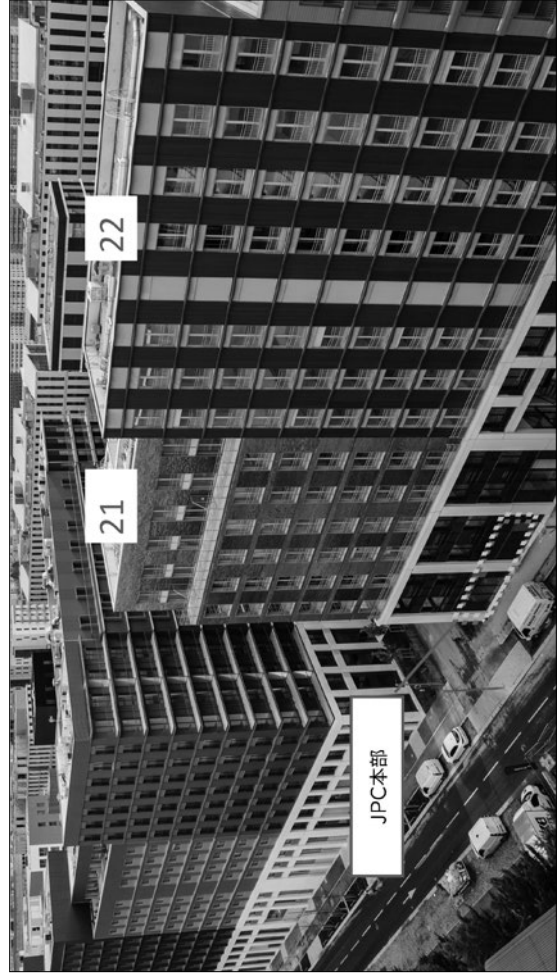
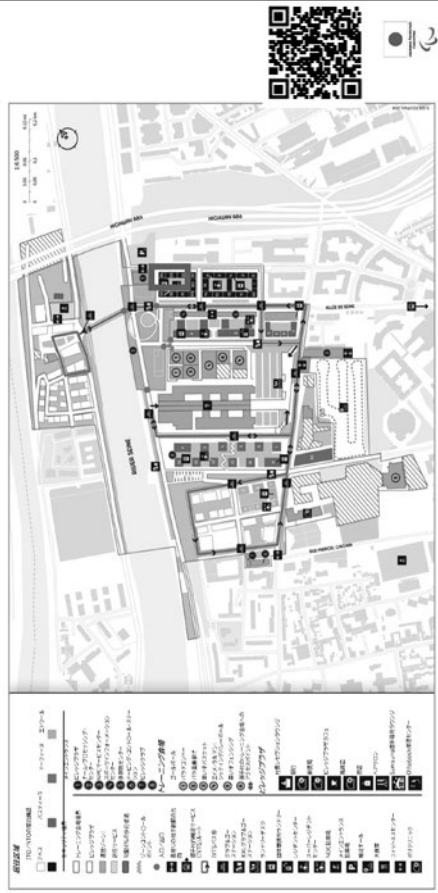
IPCアスリート評議員選挙について

大会期間中に行われる国際パラリンピック委員会(IPC)アスリート評議員選挙に、
鈴木 孝幸 選手(水泳)が立候補します！

- 投票期間：2024年8月26日～9月6日まで
 - 投票場所：選手村ダイニングホール近くの投票ブース
 - 投票者：パリ2024パラリンピック競技大会に参加しているアスリート
(Aaアクレを持っている者)
 - 投票方法：タブレットを用いて立候補者のなかから最大6名に投票する
(投票は1人1回まで)
 - 投票結果：得票数上位6名が当選
(任期はLA2028パラリンピック競技大会まで)
- ※当選者は閉会式で発表される予定です。



選手村の情報



ハウスキーパー、ランドリーサービス

【ハウスキーパー】

清掃頻度	サービス内容
2日に1度	ゴミ回収、バスルーム掃除(消耗品の補充)、タオル交換
4日に1度	ベッドシーツ・枕カバー交換及びベッドメイク、居室及び共用エリア清掃



【ランドリーサービス】 ※HPSCにもランドリー設置あり

- ・居住棟の1階にランドリーデスクの設置
- ・営業時間7:00-22:00
- ・2つのランドリーバッグ(白服及び色服用)が提供される(IDコード付き)
- ・ランドリーバッグに大量の衣服が入っている場合、受け付けられない場合があります。
- ・朝10時までの預けで、当日18時以降ピックアップ可能。(10時以降の預けは翌日のピックアップ)
- ・ドライクリーニングのサービス(有料)
- ・チームスポーツには別サービスあり(次のページ)



DROP-OFF BEFORE 10:00
Laundry can be collected before 18:00 the same day.

DROP-OFF AFTER 10:00
Laundry can be collected 24 hours after the drop-off time.



Team競技向けランドリーサービス

↓ LAUNDRY FOR TEAM SPORTS UNIFORMS

① Separate dark and light clothes and check that each laundry bag is no more than two-thirds full.

② Drop off the bag at laundry BS. Make sure you are carrying your accreditation.

③ You will receive a drop-off confirmation receipt. Laundry will not be folded or ironed.

④ Collect the laundry within 12 hours from laundry BS. Make sure to bring your drop-off confirmation receipt. Laundry will not be folded or ironed.

Laundry bags must be collected from laundry BS on your arrival at the Village during opening hours. Laundry may be dropped off and collected by two different people.



SPORTS CONCERNED

- 5x5 and 3x3 Basketball
- Beach volleyball
- Football
- Handball
- Hockey
- Judo
- Rugby
- Volleyball
- Wheelchair basketball
- Blind football
- Para judo
- Wheelchair rugby
- Sitting volleyball

ダイニング



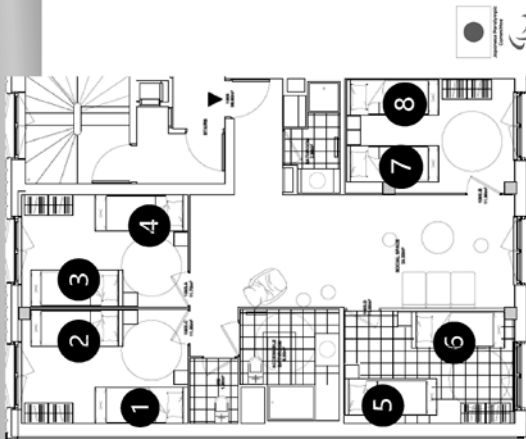

ダイニング

SERVICE	FOOD SERVICES	OPENING HOURS
MAIN DINING HALL	7 food stations, world food	① 24/7
ISLAND DINING HALL	Salad bar	① 05:00 - 01:00
GRAB & GO	Large choice of sandwiches, snacks and drinks	① 06:00 - 21:00
GRAB & GO XXL	Large choice of sandwiches, snacks and drinks	① 07:00 - 22:00

For full details of the Village food services, peak times, opening hours, etc. go to the Sodovo app.
<https://otahiby.sodovotw.com>

居室

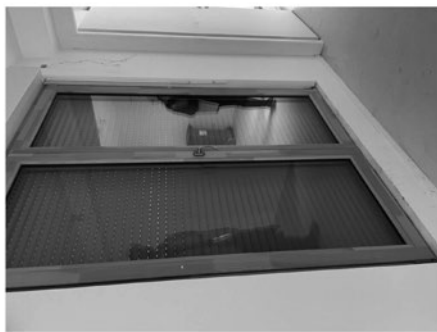
【居室について】

- ・選手村宿泊棟は、1ユニット4～8名
- ・各居室にエアコン設置
- ※部屋割りには近日中午に、展開予定

【電源】
230V、周波数50Hz、16A



日本代表選手団 居住棟



居室



居室

品目	サイズ(cm)		シングルベッドルーム		ツインベッドルーム	
	幅	長さ	1	2	1	2
ベッド	幅90	長さ210	1	2		
マットレス	幅90	長さ200	1	2		
ワードローブ	-	-	1	2		
衣類用ハンガー	-	-	10	20		
物干しラック	-	-	1	1		
鍵付き引き出し1個付きのナイトスタンド	-	-	1	2		
クリップ式ランプ	-	-	1	2		
延長コード	140		1	2		
バリエーション	幅150	長さ210	1	2		
ヘッドシート	-	-	2	4		
飲(飲カ)バー付	-	-	1	2		
バスタオル			1	2		
タオル			1	2		
浴巾*			1	1		
延長ベッド**	幅90	長さ20	-	-		

Q&A

バスルームには、シャワーカーテン(またはシャワースクリーン)、鏡、フロアマット、ゴミ箱、トイレブラシ、イレットペーパーが用意されている。
※アメニティは準備されますが、個人で使用するアメニティは持参してください。

●ドライヤーについて
オリンピック期間中のドライヤーの貸し出しはないため必要に応じて待参するようにしてください。(7月30日情報)



フィットネスセンター



フィットネスセンター

※24時間営業
※2階建て、エレベーターなし



ビレッジプラザ



・パリ2024グッズストア
 ・アスリートラウンジ(サムスン)
 ・ATM(銀行)
 ・郵便局
 ・観光文化センター
 ・プラザカフェ
 ・託児室
 ・サロンビューティー(美容・ネイル・理髪)

★オート・ボックによる車いす、義足等の修理センター

営業日	営業時間
2024年8月18日～20日	10:00～18:00
2024年8月21日～9月10日	08:00～23:00

開館日のみ(2024年8月28日および9月8日)は、8:00～16:00までサービスを提供する。

フィットネスセンター

Ground floor:
 → Skillrun live 7000 (36)
 → Skillmill (4)
 → Excite live top 9000 (4)
 → Excite live synchro 9000 (4)
 → Excite live climb 9000 (4)
 → Biostrength leg press rev (2)
 → Biostrength leg extension rev (2)
 → Biostrength adjustable pulley rev (2)
 → Multipower (2)
 → Barbell rack fitness (2)
 → Scott bench pure (2)
 → T row bar pure (2)

→ Adjustable bench pure (10)
 → Technogym universe walls (1)
 → Technogym universe cage (2)
 → Dumbbells rack (6)
 → Power rack pure (6)
 → Platform rack pure (6)
 → Low row pure (1)
 → Pull-down pure (1)
 → Seated dip pure (1)
 → Olympic declined bench pure (2)
 → Olympic flat bench pure (4)
 → Kinesis one (2)
 → Dumbbells spare (1)
 → Lower back bench pure (2)
 → Toast rack pure (5)
 → Disk rack pure (5)
 → Wide chest press pure (1)
 → Chest press pure (1)
 → Shoulder press pure (1)
 → Hack squat pure (2)
 → Leg press pure (2)
 → Ab crunch pure (6)
 → Hip thrust (2)
 → Standing leg curl pure (1)

First floor:
 → Rear kick pure (1)
 → Standing abductor pure (2)
 → Set plyo boxes (4)
 → Olympic training set plates (24)
 → Bala 20 (20)
 → Bala 15 curly (3)
 → Bala 12 trap (6,55)
 → Bala 10 women (10)
 → Dumbbells set (6)
 → Kettlebell set high (1)
 → Kettlebell set low (2)
 → Dumbbell storage (3)
 → Dumbbells spare (1)
 → Kettlebell spares(1)

NPCサービスセンター・スポーツインフォメーションセンター (SIC)



プレオープン中 8:00～20:00
 選手村開村後 7:00～22:00
 ≪ファンクションエリアデスク≫
 → フロントデスク → 到着・出発 → 財務
 → フード&ビバレッジ → ロジスティクス
 → レートカード → 輸送

・競技に関する情報、結果、トレーニングスケジュール、輸送、食品・飲料サービス、気象情報に関する情報が入手可。
 ・パラ柔道とパラバレーのための裁縫室、スベクトラム(無線)室(電波スベクトラム検査・タグ付け室)も設置される。
 ・試合映像の提供

スーパーレジデントセンター/レジデントセンター

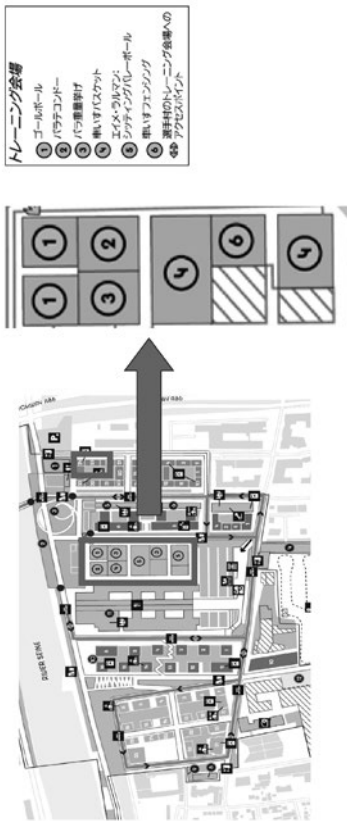


○宿泊関連のリクエスト
 ・ハウスキーピング、メンテナンス
 ・リネン、タオルの交換
 ・鍵の紛失、交換
 ※その他メンテナンス事項の相談

○遺失物の管理

レジデントセンター
 スーパーレジデントセンター ※24時間対応

選手村での競技別トレーニングエリア



- トレーニング会場**
- ① コーポラル
 - ② パラコンド
 - ③ 15重撃射
 - ④ 車いすバレーボール
 - ⑤ エム・ウルズン・エフ・エフ・エフ
 - ⑥ 選手村のトレーニング後継へのアクセスポイント

※利用方法については現地に各競技団体の連絡担当者に伝達します。

◆選手村シャトルー

○ランドリーサービス

時間	サービス
早期	・ タカに回収可能
午前	・ 翌朝回収可能
夕方	・ 翌日の夕方回収可能

・ランドリーの返却アスクは、月曜～日曜の8:00～13:00 18:00～21:00で利用可能。日曜日は洗濯物の回収はできない。日曜日に預けられた洗濯物は月曜日に洗濯される。土曜日と日曜日は居住エリアにあるセルフサービスの洗濯が無料で利用が可能。

・色/7なしの服用のランドリーバッグに入れて、ランドリーサービスを利用する。

○医務等のサービス

プライマリアクア: 24時間
理学療法: 8:00～21:00

○ハウスキーピング

頻度	サービス
2日に1回	・ ゴミ箱を空にする (バスルームやシーヤルスペース) ・ 浴室の清掃とトイレトベーパーの補充 ・ タオル交換
4日に1回	・ シーツと枕カバーを交換し、ベッドを整える ・ 寝室とシーヤルスペースの床に掃除機またはモップをかける

○フィットネスセンター

営業時間: 7:00～22:00
ダイニングホール隣と、地下階にある事務の利用が可能

○ダイニング

提供時間	サービス
朝食 6:00 ~ 11:00	
昼食 12:00 ~ 15:30	
夕食 18:00 ~ 23:00	

◆選手村シャトルー

DRINKS

FRUIT

Self-service water fountains are located at the dining sites at Lychee House and the Shooting Centre. Self-service water bottles for the reusable glass product. Self-service vending machines and fountains are also provided in the athletes' lounge and in the Resident Centre.

05 TRANSPORT

ATHLETE TRANSPORT (AT)

Olympic phase	Paralympic phase
Lychee Blaise Pascal & La Chapelle Saint-Jerms • Shooting Centre (PESI) 2007 to 06:00 every 20 mins during training Every 20 mins during competition	PESI • Shooting Centre (PESI) 2007 to 06:00 every 30 mins during training Every 20 mins during competition

TRANSPORT CONNECT

Olympic phase	Paralympic phase
Chateau de la Vallée • Lychee Blaise Pascal • PESI • Shooting Centre (PESI) 16:07 to 06:00 every 20 to 30 mins	Chateau de la Vallée • Lychee Blaise Pascal • PESI • Shooting Centre (PESI) 20:08 to 06:00 every 20 to 30 mins

MOBILITY

Bikes provided by your delegation may enter and leave the Village freely and be used by anyone. Bikes must be left in the designated area within the security perimeter. Personal paddocks and helmets are not provided. Shuttle buses will run during the Paralympic phase to facilitate travel within the PESI for people with reduced mobility.

◆ごみの分別について

→ 掃除

居住スペースには、以下で説明するように、特定の廃棄物を分類するための専用エリアがある。

居住棟の地上階に車輪付きゴミ箱を設置。

【居住棟】

居室の各シーヤルスペースに2つのゴミ箱を設置。

→ リサイクル可能な容器用の黄色いゴミ箱

→ 一般廃棄物用の黒いゴミ箱

医療用ゴミ箱は、NPCの医療スペースに配布される(個別な医療廃棄物用のゴミ箱と、ストーマ袋などの廃棄物用のゴミ袋の両方)。

リサイクル可能な包装とは?

- ✓ フランスでは、家庭廃棄物は素材(プラスチック、金属、段ボールなど)ではなく、廃棄物の性質によって分けられている。すべての包装はリサイクル可能で、黄色いゴミ箱に入れる。プラスチック製の食品包装は黄色いゴミ箱に入れることができるが、例えば壊れたプラスチック製の競技用品は入れることはできない。
- ✓ 競技会場とパリンピック選手村で同じリサイクルシステムを採用する。
- ✓ 選手村の居住者は、ガラス瓶を黄色いリサイクルゴミ箱に入れてはならず、NPCスペース内の専用のボックスに持ち込む必要がある。コーラ瓶(Coke Zero, Fanta, Fuze, Powerade, Smartwater, Sprite, Tropic)も、特定のゴミ箱に分別して廃棄する。

◆ 医療サービスについて

- 選手村ポリクリニック
- 2021年に改装された3階建てのタンビエインステイチュートは、足専門医、理学療法、整骨治療学の学校で、面積は3262m²。医療サービス期間：2024年8月18日～9月10日まで。
- 【ポリクリニックサービス】
- 緊急サービス
- 2つのMRI、X線、および超音波による画像診断
- 臨床検査サービス
- メンタルヘルス部門
- 薬局
- 凍結療法（アイシングおよび氷浴）を含む理学療法
- 専門相談：
 - 歯科
 - 婦人科（女性アスリートのためのスポーツ医学）
 - 内科（病気に対する初期診断とスポーツ医学）
 - 眼科
 - 整形外科・スポーツ医学
- 整形外科製品の供給（足用インソール、レース、グラッチャ）

医療サービスは各会場の所定の営業時間内に提供されるが、選手村のポリクリニックでは、一部のサービスが24時間提供される。

場所	日程	時間	サービス
選手村	競技会前	09:00～17:00	一部
パリオリンピック選手村 ポリクリニック	競技大会期間 2024年8月21日～ 9月8日	緊急時：24時間ほかの サービスに関する情報	全サービス
公式 トレーニング会場	競技大会後 2024年9月8日～10日	後日公開	一部
公式 トレーニング会場	競技や場所に応じて、緊急隊員が 待機または迅速に駆けつける。 、最後のトレーニングと競争から開始し 、最後のトレーニングで終了する		全サービス
公式 競技会場	2024年8月28日～ 9月8日	競技の開始時から 1時間後まで	全サービス

→ パリオリンピック選手村シャトルでの医療サービス

サービス提供エリア	営業日	初期時間	サービス
選手村シャトル	2024年8月18日～ 9月7日	1日24時間 (朝間は競技会場、 夜間は選手村)	目録の サービス

◆ 選手村について

- 携帯電話アプリケーション(アプリ)での情報発信について
- パリ2024公式アプリ(Olympics.com)は、すべての競技大会関係者が利用でき、アプリストアからダウンロードできる。フランス語と英語で提供され、会場、スケジュール、リザルト、選手、NPCのプロフィール、その他の有益な情報が提供される。なおリザルトは、IPCのウェブページにも掲載される
- Athlete 365アプリは、競技大会の開始前、期間中、期間後に至るまで情報提供を行う。アプリは6カ国語(英語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語)で提供され、Android PlayストアとApple App Storeで入手できる。
- Samsung Athlete スマートフォンの提供
- 競技大会に参加する各選手と選手の競技パートナーに最先端のSamsung スマートフォンを提供する。すべての「Aa」選手と「Ab」選手競技パートナーに対し、SamsungのスマートフォンIPCを通じて配布される。このスマートフォンにはSIMカードが付属する。
- ブランド入り羽毛布団
- ベッドを使用できる入居者には、ブランドロゴ入り羽毛布団を支給、競技大会終了後、選手村居住者は羽毛布団を持ち帰ることができ、アプレを交代する場合は、持ち帰り不可となります。



◆ インターネット機能について

- インターネットサービス
- ✓ 選手村内のすべての居室で、無料のWi-Fiインターネットが利用できる。
- ✓ 各居室には専用のWi-Fiシステムがあり、ダウンロードとアップロードが40Mbpsと指定されるブロードバンド帯域幅を共有する。(実際のスループットは、接続されている端末の容量によって異なる)
- ✓ 選手村の地上構より上に位置する居室では、建物の技術的な制限のため、必ずしも専用のインターネットアクセスを提供することはできない。

選手村のWi-Fiの利用可能区域

以下の場所でパラリンピック選手村の住民に無料Wi-Fiを提供する。

- 選手村の居住エリアにある選手トレーニング会場
- フィットネスセンター
- メインダイニング
- メインエントランス
- 多宗教センター
- NPCサービスセンター
- ポリクリニック
- レジデントセンターおよびスーパーレジデントセンター
- スポーツインフォメーションセンター
- チーム・プロセッシング・センター
- ビレッジクラブ
- ビレッジプラザ

競技会場でも同様のWi-Fiサービスが提供される。

Wi-Fiアクセス方法については、選手村の居室や共用スペースで情報提供される。

◆ 選手団輸送システム(TA)について

パリ2024は、トヨタ、イルド・フランス・モビリティス(IDFM)、パリ市、フランス政府、地方自治体と協力して、選手団のための輸送サービスを提供する。

イルド・フランス地域の広範でバスと路面電車はすべて利用可能、利用できる地下鉄/RER駅は限られる。

輸送タイプ	サービスの説明	利用可能日
選手・役員輸送システム(TA)	<ul style="list-style-type: none"> → パリオリンピック選手村(OV)から競技/トレーニング会場へのTAサービス。 → 入国前からのTA到着・出発(AND)サービス → TA乗客はTICおよびTIPにもアクセスできる。 	<ul style="list-style-type: none"> → 選手サービス：最初の競技会の7日前から競技会の最終日まで → ANDサービス：2024年8月21日～9月10日
TX	<ul style="list-style-type: none"> → あらゆる公式TXの目的地への移動のためのオンマンドサービス(OOS)またはリクエスト(RFT)サービス(予約時に利用可能な運転手付き車両)。 → TX乗客はTICおよびTIPにもアクセスできる。 	2024年8月18日～9月11日
輸送コネクト(TC)	フルアクセスできるさまざまなバリエーション(車/バス)	2024年8月18日～9月11日
公共交通機関(TP)	低床で乗りやすい利用者のための場所が最大2カ所あるバス	2024年8月18日～9月11日
専用車両	地下鉄、バス、路面電車、区間運行 車両(車/バス)	2024年8月18日～9月11日 F-DRMが完了後に使用可能

◆ 競技および会場サービス

スポーツインフォメーションデスク
各競技会場に設置されているスポーツインフォメーションデスク(SID)で、競技別の情報を入手できる。
食品・飲料サービス
競技会場やトレーニング会場での食品・飲料サービスは競技ごとの基準に従って提供される。

競技会場では、パリ2024が選手専用ラウンジで選手やスタッフに飲食物を提供する。
原則として、すべての会場の選手専用ラウンジで軽食と温かい飲み物のサービスが提供される。このサービスには、シリアルバーやフルーツなどの軽食のほか、ココア製品やホットドリンクが含まれる。

競技会場の競技エリアで、密閉されたペットボトルに入った水とアイソトニック飲料を提供する。
ドーピング・コントロールエリアでは、ガラス瓶入りの水とソフトドリンクを提供する。

選手が移動時間の増加または競技形式の要件のために、パラリンピック選手村外で4時間以上を過ごす場合、競技特有のニーズおよび会場の特殊性に応じて、2種類の食事:選手会場食(AVM)および強化選手会場食(強化AVM)を注文することができる。

ドーピング・コントロール後の輸送
ドーピング・コントロールは、原則として競技会場やパラリンピック選手村で行う。競技会場でドーピング・コントロールを受けた後、選手や役員は通常のTAサービスを利用してパラリンピック選手村に戻るることができる。組織委員会は、TAの運行時間外に、ドーピング・コントロールを受けた選手が選手村に戻るための輸送手段を確保する。

72

◆ 競技会場での医療サービス

すべての競技会場には、医師、看護師、理学療法士、救急隊員が常駐するメディカルステーションが設置される。
全競技会場に、応急処置と救急医療サービスを提供するメディカルステーションが少なくとも1つ設置される。

公式病院
以下の公式病院がパリ2024パラリンピック競技大会の公式病院に指定されている。

病院	住所	緊急輸送 カラー
CHUクワイク・エ・ピシヤ	46 rue Henri Huchard 75018 Paris	選手・NPC スタッフ
ユローバク・ジャン・マルティノ ボンビエール病院	20 Rue Leblanc 75015 Paris	パラリンピックスタッフ アスリート
アグニェス 病院	125 Rue de Stalingrad 93000 Bobigny	メディア

→ CHUクワイク・エ・ピシヤ
クワイク・エ・ピシヤ病院は、パリ2024の競技会場(TAP)に近く、高いレベルのサービスを提供。
パラリンピック選手村から2.8kmに位置し、1,000名の病床を有し、幅広い医療と手術を提供する。
脳卒中、心臓病、がん、糖尿病、外傷治療などの紹介病院である。

→ ショートローの指定病院

パラリンピック選手村	住所
ショートロー	ショートロー組合病院 216 avenue de Verdun, 36000, Châteauneuf

*競技大会専用のサービスはないが、救急医療は提供される。

→ 緊急輸送
必要に応じて選手を病院に搬送するための救急車が配備される。現場にいない場合、救急車は30分以内に会場に到着する。
選手は、病状や場所に応じて、選手村ポリクリニックが指定病院に紹介される。

フランスでは、生命を脅かす医療上の緊急事態の場合、医療搬送は国によって提供される(移動集中治療ユニット - Mobile Intensive Care Unit; MICU)には、救急医療の資格を有する医師、専門看護師、救急救命士が配置されている。

搬送を提供する主体はSAMUで、MICUはSMUR (Mobile Emergency and Resuscitation Service: 救急機動施設)によって提供される。重大な緊急事態の場合、最寄りの適切な診療科に患者を紹介する。

これらは競技大会時、呼び出しにすぐに対応できる状態で、組織委員会で医療サービスの調整を行う。
会場の医療ステーションには、緊急サービスと同じスタッフと設備が備えられる。

74

リラックスルーム CONCEPT



HOME in Paris

HOME in Paris

日本代表選手団のアスリートが4年に1度のパラリンピックの舞台で最高のコンディションで闘いに挑めるように、リラックスルーム(HOME in Paris)を日本代表選手団の居住棟内に展開。

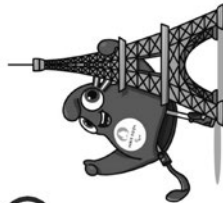
座ってコーヒーやダシを飲みながら、一人で読書を楽しんだり、アスリート同士の交流をしたり、ふと気持ちが安らぐ、思うがままに自分の時間を過ごせるスペースを提供。

76

日本代表選手団リラックスルーム



Café du Dashi (味の素ブース)



リラックスルーム

- 設置場所
日本代表選手団 居住棟No.22棟のM2階(予定)



リラックスルーム

- ① カフェスペース
- ② 味の素提供『café de dashi』& 製品提供
- ③ リラックススペースA(漫画、カードゲーム、ボードゲームなど)リラックスアイテムの設置)
- ④ リラックススペースB



リラックスルーム (JPC本部総務からのお願い①)



パリで闘った日本代表選手団が、次の地で闘う未来の自分や、仲間たちへ送るメッセージ。

- 1人30秒ほどのショートメッセージを録画
- ロスで闘う自分に、仲間に、スタッフに送るメッセージ
- 1人で恥ずかしい時は、複数人でも可です
- 4年後のロスパラリンピック日本代表選手団にて使用します
- リラックスルームや居住棟中庭等でJPC本部スタッフが対応

みなさんのご協力をお願いします！ 総務



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

JPC村外サポート拠点

“Le Cerisier(さくら)”を設置いたします。

《場所》

ホテル ブレイエル内 ※選手村から徒歩10分内

《期間(予定)》

2024年8月27日～9月8日

※現地で行き先を確認しながらオープン・クローズの正式な日時を決定の上、ご案内させていただきます。

《活用方法》

- ✓ 家族や友人とのミーティングポイント
- ✓ JTBチケットサポート窓口
- ✓ 記者会見
- ✓ 作業スペースや打ち合わせ場所 他

JPC職員やJTBスタッフも常駐してお待ちしております



◆JPC村外サポート拠点

※本会中の交通規制等により実際の時間に変更が生じる可能性があります
選手村 ⇄ JPC村外拠点 ⇄ マリオット
徒歩10分内
JPC村外拠点 ⇄ 徒歩5分内

村外ホテル (マリオット)
スーパーマーケット
選手村
JPC村外サポート拠点 (アリエール)

◆JPC村外サポート拠点周辺について

選手村近隣
スーパーマーケット
"DIAGONAL"

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団 派遣前連絡会議

- 日本代表選手団の編成について
 - 編成方針、行動指針
 - 編成数、選手団本部
 - 旗手の紹介
- パリの基礎情報について
 - 安全に関する注意(大使館)
 - 天候について(ウェザーニューズ)
- 支給品について
 - 公式ウェアについて
 - ユニフォーム着用ルールについて
- 競技・競技会場について
 - 競技スケジュール
 - スポーツエントリ後の選手交替
 - アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - 現地観戦チケット対応
- 選手村について
 - 選手村概要(パリ、シャトールー)
 - JPC村外拠点について
 - 選手村の託児スペース
 - リラクゼーションの展開、味の素のサポート
 - IPCアスリート選手について
- 渡航・輸送について
 - 渡航予定、フライトプラン
 - 日本出発前、帰国の対応
 - 荷物について
 - 現地の移動
 - バスホールの更新の注意
 - 検閲について
- 現地本領務との連携
 - 行動予定表について
 - 大会後の低力依頼について
- 広報関連について
 - メディア対応
 - メダリスト対応
 - 開閉会式のコメント
 - SNSの発信について
- メディアカルチーム
 - ドクター
 - トレーナー

1、最新渡航スケジュール (東京/羽田～パリ/シャルル・ド・ゴール 便)

日本航空							
往路	便名	羽田空港 (HND)	シャルル・ド・ゴール空港 (CDG)	所要時間	14時間35分	運行日	毎日
	JL045	10:20	17:55				
復路	便名	シャルル・ド・ゴール空港 (CDG)	羽田空港 (HND)	所要時間	13時間55分	運行日	毎日
	JL046	20:25	17:20+1 (翌日到着)				
全日空							
往路	便名	羽田空港 (HND)	シャルル・ド・ゴール空港 (CDG)	所要時間	14時間35分	運行日	毎日
	NH215	09:35	17:10				
復路	便名	シャルル・ド・ゴール空港 (CDG)	羽田空港 (HND)	所要時間	13時間35分	運行日	毎日
	NH216	19:20	15:55+1 (翌日到着)				

※7月22日時点の運行スケジュールです(2024年3月31日～2024年10月26日)
運行スケジュールは変更の可能性があります。

82

1、最新渡航スケジュール（東京/羽田～パリ/シャルル・ド・ゴール（便）

【航空会社別 受託手荷物容量】

航空会社	重量	サイズ	個数
日本航空	無料で機内預けとなる 荷物サイズとルール	サイズ	2個まで ※車いす等含まず
	エコノミークラス 1個あたり 23kg	3辺(縦・横・高さ)の合計が 203cm以内 * キャスターと持ち手を含む	
全日空	無料で機内預けとなる 荷物サイズとルール	サイズ	2個まで ※車いす等含まず
	エコノミークラス 1個あたり 23kg	3辺(縦・横・高さ)の合計が 158cm以内 * キャスターと持ち手を含む	

※上記より大幅な超過が発生する場合は超過料金を競技団体に負担いただきます。

2、出発前準備

基本情報

言語	公用語はフランス語、ホテルやレストランなど公共施設では一般的に英語も使われる
時差	パリと日本との時差はマイナス7時間(日本より7時間遅れ)
通貨	EUR
レート	1EUR = 172円(2024年7月22日現在)
プラグ	Cタイプ、SEタイプが主流。変換アダプターが必要 電圧は220V、50Hzと日本より約倍の電圧のため日本から電化製品を持っていく場合は対応できるか確認が必要。(スマートフォンの充電器やPCは対応していることが多い)
決済手段	クレジットカードが主流 (VISA/MasterCard/JCB ※取扱いがないところもあり)
飲み水	水道水は品質的にはそのまま飲んでも問題ありませんが、フランスの水は硬水なので体に合わない場合もあるため軟水の購入をお勧めします。

2、出発前準備

■たびレジ(外務省海外安全情報サービス)登録サイト
[HTTPS://WWW.EZAIRYU.MOFA.GO.JP/INDEX.HTML](https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html)

*たびレジは、海外旅行や海外出張される方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです(※別途、JPCから便宜供与を外務省他に発出)

QRコード

登録方法

- 出発前、海外旅行先、滞在先、連絡先、緊急連絡先を登録する。
- 海外安全情報、無料配信サービスで、最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです(※別途、JPCから便宜供与を外務省他に発出)
- 海外安全情報、無料配信サービスで、最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです(※別途、JPCから便宜供与を外務省他に発出)
- 海外安全情報、無料配信サービスで、最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです(※別途、JPCから便宜供与を外務省他に発出)

3、ご出発当日について

日本航空(JL045)にてパリへ出発する場合

集合時間 06:50
 集合場所 羽田空港 第3ターミナル 3階 Zカウンター前
 お渡し物 航空Eチケット控え、荷物タグ
 総務広報の方のみ: レンタル携帯・WIFI(海外にて直前合宿を実施の場合は選手村入村時にお渡しとなります。)

※前泊時、大きな荷物を荷物専用部屋にお預けになった方は、ご自身にてピックアップ(05:30開扉)の上、集合場所までお待ち下さい。

Zカウンター

～羽田空港第3ターミナル 3階フロアマップ～

3、ご出発当日について

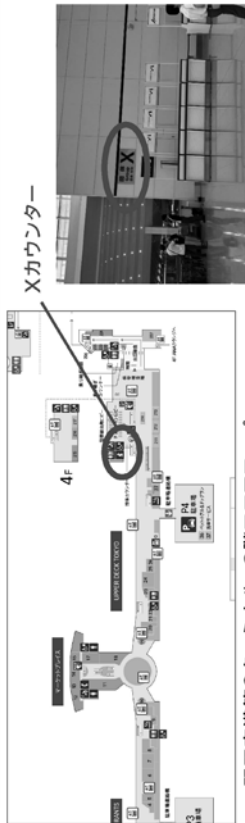
全日空(NH215)にてパリへ出発する場合

集合時間 06:20
 集合場所 羽田空港 第2ターミナル 3階 Xカウンター前
 集合場所 羽田空港 航空Eチケット控え、荷物タグ
 お渡し物 航空広報の方のみ、レンタル携帯-WiFi(海外にて直前合宿を実施の場合は選手村入村時にお渡しとなります。)

総務広報の方のみ、レンタル携帯-WiFi(海外にて直前合宿を実施の場合は選手村入村時にお渡しとなります。)

※前泊時、大きな荷物を荷物専用鞆にお預けになった方は、ご自身にてピックアップ(05:30開始)の上、集合場所までお持ち下さい。
 ただし以下日曜については、ANA便出発ターミナルまでトラックにてお運びします。荷物部屋でのピックアップは不要です。

トラックにお荷物をお運びする日(ANA便のみ):
 8/23日～8/24日 8/25日～8/26日 8/29日～8/30日 出発



3、ご出発当日について

ご集合後～搭乗まで 共通案内

荷物タグを全ての荷物に貼り付けてください。(詳細次ページ)

↓
 専用カウンターにて、チェックイン及び荷物預け手続きを行ってください。

↓
 搭乗券・荷物引換証を受け取った後、チーム責任者の指示に従い、出国審査へ移動してください。

↓
 搭乗開始時刻・搭乗ゲートは、空港電光掲示板にて再度確認ください。

↓
 時間に余裕をもって搭乗ゲートへお越しください。
 ※車いすご利用の方は早めのゲートにご協力ください(ご集合時間は当日ご案内)



3、ご出発当日について

日本出発時、以下2点を荷物に付けます。

- ① JTB(荷物タグ)
 - ② 組織委員会(シールタグ)
- ※①は支給品スーツケース持ち手1箇所につけます。
 ※②は荷物側面に付けます。



①JTB(荷物タグ/イメージ)



② 組織委員会(シールタグ/イメージ)



4、パリ 到着後の流れ・現地情報

～シャルルド・ゴール空港到着後の流れ～

① 入国審査 *専用レーンが設けられる予定です。
 パスポートを用意のうえ、入国審査を受けてください
 ※要ビザの方はPVCを用意(ビザ機能ありPVC)

② 荷物受け取り
 ターンテーブルにて出発地で預けた荷物を受け取ってください

③ 税関
 税関申告の必要のない選手役員は、緑色のレーンを通ってください

④ 出口へ
 指定車両(組織委員会車両)にてそれぞれの選手村へ向かいます
 ※事前にご報告いただいた荷物量にて、組織委員会が車両・荷物車を準備致します。

アクレ(Pre-Valid Card)の有効化は、選手村にて行います。



4、パリ 到着後の流れ・現地情報

パリ シャルル・ド・ゴール空港 (CDG) 基本情報

- ターミナル1: NH, LH など (スカイチーム以外の航空会社、スターアライアンス加盟航空会社、アジアやアフリカ諸国の航空会社を中心)
 - ターミナル2: JL, AF (ホーレ) など (2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 2Gに分かれる)
 - ターミナル3: LCCやチャーターなど不定期便の発着が中心 (ヨーロッパ、アジア、アメリカの航空会社を中心)
- ※ターミナル間を移動する場合は、CDGVAL(シャトルシステム)を利用

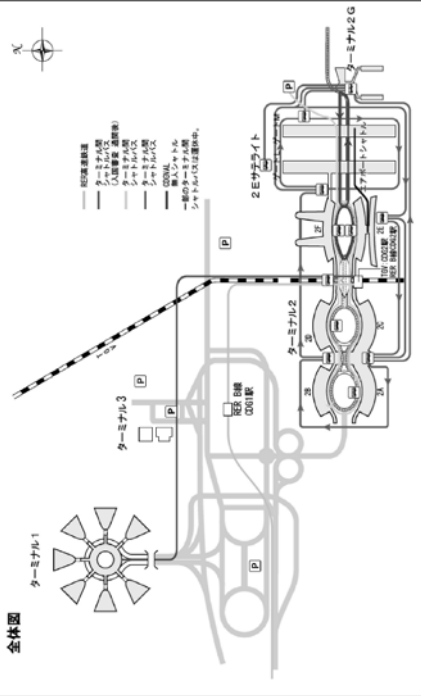
<パリ市内中心部から北東に約23km>

- ロワシーバス (Roissy Bus)
 - オバラ座行き 約60～75分 16.2ユーロ 約15～20分間隔(06:00～00:30)
 - タクシー パリ市内まで 約45分 専用乗り場から定額制タクシーあり
 - セーヌ河右岸行き 56ユーロ、セーヌ河左岸行き 65ユーロ
 - RER B線(第2ターミナルのシャルル・ド・ゴール2駅発) パリ市内まで 約30～50分 11.45ユーロ
- (ただしRER B線は混雑が多いため、外務省より利用を控えるよう案内があります)

市内までの
アクセス

4、パリ 到着後の流れ・現地情報

パリ/シャルル・ド・ゴール空港 Paris/Charles de Gaulle Airport (CDG)



4、パリ 到着後の流れ・現地情報

～アクレ保有者用交通アプリ Paris 2024 Transport Accred～

アクレ保有者向けの移動アプリによって、競技会場等のアクセスを確認することが可能です。
Google Play / Apple Store よりダウンロードの上ご使用ください。

パリ地域の経路検索、タクシー予約、ネットワークマップ(パリおよび共同開催都市の公共交通(TP)とTransport Connect(TC))、TXアップグレードでの予約、タクシープラットフォームへのリダイレクション、FAQなど、いくつかのサービスにアクセスできます。

※詳細「TRANSPORT ACCRED. MOBILE APP GUIDE」を後メールさせていただきます。



5、パリ 出発の流れ

離村案内については現地で本部よりLINEでご案内致します。



VISIT JAPANの登録・推奨
水際対策終了に伴い、登録の義務化は撤廃されましたが、VISIT JAPAN上で入国審査と税関申告を行うことで、空港では登録画面を見せるだけで入国手続きがスムーズになります。

Visit Japan Web | デジタル庁 (digital.go.jp)
よくあるご質問(FAQ) | Visit Japan Web (digital.go.jp)

6. 保険について

日本選手団は原則、IPC規程の海外旅行保険、
 インエイティブ災害保険株式会社Jの「みんなの安心プラン904タイプ」にご加入いただけます。
 ※日本選手団以外の方(村外スタッフ)の方は個人又は各競技団体に「ご加入ください(後日希望集約予定)」

傷害死亡・保険金額	3,000万円
傷害後遺障害保険金額	3,000万円
傷害後遺障害保険金額	1,000万円
治療・救済費用保険金額	無制限
職業責任保険金額	1億円
入院一時金保険金額	10万円
疾病応急治療・救急費用保険金額	300万円
携行品損害保険金額	30万円

【補償期間の考え方】
 原則：日本出発、日本帰国
 ⇒ 前泊日(前泊しない場合は出国日)～帰国日まで
 直前合宿期間分の保険料金額は後日IPCより請求予定

注：海外旅行保険の契約条件は、日本の住居を出発してから日本の住居に着着するまでの期間に限り有効となります。したがって海外を滞在されている方は、契約先で必ずお心当たりのある補償内容をご確認いただき、左記の補償内容に違いがある場合は、後日IPC様とご調整をお願いいたします。
 ※ご質問の際は、補償内容がわかるもの・領収書が必要となりますので、必ず保管するようにお願いいたします。

※上記金額を上限に実損相当を補償します。
 ※疾病・傷害が発生した際は必ず報告をしてください。また、大会期間後も、通院・入院等が発生する可能性がある場合は、保険会社にも報告をする必要があります。
 ※救済費用保険：滞在中の滞りによる旅費や前泊やケガなどで入院したときに家族が駆けつける旅費などを補償。



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

1. 日本代表選手団の編成について
 - ・編成方針、行動規範
 - ・編成数、選手団本部
 - ・旗手の紹介
2. パリの基礎情報について
 - ・安全に関する注意(大使館)
 - ・天候について(ウェザーニューズ)
3. 支給品について
 - ・公式ウェアについて
 - ・ユニフォーム着用ルールについて
4. 競技・競技会場について
 - ・競技スケジュール
 - ・スポーツエージェント後の選手交替
 - ・アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - ・現地観戦チケット対応
5. 選手村について
 - ・選手村概要(パリ、シャトロー)
 - ・JPC村外拠点について
 - ・選手村の託児スペース
 - ・リラックスルームの展開、味の素のサポート
 - ・IPCアスリート選手について
6. 送迎、輸送について
 - ・渡航予定、フライトプラン
 - ・日本出発前、帰国の対応
 - ・荷物について
 - ・現地の移動
 - ・パスポートの更新の注意
 - ・保険について
7. 現地本部総務との連携
 - ・LINEの利用について
 - ・総務、広報窓口の確認について
8. 広報関連について
 - ・メディア対応
 - ・メダリスト対応
 - ・閉会式のコメント
 - ・SNSの発信について
9. メディカルチーム
 - ・ドクター
 - ・トレーナー



◆ 選手村でのサービスについて (IPC提供)

1. 選手村託児ルーム
 - 事前利用申し込み必要 8月7日(水)最終締め切り
 【重要】至急競技団体経由IPCまで希望を連絡ください。
2. OTTOBOCK リバアセンター
3. 選手村内モビリティサービス(TOYOTA)
 - 移動用軽車両、車いす用電動牽引装置、自転車(BRIDGESTONE)
4. COCA - COLA社ラウンジ
5. CORONA CERO/リラックステラス
6. 選手用ギフトセット
 - サムソン社製スマホ、コカ・コーラ社製ボトル、P&G社製製品詰め合わせ(シャンプー、コンディショナー等のアメニティ)
7. P&G関連サービス
 - 美容・理容サロン、ボリクリ内Oral-Bデンタルケア、Arielランドリー、生理用品提供(ダイニングホール内トイ(他))
8. Airbnb \$ 5000サービス
9. VISAカードサービス



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

1. 日本代表選手団の編成について
 - ・編成方針、行動規範
 - ・編成数、選手団本部
 - ・旗手の紹介
2. パリの基礎情報について
 - ・安全に関する注意(大使館)
 - ・天候について(ウェザーニューズ)
3. 支給品について
 - ・公式ウェアについて
 - ・ユニフォーム着用ルールについて
4. 競技・競技会場について
 - ・競技スケジュール
 - ・スポーツエージェント後の選手交替
 - ・アクレについて(有効化、アクセス権限 等)
 - ・現地観戦チケット対応
5. 選手村について
 - ・選手村概要(パリ、シャトロー)
 - ・JPC村外拠点について
 - ・選手村の託児スペース
 - ・リラックスルームの展開、味の素のサポート
 - ・IPCアスリート選手について
6. 送迎、輸送について
 - ・渡航予定、フライトプラン
 - ・日本出発前、帰国の対応
 - ・荷物について
 - ・現地の移動
 - ・パスポートの更新の注意
 - ・保険について
7. 現地本部総務との連携
 - ・LINEの利用について
 - ・総務、広報窓口の確認について
8. 広報関連について
 - ・報道対応
 - ・メダリスト対応
 - ・閉会式のコメント
 - ・SNSの発信について
9. メディカルチーム
 - ・ドクター
 - ・トレーナー



【JPC広報の主な役割】

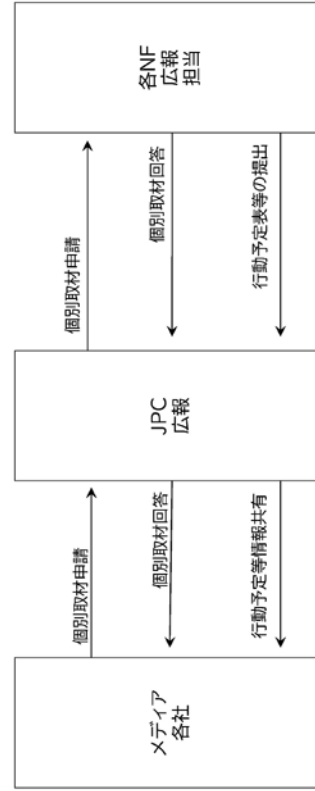
- ①メディアからの情報提供の一本化
- ②メディアからの個別取材申請の受付・調整
- ③各会場における日本代表選手のミックスゾーン通過時のサポート
- ④メダリスト記者会見の実施、メダリストテレビ出演(NHK)への協力
- ⑤選手団本部記者会見の運営(入村時、大会総括など)
- ⑥各競技の記者会見の支援(希望があった場合)
- ⑦開会式/閉会式時の一言コメントの収集とメディア配信
- ⑧JPC公式ホームページ、JPC公式SNS等での情報発信 他

【報道対応における日本代表選手団基本姿勢】



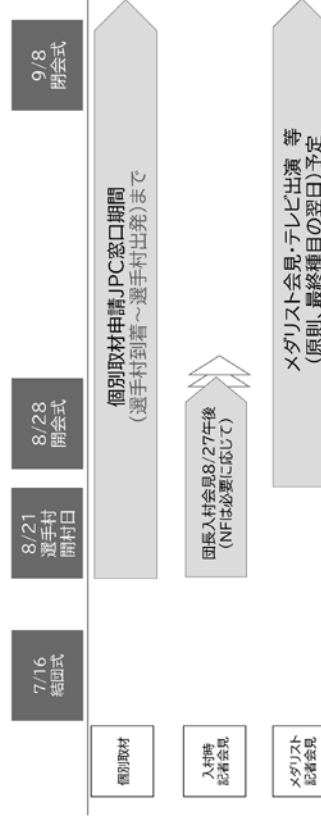
- ・JPCは、パラリンピック報道を通じた国民啓発を積極的に進めるため、報道関係者によるパリ2024パラリンピック競技大会日本代表選手・スタッフ(以下「選手団員」)への取材活動を奨励しています。
- ・選手団員の皆さまは、この主旨を踏まえ、日常生活をはじめ、練習スケジュール、体調管理等に支障をきたさない範囲内において、報道関係者の取材には積極的に協力してください。

【大会期間中の報道対応 フロー】



・日本出発または最終調整合宿地までは、原則として各NFがメディア対応窓口となります。

【日本代表選手団メディア対応期間について】

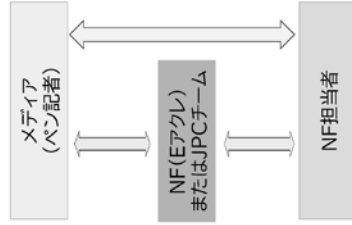


・日本出発または最終調整合宿地までは、原則として各NFがメディア対応窓口となります。

【取材を受けるときの留意点】

- ① 選手団員としての態度や発言が、パラリンピックや障がい者理解に大きな影響を与えることを理解し、清潔かつ爽やかな印象を与えることを意識して取材に臨んでください。
- ② 選手団員であることを自覚し、営利目的とみなされる場所での取材や発言は控えてください。
- ③ パラリンピック、JPC、日本代表選手団、他の選手団員等の名譽を傷つけたり、批判したりする言動は控えてください。
- ④ 当初の約束と異なる取材に対しては、選手のコンディション等を鑑み、広報担当者やコーチ等と協議の上、取材継続の可否を判断してください。
- ⑤ 選手（日本代表選手団員※アフレ保所有者）が、メディアの一人（レポーター、コメンテーター、記者、カメラマン等）として、デジタルメディアに投稿したり、外部媒体に寄稿することは【メディア行為】として禁じられています。
※メディア行為 … メディアとしての取材、レポート、寄稿など

■ 競技会場ミックスゾーン

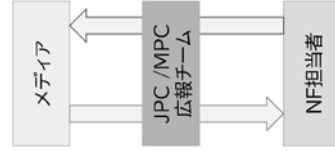


- ◇ 期間：2024年8月29日(木)～9月8日(日)
- ◇ 対応：①NPC-Eアフレを所有するNF担当者が対応
※AT, BD, BF, GB, SW, TR, WR, WT
②JPC広報チームによるサポート
※原則Eアフレを持たない競技を優先
※競技別に調整
- ◇ 場所：各競技会場内 ミックスゾーン
※TV(NHKおよび民放JC)は組織委が直接管理
- ◇ 服装：対応者は日本代表選手団公式スポーツウェアまたはJPC広報スタッフポロシャツ
- ◆ 対応のポイント：インタビューを長引かせないように時間管理すること
◆ パーソナルな質問については、プロフィールを参照してもらう

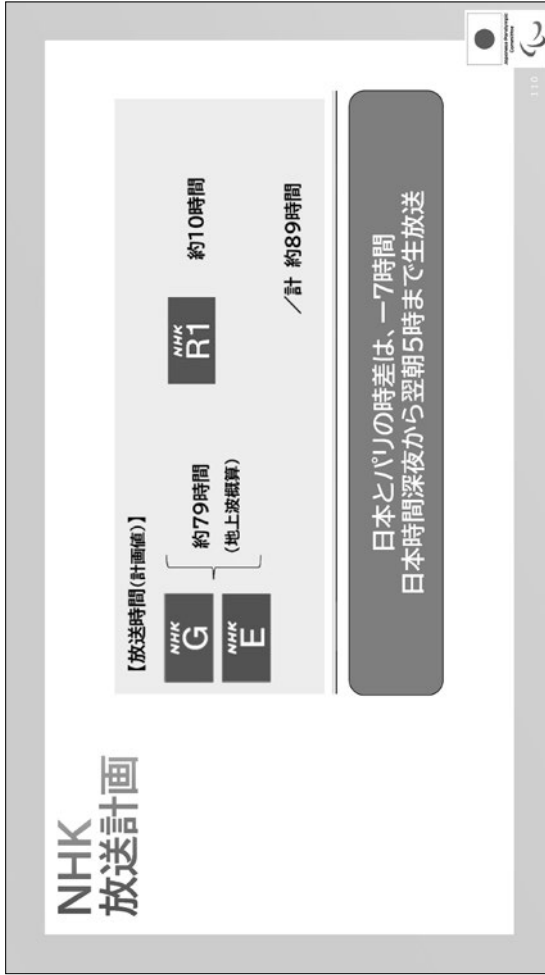
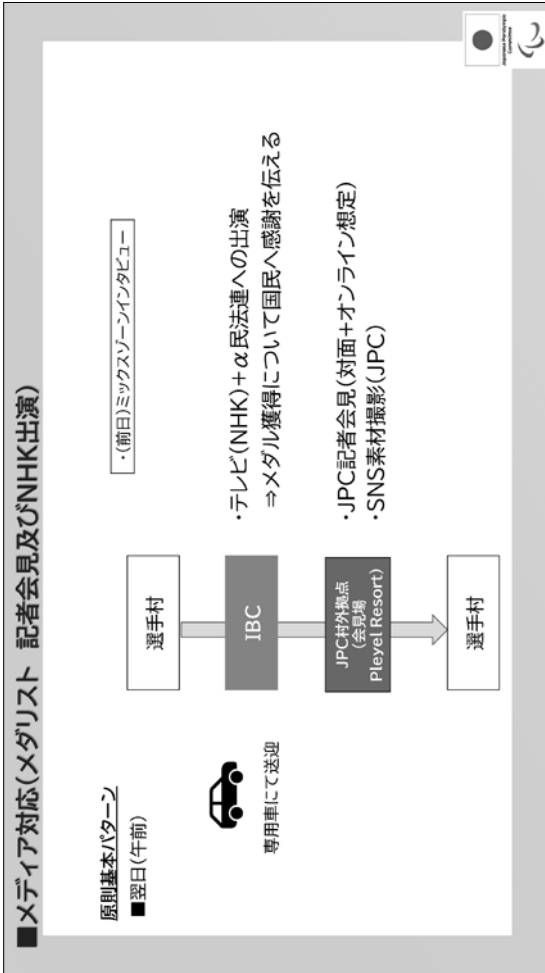
■ 競技会場ミックスゾーンでの対応

- ミックスゾーンは、メディアが競技直後の選手の表情やコメントを、映像や手短なインタビューを通して取材することができる区域です。
- JPCでは、わが国におけるパラリンピックの普及・啓発鑑み、ミックスゾーンでの手短なインタビューに対して積極的に応えていただくことを推奨しています。
- ただし、体調管理に支障が出る可能性のあるときや、ミックスゾーンの主旨と異なる取材が継続されそうな場合に限り、取材をお断りすることも可能です。
- ★ミックスゾーンでは、JPC広報スタッフがサポートに入ることがあります。対応時、不明な点等ありましたら、遠慮なくお声がけください。

■ メディア対応(個別取材)



- ◇ 期間：選手村入村から選手村出発まで
 - ◇ 対応：上記期間のメディアからの個別取材申請は、JPCが窓口
(個別インタビュー、テレビ出演等を想定)
JPCで申請受領後、各NF担当者を通じて可否判断、調整
当日のアテンドが必要な場合は、要相談
(IBC等アテンドに制限がある場所もあります)
 - ◇ 対象：テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネットメディア等
 - ◇ 服装：日本代表選手団公式服装または公式スポーツウェア
- ・日本出発または最終調整合宿地までは、原則として各NFがメディア対応窓口となります。



【開会/閉会にあたり、選手一言コメントの収集とメディア公開】

開幕と閉幕を迎えるにあたり、全選手より一言コメントを頂きます。

この一言コメントは、各社取り上げていただき、また通信社などから地方紙への配信もあつることから、掲載率が非常に高くなつていきます。

開会式・閉会式に参加しない方でも、日頃から応援している地元の皆様方へ、大会に参加する(参加した)にあつたのコメントをメディアを通じて届けるチャンスとなっております。

【デジタルメディア(SNS等)への投稿】

日本パラリンピック委員会(JPC)のパリ大会特設サイトにある【日本代表選手団員等の知的財産権・マーケティングガイドライン】の内容を十分確認の上、ルールに沿つた効果的なSNS発信、対応をお願いいたします。

<リンク> <https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/parispara2024/representative/index.html>

- P27 個人スポンサーへのメッセージ等
- P28 デジタルメディア活用の概要等
- P29 撮影場所制限、投稿制限 等

【その他】

- 「ASICS House」へのご招待
8月28日～9月8日まで、パリ市内に開設。
- 日本郵便 メダリスト切手の販売について
表彰式の4日後以降、順次販売予定。
- Aflo 日本代表選手団向け写真プリントサービスについて
8月28日～10月31日、料金等は後日ご案内。
- 大会公式リザルト／情報等について
JPCパリ2024大会特設サイトでは、タイムリーに競技結果（リザルト）の配信をします。
<https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/parispara2024/index.html>



113

選手・スタッフ/競技団体に向けたアンケート調査に関するお願い

大会後、選手・スタッフを対象としたアンケート調査を実施いたします。

*JPC事務局実施

★ アンケート結果はJPCの実施するアスリートやスタッフ、NFの支援に生かされます。今後のより充実した支援のために、ご協力お願いします。

<内容（予定）>

パリ大会・パリサイクルの振り返り、既存・新規の取組みや支援のニーズ、アスリートやスタッフの活動環境・体制等の実態、他

<調査期間（予定）>

- ① 9月～10月中旬（パリ選手団、アスリート向け）
- ② 11月～12月中旬（加盟競技団体向け）



114

パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団：派遣前連絡会議

1. 日本代表選手団の編成について
 - ・編成方針、行動規範
 - ・編成数、選手団本部
 - ・旗手の紹介
2. パリの基礎情報について
 - ・安全に関する注意（大使館）
 - ・天候について（ウェザーニュース）
3. 支給品について
 - ・公式ウェアについて
 - ・ユニフォーム着用ルールについて
4. 競技・競技会場について
 - ・競技スケジュール
 - ・スポーツエージェント後の選手交替
 - ・アクレについて（有効化、アクセス権限 等）
 - ・現地観戦チケット対応
5. 選手村について
 - ・選手村概要（パリ、シャトールー）
 - ・JPC村外拠点について
 - ・選手村の庇居スペース
 - ・リリックスルームの展開、味の素のサポート
 - ・IPCアスリート選挙について
6. 渡航・輸送について
 - ・渡航予定、フライトプラン
 - ・日本出発前、帰国の対応
 - ・荷物について
 - ・現地の移動
 - ・パスポートの更新の注意
 - ・保険について
7. 現地本領務との連携
 - ・LINEの利用について
 - ・総務、広報窓口の確認について
8. 広報関連について
 - ・報道対応
 - ・メダリスト対応
 - ・開閉会式のコメント
 - ・SNSの発信について
9. メディカルチーム
 - ・ドクター
 - ・トレーナー



115

メディカル関係（ドクターチームより）

1. 現地診療体制

- 本部ドクター
 - ・塩田 有規（しおた ゆうき 8/19発）
 - ・上出 杏里（かみで あんり 8/20発）
 - ・浦原 一之（かまはら かずゆき 8/21発）
- 本部看護師
 - ・木下 敦子（きのした あつこ 8/19発）
 - ・藤尾 素子（ふじお もとこ 8/20発）
 - ・染谷 味子（そめや ささこ 8/21発）

2. 医務室

○ 診療日

2024年8月21日～9月8日 8:00～21:00

○ 対応

- ・基本的に24時間対応（開室時間内は医師・看護師が最低1名ずつ在室）
- ・夜間・早朝は、オンコール体制（連絡先は後日通知します）
- ・予約は不要（予約がある場合は予約優先）
- ・競技会場のサポート（緊急対応、ドーピングコントロール対応など）
- ・ポリクリニックスを受診したい場合は、必ず本部メディカルチームにご連絡ください。

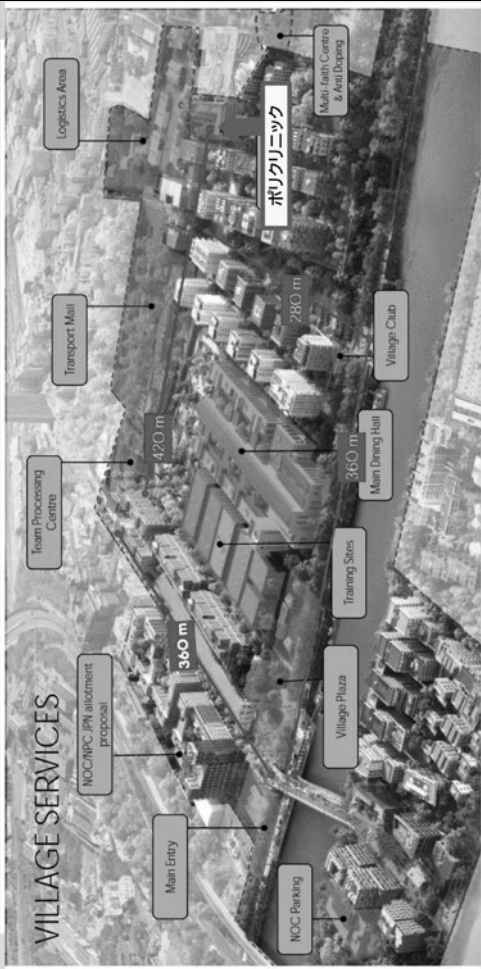


杭州アジア2023 本部医務室



116

パリ2024のメディカルサービス



メディカル関係(ドクターチームより)

3. 出発前の健康確認・対応について

- ① メディカルチェックで治療や再検査を指示されている選手は、渡航前に必ず医療機関を受診し準備を万全にしてください。
- ② メディカルチェック後に症状の悪化や新たな問題が発生した場合、大会期間中に対応が必要となる可能性がある場合は、本部医務に事前にご連絡ください(主治医からの指示も併せてお知らせください)。
- ③ 常備薬やサプリメントについても気になる点がありましたら、チームドクターやコーチを通じて本部医務まで事前にご相談ください。

4. 持参の医薬品について

- ① 選手団本部は緊急対応用の必要最小限の医薬品しか持参できません。普段使用しているまた使用する可能性がある医薬品は各自で持参してください。
- ② ただし、個人持参薬は必ず服用前に医師(かかりつけ医、またはチームドクター)あるいはスポーツファーマジストに相談し、アンチ・ドーピング規制で使用可能であることの確認を得てください。

※ サプリメントは、成分表示に記載されていないくても禁止物質が含まれている場合があります。

摂取の必要性和リスクを十分に検討した上で摂取するかを判断してください。



メディカル関係(ドクターチームより)

5. 各自の持参品について

- ・ アンチ・ドーピング使用可能薬リストに沿った薬(常備薬・頓服薬)
- ・ 自分が使用しているアンチ・ドーピング使用可能薬およびサプリメントのリスト ※必ず英文で用意してください
- ・ 不織布マスク
- ・ 健康保険証(できるだけ写しでないもの)
- ・ 体温計(毎日の体温測定のため)
- ・ パスポートのコピー
- ・ 予防接種歴についてのメモ(特に麻疹と風疹については、これまでの接種種類と接種時期・回数について母子手帳などで確認し、このしおりの余白などに記載しておいてください)
- ・ サンングラス(屋外出時の紫外線からの目の保護)
- ・ 常備薬(不足がないように)



メディカル関係(ドクターチームより)

6. 食事について

- ・ メインダイニングでは普段と違ったメニューもあります(衛生環境に十分注意を払ってください)。その違いを楽しむ一方、一度に大量の食事をとって食べ過ぎないように、自分の体調と相談しながら食事をしましょう。
- ・ 水分(ミネラルウォーターを推奨)は意識的に摂取するようにしましょう。フランスで提供されるミネラルウォーターは硬水であることが多く、また放電が入っている可能性もあります。硬水は日本人にはやや飲みにくいです。

7. コンディション調整について

- ・ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の対策として、「手洗い・うがい」と「手指消毒」をこまめに行いましょう。
- ・ 乾燥対策:ホテルの部屋は乾燥しがちなので、タオルを濡らして干したり、シャワーで蒸気を立てるなど、工夫をして鼻やのどを乾燥から防ぎましょう。
- ・ 寒暖調整:宿泊部屋のエアコンの有無と、操作方法、設定温度を確認しましょう(着脱しやすい衣類の準備も)。夜間は冷えることもあります。
- ・ 8月末～9月上旬のパリの平均気温は最高23℃(16～28℃)、最低14℃(8～16℃)と過ごしやすい気候ですが、近年、気温が上昇傾向にあります。熱中症対策のため、帽子・サンングラス・日焼け止めクリームを持参しましょう。
- ・ 14時間近くの長時間フライトとなります。フライト中の褥瘡・尿路感染症の発症に注意してください。



メデイカル関係(ドクターチームより)

8. う歯(虫歯)

選手、スタッフ問わず、虫歯の治療は事前に済ませておきましょう。

9. 新型コロナウイルスおよびその他感染症対策について

令和5年3月13日から、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用は、個人の判断に委ねられることになりました。これに基づき、日本選手団としてもマスクの着用は個人の判断に任せます。ただし、6月以降、ヨーロッパでも日本国内でもCOVID-19感染者数が増加しています。公共の場で閉鎖空間になるバスや飛行機などではマスクの着用を推奨します(エビデンスとして、飛行機に搭乗する際にマスクが強制されなかった場合、6時間以上のフライトでは3時間以内のフライトと比較して感染リスクが26倍であったという論文のメタ解析結果が出ています)。

発熱や咳等の症状がある場合は(必ず医療団へ一報を)、周囲に感染を広げないためにマスクを着用してください。
新型コロナウイルス感染症以外にも、いくつかの感染症(インフルエンザなど)に対してはワクチン接種で予防することが可能です。出発までかかりつけ医に相談をして、渡航に向けたワクチン接種を検討してください。

麻疹・風疹ワクチン: 近年のメデイカルチェックでは、麻疹抗体価の低い選手が40%程度

インフルエンザワクチン: 2023年の杭州アジア大会で、インフルエンザ発症例あり

メデイカル関係(ドクターチームより)

10. 日本代表選手団: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の対応について

○ 現地でCOVID-19が疑われる症状が発生した場合は、速やかに本部ドクターに連絡し、有症状者に対しては必要に応じて抗原検査を実施します。

★ 有症状の目安

- 息苦しさ・咳・咳の痛み・倦怠感・味覚/臭覚障害・37.5℃以上の発熱(平熱が高い人は+0.5℃)
- 海外での感染は受診・治療も容易でなく、他者への影響も大きいいため、一層の感染対策を徹底してください。
- 判断に迷う場合でも、本部ドクターへ遠慮なくご相談ください。
- 濃厚接触者について、日本国内では濃厚接触の概念がなくなりましたが、非常に重要な期間であること、多くの人が狭い空間に集まっていることなど、チーム内で十分に考慮の上、対応をお願いします(判断に迷う場合は、遠慮なくご相談ください)。

○ 抗原検査陽性の場合には、療養・隔離(基本: 5日かつ症状軽快から24時間経過)となりませんが、隔離解除時期や競技への出場については、本部ドクター・本部総務・競技団体監督等と相談し判断します。
※ 抗原検査陰性の場合でも、有症状時は、本部ドクターに相談の上で対応を判断する場合があります。

メデイカル関係(ドクターチームより)

11. 虫刺傷(トコジラミ、マダニ)

昨年からはパリではトコジラミが大流行しました。最近はその流行も落ち着いてきていますが、噛まれるとその場所が腫れ、非常に強い痒みを伴うため競技にも影響が出てきます。

特徴:

- 成虫: 楕円形、赤褐色、5~7mm(肉眼で見えます)
- 幼虫: 淡黄色、透明、1~4mm

生息場所:

- マットレスの縫い目やタグ
- ベッドフレーム、ソファや椅子の隙間
- 壁の亀裂や電気コンセント周り

トコジラミを室内で発見した場合は、シーツなどの交換を要求してください。また、トコジラミは匂いに敏感で、防虫剤のネオバロアエースを置いておく部屋から逃げ出すという報告があります。

トコジラミに咬まれた場合は、以下のように対応します:

- 塗り薬・オイラックスなどを使用して、かゆみや炎症を抑えます。
- 内服薬: 抗ヒスタミン薬(アレグラなど)を服用することで、症状を和らげます。

メデイカル関係(ドクターチームより)

12. その他

・ 外務省のホームページで、パリは大気汚染が時々問題になるということが記載されています。喘息などの持病がある方は、大気汚染物質に感作されやすく、より症状が出やすくと予想されます。そのためリスクが高い方は、外出する時にはマスクを着用するなど対策を検討してください。

- 緊急の場合などに備え、メデイカルチームは24時間体制で対応します。
- 競技内外を問わず、選手がドーピング検査の対象となった場合は医務室へご報告ください。
- 発熱や咳、倦怠感などの症状が出た場合は速やかに本部医務にご報告下さい。
- 会場救護室から指定病院へ搬送された場合や、ポリクリニック・指定病院を受診した場合も速やかに本部医務へご報告下さい。

ドーピングコントロールについて

大会期間中、尿検査、血液検査を含むドーピング検査が実施されます

- ① ドーピング検査対象
 - ・選手全員がドーピング検査の対象となります。
 - ・競技パートナーもドーピング検査の対象となります。
- ② ドーピング検査のタイミング
 - ・選手村に到着してから閉会式までの期間、いつでもドーピング検査が行われる可能性があります。
 - ・検査の対象になったら、必ずドーピング検査を受けてください。断ると違反になります。
- ③ その他
 - ・検査を受けるときは、必ずコーチと一緒に(通訳も1名同伴可)に検査室に行ってください。
 - ・ドーピング検査を受けた選手は「ドーピング検査報告書」を選手団医務室に提出してください。(様式については選手団マニュアルに記載します)
 - ・表彰式などの理由で検査を待ってもらうことができます。必要な場合は、検査員に事情を話し、許可をもらってください。いつも居場所情報を提出している選手は、大会期間中も必ずADAMS経由で正確な居場所情報を更新してください。

ドーピングコントロールについて

・日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のアスリートサイトで、アンチ・ドーピングについての情報を得ることができますので確認しましょう。検査を受けたらコーチから医師に必ず報告してください。

- ④ 注意事項
 - 使用薬物調査を実施してから、使用する薬や使用する可能性のある薬に変更があった場合は、チームドクター、スポーツファーマシスト、アンチ・ドーピング担当者等の関係の皆様と共有・確認の上、JPCまでお知らせください。今回はTUE申請を行っている/行う必要のある選手は、いまでも、薬の変更によって必要となる場合もございますので、確認をお願い致します。

○ JADAホームページ クリーンスポーツアスリートサイトURLとQRコード

URL: <http://www.realchampion.jp/>



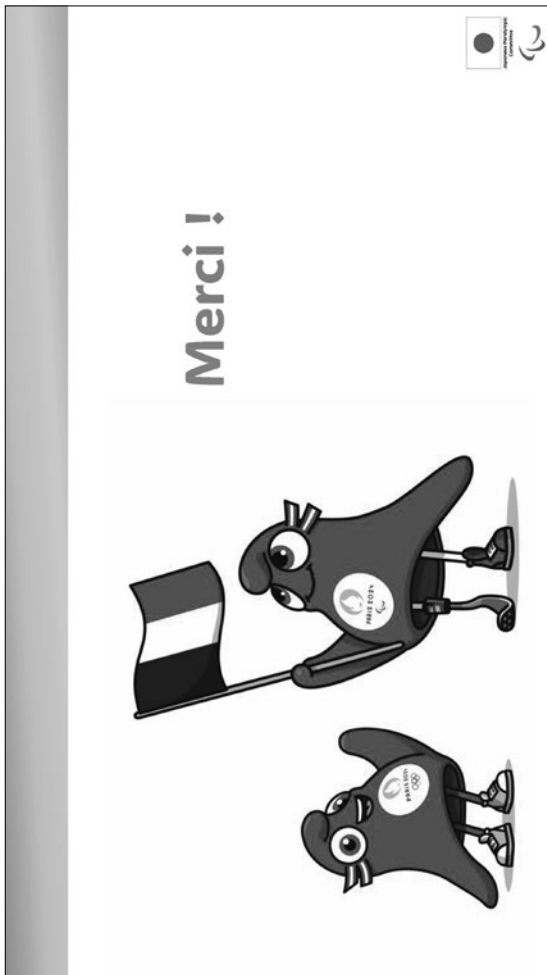
メディカル関係(トレーナー チームより)

- (1) トレーナー体制
 - ・荒谷 幸次(チーフ:理学療法士)・岩倉 暉(鍼灸マッサージ師)・笹代 純平(理学療法士)
- (2) 開室日時(予定)
 - 2024年8月21日～9月8日、原則8:00～22:00(9月8日は午前のみ)
 - * 早期、深夜の要望が有りましたらご相談ください。
- (3) トレーナー室設備
 - ベッド、マット、テーピング類・コンディショニング用品各種・鍼・物理療法機器各種
- (4) 利用方法(予定)
 - ・初回利用の際は必ず本部医師の処方になります。
 - ・コンディショニング、リハビリ、テーピングなどについては、原則予約制(30分単位)になります。
 - ・予約はNFスタッフを通してLINEで実施を検討しています。※後日詳細をお伝えします。
 - ・鍼施術に関しては施術経験がある方のみ、希望に応じて対応します。
 - ・会場でのトレーナーサポートの希望がある場合は相談してください。
 - ※ その他、要望等がありましたら、本部トレーナーまでご相談ください。

トレーナールームの設備(物理療法機器)

- ・複合型電気治療機器
- ・マイクログラレント治療機器
- ・超音波治療機器
- ・圧力波治療機器
- ・高周波温熱機器
- ・超短波治療機器
- ・持続的圧迫冷却機器
- ・空気圧マッサージ機器
- ・その他、ポータブル治療機器







はじめに

本ガイドは、パリ2024パラリンピック競技大会に出場する、

- (1)日本代表選手団員(以下「大会参加者」)
- (2)競技団体
- (3)大会参加者が勤務・所属する企業/
在学する学校(以下「所属先」)
- (4)(1)~(3)までのそれぞれのスポンサー等

上記の皆さまに、パラリンピックの知的財産や、パラリンピックに向けたマーケティング活動の意義を説明し、これらのマーケティング活動の権利を損なわずに、いかに大会参加者が広告・宣伝活動に出演できるかについて、説明したものです。

広告・宣伝活動を行う場合、本ガイドを参照のうえ計画実行してください。

<主な内容>

- アンブッシュマーケティングの防止はなぜ必要か
- パラリンピックの知的財産について
- パリ2024大会期間中の広告・宣伝活動の制限について
- 大会参加者が、広告・宣伝へ出演する際のルールについて

2

目次

PART1 アンブッシュマーケティングの防止について

アンチ・アンブッシュの必要性	5
パラリンピックの知的財産	6
アンブッシュ例パラリンピックをイメージさせる表現	7
アンブッシュにあたらぬ例パラリンピックをイメージさせない表現	8
パラリンピックパートナー	9

PART2 【団体・企業等が発信する場合】

I パリ2024大会期間中の大会参加者の肖像使用(広告・宣伝活動)	
肖像使用条件(審査の判断基準)について	11
肖像使用の申請手続きについて	13
II パリ大会に関連する活動	
基本概要	16
プレスリリース	17
Webサイトの掲載(大会参加者に関するメッセージ)	18
記者会見(内定、代表決定)	24
お祝い横断幕	25

PART3【大会参加者(個人)が発信する場合】

SNS(個人スポンサー等への感謝メッセージ)	27
SNS(大会に関する投稿)	28
その他	31
IPC/JPC/パリ2024大会 公式アカウント	32
資料等	33
申請書提出先および問い合わせ先	34

3

PART 1

アンブッシュマーケティングの防止について

4

アンチ・アンブッシュの必要性

パラリンピック大会の準備・運営には、多額の財源が必要です。この財源を確保するために、パラリンピックの知的財産を使ったマーケティング活動が行われています。

このため、パラリンピックの知的財産の権利を保護し、**無断使用、不正使用、流用等のアンブッシュマーケティングを防止することが必要**です。

(=アンチ・アンブッシュ)

日本パラリンピック委員会(以下、「JPC」)は、国際パラリンピック委員会(以下「IPC」)から、IPCの独占的な所有物であるパラリンピックの知的財産(以下、総称して「パラリンピックに関する知的財産」という)の日本国内における運営・管理を任せられ、JPCスポンサー制度の導入により財源確保のためのマーケティング活動を行っています。この多額の協賛金の対価として、JPCスポンサーには、それぞれのスポンサー・カテゴリーに応じて、パラリンピック日本代表選手団をテーマとした宣伝活動を行う権利が認められています。

一方で、これらのパラリンピックに関する知的財産を無断使用、不正使用ないし流用することは、IPC及びJPCの権利を侵害するばかりでなく、スポンサー等からの協賛金等の減収を招き、ひいては大会の運営や選手強化等にも重大な支障をきたす可能性があります。このため、これらの知的財産を保護し、アンブッシュマーケティング(以降、「アンブッシュ」)を防止することが必要となります。

5

パラリンピックの知的財産

パラリンピックに関する主な知的財産としては、パラリンピックシンボル(スリー・アギトス)、大会エンブレム、大会名称、大会マスコット、ピクトグラム、大会モットー、パラリンピックに関する用語、画像および音声等があります。これらは知的財産として保護されているため、自由に使用することはできません。



【保護対象となる各種用語(例)】

大会名称等の各種用語も知的財産であり保護の対象となるため、権利主体者(IPC、JPC、IOC、パリ2024組織委員会)の許可なしに使用することはできません。

パリ2024パラリンピック競技大会	パラリンピック
Paris 2024 Paralympic Games	パラリンピアン
パリ2024大会	Spirit in Motion
Paris 2024 Games	聖火/聖火リレー/トーチ/トーチリレー
パリ2024	パラリンピック日本代表選手団
Paris 2024	

6

アンブッシュ例 パラリンピックをイメージさせる表現

	参考例
×	パラリンピック知的財産(用語・マーク)を使用
×	パラリンピック(過去大会を含む)の競技シーンを使用
×	金銀銅、メダル、パリ、夏、2024などのパラリンピックを想起させやすい用語や映像等と大会参加者を結びつけて、パラリンピックをイメージさせるような演出
×	パリ2024大会期間中の、パラリンピック以外の競技大会の入場行進、メダルセレモニー、スタート直前・フィニッシュ直後、競技シーンなどの映像・イメージを用いてパラリンピックを想起させるような演出
×	パラリンピック日本代表を想起させるユニフォームを着用
×	パリ2024大会会場(または類似のセット)の前や中で撮影したシーン

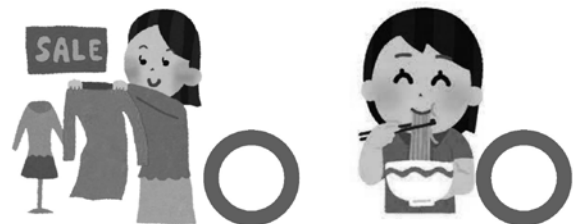


※上記は、「パラリンピックをイメージさせる表現」の一例ですが、上記の内容に限定されません。また、「パラリンピックをイメージさせるか否か」は、全体の内容や文脈から判断されます。

7

アンブッシュにあたらぬ例 パラリンピックを想起させない表現

	参考例
○	大会参加者が、日常生活(仕事、食事、散歩、買い物、運転など)の中で、商品・サービスを広告・宣伝するシーン(パラリンピックを想起させないもの)
○	競技大会とは明らかに異なるスポーツシーン
○	子供達にスポーツを教えているシーン
○	大会参加者が、競技会場以外の場で談笑や飲食するシーン
○	練習の準備をしているシーン(パラリンピックを想起させないもの)
○	ウェアや競技用具等の広告・宣伝(パラリンピックを想起させないもの)。但し、大会参加者は、大会期間中、広告対象のウェアや競技用具がスポーツパフォーマンスを向上させる性能や機能を持つことを謳った広告・宣伝活動に出演することはできません。



※上記は、「パラリンピックをイメージさせない表現」の一例で、上記の内容に限定されません。また、「パラリンピックをイメージさせないか否か」は、全体の内容や文脈から判断されます。

8

パラリンピックパートナー

(2024年4月1日時点)

- Worldwide Partners**
- Premium Partners**
- Official Partners**
- JPCオフィシャルスポンサー**

PART 2

【団体・企業等が発信する場合】

I パリ2024大会期間中の大会参加者の肖像使用〈広告・宣伝活動〉

※参照
IPC「Athlete Sponsorship and Advertising Regulations Paris 2024 Final」

肖像使用条件(審査の判断基準)について

大会参加者の個人スポンサー等による、パリ2024大会期間中に大会参加者の肖像(写真、名前、イメージ、スポーツパフォーマンス)を使用した商業活動、広告・宣伝活動はアンブッシュの恐れがあります。そのため、個人スポンサー等は、**2024年5月31日(金)**以降に新たに掲出する広告を、大会期間中に掲出することには制限が設けられています。

ついでには、JPCに申請された肖像使用の内容は、下記の基本条件をもとに可否が判断されます。

※パラリンピック競技大会参加者誓約書 (Eligibility Code Form) に基づく規定です。

- ①掲出時期**
2024年5月31日(金)以前から継続的に掲出されている広告素材であり、パラリンピックの注目度が最も高まる時期を狙った広告等ではないこと。
- ②表現**
パラリンピックやパラリンピック日本代表選手団をイメージさせる広告内容ではないこと。
※イメージはコピーやナレーション、選手が着用する服装、場所、シーンなどの複合的な要素によって判断される
- ③掲出媒体・箇所**
パラリンピックの開催に合わせた中継番組、特集ページではないこと。
※媒体とは新聞・雑誌広告、テレビラジオCM、屋外広告、交通広告、チラシ、インターネットやSNSによる広告・宣伝等、全ての広告媒体を指す
- ④出稿量**
日常、継続的に実施している広告等に比べ、極端に増加した広告出稿量ではないこと。

掲出時期 × 広告表現 × 掲出媒体 × 出稿量

肖像使用条件(審査の判断基準)について

パリ2024大会期間 (=肖像規制期間)

2024年8月21日(水)～9月10日(火) (開会式7日前～閉会式2日後)

※大会開催日は2024年8月28日～9月8日
※SNSの適用期間は2024年8月20日～9月16日

※大会期間中はIPC「Athlete Sponsorship and Advertising Regulations Paris 2024 Final」をふまえたJPCのルール(本ガイドライン)が適用されます。
※大会参加者の個人スポンサー等が、大会期間中に広告・宣伝を掲出する場合は、本資料に従い、JPCから事前承認を受ける必要があります。
※大会参加者の個人スポンサー等が、JPCの承認を受けずに広告・宣伝を掲出し、アンブッシュにあたる広告掲出を行った場合は、パリ2024パラリンピックへの参加資格が剥奪される等の可能性がありますので、十分に注意してください。

開始日

個人スポンサー等

- ※大会期間中に掲載量が増加した場合はアンブッシュとみなします。
- ※5月31日以降に使用開始した広告を大会期間中に掲出することは認められません。
- ※大会期間中から新たな広告を掲出することは認められません。

※大会期間前に掲出を終了した広告については対象外となります。

肖像使用の申請手続きについて

大会参加者の個人スポンサー等が、大会期間中に大会参加者の肖像を使用する場合は、本ガイドラインに則り、事前に肖像使用に関する申請書類を大会参加者が所属するNFを介してJPCへ提出し、承認を得る必要があります。

●申請締切:

2024年5月31日(金)

※審査・修正等に時間を要するため、早めの申請をお奨めします。

※締切り後の申請は受付致しませんのであらかじめご了承ください。

※新規広告の場合、広告掲出予定日より最低でも**15日前**に申請をして下さい。

<注意事項>

*申請内容がアンブッシュに該当すると判断された場合は、その内容を修正・変更する必要があります。時間に余裕を持って申請してください。

*審査をする上で、記載内容が不十分な書類は受理できませんので、ご注意ください。

*広告は、**2024年5月31日**以前からの継続的掲出であることが条件になります。

●申請書類:

①広告・宣伝出演申請書

②広告・宣伝出演等に関する誓約書

③広告・宣伝内容の企画書（添付書類として提出する場合）

※申請様式は競技団体等に配布、JPCwebサイトに掲出

▼広告・宣伝出演申請書(見本)



▼広告・宣伝出演等に関する誓約書(見本)



●申請方法:

大会参加者またはその代理人がNFを介して電子データにてJPCへメール申請

<申請先>

公益財団法人日本バラスポーツ協会日本パラリンピック委員会
企画広報部(担当:黒田、屋敷、成見)

E-mail:jpsa-kikaku@parasports.or.jp

※ソーシャルメディア広告は全体計画をJPCに通知する

※国際キャンペーン(複数の国の選手を起用し、複数の国のターゲットに向けた活動)はIPCに通知する(IPC指定のオンラインプラットフォームによる)

※申請承認後の内容等の変更は原則としてできない

13

肖像使用の申請手続きについて

申請～広告・宣伝開始までの注意事項

申請受付日から3週間を目安に、JPCから承認可否を回答します。

※特に新規広告の場合は掲出予定日より

15日前に承認が必要となります。

例えば、新規広告を5月31日に掲出する場合は、5月10日(厳守)までに申請していただく必要があります。

初回の申請時に承認不可となった場合は、至急修正・変更を行ってください。

広告等を出す前に、最終完成物をJPCに提出し、最終承認を受けてください。

2024年5月31日(金)までに
広告・宣伝を開始してください。

14

PART 2

【団体・企業等が発信する場合】

II パリ2024大会に関連した活動

基本概要

●知的財産権(肖像権)使用の可否

競技大会パートナー(ワールドワイド・大会パートナー国内スポンサー)以外の組織・団体が、パリ2024大会やパラリンピック日本代表選手団に関連する活動を行うことに対しては、厳しい制限が設けられています。

以降の内容をふまえて、アンブッシュにならないようご注意ください。

活動内容	競技大会 スポンサー	非パートナー		
		所属先	個人 スポンサー	非営利組織・団体
プレスリリース	○	×	×	○
Webサイトの掲載/SNS (大会参加者に関するメッセージ)	○	△ 制限あり	△ 制限あり	○
記者会見	○	×	×	○
社行会・祝勝会・報告会	○	△ 内部行事のみ	△ 内部行事のみ	○
お祝い横断幕	○	○	○	○

*「非営利団体」

競技団体、自治体、教育機関、NPO/NGO、商工会議所・商店会、医療法人等を指します。

16

15

プレスリリース

プレスリリースは、広報・PRツールであり、アンブッシュ規制の対象となるため、「所属先」「個人スポンサー」等は掲載することはできません。ただし、非営利団体は可能です。

「パラリンピック」の名称およびそれらを想起させる表現を使用することはできません。

※申請不要

17

Webサイトの掲載/SNS(大会参加者に関するメッセージ)

Webサイト/SNSに係る概要

「所属先」および「個人スポンサー」「非営利団体」は、選手の出場決定(内定)や競技成績に関するメッセージを自社サイト(日本語)の一部に掲載することができます。

※「所属先」「個人スポンサー」は要申請

※メッセージ発信の期間は、2024年12月末日まで
※表現の制限あり(例文を参照)

●掲載場所:

- ・自社HPにニュース形式での掲載(ニュース一覧等への掲載)は可。
- ・自社公式SNSでの発信は、投稿の性質や予定されている内容などの計画を事前報告した上で、掲載可(非営利団体は事前報告は不要)。
※”特設ページ”とみなされるものは不可。
- ・日本国内向けのみ(日本語サイトのみ)可。

●掲載内容:

- ・顔写真(パラリンピック公式服装はNG、肩より上、ノーブランド、ロゴなし)は可(次頁を参照)。
- ・原則、「内定」「日本代表選手団 決定」「試合結果(最終結果)」のみの掲載可。
- ✕「応援しています」等の表現は不可(非営利団体は可)。
- ✕パラリンピック日本代表選手団を対象としたお祝い活動ではないこと(非営利団体は可)。
- ✕用語以外のパラリンピック知的財産(大会マーク、エンブレム、ピクトグラム、マスコット、大会画像など)を使用しないこと。
- ✕メッセージと共に、直接的または間接的に自社および自社製品・サービスの広告・宣伝を行わないこと。
- ✕上記活動に伴い寄付・募金活動を行わないこと。
- ✕メディアへのプレスリリース配信をしないこと(非営利団体は可)。

18

Webサイトの掲載/SNS(大会参加者に関するメッセージ)

Webサイト/SNSに係る概要(2024年4月17日追記)

JPCにおける【内定】と【決定】について

【内定】は、競技団体内で大会へ出場する選手を推薦することです。この段階では、JPC内での承認(決定)がまだされておられません。

掲載される場合は、以下の例文をご参考になさってください。

- ・競技団体■■■は、パリ2024パラリンピック競技大会出場について、●●選手をJPCに推薦致しました
- ・競技団体■■■が、●●選手のパリ2024パラリンピック競技大会出場について内定を発表いたしました
- ・●●選手が、パリ2024パラリンピック競技大会の出場権を獲得しました

【決定】は、JPCの承認を経てJPCが日本代表選手として発表した段階で、パリ2024パラリンピック競技大会への出場が【確定】となります。

掲載する場合は、以下の例文をご参考になさってください。

- ・●●選手のパリ2024パラリンピック競技大会の出場が、確定(決定)しました
- ・●●選手は、パリ2024パラリンピック競技大会について日本代表選手団に選出されました

19

Webサイトの掲載/SNS(大会参加者に関するメッセージ)

Webサイト 掲載例【出場決定】

可
☰

NEWS 当社所属〇〇〇〇選手のパリ2024パラリンピック出場決定のお知らせ

2024. 07. 20 NEW

当社の社員である〇〇▲▲が、パリ2024パラリンピック競技大会の陸上競技の選手として出場いたします。

〇〇選手は、同競技をはじめ年間19年にドバイ世界選手権に入賞後、数々の国際大会に出場。東京2020大会では惜しくも入賞を逃したものの、世界選手権含む様々な世界大会で優秀な成績をのこし、今回のパリ2024パラリンピック競技大会の日本代表に選出されました。

【〇〇▲▲選手のコメント】
日本を代表し、再び世界最高峰の舞台で競えることを誇りに感じております。周囲の方々の理解やサポートへの感謝を忘れず、自分の全力を尽くしてメダル獲得を目指します。

【主な成績】
2019 ドバイ世界パラ陸上 4位入賞
2021 東京2020パラリンピック競技大会 9位
2023 2023パラ陸上世界選手権 6位入賞


〇月〇日 当社所属〇〇〇〇選手のパリ2024パラリンピック出場決定のお知らせ

〇月〇日 2020年3月期(第××期)配当予想の修正に関するお知らせ

〇月〇日 抽選でプレゼントが当たる!クイズキャンペーンを開始

【 < 〇月 〇月 〇月 > 】

二重△



〇〇 ▲▲選手

Point!

ホームページのニュース欄に文字情報として掲示し、次の階層に本文・顔写真等を掲示してください。トップページに、お祝いメッセージを露出することはできません。

Point!

成績紹介は、過去のパラリンピック大会の成績だけではなく、他の大会とのバランスがとれた記載としてください。

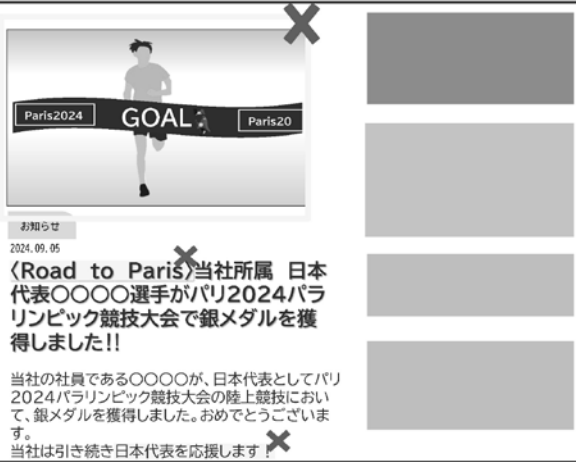
※上記は一例で限定されるものではありません。ご不明の点がありましたら、JPCまでお問合せください。

20

Webサイトの掲載/SNS(大会参加者に関するメッセージ)

Webサイト 掲載例【応援・お祝いメッセージ】

不可



Point!

お祝いメッセージは、事実のみの内容としてください。
例えば「〇〇〇選手がパリ2024パラリンピック競技大会で銀メダルを獲得しました」は可。

日本代表選手の応援活動は、「パラリンピック関連スポンサー」の権利です。
「パラリンピック関連スポンサー」以外の企業がパラリンピック日本代表選手(団)を応援することはできません。

原則、結果については最終結果のみとなります。

※上記は一例で、限定されるものではありません。ご不明の点がありましたら、JPCまでお問合せください。

21

Webサイトの掲載/SNS(大会参加者に関するメッセージ)

SNSに係る追加概要

個人スポンサー等の公式SNSでの発信は、投稿の性質や予定されている内容などの計画を事前報告した上で、掲載可能です。

ただし、パラリンピックと関連付けてはいけません。

大会参加者による個人スポンサー等への感謝メッセージは、参加者自身(個人)のSNSで発信することができます。**その投稿に対し、所属先/個人スポンサーは「リポスト・シェア・いいね」をすることができます。**

ただし、大会期間中に投稿する回数は、大会参加者に対して**1回のみ**となります(非営利団体は回数制限なし)。

複数のSNSで内容が同一且つ同時帯に掲載されたものは、全SNSで1回と数えます。また、追加文やハッシュタグを追記するなどは不可とします。

- 掲載内容:
 - ✕ 知的財産の使用不可。
 - ✕ 個人スポンサー等の広告を含むもの。また、広告へのリンクも不可。
(パラリンピックとの結びつきを想起させる文言やハッシュタグ等不可)
 - ✕ 製品等が大会参加者のパフォーマンスを向上させるような表現は不可。
また、製品等の推奨不可。
 - ・IPC/組織委/JPCなどのコンテンツの再投稿は可能だが、個人スポンサー等と結びつけないこと。

22

Webサイトの掲載/SNS(大会参加者に関するメッセージ)

SNS 掲載例



可

Point!
個人スポンサー等に対する簡潔な感謝メッセージをリポスト・シェアすることは可能です。



不可

Point!
個人スポンサー等とパラリンピックの関連付けた文章・画像の追加、パラリンピック知的財産の使用(画像、ハッシュタグ)は不可となります。

※上記は一例で限定されるものではありません。ご不明の点がありましたら、JPCまでお問合せください。

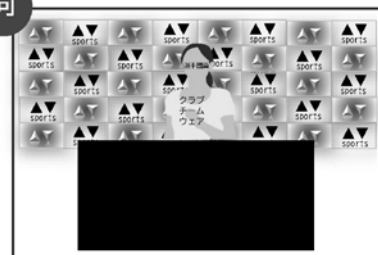
23

記者会見(内定、代表決定)

「競技団体」ほか「非営利団体」のみが実施できます。ただし、競技団体スポンサー等の広告宣伝活動にあたる表現・表示は認められませんのでご注意ください。

- ✕ 商業利用禁止。
 - ・日本代表選手団ユニフォームまたは競技団体のスポンサーロゴが無いユニフォームの着用。
 - ・バックボード等のロゴマーク掲出は主催者のみ。

可



競技団体名や競技団体ロゴのみ掲載のバックボード
スポンサーロゴの入っていないチームウェア

壮行会・祝勝会・報告会

「所属先」「個人スポンサー」は、内部行事としての実施のみ可能です。
対外的情報発信および、メディアのリリリース/動員・招待はできません。
非営利団体の場合は、実施および対外的情報発信が可能です。

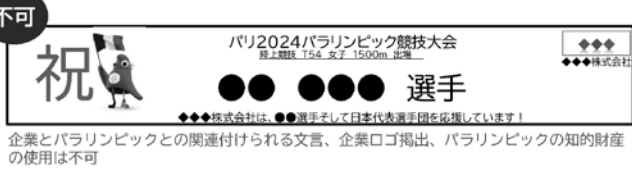
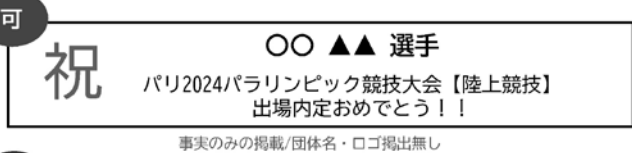
(※ただし、宣伝にならない内容のみ)

24

お祝い横断幕

「所属先」および「個人スポンサー」「非営利団体」は、選手の出場決定(内定)や競技成績に関するお祝い横断幕を掲出することができます。

- 掲出期間:
2024年12月末日まで
- 掲出場所:
・「所属先」「個人スポンサー」は敷地内のみ。
店舗など第三者の目に触れる場所は不可。✕
・「非営利団体」は非スポンサーの看板等に近接しない場所に掲出。
- 掲出内容:
・表現は事実と祝辞のみ
例)「2024出場おめでとう! ●●競技●●選手」
・企業・団体名称(ロゴマーク含む)の記載は不可。✕



※上記は一例で限定されるものではありません。ご不明の点がありましたら、JPCまでお問合せください。

PART 3

【大会参加者(個人)が発信する場合】

SNS【個人スポンサー等への感謝メッセージ】

大会参加者は、個人スポンサー等への感謝メッセージを自身のSNSで対外的に情報発信することができます。

ただし、個人スポンサーとパラリンピックと関連付けてはいけません。
(内容・添付画像・ハッシュタグを含む)

また、大会期間中に投稿できるのは、同一スポンサーに対し1回のみ。
複数のSNSで内容が同一且つ同時時間帯に掲載されたものは、全SNSで1回と数えます。

- 掲載内容:
✕大会期間中の写真の使用不可。
✕パラリンピックの知的財産の使用不可。
✕個人スポンサー等の広告を含むもの。また、広告へのリンクも不可。
(パラリンピックとの結びつきを想起させる文言やハッシュタグ等不可)
✕製品等が大会参加者のパフォーマンスを向上させるような表現は不可。
また、製品等の推奨不可。
・IPC/組織委/JPCなどのコンテンツの再投稿は可能だが、個人スポンサー等と結びつけないこと



個人スポンサー等に対する簡素な感謝メッセージ。写真もパラリンピック以外のものを使用。かつ、ユニフォームもパラリンピック大会以外のもの。

個人スポンサー等とパラリンピックへの関連付け、パラリンピック知的財産の使用(画像、ハッシュタグ)

SNS【大会に関する投稿】

●概要 (IPC発行「IPC DIGITAL MEDIA GUIDELINES」より)

- ・デジタルメディアとは、ビデオ画像/静止画/音声/アニメーションGIFをさします。
ライブストリーミングは不可。
- ・個人のSNSで投稿する事が可能です。推奨ハッシュタグは、31ページをご参照下さい。
尚、投稿可能な時間や撮影可能場所は次頁をよく確認してください。
- ・投稿内容は差別的/攻撃的/下品/誹謗中傷などの内容の発言やコメント、ジェスチャーその他行為を禁止されています。また、競技に関する抗議も固く禁じられています。
- ・商業目的及びマーケティング目的でIPCと第三者、パリ2024大会またはパラリンピックムーブメントとの間に関連性を持たせること、示唆させることは不可。
- ・プロ仕様の機材を使用することは不可。
- ・知的財産を使用することは不可。ただし、撮影画像の一部(背景等)に映りこんでしまった場合は問題ありません。
- ・選手団アクセを付けた選手団員が、メディア行為をすることは禁じられています。
ニュース報道機能の一環として投稿の作成、配信、提供することも禁じられています。

●本件に関するガイドラインの適用期間 (IPC発行「IPC DIGITAL MEDIA GUIDELINES」より)

2024年8月20日(火)~9月16日(月)
※大会開催日は2024年8月28日~9月8日

●ドメイン名やアカウント名

- ・「○○○(個人の名前)paralympic.com」/「@○○○paralympic」は不可。
- ・パラリンピックをテーマとしたウェブサイトやアプリケーションを作成するのは不可。
- ・自らのウェブサイトや個人のプラットフォームにライブストリームや公式コンテンツをサイトに掲載する事も不可。
尚、作成された場合はIPCの所有物とし、権利をIPCに譲渡すること。

SNS【大会に関する投稿】

● 投稿内容に関して

〈 撮影場所 〉

- ✕ ・選手村内
〈ポリクリニック/ドーピングコントロールエリア/フィットネスセンター/食室/他チームの住居区域〉
- ・競技エリア内
〈控室(コールドルーム・コーチエリア・ウォームアップエリア等を含む)/ミックスゾーン/ドーピングコントロールエリア/メディカルエリア
スポーツパフォーマンス/国歌斉唱/コイントス/表彰式
- ・上記以外の選手村内
- ・上記以外の競技エリア内 ※1日2分間まで
- ・開閉会式 ※日本選手団は開会式 入場行進時は不可
- ・公式輸送エリア
- ・トレーニング会場/練習会場

〈 投稿時間 〉

- ✕ ・競技開始1時間以内
- ・競技終了直後、ミックスゾーン/ドーピングコントロールエリア内

〈 投稿内容 〉

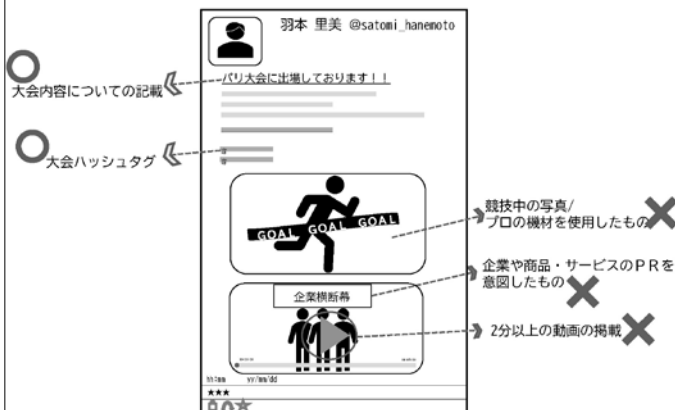
- ✕ ・ライブストリーミング
- ・2分以上のビデオ画像/静止画/音声/アニメーションGIF

29

SNS【大会に関する投稿】

● 投稿内容に関して

〈 例 〉



30

その他

国内競技団体（NF）による事業

NFは大会期間中、イベントやプロモーションに大会参加者の肖像を使用することができます。ただし、パラリンピック日本代表をテーマとするイベント・PRIは禁じられています。

大会参加者に関わる製作物

非営利団体であっても知的財産を使用したグッズ製作はできません。

国内競技団体（NF）及び大会参加者によるスポンサー、所属先の紹介

知的財産を使った紹介はできません。パラリンピック以外の競技大会における日本代表に関する表現は、パラリンピックと混同されないように、大会名などを明記してください。

31

IPC/JPC/パリ2024大会 公式アカウント

推奨ハッシュタグ

- ・#Paris2024
- ・#Paralympic
- ・#parateamjapan
- #日本代表選手団

HP

- IPC: www.paralympic.org
- JPC: <https://www.parasports.or.jp/paralympic/>
- ◎パリ: <http://www.paris2024.org/>

Facebook

- IPC: www.facebook.com/Paralympics
- JPC: <https://www.facebook.com/jpcsports>
- ◎パリ: <https://www.facebook.com/Paris2024>

X(旧Twitter)

- IPC: www.x.com/Paralympics
- JPC: https://twitter.com/paralympic_jpc?lang=ja
- ◎パリ: <https://x.com/paris2024?s=21&t=W6199B3GJ11wHrODXmmQ>

Instagram

- IPC: www.instagram.com/Paralympics
- JPC: https://www.instagram.com/paralympic_japan/
- ◎パリ: <https://www.instagram.com/paris2024/>

32

資料等

※本ガイドラインは、以下にあるIPC発行の原文に基づき作成しております。

主な資料名	オリジナル
IPC Handbook URL: https://www.paralympic.org/ipc-handbook	英語版
ATHLETE SPONSORSHIP AND ADVERTISING REGULATIONS PARIS 2024 PARALYMPIC GAMES JANUARY 2024 URL: https://www.paralympic.org/sites/default/files/2024-01/Athlete%20Sponsorship%20and%20Advertisitng%20Regulations.Paris%202024.Final.pdf	英語版
IPC DIGITAL MEDIA GUIDELINES FOR ACCREDITED PERSONS AT THE PARIS 2024 FEBRUARY 2024 URL: https://www.paralympic.org/sites/default/files/2024-02/Paris%202024%20Digital%20Media%20Guidelines%20FINAL.pdf	英語版

33

申請書類提出および問い合わせ先

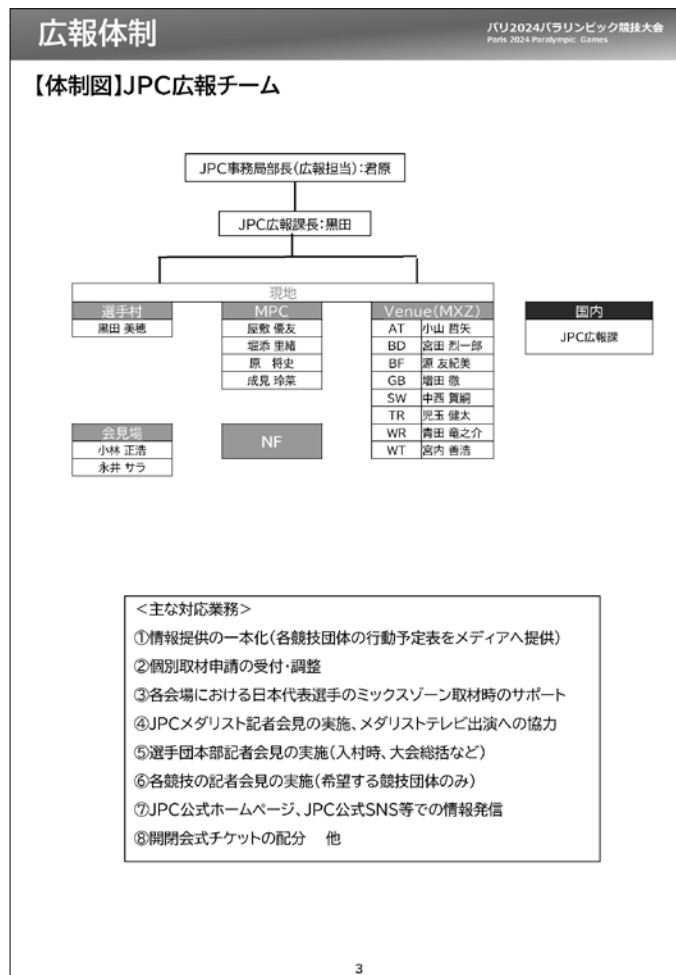
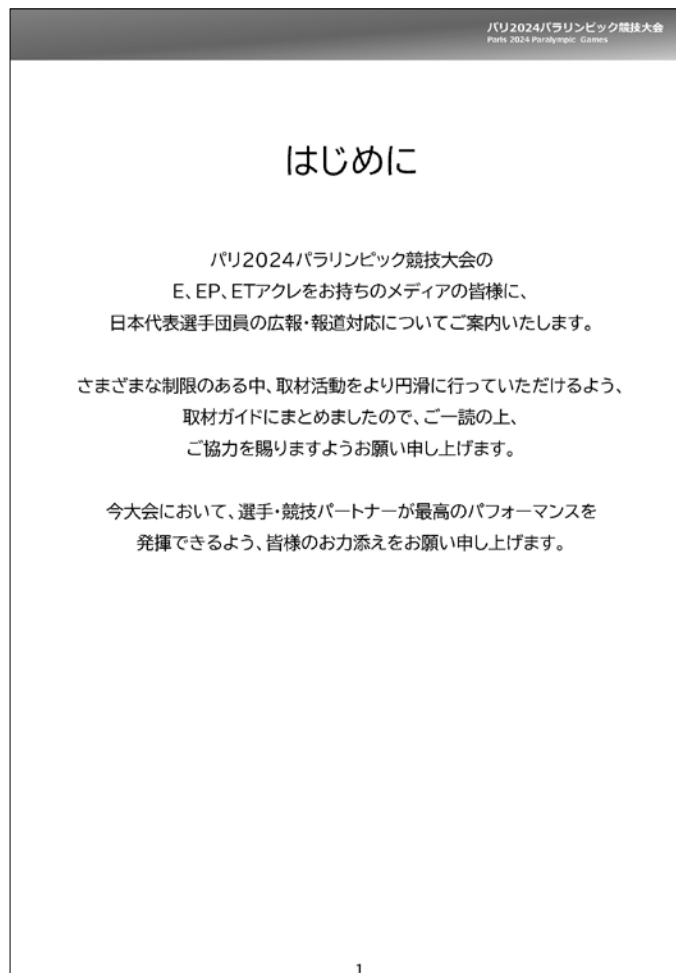


公益財団法人日本パラスポーツ協会
 日本パラリンピック委員会 広報課
 (担当：黒田、屋敷、成見)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-6

E-mail: jpsa-kikaku@parasports.or.jp

34



連絡先リスト

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games



MAIN PRESS CENTRE (MPC)
(大会組織委員会ビル内)

住所:
Paris 2024 HQ, PULSE
46 Rue Proudhon,
93210 Saint-Denis,
France

【日本代表選手団取材に関するお問合せ・ご連絡先】

◆総合受付 日本パラリンピック委員会(JPC)広報課

Email: jpcjpsa-media@parasports.or.jp
現地TEL(黒田): +33-(0)74-405-5103
※8月21日18時(現地)使用開始予定

※現地では、情報提供のためLINEグループを開設する予定です。

4

JPC広報チーム 対応期間

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

メディア対応期間
選手村到着から選手村出発まで

7/16 結団式 8/21 選手村開村日 8/28 開会式 9/8 閉会式

個別取材

個別取材申請JPC窓口期間
(選手村到着～選手村出発)まで

入村時
記者会見

団長入村会見
8/27午後
(NFは必要に応じて)

メダリスト
記者会見

メダリスト会見・テレビ出演 等
(原則、最終種目の翌日)予定

・日本出発または最終調整合宿地までは、原則として各NFがメディア対応窓口となります。

・解団式(団旗返還式)はありません

5

取材要領

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

1. 基本ルール

取材に関するお願い等

- 原則として、共同取材(会見、囲み)とさせていただきます。
個別取材は申請に基づき、個々に可否の判断をさせていただきます。
- 8月23日から9月8日まで、毎日スケジュール等をJPCパリ大会特設サイト報道関係者向けページに掲載します。
- 日本代表選手団員(選手、コーチ、役員等)への直接の取材申し込みはご遠慮ください。
- 本ガイドの記載内容および取材予定は、当日の状況により変更されることがありますので予めご了承ください。

2. 大会前の記者会見 等

(1)入村後の日本代表選手団団長記者会見

- 日時: 8月27日(火)午後で調整中
- 場所: JPC村外拠点 H4 Hotel Wyndham Paris Pleyel Resort
- 出席者: 田口垂希団長、井田朋宏副団長、中澤吉裕副団長(予定)
- 詳細は決まり次第、リリース配信予定

(2)競技チーム毎の記者会見または情報提供

- 希望するチームのみ、実施します。
- 期間: 入村後の数日間
 - 単位: 各競技 ※15～30分想定
 - 場所: JPC村外拠点もしくは選手村公式会見場
 - 詳細は決まり次第、リリース配信予定

6

取材要領

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

3. 開会式、閉会式時の取材

- 開閉会式 メディアチケットは枚数が限られているため、ご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承ください(詳細は後日案内)。
- 開会式チケット配布: 未定(配布方法は後日案内)
- 閉会式チケット配布: 未定(配布方法は後日案内)
希望者が多い場合は、調整の上、抽選を行います。
- チケットの受け取り場所は、MPC内のJPCオフィスを予定しています。
- 開閉会式会場での日本代表選手団の取材対応はありません。
選手のコメントを別途、提供させていただきますので、選手の速やかな移動等にご協力ください。

4. 公式練習時の取材

- 取材の可否等は、デイリースケジュール(行動予定表)で毎日ご案内する予定です。

7

取材要領

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

5. 試合(競技会場)での取材 ~ミックスゾーン~

- 試合時の競技会場での取材は、ミックスゾーンで行います。
- ミックスゾーンの取材管理は組織委員会が行いますが、NF広報担当スタッフ及び(一部)JPC広報チームのスタッフが入り、インタビュー進行のサポートを行うことがありますので、ご協力いただきますようお願いいたします。
- 競技によっては、選手のその日最後の試合が終了した後のインタビューを受けさせていただきますことがありますので、ご了承、ご協力をお願いします。
- 質問内容は、試合に関するのみとし、選手の体調に配慮いただきながらコンパクトな取材にご協力ください。選手のプロフィールやパーソナルなこと、競技のルールなどの基本情報についてはミックスゾーンではお答えできません。

※選手情報はパリ大会特設サイト(報道関係者向けページ)をご参照ください。
特設サイト <https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/parispara2024/index.html>
ID 及びパスワードは、jpcipsa-media@parasports.or.jp まで申請をお願いします。

6. 表彰式の取材

※インタビューは表彰式後、ミックスゾーンで行います(上記同様)。

8

取材要領

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

7. メダリスト会見 ~村外拠点会場での取材対応(予定)~

- メダリスト会見などの各種会見・取材は、JPC村外拠点会場にて行う予定です。併せてオンラインでの会見も予定しておりますが、現地でのインフラ状況から十分な設えでないことが予想されます。その点ご了承下さい。現地ネットワークの制約上、オンラインでの参加者はパリ現地に居るプレスの方に限定させていただきます。
- 会見スケジュールのお知らせと取材申請(随時)
会見の開催予定は、決定次第、随時 JPC パリ2024大会特設サイトに記載します。
<https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/parispara2024/index.html>
最新の情報はそちらをご確認ください。また、ご登録いただいたプレスの皆様には、会見スケジュールが決まり次第メールにてご案内いたします。
※競技スケジュールの都合上、ご案内が深夜となる可能性もございますのでご了承ください。
- オフィシャル 素材提供について
各会見とも オフィシャル素材写真、映像の提供予定はございません。

JPC村外拠点会場
H4 Hotel Wyndham Paris Pleyel Resort 「SALON 11」
(住所: 149 Boulevard Anatole France 93200 Saint-Denis - Paris, FR)



9

取材要領

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

8. 個別取材

- 個別取材は現地入村後からパリ出発までの期間内で申請を受け付けます。
- 原則として、対象選手の全出場種目終了後の取材とさせていただきますが、スケジュールによっては、競技団体と相談の上、調整を行う場合があります。
- 取材希望者は、所定の用紙に必要事項を記載の上、取材希望日の前日午前10時までにメールにて、JPCまでお申込みください。
申込書はJPCパリ2024大会特設サイトよりダウンロードをお願いいたします。
※申し込み先: jpcipsa-media@parasports.or.jp
- 取材場所について、選手村内インタビュールームを使用する場合の申し込み方法は別途お問い合わせください。
- 取材は、ご要望に添えない場合もありますので予めご了承ください。
- 日本代表選手団員個人への個別取材申込みやコンタクトは固くお断りいたします。

【取材申込書】*ダウンロードしてご使用ください

個別取材申込書フォーム

10

取材要領

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

9. 翌日の取材情報等の連絡

- 日本代表選手団各競技の翌日のスケジュール、取材の可否等の情報を、JPCパリ2024大会特設サイト内報道関係者向けページに掲載予定です。

10. 試合結果、大会スケジュール等の情報提供

- 大会公式のリザルトシステム「my info」をご利用ください。
- JPCパリ2024大会特設サイト(日本代表選手団の情報、選手プロフィール、競技紹介など)
<https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/parispara2024/index.html>

11. その他

- 選手(日本代表選手団員)がメディア行為を行うことは禁止されています。(SNSでのメディア行為も含む)。
※メディア行為 … メディアとしての取材、レポート、寄稿など
- 解団式(団旗返還式)などは、予定していません。

11

II. 資料編

資料

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

目次	ページ数
パリ大会概要	14
- 基本情報	
- 大会規模	
- 実施競技・種目	
- マスコット・メダル	
- 大会レガシー:環境に配慮した大会へ	
- 大会スケジュール・会場	
日本代表選手団概要	19
日本代表選手団ファクト集	21
各競技クラス・カテゴリー分け	23
- クラス分けとは	
- クラス分けに関する基本用語	
- 各競技のクラス分け概要	
参考データ集	31
- 夏季パラリンピック 日本の参加状況&メダル実績	
- 夏季パラリンピック 注目データ(最年長/最年少/最多)	
- 冬季パラリンピック 注目データ(最年長/最年少/最多)	
参考:パラリンピックに向けた取り組み	35
- J-STARプロジェクト	
パリ2024 参考リンク集	36

パリ大会 概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

基本情報

大会名称: パリ2024パラリンピック競技大会※第17回夏季大会
(Paris 2024 Paralympic Games)
大会期間: 2024年8月28日(水)~9月8日(日)[12日間]
開催地: フランス共和国・パリ市
運営主体: 国際パラリンピック委員会(IPC)、パリ2024オリンピック・パラリンピック組織委員会

TIPS!

パリが夏季オリンピック競技大会を開催するのは、今大会でロンドンに並び最多の3回目になるが、パリが夏季パラリンピック競技大会を開催することは初めて

情報引用: パリ2024組織委員会 (<https://olympics.com/en/news/too-things-to-know-paralympic-games-paris-2024>)

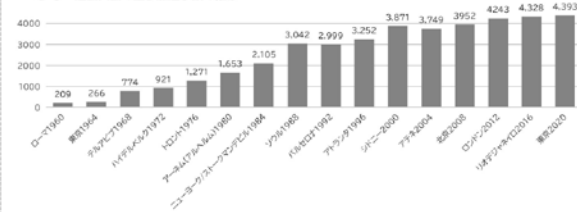
大会規模

参加国・地域: 未発表(前回161か国・地域)
※過去最多数のNPCが参加する見込みとされている
2024/5/20時点: パリ2024組織委員会より引用 (<https://olympics.com/en/news/too-things-to-know-paralympic-games-paris-2024>)
参加選手数: 約4,400人

TIPS!

- パリ2024には、過去最多となる8名の選手が難民選手団として出場する

<参考> 過去大会の全参加選手数の推移



情報引用: パリ2024組織委員会(<https://olympics.com/en/news/ipc-unveils-largest-refugee-paralympic-team-ever-for-paris-2024>)
IPCウェブサイト参照 (2024年7月11日時点) (<https://www.paralympic.org/paralympic-games>)

パリ大会 概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

実施競技・種目

- 22競技549種目(東京パラの539種目から10増加)
- 東京大会と競技数に変更はなし
 - 最大4400人のアスリート、278名の視覚障がいアスリートのガイドが参加する見込み
 - 女子種目は過去最多(235種目)となり、女子選手の出場枠数(1859枠)はシドニー2000大会と比較して倍近くであり、過去最多である
 - 重度障がい(High Support Needs)の種目数や男女混合種目数が増加した

※記載されている内容はパリ2024組織委員会 公式サイトより引用しています。詳細については、公式サイトをご確認ください。
情報引用元: パリ2024組織委員会 (<https://olympics.com/en/news/too-things-to-know-paralympic-games-paris-2024>)

TIPS! 過去3大会の実施競技・種目数比較(リオ・東京・パリ)

競技名	リオ2016	東京2020	パリ2024
アーチェリー	9	9	9
陸上競技	177	167	164
バドミントン	-	14	16
ブラインドフットボール	1	1	1
ボッチャ	7	7	11
カヌー	6	9	10
自転車競技	50	51	51
馬術	11	11	11
ゴールボール	2	2	2
柔道	13	13	16
パワーリフティング	20	20	20
ローイング	4	4	5
射撃	12	13	13
シッティングバレーボール	2	2	2
水泳	152	146	141
卓球	29	31	31
テコンドー	-	6	10
トライアスロン	6	8	11
車いすバスケットボール	2	2	2
車いすフェンシング	14	16	16
車いすラグビー	1	1	1
車いすテニス	6	6	6
7人制サッカー(CP)	1	-	-
セーリング	3	-	-
合計	528	539	549

パリ大会 概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

マスコット・メダル

- パリ2024は、初めてオリンピックとパラリンピックで同じロゴが使われている。
また、パラリンピックフリージューは初めて障がいのあるマスコットである。
- パリ2024のメダルには、エッフェル塔の一部だった金属片が使われている。

TIPS! さらに深掘りする

選手村	パリ2024組織委員会サイト(https://olympics.com/en/news/paris-2024-games-key-figures-village-olympic-paralympic)※英語
マスコット	パリ2024組織委員会サイト(https://olympics.com/ja/news/new-paris-2024-olympic-paralympic-mascots-revealed)
メダル	パリ2024組織委員会サイト(https://olympics.com/ja/news/paris-2024-olympic-paralympic-medals-revealed-eiffel-tower)
表彰台	パリ2024組織委員会サイト(https://olympics.com/ja/news/paris-2024-olympic-paralympic-podiums-revealed-eiffel-tower-inspired)
ピクトグラム	パリ2024組織委員会サイト(https://olympics.com/ja/paris-2024/the-games/the-brand/pictograms#paralympic)
聖火リレー	パリ2024組織委員会サイト(https://olympics.com/en/paris-2024/paralympic-games/paralympic-torch-relay/route)※英語

大会レガシー：環境に配慮した大会へ

パリ2024大会組織委員会は、より経済・社会・環境責任を果たす大会とするため、レガシーと持続可能性に関する多様なプロジェクトを実施してきた。地域経済への貢献やカーボンフットプリントの削減、循環経済の実現を目指すなど、新たな基準となるようなモデルの提示に挑戦してきた。

《具体的なアクション 概要》

- カーボンフットプリントの削減(過去大会と比較して半減させることを目指す)
- 既存施設や仮設設備の優先
- 各会場における既存環境の保護
- 設備・用具の再利用の促進
- 再利用可能エネルギーの利用
- より責任のあるケータリングの提供
- ごみの削減
- より責任のあるデジタルテクノロジーの活用

※記載されている内容はパリ2024組織委員会公式サイトより引用しています。詳細については、公式サイトまで確認ください。
パリ2024組織委員会(<https://olympics.com/en/paris-2024/our-commitments/the-environment/organising-more-responsible-games>)

16

パリ大会 概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

競技スケジュール

※ 2024年7月10日時点

	8月				9月								
	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	
開閉式	○												○
アーチェリー		○	○	●	●	●	●	●	●				
陸上競技			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
バドミントン		○	○	●	●								
ブラインドフットボール					○	○	○			○			●
ボッチャ		○	○	○	●	●	○	○	●				
カヌー											○	●	●
馬術								●	●		●	●	
ゴールボール		○	○	○	○	○	○	○	●				
自転車競技-ロード										●	●	●	●
自転車競技-トラック		●	●	●	●								
柔道										●	●	●	
パワーリフティング									●	●	●	●	●
ローイング			○	○	●								
射撃			●	●	●	●	●	●	●				
シッティングバレーボール		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水泳		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
卓球		●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●
テコンドー		●	●	●									
トライアスロン					●	●							
車いすバスケットボール		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
車いすフェンシング							●	●	●	●	●	●	●
車いすラグビー		○	○	○	○	○							
車いすテニス			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

● メダルイベント
○ 通称イベント

情報引用元:パリ2024組織委員会(<https://olympics.com/ja/paris-2024/paralympic-games/schedule>)

17

パリ大会 概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

大会会場

競技名	競技会場名
アーチェリー	Invalides
陸上競技	Stade de France
	マラソンスター:La Courmeuve マラソンフィニッシュ:Invalides
バドミントン	Porte de la Chapelle Arena
ブラインドフットボール	Eiffel Tower Stadium
ボッチャ	South Paris Arena 1
カヌー	Vaires-sur-Marne Nautical Stadium
自転車競技-ロード	Clichy Sous Bois
自転車競技-トラック	Saint Quentin en Yvelines Velodrome
馬術	Château de Versailles
ゴールボール	South Paris Arena 6
柔道	Champ-de-Mars Arena
パワーリフティング	Porte de La Chapelle Arena
ローイング	Vaires-sur-Marne Nautical Stadium
射撃	Chateauroux National Shooting Centre
シッティングバレーボール	North Paris Arena
水泳	Paris La Défense Arena
卓球	South Paris Arena 4
テコンドー	Grand Palais
トライアスロン	Pont Alexandre III
車いすバスケットボール	Bercy Arena
車いすフェンシング	Grand Palais
車いすラグビー	Champ-de-Mars Arena
車いすテニス	Roland-Garros Stadium

情報引用: JPCパリ特設サイト(<https://www.parasports.or.jp/paralympic/joc/parispara2024/convention/overview.html>)

18

日本代表選手団概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

参加競技数: 21 競技(22 競技実施)
選手団人数(※第四次発表終了時点) 330名
選手175名、競技パートナー19名、コーチ・スタッフ107名、本部役員スタッフ29名

<p>■団長: 田口亜希(たぐち あき) 日本パラリンピック委員会 運営委員、パラリンピアン(射撃) アテネ2004パラリンピック競技大会 射撃 入賞 北京2008パラリンピック競技大会 射撃 入賞 ロンドン2012パラリンピック競技大会 射撃 出場</p>	
<p>■副団長: 井田朋宏(いだ ともひろ) 日本パラリンピック委員会 事務局長</p>	
<p>■副団長: 中澤吉裕(なかざわ よしひろ) 日本パラリンピック委員会 強化本部長 リオ2016パラリンピック競技大会 車いすテニス 監督</p>	
<p>■旗手: 石山 大輝(いしやま だいき) 順天堂大学 陸上競技・走り幅跳び T12(弱視) Jスター出身 パラリンピック初出場</p>	
<p>■旗手: 西田 杏(にしだ あん) 水泳・50mバタフライ S7(上下肢機能障がい) パラリンピック2度目</p>	

19

日本代表選手団概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

2024年8月13日現在

選手団人数(※第四次発表終了時点) 330名
選手175名、競技パートナー19名、コーチ・スタッフ107名、本部役員スタッフ29名

【競技別参加者一覧】

競技	選手数			競技 パートナー	コーチ スタッフ	選手団役員 本部スタッフ	合計
	合計	男	女				
アーチェリー	2	2			2		4
陸上競技	40	22	18	11	18		69
バドミントン	12	6	6		6		18
ブラインドフットボール	8	8		2	6		16
ボッチャ	7	4	3	4	6		17
カヌー	4	1	3		2		6
馬術	2	2			4		6
ゴールボール(男子)	6	6			3		9
ゴールボール(女子)	6		6		3		9
自転車競技	4	3	1	1	3		8
柔道	6	2	4		4		10
パワーリフティング	1	1			1		2
ローイング	1	1			2		3
射撃	3	1	2		3		6
水泳	22	12	10		13		35
卓球	9	6	3		6		15
テコンドー	2	2			2		4
トライアスロン	4	3	1	1	2		7
車いすバスケットボール(女子)	12		12		7		19
車いすフェンシング	4	3	1		2		6
車いすラグビー	12	11	1		8		20
車いすテニス	8	4	4		4		12
選手団本部						29	29
合計	175	100	75	19	107	29	330

20

日本代表選手団 ファクト集

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

自国開催以外で選手参加数の最も多い大会

- パリ2024に参加する選手数は第四次発表時点で175名。
- 自国開催の東京2020を除くと、過去最多数の選手が参加する大会となる。

図:過去大会の選手団人数

ジェンダーバランスを実現した参加選手

- 第四次発表時点で男子100名、女子75名で、女子選手は全体の42.9%となる。
- 東京2020では女子選手の割合が4割を超え、パリ2024でも維持される見通し。

表:過去3大会の参加選手の男女比

	ロンドン2012	リオ2016	東京2020
男	66.4%	65.2%	58.3%
女	33.6%	34.8%	41.7%

21

日本代表選手団 ファクト集

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

若い選手が多く参加する大会の一つ

- 第四次発表時点で、全体の選手平均年齢は31.3歳。東京2020(32.7歳)、リオ2016(33.7歳)、ロンドン2012(33.5歳)を下回る。
- パリ2024参加選手の年齢の中央値は29歳。東京2020(31歳)、リオ2016(32歳)、ロンドン2012(34歳)を下回る。
- 第四次発表時点では、10代、20代の選手が全体の50.3%。

過去3大会は30歳未満の選手が全体の5割を上回ったことはない

図:過去3大会の10代、20代の選手割合 ※大会開会式時点の年齢

全国からのアスリートが参加へ

- 第四次発表時点で全国30都府県を「現住所」とする選手が参加。
- 最も多いのは東京からの参加で全体の27.8%。

表:第四次発表時点での選手の現住所TOP8

現住所	選手数	割合
東京	49	28.0%
埼玉	21	12.0%
千葉	14	8.0%
大阪	13	7.4%
神奈川	12	6.9%
愛知	9	5.1%
福岡	6	3.4%
茨城	6	3.4%

22

各競技クラス・カテゴリー分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

クラス分けとは What is Classification

●クラス分けとは
クラス分けとは、競技者の障がいが、定められた規則の出場資格のある障がいに該当するか決定し、競技や種目の基礎的な動作に影響する競技者の障がい程度に基づいて、競技クラスに競技者をカテゴリー分けすることをいいます。クラス分けの目的は、パラスポーツの参加対象者を定め、種目における障がいの影響を最小限に抑えることです。(JPCクラス分け規程 初版より)

●クラス分けのプロセス
アスリートがクラス分けを受けるためには、医療情報を提出し、競技やその障がいのためのテストを受ける必要があります。また、競技中の様子を観察されることもあります。国際大会に出場するためには、その競技の国際競技団体が実施する国際クラス分けを受ける必要があります。原則、クラシファイアは少なくとも二人一組のパネルを構成し、アスリートがどの競技クラスで出場するかを決定します。クラシファイアは国際競技団体による訓練を受け、関連する専門資格を持っている必要があります。

●クラス分けに関する動画
JPCクラス分け委員会では、クラス分け関係者やアスリートを含め、初めてクラス分けについて知る人にもわかりやすい、クラス分け紹介ビデオを作成しています。

<動画内容>
 ・クラス分けとは
 ・クラス分けのプロセス(手続き)
 ・意図的不実表示
 ・競技クラスの変更

動画はQRコード、以下のリンク、もしくはYoutubeで「JPC クラス分け」と検索するととることができます。
<https://youtu.be/75-AWM1Hwng7si?v=JL-w-sYarIatZPhx>

23

各競技クラス・カテゴリー分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

クラス分けに関する基本用語

クラス分け	競技者の障がい、定められた規則の出場資格のある障がいに該当するか決定し、競技と種目の基礎的な動作に影響する競技者の障がい程度に基づいて、競技クラスに競技者をカテゴリー分けすること。競技者クラス分けともいう。
競技クラス	IFクラス分け規則の中で定める競技会に参加するためのカテゴリー。競技者が実行できる競技の基本となる特定の課題や動作に基づいて分類される。
出場資格のある障がい (Eligible Impairment: EI)	パラスポーツの競技に出場するための必要条件としてIPCまたはIFに指定されている障がい。
最小障がい基準 (Minimum Impairment Criteria: MIC)	出場資格のある特定の障がいにおいて、競技に参加するために最低限必要とされる障がいの程度の基準。
競技クラスステータス	競技者評価に関する再評価の必要性とクラス分けプロテストの可否を示すための、競技クラスに指定される呼称。以下の5つのステータスがある。
Confirmed (C)	クラスが確定された競技者のステータス。IPC/IF公認大会に参加する際、再度クラス分けを受ける必要はないが、抗議があった場合、再度クラス分けを受けなければならない。
Review (R)	IPC/IF公認大会に参加する際、クラス分けを受けなければならない競技者のステータス。
Review with Fixed Review Date (R with FRD)	通常、「R2019」のように「R」に固定期間(年)をつけたかたちで表記される。IPC/IF公認大会に参加する際、固定期間前にクラス分けを受ける必要はないが、同期間後はクラス分けを受けなければならない競技者のステータス。
New (N)	国際クラス分けを受けたことがない競技者のステータス。
Not Eligible (NE)	出場資格のある障がいに至らない健康状態であったり出場資格のある障がいではない障がいがあるために、競技者が競技の障がいの最小基準を満たしていないとクラス分けパネルが判断した競技者のためのステータス。
競技者評価 (Athlete Evaluation)	IFクラス分け規則に基づいて実施される、競技者に競技クラスと競技クラスステータスを割り当てるための手続。
国際クラシファイア	IFによって認定された、クラス分けパネルの一員として競技者の評価を行う人物。
IFクラス分け規則	競技者評価等において、IFが採用するクラス分けに関する方針、手続、手順、説明を定めたもの。
意図的不実表示 (Intentional Misrepresentation: IM)	競技者評価の過程において、競技者の技術、能力、障がいの程度や性質について、(作為、不作為を問わず)意図的にクラス分けパネルをあざむく行為を競技者、もしくは支援者が企図すること。

<参考> JPCクラス分け規程 初版
(<https://www.parasports.or.jp/paralympic/what/pdf/classification.pdf>)

24

各競技クラス・カテゴリー分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

TIPS! ゼロクラシフィケーションポリシー

国際パラリンピック委員会(IPC)は、ソチ2014大会以降、パラリンピック競技大会において「ゼロクラシフィケーションポリシー」のもと、クラス分けは実施しない方針を示しています。東京2020大会は、COVID-19の影響により例外的にクラス分けが行われましたが、パリ2024大会においては、代表選手は事前に国際競技連盟(IF)により指定された大会でクラス分けを受検することになり、パラリンピックでクラス分けが行われることはありません。

【パラリンピックにおける各競技の出場選手の障がい 概要】

1	アーチェリー	肢体不自由
2	陸上競技	肢体不自由、視覚障がい、知的障がい
3	バドミントン	肢体不自由
4	ブラインドフットボール	視覚障がい
5	ボッチャ	重度脳性まひや同程度の四肢重度機能障がい
6	カヌー	肢体不自由
7	自転車競技	肢体不自由、視覚障がい
8	馬術	肢体不自由、視覚障がい
9	ゴールボール	視覚障がい
10	柔道	視覚障がい
11	パワーリフティング	下肢に障がいのある肢体不自由
12	ローイング	肢体不自由、視覚障がい
13	射撃	肢体不自由
14	シッティングバレーボール	肢体不自由
15	水泳	肢体不自由、視覚障がい、知的障がい
16	卓球	肢体不自由、知的障がい
17	テコンドー	上肢に障がいのある肢体不自由
18	トライアスロン	肢体不自由、視覚障がい
19	車いすバスケットボール	肢体不自由
20	車いすフェンシング	肢体不自由
21	車いすラグビー	四肢障がい(四肢麻痺、四肢欠損など)
22	車いすテニス	肢体不自由

25

各競技クラス・カテゴリー分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

アーチェリー	
クラス	障がい
W1	車いす使用の四肢麻痺(運動損傷)、もしくはそれに相当する障がい
W2	車いす使用の対麻痺(腕-運動損傷)、もしくはそれに相当する障がい
ST	立位もしくは立位に座って競技する障がい
パラリンピックでは、「OPEN」として同じカテゴリで順位を競う	
陸上競技	
クラス	障がい
T/F11	重い
T/F12	視覚障がい
T/F13	軽い
T/F20	知的障がい
T/F31	重い
T/F32	軽い
T/F33	脳性まひ(車いす)
T/F34	軽い
T/F35	重い
T/F36	軽い
T/F37	脳性まひ(立位)
T/F38	軽い
T/F40	低身長
T/F41	軽い
T/F42	重い
T/F43	下肢切断(義足なし)
T/F44	下肢機能障がい
T/F45	軽い
T/F46	上肢切断
T47	軽い
T/F51	重い
T/F52	軽い
T/F53	脳性まひ以外の車いす
T/F54	(頸髄損傷、脊髄損傷、切断、機能障がい)
F55	軽い
F56	軽い
F57	軽い
T/F61	重い
T/F62	軽い
T/F63	軽い
T/F64	軽い
T	競走種目、跳躍種目
F	投てき種目

26

各競技クラス・カテゴリー分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

バドミントン	
クラス	障がい
WH1	重い
WH2	軽い
SL3	重い
SL4	軽い
SU5	切断やまひなどの上肢障がい
SH6	低身長
ブラインドフットボール	
全盲選手(B1)のみ出場可	
ボッチャ	
クラス	障がい
BC1	四肢、体幹に重度のまひがあり、車いす操作ができない脳性まひ、または下肢で車いす操作が可能で足振りて競技することができる選手
BC2	上肢で車いす操作ができるある程度可能な脳性まひの選手
BC3	障がいのため投球ができず、介助者によるランプ(勾配員)で投球する重度な脳性まひやそれに相当する障がいのある選手
BC4	脳性まひ以外で、BC1やBC2と同程度の四肢運動機能障がいのある障がい(頸髄損傷や筋ジストロフィーなど)のある選手
カヌー	
クラス	障がい
KL1/VL1	重い
KL2/VL2	軽い
KL3/VL3	軽い
自転車競技	
クラス	障がい
C1	重い
C2	軽い
C3	切断、機能障がい、まひなど
C4	軽い
C5	軽い
B	視覚障がい(2人乗り自転車)
T1	重い
T2	重度のまひ、機能障がい(3輪の自転車)(ロード種目のみ)
H1	重い
H2	重い
H3	下肢障がい(ハンドバイク)(ロード種目のみ)
H4	軽い
H5	軽い

27

各競技クラス・カテゴリ分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

馬術	
クラス	障がい
グレード1	
グレード2	
グレード3	
グレード4	
グレード5	

ゴールボール	
視覚障がいの選手が出場可(B1~B3)でその程度は考慮されない	

柔道	
クラス	障がい
J1	視覚障がい(全盲)
J2	視覚障がい(弱視)

パワーリフティング	
下肢障がい選手が出場可。体重による階級分けで競技が行われる	

ローイング	
クラス	障がい
PR1	腕、肩の機能があるが、胴体・下肢の機能が極小またはないため、体幹が効かない下肢障がいの選手
PR2	腕、肩、胴体の機能があるが、下肢の障がいのため、スライディングシートが使えない選手
PR3	腕や片腕の切断、機能障がい、まひなど、または視覚障がいの選手。

射撃	
クラス	障がい
SH1	ライフル種目において下肢に障がいがある選手 ピストル種目において上肢や下肢に障がいがある選手
SH2	上肢に障がいがあり、ライフル銃を自分で支えることができず、規定の用具で銃を支えて射撃を行う選手

シッティングバレーボール	
VS1(切断など中~重度障がい)とVS2(人工関節や軽度の機能障がい)の選手が出場可能。障がいの軽いVS2クラスの選手は1チーム(12名)最大2名のみで、コート上にはVS2の選手は(6名中)1名のみ出場可能。	

各競技クラス・カテゴリ分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

水泳	
クラス	障がい
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	

泳法や障がいの種類・程度をアルファベットや数字で表記します。
S:自由形、背泳ぎ、バタフライ
SB:平泳ぎ
SM:個人メドレー

卓球	
クラス	障がい
TT1	
TT2	
TT3	
TT4	
TT5	
TT6	
TT7	
TT8	
TT9	
TT10	
TT11	知的障がい

テコンドー	
クラス	障がい
K44	上肢に障がいのある選手。体重による階級分けで競技を行う

トライアスロン	
クラス	障がい
PTWC1	
PTWC2	
PTS2	
PTS3	
PTS4	
PTS5	
PTV1	
PTV2	
PTV3	視覚障がいのある選手

各競技クラス・カテゴリ分け

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

車いすバスケットボール	
クラス	障がい
1.0	
1.5	
2.0	
2.5	
3.0	
3.5	
4.0	
4.5	

持ち点制で、各選手が障がいに応じて点数がつけられ、コート上の5選手の合計が14点以内になるようにチームを構成する

車いすフェンシング	
クラス	障がい
カテゴリA	腹筋機能があり、体幹が安定している選手
カテゴリB	腹筋機能が弱く、体幹が不安定な選手

車いすラグビー	
クラス	障がい
0.5	
1.0	
1.5	
2.0	
2.5	
3.0	
3.5	

持ち点制で、各選手が障がいに応じて点数がつけられ、コート上の4選手の合計が8点以内になるようにチームを構成する。女子選手1名につき、チーム合計点の上限に0.5が加算され、8点を超えることが許される。

車いすテニス	
クラス	障がい
オープン	下肢障がいの車いす選手
クアード	頸髄損傷など、下肢だけでなく上肢にもまひなどの障がいがある車いす選手

参考データ集

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

【夏季パラリンピック 日本の参加状況&メダル実績】

回	開催	開催都市	参加国・地域数	参加選手数	日本の成績				
					金	銀	銅	計	メダルランキング
1回	1960	ローマ	17か国	209	日本不参加				
2回	1964	東京	20か国	266	1個	5個	4個	10個	13位
3回	1968	テルアビブ	28か国	774	2個	2個	8個	12個	16位
4回	1972	ハイデルベルク	41か国	921	4個	5個	3個	12個	15位
5回	1976	トロント	41か国	1,271	10個	6個	3個	19個	14位
6回	1980	アーネム(アルヘルム)	42か国	1,653	9個	10個	7個	26個	16位
7回	1984	ニューヨーク/ストックマンデビル	54か国	2,105	9個	7個	8個	24個	22位
8回	1988	ソウル	60か国	3,042	17個	12個	17個	46個	14位
9回	1992	バルセロナ	84か国	2,999	8個	7個	15個	30個	16位
10回	1996	アトランタ	104か国	3,252	14個	10個	13個	37個	10位
11回	2000	シドニー	123か国	3,871	13個	17個	11個	41個	12位
12回	2004	アテネ	135か国	3,749	17個	15個	20個	52個	10位
13回	2008	北京	146か国	3,952	5個	14個	8個	27個	17位
14回	2012	ロンドン	164か国	4,243	5個	5個	6個	16個	24位
15回	2016	リオデジャネイロ	160か国	4,328	0個	10個	14個	24個	56位
16回	2020	東京	162か国	4,393	13個	15個	23個	51個	11位

※情報引用元:日本の成績はJPCウェブサイト参照(2024年7月11日時点)
<https://www.paralympic.org/paralympic-games>
参加国・地域数、参加選手数についてはIPCウェブサイト参照(2024年7月11日時点)
<https://www.paralympic.org/paralympic-games>

日本代表選手団概要

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

【夏季・冬季パラリンピック 過去の日本選手団主将・旗手・団長一覧】

年	回数	開催地	主将	旗手	団長	
1960	第1回	ローマ				
1964	第2回	東京			中村 裕	
1968	第3回	テヘラン			中村 裕	
1972	第4回	ハイデルベルグ			中村 裕	
1976	第5回	トロント			中村 裕	
1976	第1回	エンゼルツヴィーク				
1980	第6回	アーナム			中村 裕	
1980	第2回	ヤイロ			宮川 健一郎	
1984	第7回	ニューヨーク			井手 裕一郎	
1984	第3回	アトランタ			武安 達男	
1984	第3回	インスブルック			藤井 隆	
1988	第8回	ソウル		牛窪 多喜男 (柔道)	井手 裕一郎	
1988	第4回	インスブルック			松岡 昌次郎	
1992	第9回	バルセロナ			井手 裕一郎	
1992	第5回	テーニョ/アルペルビル		原田 雄 (アルペンスキー)	深沢 定実 (パラリンピアン)	
1994	第6回	リレハンメル		江戸 龍英 (アルペンスキー)	宮川 健一郎	
1996	第10回	アトランタ		牛窪 多喜男 (柔道)	本谷 真紀 (陸上競技)	中嶋 武敏
1998	第7回	長野		江戸 龍英 (アルペンスキー)	加藤 定 (アイススレッジホッケー)	中嶋 武敏
2000	第11回	シドニー		河合 幹一 (水球)	栗沢 健子 (アーチェリー)	藤原 進一郎
2002	第8回	ソルトレイクシティ		佐藤 正 (バレーボール)	小村 謙吾 (クロスカントリースキー)	田村 桃佳
2004	第12回	アテネ		永塚 直隆 (陸上競技)	松本 義和 (柔道)	岩坪 洋
2006	第9回	トリノ		大日方 邦子 (アルペンスキー)	新田 佳浩 (クロスカントリースキー)	田村 桃佳
2008	第13回	北京		京谷 和幸 (車椅子バスケットボール)	松本 義和 (陸上競技)	大久保 典英
2010	第10回	バンクーバー		新田 佳浩 (クロスカントリースキー)	遠藤 健行 (アイススレッジホッケー)	中嶋 武敏
2012	第14回	ロンドン		井手 裕一郎 (陸上競技)	木村 聡一 (水球)	中嶋 武敏
2014	第11回	ソチ		森井 大輝 (アルペンスキー)	大田 涉子 (クロスカントリースキー)	大塚 洋也
2016	第15回	リオ		藤本 悠央 (車椅子バスケットボール)	上嶋 結衣 (輪いけテニス)	大塚 洋也
2018	第12回	平昌		須藤 悠 (アイスホッケー)	村岡 桃佳 (アルペンスキー)	大日方 邦子 (パラリンピアン)
2020	第16回	東京		主将 田中 真志 (車いすバレー)	副将 幸洋 (卓球)	河合 幹一 (パラリンピアン)
2020	第16回	東京		副主将 河田 理志 (ゴールボール)	谷 真海 (トライアスロン)	河合 幹一 (パラリンピアン)
2022	第13回	北京		村岡 桃佳 (アルペンスキー)	川崎 大輝 (クロスカントリースキー)	河合 幹一 (パラリンピアン)
2024	第17回	パリ		石山 大輝 (陸上競技)	藤田 幸希 (バレーボール)	藤田 幸希 (バレーボール)

32

参考データ集

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

【夏季パラリンピック 注目データ(最年長/最年少/最多)※過去&パリ】

項目	名前	数字	大会	競技種目	備考
最年長出場選手	別所キミエ	68歳	2016リオ	卓球	パリ2024で最年長は伊藤 悠也(61歳)※第四次発表後時点
最年長メダリスト	男子	大井利江	2008北京	陸上競技・円盤投	
	女子	杉浦 佳子	2020東京	自転車競技	
最年長金メダリスト	男子	牛窪 多喜男	1996アトランタ	柔道71kg	
	女子	杉浦 佳子	2020東京	自転車競技	
最年少出場選手	山田 拓朗	13歳	2004アテネ	水泳	パリ2024で最年少は川淵 大輝(15歳)※第四次発表後時点
最年少メダリスト	山田 美幸	14歳	2020東京	水泳	
最年少金メダリスト	竹村 克明 若杉 遥	17歳	1988ソウル(竹村) 2012ロンドン(若杉)	陸上競技(竹村) ゴールボール(若杉)	生年月日不詳につき、どちらが最年少か不明
最多連続出場選手	土田 和歌子 尾崎 峰希	7回	2000~2024(土田) 1984~2008(尾崎)	陸上競技(土田・尾崎)	
最多出場選手	尾崎 峰希 水尾 嘉章	7回	1984~2008(尾崎) 1988~2008, 2016(水尾)	陸上競技	夏冬通じて計算すると、土田和歌子が最多(9回)
一大会における最多メダル獲得選手	成田 真由美	8個	2004アテネ	水泳	
一大会における最多金メダル獲得選手	成田 真由美	7個	2004アテネ	水泳	

33

参考データ集

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

【冬季パラリンピック 注目データ(最年長/最年少/最多)※過去】

項目	性別	名前	数字	大会	競技種目	備考
最年長出場選手	男子	比田井 隆	75歳	2010バンクーバー	車いすカーリング	
	女子	齊藤 あや子	53歳	2010バンクーバー	車いすカーリング	
最年長メダリスト	男子	福島 忍	53歳	2010バンクーバー	アイススレッジホッケー	
	女子	青木 辰子	46歳	2010バンクーバー	アルペンスキー・スラローム	
最年長金メダリスト	男子	新田 佳浩	37歳 (9月9日)	2018平昌	クロスカントリースキー クラシカル10km	※出場選手は男性が最多
	女子	大日方 邦子	33歳	2006トリノ	アルペンスキー・ジャイアントスラローム	
最年少出場選手	男子	安彦 諭	15歳	1998長野	クロスカントリースキー	
	女子	江野 麻由子	16歳	2014ソチ	クロスカントリースキー・バイアスロン	
最年少メダリスト	男子	安彦 諭	15歳	1998長野	クロスカントリースキー クラシカル5km	
	女子	太田 涉子	16歳	2006トリノ	バイアスロン12.5km	
最年少金メダリスト	男子	川崎 大輝	21歳	2022北京	クロスカントリースキー・バイアスロン	
	女子	村岡 桃佳	21歳	2018平昌	アルペンスキー・大回転	
最多連続出場選手	男子	新田 佳浩	7回	1998~2022	クロスカントリースキー	
	女子	大日方 邦子	5回	1994~2010	アルペンスキー	
最多出場選手	男子	新田 佳浩	7回	1998~2022	クロスカントリースキー	
	女子	青木(松本)辰子	5回	1984, 1998~2010	アルペンスキー	
一大会における最多メダル獲得選手	男子	武田 豊	4個	1998長野	アイススレッジスピードレース	※出場選手は男性が最多
	女子	村岡 桃佳	5個	2018平昌	アルペンスキー	
一大会における最多金メダル獲得選手	男子	武田 豊	3個	1998長野	アイススレッジスピードレース	
	女子	松江 美季	3個	1998長野	アイススレッジスピードレース	
		村岡 桃佳		2022北京	アルペンスキー	

34

<参考>パラリンピックに向けた取組み

パリ2024パラリンピック競技大会
Paris 2024 Paralympic Games

J-STARプロジェクト

日本パラスポーツ協会 タレント発掘事業

ジェイスター J-STARプロジェクトとは？

オリンピックやパラリンピックを目指す“未来のトップアスリート”を発掘する「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト (J-STARプロジェクト)」

応募: エントリー後は、基礎体力向上・参加し、競技力の向上や競技環境の向上、練習プログラムや指導者によるサポートを受けるための各種トレーニングに参加します。

競技プログラムを通じて、パラリンピック競技大会に向けて有望な選手と見出された参加者は、競技環境の強化・育成コースで引き続きトレーニングを続ける機会が与えられます。

パリ2024には、5競技8名の選手が出場予定! ※第四次発表時点

No.	出場競技	期	氏名	ふりがな	性別	年齢
1	陸上競技	5	石山 大輝	いしやま だいき	男	24
2	陸上競技	4	小野寺 萌恵	おのでら もえ	女	20
3	陸上競技	4	吉田 彩乃	よしだ あやの	女	17
4	ボッチャ	4	戸 彰彦	いちのえ あやね	女	18
5	ボッチャ	1	内田 峻介	うちだ しゅんすけ	男	22
6	カーン	4	小松 沙季	こまつ さき	女	29
7	ゴールボール	5	鳥居 陽生	とりい はるき	男	20
8	水泳	5	木下 愛葉	きのした あいら	女	18

<参考動画>

パラリンピックへの道

<https://youtu.be/ctky92XU2nI?si=Ek3yJd1C6t8tso2X8>



パラリンピックへの道~Road to Paralympics~



J-STARプロジェクトウェブサイト(<https://jstar.star.com/>)

35

パリ2024 参考リンク集

日本パラリンピック委員会	https://www.parasports.or.jp/paralympic/
パリ2024パラリンピック競技大会特設サイト	https://www.parasports.or.jp/paralympic/ipc/paris2024/index.html
パラリンピックとは-概要	https://www.parasports.or.jp/paralympic/what/index.html
過去大会の年表	https://www.parasports.or.jp/paralympic/what/chronology.html#

パリ2024大会組織委員会	https://olympics.com/ja/paris-2024/paralympic-games
スポーツ	https://olympics.com/ja/paris-2024/paralympic-games/sports/
日程(英語)	https://olympics.com/en/paris-2024/paralympic-games/schedule
会場	https://olympics.com/ja/paris-2024/paralympic-games/venues
パラリンピッククラス分け	https://olympics.com/ja/paris-2024/paralympic-games/paralympic-classification
News(英語)	https://olympics.com/en/paris-2024/paralympic-games/news

国際パラリンピック委員会	https://www.paralympic.org/
パリ2024	https://www.paralympic.org/paris-2024
パリ2024 - Sports	https://www.paralympic.org/paris-2024/sports
パリ2024 - Qualification regulations (この大会に用いられる規程に関する情報)	https://www.paralympic.org/paris-2024/qualification-regulations
パリ2024 - News	https://www.paralympic.org/paris-2024/news



パリ2024パラリンピック競技大会 日本代表選手団メディアガイド

(公財)日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会 広報課
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸設町3-13-6

パリ2024パラリンピック競技大会報告書

2025年3月発行

発行：公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

